(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5995378号
(P5995378)
(45)発行日　平成28年9月21日(2016.9.21)　(24)登録日　平成28年9月2日(2016.9.2)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 320

請求項の数 3　(全 153 頁)

(21)出願番号　特願2014-264902(P2014-264902)
(22)出願日　平成26年12月26日(2014.12.26)
(62)分割の表示　特願2013-13796(P2013-13796)の分割
原出願日　平成20年12月5日(2008.12.5)
(65)公開番号　特開2015-57265(P2015-57265A)
(43)公開日　平成27年3月26日(2015.3.26)
審査請求日　平成27年1月26日(2015.1.26)

(73)特許権者　000148922
株式会社大一商会
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地
(74)代理人　100130889
弁理士　小原　崇広
(72)発明者　市原　高明
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　成吉　明彦
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　温井　啓太
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
所定の抽選結果を抽選する抽選手段と、
前記抽選手段の前記抽選結果に基づいて遊技者に有利な特別遊技を実行可能な特別遊技実行手段と、
演出画像が表示される表示領域を有する演出表示手段と、
前記演出表示手段に前記演出画像を表示する演出実行手段と、
前記演出表示手段よりも前方側に配置され、前記表示領域を視認可能とする特定領域が形成された可動装飾体と、
前記可動装飾体を駆動させる可動装飾体駆動手段と、
前記表示領域において特定演出が行われているなかで、前記可動装飾体を、前記特定演出とは異なる所定の特定領域内演出がその特定領域をとおして視認可能とされる状態で該所定の特定領域内演出も併せて移動しうるかたちで、前記可動装飾体駆動手段による駆動によって前記表示領域の前方を移動させる可動演出制御手段と、
を備え、
前記演出実行手段は、
正面視で前記特定領域を視認できない視認不可領域から該特定領域を視認できる視認可能領域に前記可動装飾体を移動させるにあたり、該可動装飾体が前記視認可能領域に出現するときには前記所定の特定領域内演出として所定の演出態様が表示されるよう制御する第１態様画像出現手段、及び

前記視認不可領域から前記視認可能領域に前記可動装飾体を移動させるにあたり、該可動装飾体が前記視認可能領域に出現するときには前記所定の特定領域内演出として前記所定の演出態様とは異なる別演出態様が表示されるよう制御する第２態様画像出現手段を有し、

前記可動装飾体が前記視認不可領域から前記視認可能領域に出現したときに、同じ可動装飾体でありながらも、前記所定の特定領域内演出として所定の演出態様を視認できる場合と、前記所定の特定領域内演出として前記所定の演出態様とは異なる別演出態様を視認できる場合とが生じうるようにしたものであって、

さらに、

前記可動装飾体は、

前記第１態様画像出現手段により前記所定の特定領域内演出として所定の演出態様が表示される場合と、前記第２態様画像出現手段により前記所定の特定領域内演出として前記所定の演出態様とは異なる別演出態様が表示される場合とのいずれの場合においても、前記可動装飾体駆動手段による駆動によって前記視認可能領域のうちの特定位置まで移動しうるものであり、

さらに、

前記可動演出制御手段により前記可動装飾体が移動を開始してから前記特定位置に移動するまでの間に前記所定の特定領域内演出に応じた対応演出を前記演出表示手段の表示領域における前記特定領域外の表示領域において表示する対応演出出現手段を備え、

前記演出表示手段の表示領域の略全域が前記特定領域をとおして視認可能とされる前記所定の特定領域内演出の表示対象とされる

ことを特徴とする遊技機。

【請求項２】

前記可動演出制御手段は、

前記可動装飾体を、前記演出表示手段の表示領域を左右方向に移動させる

請求項１に記載の遊技機。

【請求項３】

前記演出表示手段は、液晶表示装置として設けられてなる

請求項１または２に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、ぱちんこ遊技機（一般的に「パチンコ機」とも称する）や回胴式遊技機（一般的に「パチスロ機」とも称する）等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

従来より、パチンコ機等の遊技機において、遊技媒体として例えば遊技球が打ち込まれる遊技領域内には、多数の障害釘が所定のゲージ配列をなして備えられている他、遊技領域の適宜位置には、遊技媒体が受入れられることで所定数の遊技媒体を払出す入賞口が複数備えられている。これら入賞口の中には、遊技媒体の受入れを契機として抽選を行う始動口が備えられており、その始動口への遊技媒体の受入れによって抽選された抽選結果に応じて、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させるものも知られている。また、遊技領域内の遊技者から視認可能な位置に、所定の演出画像を表示可能な演出表示手段を備えて、表示された演出画像によって遊技者を楽しませるようにしたものも知られている。

【０００３】

この種の従来の遊技機では、始動口への遊技媒体の受入れにより抽選結果が抽選されると、演出表示手段に対して所定の変動時間をかけて抽選結果演出画像を表示させ、抽選結果演出画像の最後で抽選結果を示唆するようにしている。また、抽選結果演出画像の表示が開始されて抽選結果を示唆する前に、演出表示手段に所定の絵柄を表示させ、その絵柄により有利遊技状態が発生する可能性の度合（期待値）を遊技者に認識させて抽選結果を

予告することで、遊技者の期待感を高めることができると共に、抽選結果演出画像の表示中に飽きて遊技（抽選結果の示唆）に対する興趣が低下してしまうのを抑制することができるようにしたものも提案されている。

【０００４】

一方、この種の遊技機では、遊技領域内の所定位置に、遊技状態等に応じて可動する可動役物を備えたものも知られており、演出表示手段の前側に上下方向へ移動する比較的大型の可動体を二つ備え、それら可動体を互いに接近させたり離反させたりして、可動体の動きにより遊技者を楽しませるようにしたものが提案されている（例えば、特許文献１）。また、演出表示手段の前面に左右方向へ移動し演出表示手段を隠蔽可能な複数の扉状の可動体を備え、遊技状態に応じて複数の可動体を移動させて演出表示手段を露出させたり隠蔽させたりすることで、可動体の動きと共に演出画像を楽しませるようにしたものも提案されている（例えば、特許文献２）。そして、この種の従来の遊技機では、遊技者に対して抽選結果を示唆する前に、有利遊技状態が発生する可能性を認識される抽選結果の予告演出として、可動体を適宜可動（出現）させるようにしたものも知られている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

【特許文献１】特開２００７－１４３７９０号公報

【特許文献２】特開２００７－０６１４８８号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

しかしながら、従来の遊技機では、可動体の可動による演出効果を充分に発揮させることができないおそれがある。

【０００７】

【０００８】

そこで、本発明は上記の実情に鑑み、興趣が低下するのを抑制可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００９】

手段１：所定の抽選結果を抽選する抽選手段と、

前記抽選手段の前記抽選結果に基づいて遊技者に有利な特別遊技を実行可能な特別遊技実行手段と、

演出画像が表示される表示領域を有する演出表示手段と、

前記演出表示手段に前記演出画像を表示する演出実行手段と、

前記演出表示手段よりも前方側に配置され、前記表示領域を視認可能とする特定領域が形成された可動装飾体と、

前記可動装飾体を駆動させる可動装飾体駆動手段と、

前記表示領域において特定演出が行われているなかで、前記可動装飾体を、前記特定演出とは異なる所定の特定領域内演出がその特定領域をとおして視認可能とされる状態で該所定の特定領域内演出も併せて移動しうるかたちで、前記可動装飾体駆動手段による駆動によって前記表示領域の前方を移動させる可動演出制御手段と、

を備え、

前記演出実行手段は、

正面視で前記特定領域を視認できない視認不可領域から該特定領域を視認できる視認可能領域に前記可動装飾体を移動させるにあたり、該可動装飾体が前記視認可能領域に出現するときには前記所定の特定領域内演出として所定の演出態様が表示されるよう制御する第１態様画像出現手段、及び

前記視認不可領域から前記視認可能領域に前記可動装飾体を移動させるにあたり、該可動装飾体が前記視認可能領域に出現するときには前記所定の特定領域内演出として前記所

定の演出態様とは異なる別演出態様が表示されるよう制御する第２態様画像出現手段を有し、
前記可動装飾体が前記視認不可領域から前記視認可能領域に出現したときに、同じ可動装飾体でありながらも、前記所定の特定領域内演出として所定の演出態様を視認できる場合と、前記所定の特定領域内演出として前記所定の演出態様とは異なる別演出態様を視認できる場合とが生じうるようにしたものであって、
さらに、
前記可動装飾体は、
前記第１態様画像出現手段により前記所定の特定領域内演出として所定の演出態様が表示される場合と、前記第２態様画像出現手段により前記所定の特定領域内演出として前記所定の演出態様とは異なる別演出態様が表示される場合とのいずれの場合においても、前記可動装飾体駆動手段による駆動によって前記視認可能領域のうちの特定位置まで移動しうるものであり、
さらに、
前記可動演出制御手段により前記可動装飾体が移動を開始してから前記特定位置に移動するまでの間に前記所定の特定領域内演出に応じた対応演出を前記演出表示手段の表示領域における前記特定領域外の表示領域において表示する対応演出出現手段を備え、
前記演出表示手段の表示領域の略全域が前記特定領域をとおして視認可能とされる前記所定の特定領域内演出の表示対象とされる
ことを特徴とする遊技機。

【０１５５】
手段１に記載の遊技機において、
パチスロ機であることを特徴とする。
ここで、パチスロ機とは、投入媒体であるメダルを投入し、メダルの投入後、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作によって、夫々複数の図柄が描かれた複数のリールを回転させる等して、各リール等によって構成された図柄列を変動表示させるとともに、その後、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に応じて各図柄列の変動表示を停止させる、といった遊技が遊技者によって行われるものである。換言すれば、停止操作機能付きのスロットマシーンとして捉えることができるものである。なお、所定時間が経過しても停止用操作手段が操作されない場合には、所定時間経過したことに応じて図柄列の変動表示を停止させるものであってもよい。そして、各図柄列の変動表示の停止時において、表示された単体の図柄が特定の図柄であったり、各図柄列にて表示された図柄の組合せが特定の組合せであったりする等、特定の条件を満たす場合に、満たされた条件に応じて所定個数のメダルを払出したり、遊技者が多量のメダルを獲得することができる遊技者に有利な特別有利状態を発生させたりするものである。

【０１５７】
手段１に記載の遊技機において、
パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなることを特徴とする。
ここで、「パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機」とは、複数個（例えば５個）の遊技球を１単位の投入媒体とし、投入媒体を投入した後、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に応じて複数の図柄からなる図柄列を変動表示させるとともに、その後、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に応じて図柄列の変動を停止させるものである。なお、所定時間が経過しても停止用操作手段が操作されない場合には、所定時間経過したことに応じて図柄列の変動表示を停止させるものであってもよい。そして、各図柄列の変動表示の停止時において、表示された単体の図柄が特定の図柄であったり、各図柄列にて表示された図柄の組合せが特定の組合せであったりする等、特定の条件を満たす場合に、満たされた条件に応じて所定個数のメダルを払出したり、遊技者が多量のメダルを獲得することができる遊技者に有利な特別有利状態を発生させたりするものである。

【発明の効果】

【０１５９】
このように、本発明によれば、遊技に対する興趣が低下するのを抑制可能な遊技機を提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【０１６０】
【図１】実施形態に係るパチンコ遊技機の外枠に対して本体枠を開放し、本体枠に対して扉枠を開放した状態を示す斜視図である。
【図２】パチンコ遊技機の正面から見た斜視図である。
【図３】パチンコ遊技機の正面図である。
【図４】パチンコ遊技機の側面図である。
【図５】パチンコ遊技機の平面図である。
【図６】パチンコ遊技機の背面図である。
【図７】パチンコ遊技機を構成する外枠、本体枠、遊技盤、扉枠の後方から見た分解斜視図である。
【図８】パチンコ遊技機を構成する外枠、本体枠、遊技盤、扉枠の前方から見た分解斜視図である。
【図９】外枠の正面斜視図である。
【図１０】外枠の正面から見た分解斜視図である。
【図１１】外枠の正面図である。
【図１２】外枠の背面図である。
【図１３】図１１のＢ－Ｂ断面図（Ａ）と図１３（Ａ）のＣ－Ｃ断面図（Ｂ）、Ｄ－Ｄ断面図（Ｃ）、Ｅ－Ｅ断面図（Ｄ）である。
【図１４】扉枠の正面図である。
【図１５】扉枠の背面図である。
【図１６】図１４に表示されるＡ－Ａ断面図である。
【図１７】図１４に表示されるＢ－Ｂ断面図である。
【図１８】扉枠の正面から見た分解斜視図である。
【図１９】扉枠の背面から見た分解斜視図である。
【図２０】ハンドル装置と本体枠に設けられる打球発射装置との関係を示す斜視図である。
【図２１】部品を取付ける前の本体枠主体の正面図である。
【図２２】部品を取付ける前の本体枠主体の背面図である。
【図２３】部品を取付ける前の本体枠主体の側面図である。
【図２４】部品を取付ける前の本体枠主体の背面から見た斜視図である。
【図２５】部品を取付けた本体枠の前方から見た斜視図である。
【図２６】部品を取付けた本体枠を外枠に軸支した状態を前方から見た斜視図である。
【図２７】部品を取付けた本体枠の背面図である。
【図２８】部品を取付けた本体枠の背面から見た斜視図である。
【図２９】パチンコ遊技機の中程（主制御基板ボックス部分）の水平線で切断したパチンコ遊技機の断面平面図である。
【図３０】遊技盤の正面から見た斜視図である。
【図３１】遊技盤の正面図である。
【図３２】遊技盤の背面図である。
【図３３】遊技盤の平面図である。
【図３４】遊技盤に形成される取り外し防止機構部分の拡大斜視図である。
【図３５】遊技盤の取り外し防止機構に対する本体枠側の構造を示す本体枠の部分斜視図である。
【図３６】打球発射装置の全体の斜視図（Ａ），発射モータ部分を取り外した状態の斜視図（Ｂ）である。
【図３７】打球発射装置の分解斜視図である。

【図３８】打球発射装置と発射レールとの関係を示す正面図（Ａ），発射モータ部分の斜視図（Ｂ）である。
【図３９】操作ハンドル部を操作していない状態における打球発射装置と発射レールとの関係を示す背面図である。
【図４０】操作ハンドル部を操作している状態における打球発射装置と発射レールとの関係を示す背面図である。
【図４１】打球発射装置に設けられるスライド部材の平面図（Ａ），正面図（Ｂ），正面から見た斜視図（Ｃ），正面図（Ｂ）のＡ－Ａ断面図（Ｄ）である。
【図４２】賞球タンクの斜視図（Ａ）、平面図（Ｂ）、側面図（Ｃ）である。
【図４３】従来の賞球タンク（Ａ），（Ｂ）と本実施形態に係る賞球タンク（Ｃ）との排出口部分における球の圧力状態を示す平面図である。
【図４４】賞球タンク、タンクレール部材、球通路ユニット、賞球ユニット、及び満タンユニットの関係を示すパチンコ機１の背面側から見た斜視図である。
【図４５】賞球タンク、タンクレール部材、球通路ユニット、賞球ユニット、及び満タンユニットの関係を示すパチンコ機１の正面側から見た斜視図である。
【図４６】タンクレール部材の下流部と球通路ユニットの上流部との関係を示す断面図（Ａ）と平面図（Ｂ）である。
【図４７】本体枠と球通路ユニット及び賞球ユニットとの関係を示す分解斜視図である。
【図４８】球通路ユニット及び賞球ユニットとの関係を示す背面図である。
【図４９】球通路ユニットの背面から見た斜視図である。
【図５０】球通路ユニットの正面図である。
【図５１】球通路ユニットと賞球ユニットとの連結構造を説明するための側面図である。
【図５２】賞球ユニットの背面側から見た分解斜視図である。
【図５３】払出モータと払出部材としてのスプロケットとの関係を説明するための背面図である。
【図５４】賞球ユニットの通路と駆動関係を説明するための背面図である。
【図５５】図５４のＡ－Ａ断面図である。
【図５６】賞球ユニットと満タンユニットとの関係を示す斜視図である。
【図５７】満タンユニットの斜視図である。
【図５８】満タンユニットの正面から見た分解斜視図である。
【図５９】満タンユニットの背面から見た分解斜視図である。
【図６０】満タンユニットとファール口との関係を示す一部破断斜視図である。
【図６１】満タンユニットに設けられる底面揺動板部分で切断した横断面図である。
【図６２】満タンユニットとファール口との関係を示す断面図である。
【図６３】錠装置と本体枠との関係を示す背面斜視図である。
【図６４】錠装置の本体枠への掛け止め構造を示す拡大側方断面図である。
【図６５】パチンコ遊技機の縦方向中央よりやや下方の位置で水平方向に切断した一部断面図である。
【図６６】錠装置と本体枠の側壁との詳細な関係を示す拡大断面図である。
【図６７】錠装置の側面図（Ａ）、前面側から見た斜視図（Ｂ）である。
【図６８】錠装置の背面側から見た斜視図（Ａ）、錠装置のコ字状基体の内部に摺動自在に設けられるガラス扉用摺動杆と本体枠用摺動杆の斜視図（Ｂ），（Ｃ）である。
【図６９】錠装置の分解斜視図である。
【図７０】ガラス扉用摺動杆と本体枠用摺動杆の作用を説明するための正面図である。
【図７１】不正防止部材の作用を説明するための正面図である。
【図７２】基板ユニットを背面側から見た斜視図である。
【図７３】基板ユニットを前面側から見た斜視図である。
【図７４】（ア）は遊技盤の正面図であり、（イ）は遊技盤における状態表示器を拡大して示す正面図である。
【図７５】遊技盤を斜め右前から見た斜視図である。

【図７６】遊技盤を斜め左前から見た斜視図である。
【図７７】遊技盤を斜め後から見た斜視図である。
【図７８】図７４におけるＡ－Ａ断面図である。
【図７９】図７５におけるステージ付近を拡大して示す斜視図である。
【図８０】遊技盤を構成する主な部材ごとに分解して斜め前から見た斜視図である。
【図８１】遊技盤を構成する主な部材ごとに分解して斜め後から見た斜視図である。
【図８２】（ａ）はセンター役物、アタッカユニット、及びサイド部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）はセンター役物、アタッカユニット、及びサイド部材を後から見た斜視図である。
【図８３】図８２（ａ）における矢視Ａの方向から見たセンター役物の側面図である。
【図８４】（ａ）は前構成部材と遊技パネルとを組立てた状態で前から見た斜視図であり、（ｂ）は前構成部材と遊技パネルとを組立てた状態で後から見た斜視図である。
【図８５】裏ユニットの正面図である。
【図８６】（ａ）は裏ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットを後から見た斜視図である。
【図８７】裏ユニットを主要な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図８８】図８７の分解図を後から見た分解斜視図である。
【図８９】裏ユニットにおける裏ユニットベースに取付けられる各部材を分解して前から見た分解斜視図である。
【図９０】図８９の分解斜視図を後から見た分解斜視図である。
【図９１】（ａ）は揺動体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は揺動体ユニットの正面図であり、（ｃ）は揺動体ユニットにおける揺動機構を拡大して示す斜視図である。
【図９２】裏ユニットの横行体ユニットを、前横行体駆動ユニット、後横行体駆動ユニット、及び下レールユニットに分解して前から見た分解斜視図である。
【図９３】図９２の分解斜視図を後から見た分解斜視図である。
【図９４】横行体ユニットの正面図である。
【図９５】横行体ユニットの背面図である。
【図９６】横行体ユニットにおける前横行体駆動ユニットの一部を省略して示す斜視図である。
【図９７】（ａ）は前横行体駆動ユニットにおける前下駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図であり、（ｂ）は前横行体駆動ユニットにおける前下駆動ユニットの一部を省略して後から見た斜視図である。
【図９８】前横行体駆動ユニットにおける前上駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図である。
【図９９】後横行体駆動ユニットの正面図である。
【図１００】後横行体駆動ユニットの一部を省略して示す背面図である。
【図１０１】後横行体駆動ユニットにおける後下駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図である。
【図１０２】後横行体駆動ユニットにおける後上駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図である。
【図１０３】パチンコ機における主基板周辺の制御構成を概略的に示すブロック図である。
【図１０４】パチンコ機における周辺制御基板周辺の制御構成を概略的に示すブロック図である。
【図１０５】（ａ）はセンター役物におけるサブ装飾体付近を拡大して示す正面図であり、（ｂ）はサブ装飾体における表示部の表示態様を示す説明図である。
【図１０６】横行体を全開状態とした遊技盤の正面図である。
【図１０７】横行体を全開状態とすると共に揺動体を露出揺動させた状態を示す遊技盤の正面図である。

【図１０８】複数の横行体が液晶表示装置の前面を被覆した状態から露出（全開）した状態までの横行体の動きの一例を示す説明図である。
【図１０９】図１０８とは異なる複数の横行体により液晶表示装置の前面を被覆する動きの例を示す説明図である。
【図１１０】横行体の移動可能範囲を示す説明図である。
【図１１１】前後方向の何れか一方の横行体が他方の横行体を追抜く動きの例を示す説明図である。
【図１１２】前後方向の異なる位置に配置された横行体同士がクロスするような動きの例を示す説明図である。
【図１１３】図１０８や図１０９とは異なる複数の横行体により液晶表示装置の前面を被覆する動きの例を示す説明図である。
【図１１４】複数の横行体により液晶表示装置の前面を被覆する更に異なる動きの例を示す説明図である。
【図１１５】図１１４の（キ）の状態から液晶表示装置が全開となるまでの横行体の動きの例を示す説明図である。
【図１１６】液晶表示装置の前面を被覆した状態における横行体の動きの例を示す説明図である。
【図１１７】二つの横行体が接した状態での動きの例を示す説明図である。
【図１１８】液晶表示装置の前面で三つの横行体が所定間隔で並ぶ動きの例を示す説明図である。
【図１１９】主制御基板における機能的な構成を示すブロック図である。
【図１２０】周辺制御基板における機能的な構成を示すブロック図である。
【図１２１】始動入賞による抽選結果を示唆する通常の抽選結果演出画像の一例を示す説明図である。
【図１２２】（Ｂ１）～（Ｂ４）は抽選結果予告演出における横行体が一つのみ出現する演出の一例を示す説明図であり、（Ｃ）は（Ｂ１）～（Ｂ４）とは異なる演出の例を示す説明図であり、（Ｄ１）～（Ｄ３）は更に異なる演出の例を示す説明図である。
【図１２３】（Ｅ１）～（Ｅ２）は抽選結果予告演出における二つの接した横行体が出現すると共に一つの大きな前演出画像を表示する演出の例を示す説明図であり、（Ｆ１）～（Ｆ２）は抽選結果予告演出における二つの横行体が順次出現する演出の一例を示す説明図であり、（Ｇ１）～（Ｇ４）は（Ｆ１）～（Ｆ２）とは異なる演出の例を示す説明図である。
【図１２４】（Ｈ１）～（Ｈ４）は図１２３の（Ｆ１）～（Ｆ２）とは更に異なる演出の例を示す説明図であり、（Ｉ１）～（Ｉ４）は（Ｈ１）～（Ｈ４）とは異なる演出の例を示す説明図である。
【図１２５】（Ｊ１）～（Ｊ４）は図１２３の（Ｆ１）～（Ｆ２）とは更に異なる演出の例を示す説明図であり、（Ｋ１）～（Ｋ４）は抽選結果予告演出における三つの横行体が順次出現する演出の一例を示す説明図である。
【図１２６】図１２５の（Ｋ１）～（Ｋ４）とは異なる演出の例を示す説明図である。
【図１２７】（Ｍ１）～（Ｍ４）は四つの横行体が順次出現して液晶表示装置の前面を被覆する演出の一例を示す説明図であり、（Ｎ１）～（Ｎ４）は（Ｍ１）～（Ｍ４）とは異なる演出の例を示す説明図である。
【図１２８】図１２７の例とは更に異なる演出の例を示す説明図である。
【図１２９】図１２７及び図１２８の例とは更に異なる演出の例を示す説明図である。
【図１３０】抽選結果特別予告演出の一例を示す説明図である。
【図１３１】図１３０とは異なる抽選結果特別予告演出の一例を示す説明図である。
【図１３２】リーチ発展演出における横行体を用いた演出の一例を示す説明図である。
【図１３３】図１３２に続くリーチ発展演出を示す説明図である。
【図１３４】図１３２及び図１３３の例とは異なるリーチ発展演出の例を示す説明図である。

【図１３５】図１３４に続くリーチ発展演出を示す説明図である。
【図１３６】リーチに続いて発展演出を予告するリーチ発展予告演出の一例を示す説明図である。
【発明を実施するための形態】
【０１６１】
〔パチンコ遊技機の全体構造〕
以下、図面を参照して本発明の好適な実施形態について、図面を参照して説明する。まず、図１乃至図８を参照して実施形態に係るパチンコ遊技機の全体について説明する。図１は、実施形態に係るパチンコ機１の外枠２に対して本体枠３を開放し、本体枠３に対して扉枠５を開放した状態を示す斜視図であり、図２は、パチンコ遊技機の正面から見た斜視図であり、図３は、パチンコ機１の正面図であり、図４は、パチンコ機１の側面図であり、図５は、パチンコ機１の平面図であり、図６は、パチンコ機１の背面図であり、図７は、パチンコ機１を構成する外枠２、本体枠３、遊技盤４、扉枠５の後方から見た分解斜視図であり、図８は、パチンコ機１を構成する外枠２、本体枠３、遊技盤４、扉枠５の前方から見た分解斜視図である。
【０１６２】
図１乃至図８において、本実施形態に係るパチンコ機１は、島（図示しない）に設置される外枠２と、該外枠２に開閉自在に軸支され且つ遊技盤４を装着し得る本体枠３と、該本体枠３に開閉自在に軸支され且つ前記遊技盤４に形成されて球が打ち込まれる遊技領域６０５を遊技者が視認し得る遊技窓１０１と該遊技窓１０１の下方に配置され且つ遊技の結果によって払出される球を貯留する貯留皿としての皿ユニット３００とを備えた扉枠５と、を備えて構成されている。
【０１６３】
外枠２には、その下方前方に表面が装飾カバー板１５によって被覆されている下部前面板１４が固着されている。また、本体枠３には、上記したように遊技盤４が着脱自在に装着し得る他に、その裏面下部に打球発射装置６５０と、遊技盤４を除く扉枠５や本体枠３に設けられる電気的部品を制御するための各種の制御基板や電源基板等が一纏めに設けられている基板ユニット１１００が取付けられ、本体枠３の後面開口５８０（図７参照）を覆うカバー体１２５０が着脱自在に設けられている。更に、扉枠５には、上記した皿ユニット３００の他に、遊技窓１０１を閉塞するようにガラスユニット２５０と、ハンドル装置４６０とが設けられている。そして、本実施形態の特徴は、扉枠５に設けられる皿ユニット３００が１つであり、しかも、従来は本体枠３に設けられていたハンドル装置４６０が扉枠５に設けられ、また、扉枠５と本体枠３とが正面から見てほぼ同じ方形の大きさであるため、正面から本体枠３が視認できなくした点である。以下、パチンコ機１を構成する部材について詳細に説明する。
【０１６４】
〔外枠〕
外枠２について、主として図９乃至図１３を参照して説明する。図９は、外枠２の正面斜視図であり、図１０は、同外枠２の正面から見た分解斜視図であり、図１１は、同外枠２の正面図であり、図１２は、同外枠２の背面図であり、図１３は、図１１のＢ－Ｂ断面図（Ａ）と図１３（Ａ）のＣ－Ｃ断面図（Ｂ）、Ｄ－Ｄ断面図（Ｃ）、Ｅ－Ｅ断面図（Ｄ）である。
【０１６５】
図９及び図１０において、本実施形態に係る外枠２は、上下の上枠板１０及び下枠板１１と左右の側枠板１２，１３とを、それぞれの端部を連結するための連結部材１９で連結することによって方形状に組み付けられるものである。具体的には、連結部材１９は、中央と左右とに段差のある表彰台状に形成され、突出した中央の部分が上枠板１０及び下枠板１１の両端部中央に形成された係合切欠部２０に嵌合され、一段下がった左右の部分の平面に上枠板１０の裏面と下枠板１１の上面とが当接し且つ一段下がった左右の部分の一側面に側枠板１２，１３の内側面が当接するようになっている。

【０１６６】
なお、本実施形態における上枠板１０及び下枠板１１は、本発明の横枠に相当し、また、本例の左右の側枠板１２，１３は、本発明の縦枠に相当している。
【０１６７】
そして、その状態で、上枠板１０の係合切欠部２０の両側方及び下枠板１１の係合切欠部２０の両側方にそれぞれ形成される挿通穴２１と連結部材１９の一段下がった左右の部分の平面に形成される複数（図示の場合２個）の連結穴２２（図１０の上枠板１０と側枠板１２とを連結する連結部材１９に表示するが、他の連結部材１９にも存在する）とを一致させて上方又は下方から複数（図示の場合２本）の連結ビス２３で止着し、更に、側枠板１２，１３の上下端部分に穿設される複数（図示の場合２個）の取付穴２４と連結部材１９の一段下がった左右の部分の側面に形成される複数（図示の場合３個）の連結穴２５とを一致させて側方外側から複数（図示の場合３本）の連結ビス２６，２７で止着することにより、上下の上枠板１０及び下枠板１１と左右の側枠板１２，１３とが強固に連結固定される。ただし、３本の連結ビス２６，２７のうち、１本の連結ビス２７は、側枠板１２，１３と連結部材１９とを連結するものではなく、上枠板１０及び下枠板１１と連結部材１９とを側方から直接連結するものである。
【０１６８】
外枠２を構成する上枠板１０と下枠板１１、及び側枠板１２，１３のうち、上枠板１０と下枠板１１とは従来と同じ木製であり、側枠板１２，１３は、軽量金属、例えば、アルミニュウム合金の押出し成型板により構成されている。上枠板１０及び下枠板１１を従来と同じ木製で構成した理由は、パチンコ機１を遊技場に列設される島に設置する場合に、島の垂直面に対し所定の角度をつけて固定する作業を行う必要があるが、そのような作業は上枠板１０及び下枠板１１と島とに釘を打ち付けて行われるため、釘を打ち易くするためである。一方、側枠板１２，１３をアルミニュウム合金の押出し成型板により構成した理由は、従来の木製に比べ強度を維持しつつ肉厚を薄く形成することができるため、側枠板１２，１３の内側に隣接する本体枠３の側面壁５４０～５４３（図２３参照）の正面から見たときの左右幅を広くすることができる。このため左右方向の寸法の大きな遊技盤４を本体枠３に装着することができることになり、結果的に遊技盤４の遊技領域６０５を大きく形成することができるからである。
【０１６９】
なお、側枠板１２，１３をアルミニュウム合金の平板で構成すると、充分な剛性が確保できないため、図１３（Ｃ）に示すように、側枠板１２（側枠板１３も全く同じ構造である。）の後方部分内側にリブによって後方が開放した空間部２８（側枠板１３の空間部２８は図１２に表示）を形成して後方部分の肉厚ｈ１が厚くなるように引き抜き成型されている。もちろん、この肉厚ｈ１は、従来の木製の肉厚と同等若しくは若干薄い寸法となっている。
【０１７０】
また、図１３（Ｂ），（Ｄ）に示すように、側枠板１２の空間部２８の前方には、連結部材１９の一段下がった左右の部分の一方の部分が嵌め込まれる溝部２９（側枠板１３の溝部２９は図９に表示）が形成されている。側枠板１２の溝部２９から前端部までは、図１３（Ｂ）～（Ｄ）に示すように、その内側面が連結部材１９の一段下がった左右の部分の他方の部分が当接する平板状をなすものであるが、その平板部に材料軽減のための浅い凹部が形成されている。更に、前記溝部２９が形成される反対側の面（外側面）には、図９及び図１３（Ｂ）に示すように、上支持金具４５の垂下片部５３が挿入される凹部３０（側枠板１３の凹部３０は図１０に表示）が形成されている。
【０１７１】
そして、上記のように形成される軸支側の側枠板１２には、連結部材１９を取付けるための構成以外に、その上部に上支持金具４５の垂下片部５３を側枠板１２の外側に止着ビス３２で止着するための取付穴３１が穿設されると共に、その下部に下支持金具６６の垂直当接片７２に形成される取付穴６９と一致させて止着ビス３４で止着するための取付穴

３３が穿設されている。また、取付穴３３の下部であって側枠板１２の前方部分に側枠板１２と下部前面板１４とを止着ビス３６で止着するための取付穴３５が形成されている。

【０１７２】

一方、開放側の側枠部１３には、連結部材１９を取付けるための構成以外に、その上部に閉鎖用突起３８を取付ネジ３９で取付けるための取付穴３７が穿設され、その下部に閉鎖用突起４１を取付ネジ４２で取付けるための取付穴４０が穿設されると共に、さらに最下方に側枠板１３と下部前面板１４とを止着ビス４４で止着するための取付穴４３が形成されている。

【０１７３】

なお、この閉鎖用突起３８，４１は、外枠２に対して本体枠３を閉じる際に、本体枠３の開放側辺に沿って取付けられる錠装置１０００のフック部１０５４，１０６５（図６７参照）と係合するものであり、後に詳述するように錠装置１０００のシリンダ錠１０１０に鍵を差し込んで一方に回動することにより、フック部１０５４，１０６５と閉鎖用突起３８，４１との係合が外れて本体枠３を外枠２に対して開放することができるものである。

【０１７４】

また、下枠板１１と左右の側枠板１２，１３の下部前面に固定される下部前面板１４は、閉止時においてその上面に本体枠３が載置されるものであり、下部前面板１４の表面及び側面は、装飾カバー板１５によって被覆されているが、装飾カバー板１５の裏面に、その後端に弾性爪が形成される止着突起１６（図１２参照）が突設され、その止着突起１６が下部前面板１４に貫通される止着穴１７に貫通させられることにより下部前面板１４に取付けられている。なお、外枠２の装飾カバー板１５の開放側の上面には、本体枠３の閉止時に該本体枠３をスムーズに案内するための案内板１８が交換可能に装着されている。

【０１７５】

ところで、本体枠３を開閉自在に軸支する構造として、上枠板１０と側枠板１２とを連結する機能も兼用する上支持金具４５と下部前面板１４の一側上面に沿って取付けられる下支持金具６６とが設けられている。上支持金具４５には、前方に突出している支持突出片４６に該支持突出片４６の側方から先端中央部に向かって屈曲して形成された支持鉤穴４７が形成されており、この支持鉤穴４７に本体枠３の後述する上軸支金具５０３の軸支ピン５０４（図２５参照）が着脱自在に係合されるようになっている。

【０１７６】

また、下支持金具６６も前方に突出した形状に形成されているが、この突出した部分に上向きに支持突起６８が突設され、この支持突起６８に本体枠３の後述する枠支持板５０６（図２６参照）に形成される支持穴が挿入される。したがって、外枠２に本体枠３を支持するためには、下支持金具６６の支持突起６８に本体枠３の枠支持板５０６に形成される支持穴を係合させた後、本体枠３の上軸支金具５０３の軸支ピン５０４を支持鉤穴４７に掛け止めることにより簡単に開閉自在に軸支することができる。

【０１７７】

また、上支持金具４５は、上枠板１０の軸支側の上面及び前面に凹状に形成される取付段部４９に装着されるものであるが、その装着に際し、上支持金具４５に形成される複数（図示の場合２個）の取付穴４８と取付段部４９に穿設される複数（図示の場合２個）の取付穴５０とを一致させて取付ビス５１を上方から差し込み、上枠板１０の裏面から押し当てられる挟持板５２に止着することにより上支持金具４５が上枠板１０に堅固に固定される。

【０１７８】

また、上支持金具４５の外側側方には、側枠板１２の外側に当接する垂下片部５３があり、その垂下片部５３にも取付穴が穿設され、この取付穴と前記取付穴３１とを止着ビス３２で止着することにより、上支持金具４５と側枠板１２とを固定すると共に、上枠板１０と側枠板１２とを上支持金具４５を介して連結している。

【０１７９】

一方、下支持金具６６は、前述したように側枠板１２の取付穴３３と垂直当接片７２の取付穴６９とを一致させた状態で止着ビス３４で止着し、さらに、下支持金具６６の水平面の中程に穿設される取付穴７０に取付ネジ７１を差し込むことにより、前記装飾カバー板１５を介して前記下部前面板１４の上面に止着されるものである。

【０１８０】

上記のように構成される外枠２において、その構成部材である上枠板１０と下枠板１１と側枠板１２，１３とを連結部材１９で連結することにより、連結部材１９が側枠板１２，１３の内面に密着して止着されると共に連結部材１９と上枠板１０及び下枠板１１が係合した状態で止着されるので、その組み付け強度が高く頑丈な方形状の枠組みとすることができる。上記した連結部材１９と上枠板１０及び下枠板１１との係合状態に加え、連結部材１９の側枠板１２，１３への取付けに際し、溝部２９に連結部材１９の一段下がった左右の部分の一方の部分が嵌め込まれる構造であるため、連結部材１９の側枠板１２，１３への取付けが強固となり、これによっても方形状の枠組みの強度を向上することができると共にその位置決めを正確に行うことができる。

【０１８１】

また、連結部材１９によって上枠板１０、下枠板１１、側枠板１２，１３を連結した後、上支持金具４５を所定の位置に取付けたときに、図１１及び図１２に示すように、各枠板１０，１１，１２，１３の外側面（外周面）から外側に突出する部材は存在しないので、パチンコ機１を図示しないパチンコ島台に設置する際に、隣接する装置（例えば、隣接する玉貸器）と密着して取付けることができる。また、下支持金具６６を取付けたときにも、下部前面板１４の上面と下支持金具６６の上面とがほぼ同一平面となるようになっている。

【０１８２】

〔扉枠〕

次に、上記した本体枠３の前面側に開閉自在に設けられる扉枠５について、図１４乃至図１９を参照して説明する。図１４は、扉枠５の正面図であり、図１５は、扉枠５の背面図であり、図１６は、図１４に表示されるＡ－Ａ断面図であり、図１７は、図１４に表示されるＢ－Ｂ断面図であり、図１８は、扉枠５の正面から見た分解斜視図であり、図１９は、扉枠５の背面から見た分解斜視図である。

【０１８３】

図１４、図１５、図１８及び図１９に示すように、扉枠５は、方形状に形成される扉枠本体１００の上部に縦長六角形状の遊技窓１０１が形成され、該遊技窓１０１の前面周囲に扉レンズユニット１２０が取付けられ、また、遊技窓１０１の下方の板状部の前面に扉枠本体１００に皿ユニット３００が設けられ、その皿ユニット３００の一側（開放側）にハンドル装置４６０の操作ハンドル部４６１が突設固定されている。また、扉枠本体１００の裏面には、遊技窓１０１の周囲に補強板金２１０が固定され、遊技窓１０１を閉塞するようにガラスユニット２５０が取付けられると共に、前記遊技窓１０１の下方の板状部の裏面に、前記操作ハンドル部４６１に対応するジョイントユニット４８０、装着台２８０、及び枠装飾中継基板２９０がそれぞれ取付けられている。なお、ガラスユニット２５０の裏面下部には、防犯機能を有する防犯カバー２７０も装着されている。以下、扉板５を構成する上記の各構成部材のより詳細な構造について説明する。

【０１８４】

＜扉枠本体＞

図１８及び図１９に示すように、扉枠本体１００は、合成樹脂によって額縁状に形成され、前述したように上方部に縦長六角形状の遊技窓１０１が形成され、その遊技窓１０１の下方が板状部となっている。遊技窓１０１の上部左右には、後述するスピーカ１６３を貫通させる円形状のスピーカ用開口１０２が形成され、そのスピーカ用開口１０２の下方に後述するガラスユニット２５０の止め片２５４を係止するための止めレバー１０８（図１５参照）が回動自在に設けられている。なお、本実施形態に係る遊技窓１０１は、従来に比べて上下方向及び左右方向の寸法が大きくなった遊技盤４が取付けられるため、遊技

窓１０１の上下方向及び左右方向の寸法も大きくなっている。このため、後述する扉枠レンズユニット１２０の形状が従来一般的に知られているものと大きく相違する。

【０１８５】

一方、遊技窓１０１の下方の板状部には、軸支側上部に皿ユニット３００の賞球連絡樋４５１が貫通する賞球通過口１０３が開設され、その斜め中央寄りに後述する側面開口蓋４０６を脱着するための蓋用開口１０５が開設され、その蓋用開口１０５の開放側の隣接する位置に球送りユニット２８７を装着するための球送り開口１０４が開設され、さらに球送り開口１０４のさらに開放側寄りにシリンダ錠１０１０が貫通するための錠穴１０６が開設されている。

【０１８６】

また、球送り開口１０４の下方の板状部の裏面側にジョイントユニット４８０を取付けるためのジョイントユニット装着凹部１０７が形成され、同じく下方の板状部の裏面側の遊技窓１０１の下部左右にガラスユニット２５０の掛止突片２５５を掛け止めるための係合受片（図示せず）が形成され、その係合受片の側方に防犯カバー２７０の後述する装着弾性片２７３が装着される装着開口部１１０が形成されている。また、板状部の前面中央には、前方に向って後述する皿ユニット３００の案内穴４５６（図１６参照）に挿入される係合突起１１１が形成されている。更に、扉枠本体１００の下辺は、後方に突出した扉枠突片１１２となっており、後述するように、この扉枠突片１１２と本体枠３に形成される係合溝５８４，５８５とが扉枠５と本体枠３との下側辺部における外側の突条及び係合部を構成するものである。

【０１８７】

＜扉レンズユニット＞

次に、上記した扉枠本体１００の前面側の上部に取付けられる扉レンズユニット１２０の構成について説明する。扉レンズユニット１２０は、前面側を反射面とするリフレクタと、リフレクタの前面及び内側に取付けられる冷陰極管及びＬＥＤ基板と、リフレクタの前方を覆う光透過性のあるレンズカバー１５０と、レンズカバー１５０に取付けられるスピーカ１６３と、レンズカバー１５０のベースとなるレンズベース体１２１と、から構成されている。

【０１８８】

レンズカバー１５０は、レンズベース体１２１における上レンズカバー部１５１と、側方レンズカバー部１５６，１５７とが透過性の樹脂によって形成されている。そして、前述したように扉枠本体１００に形成される遊技窓１０１の開口寸法が従来よりも大きく形成されているため、扉枠本体１００の外周辺と遊技窓１０１の内周辺との間の寸法、換言するならば、レンズカバー１５０が取付けられるための寸法（特に、左右両側部の寸法）が狭くなっているため、本実施形態におけるレンズカバー１５０は、上レンズカバー部１５１と側方レンズカバー部１５６，１５７のすべての最大前方突出部において、その基部寸法（扉枠本体１００に当接する部分の幅寸法）に対して前方に向って突出する突出寸法が大きくなるような断面楔形状となっている。より詳細に説明すると、上レンズカバー部１５１及び側方レンズカバー部１５６，１５７は、共に白色レンズ部として断面楔状の前方膨出部が合成樹脂で成形され、その白色レンズ部の下部後端の遊技窓１０１を縁取る内側に着色の異なる合成樹脂で成形された赤色レンズ部を連結して構成されるものである。

【０１８９】

ところで、上レンズカバー部１５１は、内部が空洞で後方が開放した断面楔状に形成されると共に平面視においてブーメラン形状に構成されるものであり、前述した「く」字状に形成される上冷陰極管とその楔状の先端部内面との距離が近くなるように形成されている。そして、上レンズカバー部１５１の楔状先端部外側には、銀色に着色された不透明な先頭モール部材１５４が固着されており、上レンズカバー部１５１のほぼ全体に相当する断面楔状の前方膨出面を上冷陰極管で照明している。また、側方レンズカバー部１５６，１５７は、内部が空洞で後方が開放して断面楔状に形成される点で上レンズカバー部１５１と同様であるが、側方視において楔状の突出量が上レンズカバー部１５１に比べて少な

く、また全体としてなだらかな曲線を有するブーメラン形状に構成されるものであり、前述した直線状に形成される側方冷陰極管とその楔状の先端部内面との距離が近くなるように形成されている。

【０１９０】

また、本実施形態において、扉枠５の前面周囲を装飾する照明手段として冷陰極管を使用している理由は、以下の通りである。扉枠５の前面周囲を装飾する際に、発光源とその発光源の前面に配置されるレンズカバーの距離をあまり大きく取ることができないという制約がある。この制約は、扉枠５は常に開閉されるため、あまり突出量を大きくすると、開放時における作業等に支障を来たすおそれがあるからである。しかして、発光源とレンズカバーとの間の距離があまりとれない状況において、従来のように、発光源として、ランプやＬＥＤを点在させた場合に、レンズカバーを通して視認できる光装飾は、連続した状態の光装飾が視認できるものではなく光が強い部分と弱い部分との斑模様に視認できるに過ぎない。これに対し、本実施形態のように、発光源として連続した冷陰極管を使用した場合に、冷陰極管とレンズカバー１５０との距離が短くても、レンズカバー１５０を通して視認できる光装飾は、連続した状態の美しい光装飾が視認できるものである。このため、正に遊技盤４を囲む領域が連続した美しい光装飾により縁取られた状態となるので、従来のパチンコ遊技機にはない装飾効果を奏することができる。なお、発光源とレンズカバーとの距離をある程度とることができる場合には、ＬＥＤ等の点在する発光源を使用しても光が拡散してレンズカバーの全域をあまり強弱がなく照明することができる。

【０１９１】

更に、レンズカバー１５０の側方レンズカバー部１５６，１５７の下方に装飾部材取付領域１８４が形成され、その装飾部材取付領域１８４に装飾部材１８５が取付けられている。この装飾部材１８５は、上記したスピーカカバー１６５と類似した形状にして、レンズカバー１５０を扉枠本体１００の表面に取付けたときに、レンズカバー１５０の上部左右と下部左右とがバランスのとれた印象を与えるために取付けられるものである。なお、上記したスピーカカバー１６５及び装飾部材１８５は、上記したように単にスピーカ１６３の前方を覆ったり、あるいはレンズカバー１５０の下部を装飾したりするだけではなく、その周囲がＬＥＤで光装飾される構造となっている。

【０１９２】

以上、詳述したように、本実施形態に係るスピーカカバー１６５及び装飾部材１８５は、扉枠５の遊技窓１０１を囲む領域において、前述した冷陰極管及びＬＥＤ基板による光装飾とは別に四隅を重点的に光装飾するように構成されているので、遊技窓１０１の下辺を除く全周が漫然と光によって装飾されるのではなく、強弱のある光装飾とすることができる。特に、扉枠５の左右上部における光装飾は、従来、スピーカだけが配置される傾向が強く、そのスピーカ周りの光装飾が行われないため遊技窓１０１の外周周りの光装飾に斑がある印象を与えていたが、本実施形態のように構成することにより、遊技窓１０１の下辺を除く全周を効果的に光装飾を行うことができるものである。

【０１９３】

＜補強板金＞

扉枠本体１００の前面側には、上記した扉レンズユニット１２０が取付けられると共にその下方に皿ユニット３００が取付けられる。ここで、皿ユニット３００の構造を説明する前に、扉枠本体１００の裏面側に取付けられる補強板金２１０、ガラスユニット２５０、防犯カバー２７０、装着台２８０、枠装飾中継基板２９０、ハンドル装置４６０について順次説明する。まず、補強板金２１０について主として図１８、図１９、及び図１５乃至図１７を参照して説明する。

【０１９４】

補強板金２１０は、図１８及び図１９に示すように、扉枠本体１００の上辺部裏面に沿って取付けられる上側補強板金２１１と、扉枠本体１００の軸支側辺部裏面に沿って取付けられる軸支側補強板金２１２と、扉枠本体１００の開放側辺部裏面に沿って取付けられる開放側補強板金２１３と、扉枠本体１００の遊技窓１０１の下辺裏面に沿って取付けら

れる下側補強板金２１４と、が相互にビス等で締着されて方形状に構成されるものである。

【０１９５】

図１８に示すように、軸支側補強板金２１２の上下端部には、その上面に上下方向に摺動自在に設けられる軸ピン２１９を有する上軸支部２１８と、その下面に軸ピン２２１（図１５参照）を有する下軸支部２２０と、が一体的に形成されている。そして、上下の軸ピン２１９，２２１が本体枠３の軸支側上下に形成される上軸支金具５０３及び下軸支金具５０９に軸支されることにより、扉枠５が本体枠３に対して開閉自在に設けられるものである。

【０１９６】

下側補強板金２１４は、所定幅を有して扉枠本体１００の横幅寸法とほぼ同じ長さに形成され、その長辺の両端縁のうち下方長辺端縁が後方に向って折曲した下折曲突片２２９となっており、上方長辺端縁の両側部が後方に向って折曲した上折曲突片２３０となっているものの、その両側部の上折曲突片２３０に挟まれる部分が垂直方向に延設される垂直折曲突片２３１となっている。下折曲突片２２９の突出量はあまり大きくなく、この下折曲突片２２９が溝部や凹部と係合して凹凸係合をなすものではなく、強度を高めるために形成されているのに対し、両側部の上折曲突片２３０の突出量は下折曲突片２２９の突出量よりもやや大きく下方からの不正具の侵入を多少防止するが、むしろ、本実施形態における下側補強板金２１４の構成で最も特徴的な構成は、垂直折曲突片２３１である。

【０１９７】

この垂直折曲突片２３１は、その上端縁形状が後述するガラスユニット２５０のユニット枠２５１の下端形状に合致するように凹状に形成され、ガラスユニット２５０を扉枠５の裏面側に固定したときに、垂直折曲突片２３１の上端片がガラスユニット２５０のユニット枠２５１の幅方向のほぼ中央の外周に沿って形成される係合溝２６１に係合するようになっている（図１７参照）。なお、下側補強板金２１４には、扉枠本体１００に形成される賞球通過口１０３の底面を除く外周を保護する賞球通過口被覆部２２８が形成されている。

【０１９８】

＜ガラスユニット（透明板ユニット）＞

次に、扉枠５の裏面に取付けられる透明板ユニットとしてのガラスユニット２５０について説明する。ガラスユニット２５０は、図１８及び図１９に示すように、遊技窓１０１よりも大きな開口を有する合成樹脂で成型した環状の縦長八角形状のユニット枠２５１と、ユニット枠２５１の開口の外周前後面に２枚の透明板としてのガラス板２６２（ガラス板でなくても透明な合成樹脂板でもよい。）を（ホットメルト系接着剤で）接着することにより構成されるものである。なお、図示は省略するが、ユニット枠２５１には、内部に乾燥剤を封入する乾燥剤封入空間部が形成されている。

【０１９９】

＜防犯カバー＞

次に、上記したガラスユニット２５０の下部裏面を被覆して遊技盤４への不正具の侵入を防ぐ防犯機能が付与された防犯カバー２７０について、主として図１５、図１７、図１８、及び図１９を参照して説明する。防犯カバー２７０は、図示するように、透明な合成樹脂によって左右の補強板金２１２，２１３の間のガラスユニット２５０の下方部を覆うような平板状に形成され、その上辺部が遊技盤４の内レール６０３の下方円弧面に沿った円弧状の当接凹部２７１として形成されていると共に、その当接凹部２７１に沿って後方に向って防犯後突片２７４が突設されている。また、防犯カバー２７０を取付けた状態で軸支側裏面には、防犯後端部突片２７５が斜め状に突設形成されている。一方、防犯カバー２７０の前面には、防犯カバー２７０を取付けた状態で前記ガラスユニット２５０のユニット枠２５１の下方形状に沿った防犯前突片２７２が突設されると共に、下部両端にU字状に形成される装着弾性片２７３が前方に向けて突設形成されている。

【０２００】

上記のように構成される防犯カバー２７０は、装着弾性片２７３を扉枠本体１００に形成される装着開口部１１０に装着することにより、扉枠５の裏面側に着脱自在に取付けられる。そして、取付けた状態では、図１７に示すように、防犯前突片２７２がガラスユニット２５０のユニット枠２５１の後方下片面と対面するようになっている。また、防犯前突片２７２の前端は、垂直折曲突片２３１と当接している。また、防犯後突片２７４及び防犯後端部突片２７５は、後方へ突出した状態となっているが、扉枠５を閉じたときに、防犯後突片２７４の軸支側の半分は、遊技盤４に固定される内レール６０３の下側面に侵入して対面した状態となるが、防犯後突片２７４の開放側の半分は、前構成部材６０１の内レール６０３に形成されたレール防犯溝６０７に挿入された状態となり、また、防犯後端部突片２７５は、本体枠３の軸支側に形成される前記防犯突起６０８の上面に沿って重合状の位置となる（図３０参照）。

【０２０１】

而して、防犯カバー２７０を取付けて扉枠５を閉じた状態においては、前述した扉枠突片１１２と係合溝５８４，５８５とによる防犯構造、及び後述する防犯突片２８５と防犯空間５８６とによる防犯構造に加えて、ガラスユニット２５０の下方から不正具を侵入させようとしても、防犯前突片２７２とユニット枠２５１との重合により、防犯カバー２７０の前面下方方向からの不正具の侵入が防止され、防犯後突片２７４と前構成部材６０１を構成する内レール６０３との重合により、防犯カバー２７０の後面下方方向からの不正具の侵入が防止される。特に、扉枠５の軸支側の斜め下方からの不正具の侵入に対しては、防犯突起６０８と防犯後端部突片２７５との重合構造によって外レール６０２への不正具の侵入が阻止され、さらに内レール６０３と防犯後突片２７４との重合構造によって遊技盤４の遊技領域６０５への不正具の侵入を阻止することができる。

【０２０２】

また、同様に、扉枠５の開放側の斜め下方からの不正具の侵入に対しては、前述した開放側補強板金２１３の二重の折曲突片２２３，２２５による防犯構造に加えて、レール防犯溝６０７と防犯後突片２７４との凹凸係合によりさらに遊技盤４の遊技領域６０５への不正具の侵入を阻止することができる。なお、防犯カバー２７０の裏面側の防犯後突片２７４と防犯後端部突片２７５との間の垂直面は、扉枠５を閉じた状態で外レール６０２と内レール６０３とで形成される打球の誘導通路の前面下方部分を覆うものであるため、当該誘導通路部分を飛送若しくは逆送する打球のガラス板２６２への衝突を防止する機能も有している。

【０２０３】

＜装着台＞

装着台２８０は、図１５、図１８、及び図１９に示すように、扉枠本体１００の板部裏面の上半分を覆うように取付けられるものであり、防犯カバー２７０と同様に透明な合成樹脂によって前方が開放した横長直方体状に形成されるものである。この装着台２８０は、発射レール５１５から発射された球をスムーズに遊技盤４に導くために、扉枠５を閉めたときに装着台２８０の後面と本体枠３の板部５１１とによって発射レール５１５を挟持するように形成されるものであり、このため、装着台２８０の後面に球飛送誘導面２８６が形成されている。ところで、本実施形態に係る装着台２８０には、その軸支側上部に下側補強板金２１４に形成される賞球通過口被覆部２２８の後方突出部を貫通させる賞球通過口用開口２８１が形成され、その開放側下部に球送りユニット２８７を取付ける球送りユニット取付凹部２８２が形成されている。この球送りユニット取付凹部２８２から斜め方向の領域が球飛送誘導面２８６となっている。

【０２０４】

また、球送りユニット取付凹部２８２に取付けられる球送りユニット２８７は、後述する打球発射装置６５０の打球槌６８７の往復動差に対応して揺動する球送り部材が設けられ、この球送り部材の揺動動作によって皿ユニット３００の誘導通路部の流下端にある球を発射レール５１５の発射位置に１個ずつ供給するものである。また、装着台２８０の中程下部に後述する側面開口蓋４０６を取り外す際に指を入れることができる蓋用開口２８

３が形成されている。更に、装着台２８０の上辺の一部に垂直に立設される立壁２８４が形成されている。この立壁２８４は、図１５に示すように、前記防犯カバー２７０を取付けたときに、該防犯カバー２７０の前面と当接して防犯カバー２７０の下部が前方に移動しないように規制するためのものである。

【０２０５】

更に、本実施形態に係る装着台２８０の特徴は、上述した球飛送誘導面２８６の下方から賞球通過口用開口２８１にかけて斜め状に防犯突片２８５が後方に向って突設される構造である。この防犯突片２８５は、前述したように、本体枠３の板部５１１に形成される防犯空間５８６との間で、扉枠５と本体枠３との下側辺部における内側の突条及び係合部を構成するものである。

【０２０６】

＜枠装飾中継基板＞

上記した装着台２８０の下部の軸支側には、図１５及び図１８に示すように、枠装飾中継基板２９０が取付けられ、その枠装飾中継基板２９０の後面を覆う中継基板カバー２９１が取付けられている。この枠装飾中継基板２９０は、扉枠５に設けられる電飾部品や電気部品（冷陰極管、ＬＥＤ基板、スピーカ１６３、操作ハンドル部４６１内に設けられるスイッチ、貸球ユニット３２７、操作ボタンユニット３２９等）からの配線が集約して接続され、その枠装飾中継基板２９０からの配線が本体枠３の裏面に取付けられる基板ユニット１１００に組み込まれる扉中継基板１１０２等を介しての賞球払出制御基板１１８６や遊技盤４に取付けられる主制御基板ボックス６２４の主制御基板１３５０（図７８を参照）に接続されている。

【０２０７】

＜皿ユニット＞

次に、主として図１４、図１８及び図１９を参照して皿ユニット３００の構成について説明する。皿ユニット３００は、大きく分けて外観を構成するユニット枠３０１と、ユニット枠３０１の内部に取付けられる下部スピーカユニット３４０と、下部スピーカユニット３４０の上部に配置され且つ前記ユニット枠３０１の上面に臨むように設けられる皿体３８０と、皿体３８０に設けられる第二球抜弁の球抜き動作をするための第二球抜きリンクユニット（図示せず）と、ユニット枠３０１の後面を閉塞する皿蓋板４５０と、から構成されている。

【０２０８】

ユニット枠３０１には、貸球ユニット３２７が備えられている。この貸球ユニット３２７は、パチンコ機１に隣接して球貸し機が設けられている場合に、貸出指令を導出するスイッチや貸出残表示器等が設けられるものである。また、ユニット枠３０１には、上面の前方中央に操作ボタンユニット３２９が備えられている。なお、操作ボタンユニット３２９は、複数（図示の場合は３個）の押ボタン３３０ａ，３３０ｂ，３３０ｃを有して構成されているが、この複数の操作ボタン３３０は、遊技盤４に設けられる液晶表示装置６４０等で行われる遊技内容に遊技者が参加する際に操作されるものである。

【０２０９】

更に、皿ユニット３００には、ユニット枠３０１の上面右側に、第一球抜ボタン３１６が配置されていると共に、ユニット枠３０１の中央下部に、第二球抜リンクユニットの一部を構成する第二球抜ボタン４２１が配置されている。なお、本実施形態において、第一球抜ボタン３１６と第二球抜ボタン４２１の２つの球抜ボタン３１６，４２１を設けたのは、第一球抜ボタン３１６の操作によって、皿体３８０の貯留部３８１及び誘導通路部に貯留されているすべての球を球抜きすることができるものの、その球抜動作は、誘導通路部３８２で一列状に整列された球を球抜するために多少時間がかかるのに対し、第二球抜ボタン４２１の操作によって、皿体３８０の貯留部３８１から上流側の球を径の大きな第二球抜開口から素早く球抜することができるため、球抜時間を短くすることができる。このため、遊技者が球抜きにかける時間の長短を選択することができるものである。

【０２１０】

また、遊技中に大当りとなった場合に皿ユニット３００に大量の球が払出されることになり、これを放置して遊技を継続すると皿ユニット３００の上流側に設けられる満タンスイッチ９１６（図５７参照）が機能して払出動作が停止されたり弾発動作が停止されて大当り中であるにもかかわらず遊技が継続できなくなるおそれがあり、このような場合に、第二球抜ボタン４２１の操作を行うことにより、皿ユニット３００に貯留されつつある球を球抜すると同時に発射位置への球の供給を維持して大当り中の遊技を継続することができるようになっている。

【０２１１】

＜ハンドル装置＞

次に、扉枠５の開放側下部に取付けられるハンドル装置４６０について、主に図１８、図１９、及び図２０を参照して説明する。図２０は、ハンドル装置４６０と本体枠３に設けられる打球発射装置６５０との関係を示す斜視図である。ハンドル装置４６０は、扉枠５の開放側下部前面に設けられる操作ハンドル部４６１と、操作ハンドル部４６１に対応する扉枠５の裏面に組み付けられて操作ハンドル部４６１の回動操作に応じて回転する回転軸４６５と連携され且つ回転軸４６５の回転運動をスライド運動に変化させるジョイントユニット４８０と、から構成されている。

【０２１２】

このハンドル装置４６０には、図示は省略するが、操作ハンドル部４６１を回転操作するとＯＮとなるマイクロスイッチと、マイクロスイッチがＯＮとなっている状態で押圧操作するとマイクロスイッチがＯＦＦ状態となる単発ボタンと、操作ハンドル部４６１の外周表面に施された導電性のメッキを介して遊技者の操作ハンドル部４６１への接触を検知するタッチセンサとを備えている。そして、遊技者が操作ハンドル部４６１を回動してマイクロスイッチがＯＮとなり且つタッチセンサが接触を検出しているときに打球発射装置６５０の後述する発射モータ６９５（図３７参照）が回転駆動されるようになっている。また、回転軸４６５の先端には、勾玉状に形成されたカムが固定されており、このカムが回転することで、ジョイントユニット４８０のスライド突片４９２が左右方向に移動するようになっている。

【０２１３】

このジョイントユニット４８０のスライド突片４９２のスライド移動が、図２０に示すように、打球発射装置６５０のスライド部材７１０に伝達されて打球発射装置６５０の付勢バネ６８４（図３７参照）の張力を調節し、もって打球槌６８７の付勢力の強弱を調整して遊技者の望む打球の弾発力を得ることができる。なお、ハンドル装置４６０と打球発射装置６５０との関係については、打球発射装置６５０についての説明の後で詳細に説明する。

【０２１４】

〔本体枠〕

次に、遊技盤４が前面側から着脱自在に装着し得ると共に、打球発射装置６５０と、賞球を払い出すための賞球タンク７２０とタンクレール部材７４０と球通路ユニット７７０と賞球ユニット８００（本発明の払出ユニットに相当）と満タンユニット９００と、外枠２に対する本体枠３の施錠及び本体枠３に対する扉枠５の施錠を行う錠装置１０００と、遊技盤４を除く扉枠５や本体枠３に設けられる電気的部品を制御するための各種の制御基板や電源基板等が一纏めに設けられている基板ユニット１１００と、後面開口５８０を覆うカバー体１２５０と、等の各種の部品が本体枠主体５００に装着されることにより構成される本体枠３について、図面を参照して説明する。

【０２１５】

まず、図２１～図２９を参照して、上記した各種の部品が装着される本体枠主体５００及び各種の部品が装着された本体枠３について説明する。図２１は、部品を取付ける前の本体枠主体５００の正面図であり、図２２は、部品を取付ける前の本体枠主体５００の背面図であり、図２３は、部品を取付ける前の本体枠主体５００の側面図であり、図２４は、部品を取付ける前の本体枠主体５００の背面から見た斜視図であり、図２５は、部品を

取付けた本体枠３の前方から見た斜視図であり、図２６は、部品を取付けた本体枠３を外枠２に軸支した状態を前方から見た斜視図であり、図２７は、部品を取付けた本体枠３の背面図であり、図２８は、部品を取付けた本体枠３の背面から見た斜視図であり、図２９は、パチンコ機１の中程（主制御基板ボックス６２４部分）の水平線で切断したパチンコ遊技機の断面平面図である。

【０２１６】

図２１において、本体枠主体５００の一側上下には、本体枠３を外枠２に開閉軸支するための上軸支金具５０３及び下軸支金具５０９（共に図２５参照）を取付けるための軸支金具取付段部５０１，５０２が形成され、この軸支金具取付段部５０１，５０２に上軸支金具５０３及び下軸支金具５０９を取付けた状態では、本体枠主体５００の上辺及び側辺が上軸支金具５０３の上辺及び側辺とほぼ同一平面状となり、本体枠主体５００の下辺及び側辺が下軸支金具５０９の下辺及び側辺とほぼ同一平面状となっている（図２７参照）。ここで、上軸支金具５０３と下軸支金具５０９について図２５と図２７を参照して説明する。上軸支金具５０３は、本体枠主体５００の裏面に取付部を有すると共にその上端辺が前方に突出し、その前方に突出した上面に軸支ピン５０４が立設固定され、その軸支ピン５０４の側方に扉軸支穴５０５が穿設されている。

【０２１７】

一方、下軸支金具５０９は、本体枠主体５００の裏面に取付部を有すると共にその下端辺及びやや上部に２つの支持板５０６，５０７が一体的に突設されている。下方に位置する支持板５０６は、本体枠３を外枠２の下支持金具６６に支持するための枠支持板５０６を構成するものであり、上方に位置する支持板５０７は、扉枠５の下軸支部２２０を本体枠３に支持するための扉支持板５０７を構成するものである。このため、枠支持板５０６に外枠２の下支持金具６６の支持突起６８を挿入するための軸支穴（図示しない）が形成され、扉支持板５０７に扉枠５の下軸支部２２０に突設される軸ピン２２１を挿入するための軸支穴５０８が穿設されている。

【０２１８】

ところで、本体枠主体５００は、正面から見た場合に、長方形状に形成され、その上部の約３／４が遊技盤４を設置するための遊技盤設置凹部５１０（図２５参照）となっており、その遊技盤設置凹部５１０の下方のやや奥まった領域が板部５１１となっている。また、遊技盤設置凹部５１０を囲む前面側の前面上辺部及び前面開放側辺部は、扉枠５の裏面と対面するように所定幅を有して形成されており、前面上辺部には、横方向に平行状に突設される突起によって上部防犯二重溝５８１が形成され、正面から見て右側の前面開放側辺部には、外側に側部防犯溝５８２が形成されると共に内側に後端が第一側面壁５４０に接続される傾斜面となっている内壁によって形成される防犯凹部５８３が形成され、正面から見て左側の前面軸支側辺部は、前面上辺部や前面開放側辺部と異なり扉枠５の裏面と対面する所定幅を有するように形成されていないが、本体枠主体５００の前面軸支側辺部が前面上辺部や前面開放側面部に比べて前方への突出量が多い軸支辺部５８７となっている。

【０２１９】

より詳細に説明すると、前面上辺部に形成される上部防犯二重溝５８１は、扉枠５の上辺部裏面に取付固定される上側補強板金２１１の両長辺端を後方に向って折曲される折曲突片２１５，２１６がそれぞれ挿入されるようになっているものである。また、前面開放側辺部に形成される側部防犯溝５８２及び防犯凹部５８３は、扉枠５の開放部裏面に取付固定される開放側補強板金２１３の両長辺端を後方に向って折曲される開放側外折曲突片２２３及び開放側内折曲突片２２５がそれぞれ挿入されるようになっているものである。更に、前面軸支側辺部の軸支辺部５８７には、扉枠５の軸支側裏面に取付固定される軸支側補強板金２１２の軸支側Ｌ字状折曲突片２１７の先端部が当接するようになっている。

【０２２０】

そして、上記した構造によって扉枠５と本体枠３との当接面の隙間からピアノ線等の不正具を挿入する不正行為を防止することができ、特に、最も不正行為が行われやすい開放

側辺部や次いで不正行為が行われやすい上辺部における不正行為の防止をはかることができる構造となっている。もちろん、軸支側における軸支側補強板金２１２と軸支側Ｌ字状折曲突片２１７との当接による不正行為の防止も充分に機能するが、多くの場合、軸支側は、頑丈な支持金具４５，６６と軸支金具５０３，５０９とで本体枠３と扉枠５とが連結されているため、上辺部及び開放側辺部に比べて本体枠３と扉枠５との間に隙間が作り難い。このため、本実施形態においては、二重の防犯構造ではなく、一重の防犯構造としている。これらの点については、後に詳述する。

【０２２１】

また、遊技盤設置凹部５１０を囲む前面側の前面上辺部、前面開放側辺部、及び前面軸支側辺部には、上記した構成以外に前面開放側辺部の上部、中間部、下部に本体枠３の開放側裏面に取付けられる後述する錠装置１０００に設けられる扉用フック部１０４１（図６７参照）を貫通させて前方に飛び出させるための扉用フック穴５４９が開設されており、また、前面軸支側辺部の内側面に遊技盤４に形成される位置決め凹部６１１と係合するための盤位置決め突起５７６が設けられている。更に、前面軸支側辺部の盤位置決め突起５７６のやや下方位置の内側前方面に、扉枠５を閉じた状態で軸支側補強板金２１２の軸支側Ｌ字状折曲突片２１７の先端が挿入される上下２つの規制突起５７７が突設されている。この規制突起５７７の作用については前述した通りである。また、図２１に示すように、開放側の平面部分と遊技盤設置凹部５１０との境目の上下に遊技盤４に設けられる遊技盤止め具６１４の端部が係合される盤止め具挿入穴５７８が形成されている。

【０２２２】

次に、板部５１１の構成について図２１乃至図２６を参照して説明する。板部５１１の上面は、遊技盤４を載置するための遊技盤載置部５１２となっており、その遊技盤載置部５１２のほぼ中央に、当該載置部５１２に遊技盤４を載置したときに遊技盤４に形成されるアウト口６０６（図３０参照）の下面を支持する通路支持突起５１３が突設されている。また、図２１に示すように、板部５１１の前面の中央部から開放側の端部に向かってレール取付ボス５１４が所定間隔を置いて突設され、このレール取付ボス５１４に発射レール５１５（図２５参照）がビス止め固定されている。また、発射レール５１５の先端位置に対応する板部５１１の前面には、レール接続部材５１６が突設され、遊技盤設置凹部５１０に遊技盤４が設置されたときに、遊技盤４の内レール６０３の下流端である接続通路部６０９（図３０参照）と隣接するようになっている。

【０２２３】

また、レール接続部材５１６の側方位置（発射レール５１５と反対側の位置）には、遊技盤４の下部を固定するための楕円形状の遊技盤固定具５１９（図２５参照）の上端部を取付けるための固定具取付ボス５１７が突設され、その斜め下方にストッパー５１８が突設されている。即ち、遊技盤固定具５１９は、固定具取付ボス５１７を中心にして回転自在に設けられ、前記遊技盤載置部５１２に遊技盤４が載置された状態で時計方向に回動して遊技盤固定具５１９を遊技盤４の前面に押圧して遊技盤４を固定するものである。また、遊技盤を取り外す場合には、遊技盤固定具５１９を反時計方向に回して取り外すことにより、簡単に行うことができる。この場合、遊技盤固定具５１９はストッパー５１８により反時計方向の余分な回転ができないようになっている。

【０２２４】

また、板部５１１の開放側下部は、手前側に膨出状に突設された（裏面から見れば凹状となっている）直方体状の発射装置取付部５２０が形成されており、この発射装置取付部５２０に本体枠主体５００の裏面から打球発射装置６５０が固定されている。この点については、後に詳述する。上記した発射装置取付部５２０の前面壁部分には、前述したジョイントユニット４８０のスライド突片４９２と連携されるスライド部材７１０（図４１参照）が収納されるハンドル連結窓５２２が形成され、該ハンドル連結窓５２２の隣接する位置に打球槌６８７の軸受６８９（図３７参照）の端面が臨む軸用穴５２３が開設されている。また、発射装置取付部５２０の上壁部分には、打球発射装置６５０の打球槌６８７が上方に突出するための槌貫通開口５２１が切欠形成され、その槌貫通開口５２１の斜め

上方の板部５１１の前面に錠装置１０００のシリンダ錠１０１０が貫通するシリンダ錠貫通穴５２６が開設されている。

【０２２５】

一方、板部５１１の裏面には、図２２に示すように、軸支側の上部から板部５１１の中央部分に向けて延設された後下方に向かう球抜排出通路５２４が形成されている。この球抜排出通路５２４は、後述する球抜接続通路８８０（図２５参照）から排出される球をパチンコ機１の下方から島の内部に排出するためのものである。また、上述した発射装置取付部５２０の上方には、円柱状の案内突起５２５が後方に向かって突設され、この案内突起５２５に後述する基板ユニット１１００の案内孔１２１２（図７３参照）が差し込まれて基板ユニット１１００の取付けを容易にしている。また、基板ユニット１１００をビスで取付けるための取付穴部５２７が板部５１１の左右上下に形成され、この取付穴部５２７に基板ユニット１１００の取付片１１２２を対応させてビスで止着する。また、発射装置取付部５２０の凹状の内部には、打球発射装置６５０を取付けるための発射装置取付ボス５２９が後方に向かって突設され、更に、開放側の最下端部には、図２４に示すように、本体枠３を外枠２に対して閉じる際に、装飾カバー板１５の上面に当接しながら本体枠３の閉止動作を案内するために先端が先細状で縦長形状の案内突片５２８が後方に向かって突設されている。

【０２２６】

板部５１１には、以上説明した構成以外に、図２４に示すように、軸支側の端部上面に前記球抜排出通路５２４の上流端の開口である球抜接続開口５３０が形成されている。この球抜接続開口５３０に球抜接続通路８８０の下流端が接続されるようになっている。また、球抜接続開口５３０に隣接する部分は、後に詳述する満タンユニット９００（図２５参照）を載置するための満タンユニット載置部５３１が板部５１１と直交するように水平状に形成され、その満タンユニット載置部５３１の前方部分に満タンユニット９００の係合片９２４（図５７参照）と係合するユニット係合溝５３２が形成されている。更に、図２５に示すように、満タンユニット載置部５３１の前方の板部５１１の前面には、扉枠５の開放時に満タンユニット９００の出口９２１から排出される賞球を堰き止める出口開閉装置５７９が設けられている。

【０２２７】

この出口開閉装置５７９については、詳細に説明しないが、扉枠５が閉じているときには、扉枠５の裏面に当接するレバーによって開閉板が下降した状態となっているが、扉板５が開放されるとレバーへの当接がなくなるため開閉板が上昇して出口９２１を閉塞するものである。このため、扉枠５の開放時においても満タンユニット９００内に貯留された賞球が出口９２１から零れ落ちることがない。また、図２５に示すように、板部５１１の上端辺にそって形成される遊技盤載置部５１２であって発射レール５１５の発射部の上方に対応する位置に上下方向に貫通する締結穴５３３を形成し、その締結穴５３３の前方部分に締結バンド６１９を掛け止めるための締結連杆５３４が差し渡されている。この締結連杆５３４は、本体枠３からの遊技盤４の取り外しを防止するための機構である。

【０２２８】

次に、遊技盤設置凹部５１０の構成について説明する。遊技盤設置凹部５１０は、軸支側の内側面及び上記した上辺部及び開放側の鍔面部から後方へ周設される第一側面壁５４０と、該第一側面壁５４０から後方に周設される第二側面壁５４１と、該第二側面壁５４１から後方に周設される第三側面壁５４２と、該第三側面壁５４２から後方に周設される第四側面壁５４３、とにより、本体枠３の左右側辺及び上辺の後方部分が囲まれた凹状に形成されているものである。

【０２２９】

なお、第一側面壁５４０～第四側面壁５４３は、背面から見て上辺及び右辺（軸支側の辺）が段差をもって後方に真っ直ぐに延長されるように形成されるのに対し、左辺（開放側の辺）が第一側面壁５４０から第四側面壁５４３に向かうにしたがって内側に傾斜する段差状（図２９参照）に形成される。これは、左辺（開放側の辺）の第一側面壁５４０か

ら第四側面壁５４３までを後方に真っ直ぐ形成したときに、本体枠３を開放する際に、第四側面壁５４３の最後端部が外枠２の側枠板１３の内面と当接してスムーズに開放できない場合があるため、開放側の第一側壁面５４０から第四側面壁５４３までが内側傾斜状とすることによりスムーズに開放することができるようにしたものである。

【０２３０】

また、それと同時に開放側の第一側面壁５４０に沿って錠装置１０００が取付けられるが、その取付けを第一側面壁５４０の後端辺に設けられる錠取付穴５４７（図６３参照）を利用して行うため、その錠取付穴５４７を形成するためにも開放側の第一側面壁５４０から第四側面壁５４３を傾斜段差状に形成したものである。更に、第一側面壁５４０～第四側面壁５４３の段差の寸法も、第一側面壁５４０と第二側面壁５４１との段差は、後述する遊技盤４の裏面の周辺と当接する必要があるため、ある程度大きな段差をもって形成されるが、それ以外の段差は、極めて小さな段差となっている。もちろん、第二側面壁５４１～第四側面壁５４３までは段差を形成することなく連続的に形成してもよい。

【０２３１】

そして、上記した側面壁５４０～５４３は、図２３に示すように、それぞれ奥行き幅寸法ｄ１，ｄ２，ｄ３，ｄ４を有するように形成され、本実施形態の場合、ｄ１＋ｄ２＋ｄ３＋ｄ４＝約１３５ｍｍとなっている。特に、第一側面壁５４０の幅寸法ｄ１は、遊技盤４の厚みに相当し、残りの第二側面壁５４１と第三側面壁５４２と第四側面壁５４３とによって形成される空間に遊技盤４に設けられる各種の遊技装置の後方突出部分が収納されるようになっている。

【０２３２】

つまり、第一側面壁５４０は、遊技盤４の厚さとほぼ同じ奥行寸法を有する前側面壁を構成し、第二側面壁５４１～第四側面壁５４３は、遊技盤４の周辺部裏面と当接する段差部を有して第一側面壁５４０から後方に向かってほぼ当該第一側面壁５４０と平行状に延設され且つ遊技盤４に設けられる遊技装置の後方突出部を収納する後側面壁を構成するものである。特に、本実施形態の場合には、図５に示すように、第二側面壁５４１～第四側面壁５４３のすべての部位の後方への突出量が、本体枠３の裏面側上部に固定される賞球タンク７２０の球を貯留する貯留部７２８の後面壁７２２とほぼ同じ位置となるように形成されている。

【０２３３】

これにより、遊技盤４の周辺部に対応する位置まで第二側面壁５４１と第三側面壁５４２と第四側面壁５４３とによって形成される空間の大きさが確保されているので、例えば、遊技盤４のほぼ全域を液晶表示画面が占めるような遊技装置が取付けられている場合においても、そのような遊技装置の後方突出部分を楽に収納することができるものである。

【０２３４】

また、図２２及び図２４に示すように、第四側面壁５４３の後端辺からは背面から見てその左辺（開放側）、上辺及び右辺（軸支側）に、開放側後面壁５４４、上後面壁５４５及び後面壁としての軸支側後面壁５４６がそれぞれパチンコ機の正面と平行となるように内側に向かって突設されている。軸支側後面壁５４６は、その前面が平板状（図２１参照）となっており、その後面に球払出機構を構成する後述の球通路ユニット７７０と賞球ユニット８００とが着脱自在に取付けられるようになっている。従って、軸支側後面壁５４６の内側への突出幅寸法は、球通路ユニット７７０と賞球ユニット８００とを取付ける幅があれば充分である。

【０２３５】

また、上後面壁５４５は、その前面が平板状（図２１参照）となっており、その後面に後述するタンクレール部材７４０が取付けられるため、その下端辺が傾斜状に形成されている。従って、上後面壁５４５の内側への突出幅は、傾斜状に取付けられるタンクレール部材７４０の高さ幅寸法があれば充分である。更に、開放側後面壁５４４には、その前面が平板状（図２１参照）となっており、その後面に後述するカバー体１２５０を軸支するカバー体支持筒部５７５が形成されている。したがって、開放側後面壁５４４の内側への

突出幅寸法は、カバー体支持筒部５７５を形成する幅寸法があれば充分である。

【０２３６】

上述したように、第四側面壁５４３の後端辺から内側に向かって突設される開放側後面壁５４４、上後面壁５４５及び軸支側後面壁５４６の前面が平板状に形成され、この平板状部分が遊技盤４の周辺部に対応するものであるため、上記したように、遊技盤４の周辺部に対応する位置まで第二側面壁５４１と第三側面壁５４２と第四側面壁５４３とによって形成される空間の大きさが確保されているので、例えば、遊技盤４のほぼ全域を液晶表示画面が占めるような遊技装置が取付けられている場合においても、そのような遊技装置の後方突出部分を楽に収納することができるものである。なお、開放側後面壁５４４、上後面壁５４５及び軸支側後面壁５４６の内側は、後面開口５８０となっており、この後面開口５８０が後述するカバー体１２５０によって開閉自在に閉塞されるようになっている。

【０２３７】

なお、本実施形態における第一側面壁５４０は、本発明の前側面壁に相当し、本例の第二側面壁、第三側面壁、及び第四側面壁は、本発明の後側面壁に相当している。

【０２３８】

次に、遊技盤設置凹部５１０の更に詳細な構成について説明すると、前述したように、開放側の平面部分には、錠装置１０００の扉枠用フック部１０４１が貫通する扉用フック穴５４９が上中下の３箇所開設されているが、その上下の扉用フック穴５４９のさらに上中下に錠装置１０００の後述する係止突起１００４が係合される錠係止穴５４８（図２２参照）が形成されている。また、開放側の第一側面壁５４０に沿って錠装置１０００が取付けられるが、その取付けをビスで行うための錠取付穴５４７（図２２参照）が第一側面壁５４０の後端部の上部と中程に形成されている。なお、錠装置１０００のビスによる取付けは、上部と中程だけではなく、後述する錠取付片１００８に形成されるビス止め部１００３と前記シリンダ錠貫通穴５２６の上方近傍に形成される錠取付穴５４７とを対応させてビスで止着することにより、錠装置１０００の下方も取付けられるようになっている。

【０２３９】

また、図２４に示すように、第一側面壁５４０の上辺前方の左右には、本体枠３を外枠２に対して閉止する際に、外枠２の上枠板１０の内周面と当接する案内円弧突起５５２が突設され、第一側面壁５４０の後端辺中央に後述する賞球タンク７２０の切欠部７２９と連通する逃げ凹部５５１が形成され、第一側面壁５４０と第二側面壁５４１と接続する垂直面にタンク取付溝５５０が形成されている。そして、このタンク取付溝５５０に賞球タンク７２０の取付鍔部７３３を取付けたときには、図２８に示すように、賞球タンク７２０の切欠部７２９が逃げ凹部５５１と連通して賞球タンク７２０内に貯留された球の球圧が増加したときに圧抜きして球詰まりが発生しないように機能する。また、賞球タンク７２０を本体枠３に取付けたときには、平面視で賞球タンク７２０の正面側から見て奥側の後面壁７２２と第四側面壁５４３の後端辺がほぼ一致（図５参照）するようになっている。なお、上記した案内円弧突起５５２は、本体枠３の上辺を外枠２の上枠板１０の内周面と当接させることにより、本体枠３を持ち上げて本体枠３の下辺と装飾カバー板１５との間に隙間を形成し、その隙間から不正器具を挿入するような不正行為を防止するためのものである。

【０２４０】

また、前述した上後面壁５４５には、タンクレール部材７４０を取付けるためのレール係止溝５５３が後面開口５８０の開口縁に沿って形成されており、また、第四側面壁５４３と上後面壁５４５の屈曲部にレール係止溝５５４が形成されている。そして、これらレール係止溝５５３，５５４にタンクレール部材７４０の係止突片７４９，７５０（図４５参照）を係止させることにより、タンクレール部材７４０を本体枠３に取付けることができる。また、タンクレール部材７４０を取付けたときの下流側に対応する上後面壁５４５の上部には、レール掛止弾性片５５５が形成され、レール係止溝５５３，５５４にタンク

レール部材７４０の係止突片７４９，７５０を係止させて、タンクレール部材７４０を本体枠３に取付けたときに、その係止状態が外れないようにレール掛止弾性片５５５がタンクレール部材７４０の下流側上端の上から当接するようになっている。

【０２４１】

このタンクレール部材７４０を取り外すときには、レール掛止弾性片５５５を後方へ押圧しておいてからレール係止溝５５３，５５４と係止突片７４９，７５０との係止状態を解除すべくタンクレール部材７４０を上方に持ち上げればよい。また、レール掛止弾性片５５５の側方に逃げ穴５５６が穿設され、レール掛止弾性片５５５の下方にアース線接続具５５７形成されている。逃げ穴５５６は、タンクレール部材７４０に設けられる整列歯車７４７の軸ピン７４８の端部を逃がすために穿設されるものであり、また、アース接続具２０７は、タンクレール部材７４０の内部に貼着される金属製の導電板（図示しない）に接触していると共に、電源基板に設けられるアース用コネクタに接続される配線が接続されるものである。

【０２４２】

また、軸支側後面壁５４６には、図２２及び図２４に示すように、軸支側後面壁５４６の左右両端に垂直状の立壁５６０を立設し、その立壁５６０の間に球通路ユニット７７０と賞球ユニット８００とが取付けられる。また、左右の立壁５６０の間の最上流部から中流部よりやや上方まで賞球案内突起５６１が屈曲状に突設されている。この賞球案内突起５６１は、軸支側後面壁５４６にその突出高さが下流側に向かって徐々に低くなるように後方に向かって突設され、後述する球通路ユニット７７０を取付けたときに、該球通路ユニット７７０の球落下通路７７２（図５０参照）に対応するもので、賞球を一列状に誘導するものである。また、賞球案内突起５６１の左右には、球通路ユニット７７０をビスで止着するための通路ユニット取付ボス５６２、及び位置決めするための位置決めピン５７４が突設されると共に、後述する球切れスイッチ７７８（図５０参照）に対面するスイッチ対応突起５６３が突設されている。通路ユニット取付ボス５６２及び位置決めピン５７４については、後に詳述する。

【０２４３】

更に、左右の立壁５６０の中流部から下流部にかけて賞球ユニット８００の係合部としての鉤状係合部８２４（図５２参照）と係合する係止部としての係合突片５６５と、賞球ユニット８００のボタン挿通係合穴８２１（図５２参照）と係合するロック用弾性爪５６４と、が形成されると共に、賞球ユニット８００のスプロケット８０７の回転軸８０８（図５２参照）の端部が受け入れられる逃げ穴５６６が形成されている。また、軸支側後面壁５４６の下方には、払出モータ用逃げ開口部５７２が形成されており、この払出モータ用逃げ開口部５７２に賞球ユニット８００の駆動モータとしての払出モータ８１５が臨むようになっている（図２５参照）。そして、賞球ユニット８００は、軸支側後面壁５４６の裏面最下端に形成される係止溝５７３のその下端を係止して前記係合突片５６５及びロック用弾性爪５６４によって軸支側後面壁５４６に着脱自在に取付けられるようになっている。この着脱自在の構成については、後に詳述する。

【０２４４】

また、軸支側後面壁５４６の開放側の端部には、そのカバー体１２５０の開放側の端辺が入り込むカバー体当接溝５６７が形成されていると共に、該カバー体当接溝５６７の下方に施錠壁５６９が突設されている。カバー体当接溝５６７には、カバー体１２５０の止め穴１２５３（図２８参照）に対応する止め穴５６８が形成されており、これら止め穴１２５３，５６８とを一致させて図示しないビスで止着することにより、カバー体１２５０によって本体枠３の後面開口５８０を閉塞固定することができるようになっている。また、施錠壁５６９には、平面視Ｕ字状の施錠用突出鉤片５７０が突設され、本体枠３に対してカバー体１２５０を閉じた状態で施錠用突出鉤片５７０をカバー体１２５０に形成される貫通穴１２５４（図２８参照）を貫通させ、例えば、南京錠等の錠を施錠用突出鉤片５７０に掛け止めることにより、南京錠の鍵を有する責任者しかカバー体１２５０を開放することができないようにすることができる。

【０２４５】
以上、遊技盤設置凹部５１０及び板部５１１とからなる本体枠主体５００の構成について説明してきたが、上記に説明した以外に、板部５１１の最下端辺部に、扉枠５を閉じたときに、扉枠本体１００の下辺を後方に向けて折曲した扉枠突片１１２，１１３（図１９参照）が挿入される係合溝５８４，５８５（図２１参照）が形成されている。係合溝５８４は、前述した発射装置取付部５２０の下方に形成される溝であり、係合溝５８５は、前記係合溝５８４の一端から軸支側に向って形成される溝である。なお、係合溝５８５に対応する扉枠突片１１２は、係合溝５８４に対応する扉枠突片１１３の突出量よりも大きくなるように後方に向って突設されている。ただし、開放端下部には、突出量の多い扉枠突片１１２が僅かに形成されている。そして、上記した扉枠突片１１２，１１３と係合溝５８４，５８５とが扉枠５と本体枠３との下側辺部における外側の突条及び係合部を構成するものである。

【０２４６】
上記のように板部５１１には、発射レール５１５や出口開閉装置５７９が設けられ且つレール接続部材５１６や発射装置取付部５２０が突設形成されているが、発射装置取付部５２０及び発射レール５１５の板部５１１における配置位置が開放側に偏り、しかもそれらが板部５１１の表面よりも突出して形成されている。このため、扉枠５を閉じた状態において、発射装置取付部５２０及び発射レール５１５が配置される板部５１１のほぼ中央部から開放側にいたる領域は、扉枠５の裏面と発射装置取付部５２０及び発射レール５１５の前面とが密着した状態となるため、前述した扉枠突片１１２と係合溝５８５との隙間を上手にすり抜けてきたピアノ線等の不正具を扉枠５の裏面と発射装置取付部５２０及び発射レール５１５の前面との間をさらに上手にすり抜けさせて遊技盤４の表面側若しくは遊技盤４の裏面側に到達させることは極めて困難である。

【０２４７】
一方、発射装置取付部５２０及び発射レール５１５が配置されない板部５１１のほぼ中央部から軸支側にいたる領域は、板部５１１の表面に突出した部分がないため、扉枠５を閉じた状態において、扉枠５の裏面と板部５１１の前面との間に空間５８６が生じてしまう。このため、前述した扉枠突片１１２と係合溝５８４との隙間を上手にすり抜けてきたピアノ線等の不正具が扉枠５の裏面と板部５１１の前面との間の空間５８６を簡単にすり抜けてしまうことができるため、この空間５８６を不正具が上方に向ってすり抜けないように、扉枠５の裏面下部に取付けられる装着台２８０には、扉枠５を閉じた状態で該空間５８６に侵入する防犯突片２８５が形成されている。この防犯突片２８５は、板部５１１のほぼ中程から軸支側端部までいたるように装着台２８０に形成されている。したがって、発射レール５１５及び遊技盤４に取付けられる外レール６０２の下方空間は、装着台２８０に突設される防犯突片２８５を受入れる防犯空間５８６を構成している。そして、この防犯突片２８５と防犯空間５８６とが扉枠５と本体枠３との下側辺部における内側の突条及び係合部を構成するものである。

【０２４８】
本体枠３は、上記したように、遊技盤４、打球発射装置６５０、賞球タンク７２０、タンクレール部材７４０、球通路ユニット７７０、賞球ユニット８００、満タンユニット９００、錠装置１０００、基板ユニット１１００及びカバー体１２５０が取付けられるが、以下、これらを順次説明する。

【０２４９】
＜遊技盤の概略構成＞
遊技盤４の概略構成について図３０乃至図３５を参照して説明する。図３０は、遊技盤４の正面から見た斜視図であり、図３１は、遊技盤４の正面図であり、図３２は、遊技盤４の背面図であり、図３３は、遊技盤４の平面図であり、図３４は、遊技盤４に形成される取り外し防止機構部分の拡大斜視図であり、図３５は、遊技盤４の取り外し防止機構に対する本体枠側の構造を示す本体枠３の部分斜視図である。

【０２５０】

図３０において、遊技盤４は、木製の合板からなり外形が略正方形状の遊技パネル６００と、遊技パネル６００の前面に遊技領域６０５を囲むように取付けられる前構成部材６０１と、から構成されている。遊技パネル６００の表面には、遊技領域６０５に各種の遊技装置や多数の障害釘（いずれも図示省略）が植立されている。そして、それらの遊技装置や障害釘が設けられた後に前構成部材６０１が遊技パネル６００の前面に取付けられるが、その前構成部材６０１は、遊技領域６０５の外周を囲むように内部が円形の空洞状に形成され且つ外形が遊技パネル６００の外形に沿った形状に形成されており、その下辺中程から上辺の中心を過ぎた斜め上方までの円弧面が外レール６０２として形成され、その外レール６０２の終端に設けられる衝止部６２０の下部位置から上辺の前記衝止部６２０の対称の逆流防止部材６０４が設けられる位置までが内レール６０３として形成されている。外レール６０２は、その始端部に前記発射レール５１５の延長状に設けられたレール接続部材５１６に連接する接続通路部６０９が斜め状に形成されており、その接続通路部６０９に隣接してファール口６１０が形成されている。また、ファール口６１０の上流端から衝止部６２０までの外レール６０２には、金属製のレールが密着して取付けられている。

【０２５１】

なお、衝止部６２０は、勢いよく外レール６０２を滑走してきた打球が衝突したときに、その衝突した打球を遊技領域６０５の内側に反発させるようにゴムや合成樹脂の弾性体が設けられるものであり、逆流防止部材６０４は、一端発射されて遊技領域６０５の内側に取り入れられた打球が再度外レール６０２に逆流しないように防止するものである。更に、外レール６０２の下部一側には、金属製のレールの一部に沿うように防犯突起６０８が突設されている。この防犯突起６０８は、扉枠５が閉じられた状態で前述したように防犯カバー２７０に突設される防犯後端部突片２７５と上下方向に重複して本体枠３と扉枠５の軸支側の隙間の中程よりやや下方から挿入されるピアノ線等の不正具の侵入を防止するものである。

【０２５２】

また、内レール６０３の下部中央には、アウト口６０６が設けられ、そのアウト口６０６から逆流防止部材６０４までの内レール６０３と外レール６０２との間は、発射された打球が遊技領域６０５まで誘導される誘導通路を構成するものであるが、遊技領域６０５に到達せずに外レール６０２を逆流した打球はファール口６１０に取り込まれて後述する満タンユニット９００のファール球入口９２３に導かれて再度皿ユニット３００に排出されるようになっている。なお、遊技領域６０５は、実質的に内レール６０３によって囲まれる領域である。また、内レール６０３のアウト口６０６から衝止部６２０に向かう途中の前構成部材６０１には、レール防犯溝６０７が形成されている。このレール防犯溝６０７は、扉枠５が閉じられた状態で前述したように防犯カバー２７０に突設される防犯後突片２７４の一部が侵入するように溝状に形成されており、このレール防犯溝６０７と防犯後突片２７４との凹凸係合により、上下方向に重複して本体枠３と扉枠５の開放側の隙間の中程よりやや下方から挿入されるピアノ線等の不正具の侵入を最終的に防止するものである。

【０２５３】

ところで、遊技盤４の一側には、本体枠３に形成される前記盤位置決め突起５７６に嵌合する位置決め凹部６１１が形成され、遊技盤４の他側には、本体枠３に形成される前記盤止め具挿入穴５７８に挿入される遊技盤止め具６１４が設けられている。遊技盤止め具６１４は、押し込み固定したときにその端部が盤止め具挿入穴５７８に挿入されるようになっている。しかして、遊技盤４を本体枠３に固定するためには、本体枠３の前面側から位置決め凹部６１１が盤位置決め突起５７６に嵌合するように斜め方向から差し込んだ後、遊技盤４の全体を本体枠３の第一側面壁５４０に押し込み、その状態でフリーな状態となっている遊技盤止め具６１４を押し込み固定してその端部を盤止め具挿入穴５７８に挿入して固定する。その後、遊技盤固定具５１９を回動して遊技盤４の下部前面を固定する。これによって遊技盤４を本体枠３に簡単に装着することができる。遊技盤４を取り外す

には、上記の手順と逆の手順で取り外せばよい。

【０２５４】

また、本実施形態における遊技盤４は、遊技盤４の本体枠３からの不正な取り外しを極めて簡単に防止する構成を有している。即ち、図３０及び図３４に示すように、遊技盤４の下方の前記通路用切欠部６１３と反対側の下端部に遊技盤４の前後に貫通する取付用切欠部６１６を形成し（正確には、前構成部材６０１に取付用切欠部６１６が形成されている。）、その取付用切欠部６１６の下部に水平方向に締結バー６１７を掛け渡し固定する。締結バー６１７には、そのほぼ中央に締結バンド６１９を掛け止めるための帯溝状の締結部６１８が形成されている。一方、本体枠３に設けられる取り外し防止機構としては、前述したように、本体枠３下方の板部５１１の上端辺にそって形成される遊技盤載置部５１２であって発射レール５１５の発射部の上方に対応する位置に上下方向に貫通する締結穴５３３を形成し、その締結穴５３３の前方部分に締結バンド６１９を掛け止めるための締結連杆５３４が差し渡されている（図３５参照）。

【０２５５】

上記のように構成される遊技盤４を本体枠３の遊技盤設置凹部５１０に収納配置したときには、図３４に示すように、締結バー６１７が遊技盤載置部５１２に当接して載置した状態になると共に、締結部６１８と締結連杆５３４とが一致した状態となる。そして、その状態で締結部６１８と締結連杆５３４との一致している部分に対して、締結バー６１７の上方から一般的に市販されている締結バンド６１９の先端を取付用切欠部６１６に差し込んで下方に向けて締結穴５３３に差し込み前方に導き、その先端を締結バンド６１９の締結具部分に係合させる。そして、締結バンド６１９の締結具より前方に飛び出した不必要な先端部分を切断しておく。このようにすれば、締結バンド６１９を切断しない限り、遊技盤止め具６１４と遊技盤固定具５１９等の固定を解除しても、遊技盤４を本体枠３から取り外すことができない。締結バンド６１９を切断すれば、遊技盤４を本体枠３から取り外すことはできるものの、例えば、締結バンド６１９をパチンコ店独特のものを使用することにより、異なる締結バンドが締結されていれば、遊技盤４を取り外して何らかの不正行為を行われたことが容易に理解することができるものである。このように極めて簡単な取り外し防止機構により遊技盤４の本体枠３からの不正な取り外しを防止することができる。

【０２５６】

また、遊技盤４の外形形状は、その上部左右に前記扉枠５の裏面に設けられるスピーカ１６３の後方突出部分を受け入れるようにスピーカ用切欠部６１２が形成され、また、ファール口６１０の側方斜め下に後述する満タンユニット９００の前方誘導通路９２０部分の一部が挿入される通路用切欠部６１３が形成されている。また、前構成部材６０１の下方左右には、証明確認用の証紙を貼付する証紙貼付部６１５が設けられている。

【０２５７】

一方、遊技盤４の裏面には、遊技領域６０５に設けられる各種の遊技装置（例えば、一般入賞口、始動口、大入賞口、等）に入賞した球を下流側に整列して誘導することができる裏箱６２１の裏面に遊技領域６０５のほぼ中央に配置される表示装置としての液晶表示装置６４０（図７４等参照）の表示を制御する表示装置制御基板が収納される表示制御基板ボックスとしての液晶表示制御基板ボックス６２２が取付けられている。

【０２５８】

更に、遊技盤４の裏面には、裏箱６２１の下方に盤用基板ホルダ６２３が固定されている。この盤用基板ホルダ６２３は、その前方に裏箱６２１によって整列誘導された入賞球を集めるように空間部（この空間部は、前後方向の幅が裏箱６２１の幅よりも比較的広いものとして形成されている。）が形成され、その空間部の底面に落下口６２９（図２９参照）が形成されている。この落下口６２９は、前記アウト口６０６の後面部分で合流して後述する基板ユニット１１００に形成されるアウト球通路１１１９（図７３参照）に連通するものである。

【０２５９】

また、盤用基板ホルダ６２３には、その裏面に遊技動作を制御する主制御基板１３５０を収納する主制御基板ボックス６２４と、後述する基板ユニット１１００に設けられる払出制御基板１１８６や電源基板等と接続するための中継端子板６２５と、が取付けられている。中継端子板６２５には、遊技盤４を本体枠３に装着するだけで自動的に前記基板ユニット１１００に設けられるドロワコネクタ１２００，１２０２と接続されるドロワコネクタ６２６，６２７が設けられている。

【０２６０】

更に、盤用基板ホルダ６２３には、ドロワコネクタ６２６，６２７の間から中継端子板６２５を貫通するように後方に向かって突出する接合案内突起６２８が形成されている。この接合案内突起６２８は、後に詳述するように遊技盤４を本体枠３に装着する作業を行ったときに、基板ユニット１１００側に設けられるドロワコネクタ１２００，１２０２と遊技盤４側に設けられるドロワコネクタ６２６，６２７とが自然に接続されるように基板ユニット１１００の枠用基板ホルダ１１０１に形成される接合案内孔１２１３に挿入される（図７３参照）ものである。なお、これらドロワコネクタの接続については、後に詳述する。

【０２６１】

＜打球発射装置＞

打球発射装置６５０について図３６乃至図４１を参照して説明する。図３６は、打球発射装置６５０の全体の斜視図（Ａ），発射モータ部分を取り外した状態の斜視図（Ｂ）であり、図３７は、打球発射装置６５０の分解斜視図であり、図３８は、打球発射装置６５０と発射レール５１５との関係を示す正面図（Ａ），発射モータ部分の斜視図（Ｂ）であり、図３９は、操作ハンドル部４６１を操作していない状態における打球発射装置６５０と発射レール５１５との関係を示す背面図であり、図４０は、操作ハンドル部４６１を操作している状態における打球発射装置６５０と発射レール５１５との関係を示す背面図であり、図４１は、打球発射装置６５０に設けられるスライド部材７１０の平面図（Ａ），正面図（Ｂ），正面から見た斜視図（Ｃ），正面図（Ｂ）のＡ－Ａ断面図（Ｄ）である。

【０２６２】

打球発射装置６５０は、発射ベース枠６５１に打球槌６８７を回動自在に軸支すると共に、その打球槌６８７に往復回動を付与する発射モータ６９５を発射ベース枠６５１に取付け、さらに打球槌６８７に復帰する付勢力を付与する付勢バネ６８４の付勢力を調節するスライド杆６７７及びスライド部材７１０が発射ベース枠６５１に設けられることにより構成される。

【０２６３】

より詳細に説明すると、図３７に示すように、発射ベース枠６５１は、合成樹脂によって横長な長方形状に成型されるものであり、そのほぼ中心に打球槌６８７の軸受６８９が嵌合される軸受筒６５２が形成され、その上部及び側方に打球槌６８７の発射原点位置を規制するゴムストッパー部材６５３，６５４が取付け固定されている。即ち、ゴムストッパー部材６５３，６５４は、打球槌６８７が付勢バネ６８４の付勢力により発射原点位置に戻ったときに打球槌６８７の衝撃を受け止めるものである。また、発射ベース枠６５１の後方（発射レール５１５の下方に対応する部位の反対側）の上方に横長細溝状のスライド案内孔６５５が形成され、そのスライド案内孔６５５の下方にスライド部材収納空間６５６が形成されている。

【０２６４】

このスライド案内孔６５５は、後述するスライド杆６７７の後端上部に突設される案内係止片６７８が挿入されてスライド杆６７７のスライド移動を案内するものであり、スライド部材収納空間６５６には、スライド部材７１０が左右方向に移動可能に収納されるものである。なお、スライド杆６７７の前方部分のスライド案内は、スライド杆６７７の前方に形成される案内長孔６８０に止めネジ６８２によって発射ベース枠６５１に形成される止め穴６６２に止着される案内ブッシュ６８１を貫通させることにより行われる。また、スライド部材収納空間６５６の底面には、図３８に示すように、長方形状の連結開口６

６４が形成されている。

【０２６５】

また、発射ベース枠６５１の上辺の前方部分には、発射ベース枠６５１の本体に対して庇部が形成されており、前記軸受筒６５２の上方の庇部に作動片用開口６５７が穿設されている。この作動片用開口６５７には、前記扉枠５の皿ユニット３００の下流側の打球供給口２８８（図１５参照）に臨んで設けられている供給揺動片２８９（図１５参照）と当接する作動片６５８が作動片用開口６５７の開口縁の後方上部に突設されている取付部６６０に止めピン６５９によって揺動自在に設けられるものである。作動片６５８は、「て」字状に形成され、その上辺の後端部が止めピン６５９によって軸支され、その軸支部から下方の円弧部に打球槌６８７と一体的に回動するベース板６９０に突設される作動片当接部６９３と当接し、打球槌６８７の往復動作に連動して上辺部が供給揺動片２８９を揺動させ、供給揺動片２８９の揺動動作により打球供給口２８８から流出する打球を１個ずつ発射レール５１５の発射位置に供給するようになっている。

【０２６６】

更に、発射ベース枠６５１には、発射モータ６９５を内蔵するモータカバー６９４を止着するためのモータ取付ボス６６１が後方下部に２箇所と前方上部に１箇所の合計３箇所に突設されていると共に、前記スライド部材収納空間６５６の下部後方にスライド杆６７７をスライドさせるためにスライド部材７１０と連結される揺動片６７２の下端の軸穴６７３が挿入される揺動片用ボス６６３が突設されている。

【０２６７】

上記した発射ベース枠６５１には、打球発射装置６５０の剛性を高めるために金属プレート６６５がほぼ密着するように取付けられている。このため、金属プレート６６５には、軸受筒６５２、下方のゴムストッパー部材６５３、スライド案内孔６５５、案内ブッシュ６８１、及び揺動片用ボス６６３にそれぞれ対応する貫通孔６６６，６６７，６６８，６６９，６７１が形成されていると共に、スライド部材７１０の連結凸部７１２が貫通する横長楕円状の貫通孔６７０も貫通されている。上記のように構成される金属プレート６６５は、スライド部材７１０をスライド部材収納空間６５６に収納した後、それぞれの貫通孔６６６～６７１がそれに対応する部材６５２，６５３，６５５，６８１，７１２，６６３を貫通あるいは一致させるように発射ベース枠６５１に密着させてビス止めすることにより発射ベース枠６５１に固定されるものである。

【０２６８】

金属プレート６６５が取付けられた発射ベース枠６５１の揺動片用ボス６６３の先端部分が貫通孔６７１から頭を出しているが、その頭の部分に揺動片６７２の軸穴６７３が挿通されて、揺動片６７２が下端を中心にして揺動自在に軸支される。揺動片６７２は、図３７に示すように、縦長杆状に形成され、その下端に前記軸穴６７３が形成され、その中程にスライド部材７１０の連結凸部７１２が挿入されるやや縦長穴形状の連結穴６７４が形成されている。そして、その連結穴６７４より上方の前方面がスライド杆６７７の一端（後端）と当接する当接部６７５となっている。しかして、揺動片６７２を揺動片用ボス６６３に挿通し、且つ貫通孔６７０から頭を出しているスライド部材７１０の連結凸部７１２に連結穴６７４を挿入してワッシャ付きピン６７６を連結凸部７１２に止着することにより、揺動片６７２が発射ベース枠６５１に取付けられる。そして、取付けられた揺動片６７２は、スライド部材７１０のスライドに伴って下端を中心にしてその上方部分が揺動するようになっている。

【０２６９】

また、金属プレート６６５の上部前面には、横長杆状のスライド杆６７７が左右方向にスライド可能に取付けられる。即ち、スライド杆６７７の後方上部に突設されるＬ字状の案内係止片６７８を金属プレート６６５の貫通孔６６８に貫通係合させ、スライド杆６７７の前方に形成される案内長孔６８０に止めネジ６８２を有する案内ブッシュ６８１を貫通させて止めネジ６８２を止め穴６６２に止着する。上記した案内係止片６７８と貫通孔６６８、及び案内長孔６８０と案内ブッシュ６８１とにより、スライド杆６７７が金属プ

レート６６５を介して発射ベース枠６５１にスライド可能に装着される。また、スライド杆６７７には、その一端（後端）に上述した揺動片６７２の当接部６７５と当接する被当接部６７９が形成され、その他端（前端）に付勢バネ６８４の一端の係止輪６８５を掛け止めるためのバネ係止部６８３が突設されている。

【０２７０】

金属プレート６６５が取付けられた発射ベース枠６５１の軸受筒６５２が貫通孔６６６から突出しているが、その軸受筒６５２には、打球槌６８７の軸受６８９が抜け落ちないように嵌合されている。軸受６８９の軸には、打球槌６８７の下端部が固着されると共に同時にベース板６９０が固着される。ベース板６９０には、その前方裏面側に前記作動片６５８と当接する作動片当接部６９３が突設され、その前方前面に付勢バネ６８４の他端の係止輪６８６を掛け止めるためのバネ係止部６９２が突設され、さらにその後方前面に発射モータ６９５のモータカム６９７と係脱するモータ当接突片６９１が突設されている。打球槌６８７の上端には、合成樹脂製の槌先６８８が固着されており、この槌先６８８が発射レール５１５の下端部とその上方に固着される発射位置ストッパー７０２とによって形成される発射位置に突入するように臨んでいる。

【０２７１】

一方、発射ベース枠６５１の前述したモータ取付ボス６６１には、モータカバー６９４に収納された発射モータ６９５が取付けられる。より具体的には、図３８（Ｂ）に示すように、モータカバー６９４は、内部に発射モータ６９５を収納するように形成された円筒部と、該円筒部の前方に拡大して前記モータ取付ボス６６１に取付けるための取付固定穴６９９が形成される取付部と、が一体的に形成され、円筒部の内部に収納される発射モータ６９５のモータ軸６９６の先端に逆回転防止カム６９８とモータカム６９７とが固定されている。

【０２７２】

この逆回転防止カム６９８の外周には、多数の逆歯が形成されており、ストッパー片取付ボス７０１に揺動自在に固定されるストッパー片７００（図３９参照）と係合して発射モータ６９５の逆方向の回転を防止している。これは、モータカム６９７が逆方向に回転してモータカム６９７とモータ当接突片６９１とが噛み合って打球発射装置６５０が駆動できなくなる故障が発生しないように防止するためである。また、モータカム６９７は、勾玉状に形成されており、発射モータ６９５の回転に伴いモータ当接突片６９１と係脱しながら打球槌６８７を往復動作させる。なお、モータカバー６９４をモータ取付ボス６６１に取付けたときには、図３６（Ａ）に示すように、打球発射装置６５０の主たる構成が後面から見て被覆されたような状態となっている。

【０２７３】

ところで、前述したスライド部材収納空間６５６に収納されてスライド移動するスライド部材７１０は、図４１に示すように、後方が開放した直方体状に形成され、その前面に楕円形状の楕円凸部７１１が突設され、さらに該楕円凸部７１１の後方位置に円形状の連結凸部７１２が突設されている。また、上面及び下面には、スライド部材収納空間６５６内をスライドし易いように断面円弧状のスライド用当接突部７１３がその両端に突設されている。一方、直方体状に形成されるスライド部材７１０の空間は、前記扉枠５の裏面下部に設けられるジョイントユニット４８０のスライド突片４９２が挿入される挿入空間７１４となっている。

【０２７４】

そして、この挿入空間７１４は、スライド方向前方の側壁手前側に第一傾斜面７１５が形成されると共に、その第一傾斜面７１５のやや後方寄りに上面及び下面の内側から内部に向かって突設され且つ相互の先端間に所定の間隔が形成される挟持片７１６が形成されている。挟持片７１６の手前側にも奥に向かって側方視でハ字状に傾斜する第二傾斜面７１７も形成されている。しかして、スライド突片４９２が挿入空間７１４に挿入された状態では、図４１（Ｂ）に示すように、スライド突片４９２の傾斜辺４９３側の一端辺がスライド方向前方の側壁に当接した状態で且つ上下の挟持片７１６の間に挿入された状態と

なっている。なお、スライド部材７１０の挿入空間７１４の側方に空間部７１８が形成されているが、この空間部７１８は、特に機能を奏しているわけではない。

【０２７５】

而して、上記のように構成されるスライド部材７１０は、スライド部材収納空間６５６に収納された状態で、図３８（Ａ）に示すように、スライド部材収納空間６５６の底面に形成される楕円形状の連結開口６６４に挿入空間７１４が臨むように形成されていると共に、スライド部材７１０がスライド部材収納空間６５６の一方の空間内壁に当接した状態（図３８（Ａ）では左の空間内壁に当接しているように図示されているが、通常の状態では右の空間内壁に当接した状態となっている。）となっている。

【０２７６】

そこで、まず、スライド部材７１０と打球発射装置６５０の付勢バネ６８４の強弱を調整する関係について説明すると、スライド部材７１０がスライド部材収納空間６５６の内部の初期位置（図３８（Ａ）において右の空間内壁に当接した位置）にあるときには、図３９に示すように、該スライド部材７１０の連結凸部７１２に連結された揺動片６７２がほぼ垂直状態となっている。このため、揺動片６７２と当接しているスライド杆６７７も付勢バネ６８４の付勢力により一方向（図３９において左側方向）に付勢された状態で揺動片６７２の当接部６７５とスライド杆６７７の被当接部６７９とが当接した状態となっている。この状態では、付勢バネ６８４が張力されていないので、打球槌６８７が発射モータ６９５の回転に従動して往復回動しても、打球槌６８７の復帰力も弱く、発射位置にある打球が弾発されても遊技盤４の遊技領域６０５に到達することはない。

【０２７７】

一方、スライド部材収納空間６５６の内部をスライド部材７１０が初期位置から他方方向に移動したとき（図３８（Ａ）において左の空間内壁方向に向かって移動したとき）、図４０に示すように、揺動片６７２が下端の軸穴６７３を軸として揺動して傾動するため、当接部６７５と被当接部６７９との当接によりスライド杆６７７が他方向（図４０において右側方向）に向かってスライド移動する。すると、スライド杆６７７のバネ係止部６８３に係止されている付勢バネ６８４も張力されて伸びた状態となる。この状態では、付勢バネ６８４が張力されているので、打球槌６８７が発射モータ６９５の回転に従動して往復回動したときの打球槌６８７の復帰力が強くなり、発射位置にある打球が強く弾発されて遊技盤４の遊技領域６０５に到達する。そして、この打球の弾発力の強弱は、スライド部材７１０のスライド部材収納空間６５６内でのスライド量に応じて調整することができる。

【０２７８】

上記したように、スライド部材７１０を移動させることにより、打球発射装置６５０による弾発力を調整することができるが、このスライド部材７１０の移動は、前述したハンドル装置４６０の操作ハンドル部４６１の回動操作部材４６４の回動操作に応じて移動するジョイントユニット４８０のスライド体４８３の移動と連動するようになっている。この点について図２０、を参照して説明する。

【０２７９】

前述したように、ハンドル装置４６０の操作ハンドル部４６１の回動操作部材４６４を回転させることにより、回転軸４６５の先端に固着される勾玉状のカム４６６も回転するため、ジョイントユニット４８０のスライド体４８３が収納体４８１の内部を一方向に向かってスライド移動する。このため、スライド体４８３の前面に突設されるスライド突片４９２も同じ方向にスライド移動することになる。スライド体４８３のスライド突片４９２は、扉枠５を本体枠３に対して閉じた状態では、本体枠５の発射装置取付部５２０に形成される連結開口６６４を貫通してスライド部材７１０の挿入空間７１４に挿入されるようになっている。この場合の挿入状態は、前述したようにスライド突片４９２の傾斜辺４９３側の一端辺がスライド方向前方の側壁に当接した状態で且つ上下の挟持片７１６の間に挿入された状態である。したがって、スライド突片４９２が一方向に向かってスライド移動すると、スライド部材７１０も同一方向に向かってスライド移動することになる。こ

のとき、前述したように、スライド部材７１０のスライド移動に伴ってスライド杆６７７もスライド移動するので、付勢バネ６８４の付勢力を調整することができる。つまり、ハンドル装置４６０の回動操作部材４６４を回動操作することにより、打球発射装置６５０の打球の弾発力を調整することができるものである。

【０２８０】

ところで、本実施形態においては、ハンドル装置４６０が扉枠５に設けられ、打球発射装置６５０が本体枠３に設けられているので、扉枠５を開閉する毎にハンドル装置４６０のスライド突片４９２と打球発射装置６５０のスライド部材７１０とが連携したり離れたりすることになる。しかし、本実施形態においては、上述したように、本体枠３に対して扉枠５を閉じることにより、スライド突片４９２がスライド部材７１０の挿入空間７１４に自動的に挿入されてハンドル装置４６０と打球発射装置６５０とが連携され、逆に、本体枠３に対して扉枠５を開放することにより、スライド突片４９２が挿入空間７１４から離れてハンドル装置４６０と打球発射装置６５０とを分離することができるので、極めて簡単に扉枠５の開閉に伴ってハンドル装置４６０と打球発射装置６５０との連携・分離を行うことができる。特に、スライド突片４９２が挿入空間７１４に挿入される際には、スライド突片４９２の位置が上下方向に多少ずれていても、挿入空間７１４内に突設される挟持片７１６の第二傾斜面７１７によってスライド突片４９２がスムーズに挟持位置に挿入されるようになっている。

【０２８１】

また、時として、操作ハンドル部４６１の回動操作部材４６４に遊技者が詰め物を詰めてある程度回動した位置で固定している場合があるが、遊技場の店員がその詰め物を知らずに扉枠５を開閉する場合がある。このような場合でも、扉枠５を開放する場合には、単にスライド突片４９２が挿入空間７１４から離れるだけであるので問題はないが、扉枠５を閉める場合に、スライド突片４９２の位置が多少一方向にずれた状態となっているものの、スライド突片４９２の傾斜辺４９３とスライド部材７１０の第一傾斜面７１５との協働作用により、扉枠５の閉止動作に伴ってスライド部材７１０を一方向に移動させながら最終的にスライド突片４９２とスライド部材７１０とが係合するようになっている。つまり、本実施形態においては、操作ハンドル部４６１の回動操作部材４６４がどのような回動位置で固定されていても、操作ハンドル装置４６０と打球発射装置６５０との連携を行うことができるものである。

【０２８２】

＜賞球タンク＞

次に、本体枠３の裏面上部に取付けられる賞球タンク７２０について、主として図４２を参照して説明する。図４２は、賞球タンク７２０の斜視図（Ａ）、平面図（Ｂ）、側面図（Ｃ）である。賞球タンク７２０は、前述したように、本体枠３の裏面上部に形成されるタンク取付溝５５０（図２４参照）に着脱自在に取付けられるものである。しかして、賞球タンク７２０は、長方形状の箱状に形成され、パチンコ機１の正面側から見て、その前面壁７２１に切欠部７２９が形成され、その底面が上流側壁７２４から下流側壁７２３に向かって傾斜する第一傾斜底面７２６と前面壁７２１から次に説明する排出口７３０に向かって傾斜する第二傾斜底面７２７とによって貯留部７２８が形成されている。

【０２８３】

また、その第二傾斜底面７２７の傾斜下端に排出口７３０が形成されるが、この排出口７３０は、パチンコ機１の正面側から見て賞球タンク７２０の後面壁７２２よりも外側に突出するように下流側壁７２３と後面壁７２２とをコ字状に連結する排出口突出壁７２５に囲まれるように形成されている。また、賞球タンク７２０の前面壁７２１の両端外側には、前記タンク取付溝５５０と係合する取付鍔部７３３が形成されていると共に、賞球タンク７２０の底面の裏面側に本体枠３の前記第四側面壁５４３に載置当接する載置当接片７３１，７３２が突設され、さらに、賞球タンク７２０の上流側の後面壁７２２の下部に後述する球ならし部材７４４を取付けるための球ならし取付軸７３５が突設されている。また、排出口７３０を除く賞球タンク７２０の後面壁７２２及び上流側壁７２４には、球

の跳ね飛びを防止するための溢れ防止部材７３４が着脱自在に取付けられるようになっている。

【０２８４】

上記のように構成される賞球タンク７２０においては、本体枠３のタンク取付溝５５０に対して取付鍔部７３３を上方から差し込むように取付け、載置当接片７３１，７３２を本体枠３の第四側面壁５４３に当接させる。これによって、賞球タンク７２０が本体枠３の裏面側上部に載置して取付けられるが、この取付けられた状態においては、図２８に示すように、前面壁７２１の切欠部７２９を介して貯留部７２８と本体枠３の裏面に形成された逃げ凹部５５１とが連通し、また、図５に示すように、排出口７３０が次に説明するタンクレール部材７４０の上流端部に臨むようになっている。したがって、賞球タンク７２０において、球を貯留する貯留部７２８（第一傾斜底面７２６及び第二傾斜底面７２７に対応する貯留空間部分）の前後方向の幅は、本体枠３の第二側面壁５４１～第四側面壁５４３までの前後方向の幅とほぼ同じとなるように形成されると共に、それらの側面壁５４１～５４３までの上部に載置されるようになっている。

【０２８５】

また、前述したように、本体枠３の第一側面壁５４０～第四側面壁５４３は、遊技盤４の周辺部の後方突出空間を覆うように深く形成されているので、その側面壁５４１～５４３の上部に載置される賞球タンク７２０の貯留部の深さは、従来の貯留タンクにくらべて浅く形成されているものの、賞球が貯留されて重量が増加しても賞球タンク７２０の全体を本体枠３の側面壁５４２～５４３で支持しているので、傾斜底面７２６，７２７が変形することなく貯留された球をスムーズに排出口７３０に導くことができる。また、排出口７３０が賞球タンク７２０の後面壁７２２から外側に外れた位置に設けられているため、貯留部７２８に貯留された球の流れが第二傾斜底面７２７から外側に向かって流れるように構成されている。このため、従来のように傾斜底面の一部に開口を設けて排出口としていた賞球タンクに比べて、排出口近傍の貯留部に球詰まり解消のための球崩し突部を突出形成することなく球詰まりが発生し難い構造とすることができる。

【０２８６】

そして、本実施形態においては、前述したように、遊技装置の後方突出部を収納する後側面壁５４１～５４３の上部外側に賞球タンク７２０の貯留部が載置された状態で、しかも、賞球タンク７２０の排出口７３０が貯留部の後面壁７２２よりも外側に突出して設けられているため、タンクレール部材７４０が賞球タンク７２０の貯留部の外側（パチンコ機１の正面から見て奥側）に位置して、タンクレール部材７４０と賞球タンク７２０の貯留部７２８とが上下方向に重複しない位置となっているので、遊技盤４の裏面に設けられる遊技装置の後方突出部を収納する後側面壁５４１～５４３の上辺を本体枠３の上辺に近い位置で後方に向って突出させることができ、これにより、遊技装置の後方突出部が遊技盤４の上辺部で突出していても後側面壁５４１～５４３の内部に楽に収納することができる。

【０２８７】

更に、賞球タンク７２０の貯留部７２８が遊技装置の後方突出部を収納する後側面壁５４１～５４３の上部外側に載置されているか否かに関係なく、排出口７３０が賞球タンク７２０の後面壁７２２から外側に外れた位置に設けられているという構成だけで従来の賞球タンクにはない独特の効果を奏するものである。これについて図４３を参考にして説明する。図４３は、従来の賞球タンク（Ａ），（Ｂ）と本実施形態に係る賞球タンク（Ｃ）との排出口部分における球の圧力状態を示す平面図である。図において、通常時、賞球タンク７２０に貯留される球は、賞球タンク７２０の貯留部に貯留されて滞留した状態となっている。この場合、従来の賞球タンクのように貯留部の傾斜底面の一部を開口して排出口７３０Ａを形成している場合、例えば、図４３（Ａ）に示すように、球崩し突部７３６Ａと反対側に排出口７３０Ａが形成された賞球タンクや、図４３（Ｂ）に示すように、球崩し突部７３６Ｂに隣接して排出口７３０Ｂが形成されている場合には、排出口７３０Ａ，７３０Ｂの部分では、貯留された球の圧力とその圧力に基く賞球タンクの側壁からの反

作用により、常に排出口７３０Ａ，７３０Ｂ部分に四方から球圧がかかった状態となっている。

【０２８８】

このため、たまたま球の重合具合によって球同士の圧力が釣り合い、下流側の球が流れ出ても、排出口７３０Ａ，７３０Ｂ部分で球噛み状態が発生し球詰まりが発生することがあった。これに対し、本実施形態に係る賞球タンク７２０では、排出口７３０が賞球タンク７２０の後面壁７２２から外側に外れた位置に設けられているので、図４３（Ｃ）に示すように、排出口７３０部分における貯留された球の圧力は、貯留部から排出口７３０方向に向かう作用力とその反作用だけの二方向からの圧力であり、従来のように四方から圧力を受けるわけではない。このため、下流側の球が流れ出ても、排出口７３０部分における球噛み状態が発生し難く、球詰まりが発生しないという優れた効果を奏することができる。

【０２８９】

＜タンクレール部材＞

上記した賞球タンク７２０の下方に配置されるタンクレール部材７４０について主として図４４乃至図４６を参照して説明する。図４４は、賞球タンク７２０、タンクレール部材７４０、球通路ユニット７７０、賞球ユニット８００、及び満タンユニット９００の関係を示すパチンコ機１の背面側から見た斜視図であり、図４５は、賞球タンク７２０、タンクレール部材７４０、球通路ユニット７７０、賞球ユニット８００、及び満タンユニット９００の関係を示すパチンコ機１の正面側から見た斜視図であり、図４６は、タンクレール部材７４０の下流部と球通路ユニット７７０の上流部との関係を示す断面図（Ａ）と平面図（Ｂ）である。

【０２９０】

タンクレール部材７４０は、前述したように、本体枠３の上後面壁５４５のレール係止溝５５３，５５４（図２４参照）に着脱自在に取付けられるものである。そのため、タンクレール部材７４０には、その後面側の側面の左右辺及び下辺にレール係止溝５５３に上から差し込まれる複数の係止突片７４９が突設されると共に、その後面側側面の上辺中央にレール係止溝５５４に上から掛け止められる鉤状の係止突片７５０が突設されている。しかして、タンクレール部材７４０は、上面が開放した傾斜樋状に形成され、その上流端上面が賞球タンク７２０の排出口７３０に臨み、その下流端下面が後に詳述する球通路ユニット７７０に臨んでいる。また、タンクレール部材７４０の内部は、図５に示すように仕切壁７４１によって球が２列に整列して流下する通路７４２となっている。

【０２９１】

なお、通路７４２の底面は、細溝が切り欠けられており、通路７４２を球と一緒に転動する異物がその細溝から下方に落下するようになっている。また、通路７４２の側壁には、静電気を除去するための金属板（図示しない）が貼付されており、この金属板の下流端が前述したアース線接続具５５７（図２２参照）に接続されている。このため、タンクレール部材７４０を流下する球に帯電していた静電気が金属板からアース線接続具５５７を介して電源基板のアース用コネクタを経て外部にアースされるようになっている。

【０２９２】

また、タンクレール部材７４０の中流域のやや下流側に重錘を有する卵形状の球ならし部材７４４が揺動自在に設けられている。この球ならし部材７４４は、前述した賞球タンク７２０の球ならし取付軸７３５に揺動自在に軸支されるものであり、タンクレール部材７４０の２列のそれぞれの通路７４２内に向かって垂下され、各通路７４２を流下する球が上下方向に複数段で流下してきたときに１段となるように整流するものである。また、球ならし部材７４４の設置位置より下流側のタンクレール部材７４０の上面が球押え板７４５によって被覆されている。この球押え板７４５は、球ならし部材７４４によって１段とならなかった球を強制的に１段とするように傾斜円弧状に形成されるものである。

【０２９３】

更に、タンクレール部材７４０の下流端部には、それぞれの通路７４２に臨んで一対の

整列歯車７４７が軸ピン７４８によって回転自在に軸支されている。この整列歯車７４７は、外周に複数の歯が形成され、一対の整列歯車７４７の歯のピッチが半ピッチずつずれるようにして軸ピン７４８に固定されている。このため、タンクレール部材７４０の各通路７４２を流下してきた球の上部が整列歯車７４７の歯と噛み合いながら下流側に流下するときに２列の通路７４２の球が交互に１つずつ送られることになる。この場合、図４６に示すように、各通路７４２を流れてきた球は、整列歯車７４７と噛み合いながら２列の通路７４２の下部に形成される傾斜面７４３に沿って中央方向に誘導され、その誘導中に次に説明する球通路ユニット７７０の球落下通路７７２の上端入口７７３に２列の通路７４２からの球を交互に一列状にして落下するようになっている。なお、整列歯車７４７は、その上面を円弧状の歯車カバー７４６によって被覆されている。

【０２９４】

＜球通路ユニット＞

上記したタンクレール部材７４０から一列状に落下される球を賞球ユニット８００に導くための球通路ユニット７７０について、主として図４７乃至図５１を参照して説明する。図４７は、本体枠３と球通路ユニット７７０及び賞球ユニット８００との関係を示す分解斜視図であり、図４８は、球通路ユニット７７０及び賞球ユニット８００との関係を示す背面図であり、図４９は、球通路ユニット７７０の背面から見た斜視図であり、図５０は、球通路ユニット７７０の正面図であり、図５１は、球通路ユニット７７０と賞球ユニット８００との連結構造を説明するための側面図である。なお、図４８及び図４９において、賞球ユニット８００部分は、ギヤカバー８６６、アルミ放熱板８４１、ユニットサブ板８２５が削除され、ユニットベース体８０１に形成された球通路部分をわかりやすく描いたものである。ただし、ギヤ等については、球通路との関係を理解し易くするため、一点鎖線で示してある。

【０２９５】

球通路ユニット７７０は、ほぼ長方形状の板材の裏面（背面から見える面を表面という。）に屈曲した一対の屈曲通路壁７７１によって球落下通路７７２が形成されている。この球落下通路７７２は、図４６（Ａ）に示すように、その上流が前後方向（背面から見て奥行方向）に屈曲する前後屈曲通路部７７２ａと、該前後屈曲通路部７７２ａに連通して左右方向（背面から見て左右方向）に屈曲する左右屈曲通路部７７２ｂと、該左右屈曲通路部７７２ｂに連通してほぼ垂直状となっている垂直通路部７７２ｃとからなっている。

【０２９６】

この前後屈曲通路部７７２ａは、図４６（Ａ）に示すように、上述したタンクレール部材７４０から落下する上端入口７７３の位置が前述したように２列の通路７４２のほぼ中央であるため、本体枠３の上後面壁５４５及び軸支側後面壁５４６の表面から背面側に離れた位置となっているので、前後屈曲通路部７７２ａと軸支側後面壁５４６に突設される前記賞球案内突起５６１とによって球落下通路７７２を軸支側後面壁５４６の表面に近い位置とするように前後方向に屈曲するものである。また、左右屈曲通路部７７２ｂは、図５０に示すように、タンクレール部材７４０から前後屈曲通路部７７２ａを落下してきた球の勢いを弱めるために球通路ユニット７７０のほぼ横幅一杯にコ字状に屈曲して形成されるものである。

【０２９７】

更に、垂直通路部７７２ｃもほぼ垂直状に形成されているものの若干緩やかに湾曲して形成され、その垂直通路部７７２ｃを構成する一方の屈曲通路壁７７１に切欠部７７５が形成され、その切欠部７７５に上端が支軸７７７によって軸支される球切れ検出片７７６が揺動自在に取付けられている。この球切れ検出片７７６の側方には、球切れスイッチ７７８が取付けられ、球切れスイッチ７７８のアクチュエータ７７９が球切れ検出片７７６に当接している。球切れ検出片７７６及び球切れスイッチ７７８によって垂直通路部７７２ｃでの球切れを検出する球切れ検出機構が構成されている。

【０２９８】

しかして、垂直通路部７７２ｃに球が存在しているときには、垂直通路部７７２ｃに存

在する球によって球切れ検出片７７６が押圧されてアクチュエータ７７９を押して球切れスイッチ７７８をＯＮとするが、垂直通路部７７２ｃに球詰まりや球欠乏により球が存在しなくなると球切れ検出片７７６が垂直通路部７７２ｃ内に向かって揺動するので、アクチュエータ７７９が球切れスイッチ７７８をＯＦＦとする。球切れスイッチ７７８がＯＦＦになると、後述する賞球ユニット８００の払出モータ８１５の回転が停止して賞球の払出が停止されるようになっている。

【０２９９】

なお、切欠部７７５の下端部には、球切れ検出片７７６の通路部と反対側への過剰な揺動を防止するためにストッパー突起７８０が形成されており、また、球通路ユニット７７０の球切れ検出片７７６に対応する垂直通路部７７２ｃに球詰まり用挿入溝７８１が形成されている。この球詰まり用挿入溝７８１は、球詰まり等で球切れ検出片７７６の揺動動作が行われ難い場合に、球通路ユニット７７０の後面側からピンを差し込んで球切れ検出片７７６部分の球詰まりの解消を図るために設けられるものである。更に、球切れ検出片７７６に対面する他方の屈曲通路壁７７１は、若干球切れ検出片７７６側に向かって膨出状に形成されている。これは、垂直通路部７７２ｃに球が存在しているときに確実に球切れ検出片７７６を押圧して球切れスイッチ７７８をＯＮにするためである。

【０３００】

また、球通路ユニット７７０には、上記した球落下通路７７２を避けた位置に止め穴７８２と位置決めボス７８３とが形成されている。位置決めボス７８３は、本体枠３の軸支側後面壁５４６に形成される位置決めピン５７４に係合されるものであり、止め穴７８２は同じく軸支側後面壁５４６に形成される通路ユニット取付ボス５６２に対応するものである。しかして、球通路ユニット７７０を本体枠３に取付けるには、図４７に示すように、位置決めボス７８３を位置決めピン５７４に係合させながら通路ユニット取付ボス５６２と止め穴７８２とを一致させ、その状態で止め穴７８２からビス７８４を螺着することにより行うことができる。更に、球通路ユニット７７０には、その一側中程にカバー体１２５０の係合片と係合するカバー体係合溝７８５が形成されていると共に、下部に賞球ユニット８００と連結するための連結蓋部材７８６が回動自在に設けられている。

【０３０１】

連結蓋部材７８６は、図４９に示すように、長方形状の板材の裏面に円弧状に突設される一対の通路壁７９０を突設することにより構成されており、球通路ユニット７７０の下部表面の左右両端部に突設される軸支部としての支持突片７８７に、連結蓋部材７８６の両端部から延びる支持片７８８の先端に突設される回転軸部としての突起軸７８９を嵌合することにより回動自在に軸支されるものである。また、連結蓋部材７８６は、閉じることにより球通路ユニット７７０の下方に延長されて通路壁７９０によって形成される通路と球落下通路７７２の下流端部とが連通した状態（図５１（Ｂ）に示す状態）と、開放することにより通路壁７９０によって形成される通路と球落下通路７７２の下流端部とが連通しない状態（図５１（Ａ）に示す状態）と、に回動し得るが、開放した状態から閉じた状態に移行する際に、連結蓋部材７８６の支持片７８８を案内する案内突起７９１が球通路ユニット７７０の後面下端部に突設されている。

【０３０２】

而して、球通路ユニット７７０を本体枠３の軸支側後面壁５４６に固定した状態で、しかも、後述するように賞球ユニット８００を同じく軸支側後面壁５４６に装着した状態（図５１（Ａ）に示す状態）で、連結蓋部材７８６を閉じて賞球ユニット８００に設けられる係止弾性爪８２０によってその後面を係止することにより、球通路ユニット７７０の球落下通路７７２と賞球ユニット８００の屈曲通路８０３とを通路壁７９０にて連通して、球通路ユニット７７０の球落下通路７７２を落下する球を賞球ユニット８００の屈曲通路８０３に導くことができるものである。このように球通路ユニット７７０に回動自在な連結蓋部材７８６を設けた理由は、後述するように賞球ユニット８００を本体枠３に対して着脱自在に装着し易くすることと、その着脱自在に装着したことに起因して球通路ユニット７７０と賞球ユニット８００との間に形成される空間が球のスムーズな落下を阻害しな

いようにするためである。

【０３０３】

また、球通路ユニット７７０に突設される一対の屈曲通路壁７７１の間に本体枠３の軸支側後面壁５４６にその突出高さが下流側に向かって徐々に低くなるように突設される賞球案内突起５６１を挿入することで、球落下通路７７２の上端入口７７３がタンクレール部材７４０の２列の通路７４２のほぼ中央下部に位置するように、球落下通路７７２の上流部を背面からみて前後方向に屈曲する前後屈曲通路部７７２ａとして形成する。これにより、一対の整列歯車７４７によって２列で流下する球を交互に１個ずつ賞球ユニット８００側に送り出す構成において、球落下通路７７２を通して球を１個ずつスムーズに賞球ユニット８００に送り出すことができる。また、この構成によれば、複数の部材の組立体から球落下通路７７２を構成する必要がないため、球落下通路７７２を構成する部品点数を削減することができると共に、球落下通路７７２の組み付け作業性を向上することができる。

【０３０４】

また、タンクレール部材７４０から前後屈曲通路部７７２ａを落下してきた球は、左右屈曲通路部７７２ｂを通過することでその勢いを弱め、その後、垂直通路部７７２ｃを通って賞球ユニット８００に送られる。また、勢いが弱められた状態で球が送り込まれる垂直通路部７７２ｃには、球切れを検出するための球切れ検出機構（球切れ検出片７７６及び球切れスイッチ７７８）が設けられる。これにより、球落下通路７７２での球切れ、言い換えれば賞球ユニット８００に供給する球が切れたこと（球切れ）を確実に検出することができる。

【０３０５】

＜賞球ユニット＞

次に、上記した球通路ユニット７７０の下流側に配置される賞球ユニット８００について、主として図５２乃至図５５を参照して説明する。図５２は、賞球ユニット８００の背面側から見た分解斜視図であり、図５３は、払出モータ８１５と払出部材としてのスプロケット８０７との関係を説明するための背面図であり、図５４は、賞球ユニット８００の通路と駆動関係を説明するための背面図であり、図５５は、図５４のＡ－Ａ断面図である。

【０３０６】

図５２において、賞球ユニット８００は、一対の屈曲通路壁８０２によって球通路を構成する屈曲通路８０３、賞球通路８１０、及び球抜通路８１１が形成されるユニットベース体８０１と、該ユニットベース体８０１の後面を覆うユニットサブ板８２５と、該ユニットサブ板８２５の上部表面（後面側）に取付けられる中継基板８３０と、前記ユニットサブ板８２５のほぼ中央表面領域（後面側領域）に設けられるギヤ群８４３，８４４，８４７及び検出円盤８５０（回転伝達部材）を被覆するギヤカバー８６６とから構成されている。以下、これらの構成を順次説明する。

【０３０７】

ユニットベース体８０１は、ほぼ長方形状の板状（この板部分を「底面」という場合がある。）に形成され、その板状のユニットサブ板８２５側に向かって突設される一対の屈曲通路壁８０２によって屈曲通路８０３が形成されている。屈曲通路壁８０２は、ユニットベース体８０１の上部中央から下流側のほぼ中程まで球の直径よりもやや大きな間隔で突設されるが、その中程から下流側に大きく左右に分かれて中程から下流端までユニットベース体８０１の両端辺の側壁を兼ねている。また、中程の屈曲通路壁８０２が大きく左右に分かれた部分は、球送り回転体としてのスプロケット８０７が配置される振分空間８０５を構成し、その振分空間８０５の下部からユニットベース体８０１の下流端までに左右に分かれた前記屈曲通路壁８０２の対をなすように通路区画壁８０９が突設形成されている。

【０３０８】

つまり、中程から下流側の左右の屈曲通路壁８０２と通路区画壁８０９とによって振分

空間８０５から左右に２つの通路が構成されることなり、一方の通路が賞球通路８１０を構成し、他方の通路が球抜通路８１１を構成している。なお、通路区画壁８０９も左右に大きく分かれており、その分かれた通路区画壁８０９の内側に払出モータ８１５を収納するモータ収納空間８１４が形成されている。即ち、払出モータ８１５は、球通路（屈曲通路８０３、賞球通路８１０、球抜通路８１１）を避けた位置であって当該球通路の奥行き幅寸法内に形成されるモータ収納空間８１４に収納固定される。なお、屈曲通路８０３は、該通路８０３内に停留する球のスプロケット８０７への圧力を弱めるために蛇行状に形成されて振分空間８０５に到達しているが、その振分空間８０５の上流側の底面に楕円形状の開口８０４が形成されている。この開口８０４は、屈曲通路８０３内に入った小さなゴミ等を貯留するもので、賞球ユニット８００を本体枠３から取り外したときに溜まったゴミ等を取り出すことができるようになっている。

【０３０９】

また、上記した振分空間８０５には、外周に球が嵌り合う複数（図示の場合は、３つ）の凹部が形成された払出部材としてのスプロケット８０７が回転自在に配置されるが、このスプロケット８０７が固定される回転軸８０８の他端を軸支する軸受筒８０６が振分空間８０５の底面に形成されている。また、振分空間８０５の底部を構成する通路区画壁８０９の上端部は、スプロケット８０７の回転円弧に沿った凹円弧状に形成され、その一方に形成される賞球通路８１０の上流部には、払出球検出センサ８１２が着脱自在に装着されている。

【０３１０】

この払出球検出センサ８１２は、先端部に球が通過する円形状の通過穴が形成された直方体状の磁気センサからなり、その後端部の形状と合致するスイッチ嵌合凹部８６５を屈曲通路壁８０２で形成することにより、簡単に着脱自在に取付けられるものである。なお、払出球検出センサ８１２からの配線（図示しない）は、後述する中継基板８３０に接続されるようになっている。更に、賞球通路８１０を構成する屈曲通路壁８０２の下流側には、ユニットサブ板８２５と一体的に形成される通路蓋板部８５９に形成される係止部８６０と係合する係止爪８１３が複数形成されている。ただし、複数の係止爪８１３のうち、通路蓋板部８５９の下端の一方の係止部８６０と係合する係止爪８１３は、通路区画壁８０９側に形成されている。

【０３１１】

また、ユニットベース体８０１の下方であって賞球通路８１０と球抜通路８１１との間には、払出モータ８１５を収納する円形状のモータ収納空間８１４が形成されるが、このモータ収納空間８１４の内部に払出モータ８１５の円筒状本体が収納されるようになっている。ただし、払出モータ８１５は、その前面に形成される一対の取付片８１６によってユニットサブ板８２５の下方に取付けられるアルミ放熱板８４１の裏面側にビス８１７で固着されるようになっている。そして、払出モータ８１５がユニットサブ板８２５のアルミ放熱板８４１に取付けられた状態で、払出モータ８１５のモータ軸８１８は、アルミ放熱板８４１に穿設された軸挿通穴８４２を貫通して第一ギヤ８４３が固着されるようになっている。

【０３１２】

また、ユニットサブ板８２５及びアルミ放熱板８４１でユニットベース体８０１の後面側を被覆することにより、上記した屈曲通路８０３、賞球通路８１０、及び球抜通路８１１が形成される奥行幅方向の空間内に払出モータ８１５の円筒状本体部分も収納配置されることになる。そして、払出モータ８１５を収納するモータ収納空間８１４と前述したスプロケット８０７が配置される振分空間８０５とが、上下方向の極めて近い位置関係に形成されているため、ユニットベース体８０１の上下方向の長さを短くすることができ、結果的に賞球ユニット８００のコンパクト化を図ることができる。

【０３１３】

更に、ユニットベース体８０１には、上記した球抜通路８１１の最下端に球抜きされた球を賞球ユニット８００の裏面側に誘導する誘導突片８１９が突設され、この誘導突片８

１９に誘導された球が後述する球抜接続通路８８０に誘導されて最終的にパチンコ機１の外部（島台の下方に設けられる回収樋）に放出されるようになっている。また、ユニットベース体８０１の上部には、前述した球通路ユニット７７０の連結蓋部材７８６を係止する係止弾性爪８２０が突設されると共に、賞球ユニット８００を本体枠３の軸支側後面壁５４６に着脱自在に取付けるためのボタン挿通係合穴８２１及び鉤状係合部８２４と、ユニットベース体８０１とユニットサブ板８２５を挟持した状態でギヤカバー８６６とを連結するための取付ボス８２３が設けられている。

【０３１４】

このボタン挿通係合穴８２１には、ユニットベース体８０１の上部一側に設けられて棒状の着脱ボタン８２２が奥行幅方向に摺動自在に取付けられるものであり、後述するように、その前方先端が本体枠３の軸支側後面壁５４６に形成されるロック用弾性爪５６４に対応している。また、ボタン挿通係合穴８２１の後端面は、図４７に示すように、ロック用弾性爪５６４の先端部が入り込むように凹状となっている。また、鉤状係合部８２４は、本体枠３の軸支側後面壁５４６に形成される係合突片５６５と係合するもので、賞球ユニット８００を軸支側後面壁５４６に押し当てて下方に押下げることにより、鉤状係合部８２４と係合突片５６５とが係合するものである。そして、その係合状態においてロック用弾性爪５６４とボタン挿通係合穴８２１とが係合するので、賞球ユニット８００の上方向の移動ができないようになっている。

【０３１５】

なお、鉤状係合部８２４は、ユニットベース体８０１の上部左右に形成されている。また、ユニットサブ板８２５を挟持した状態でユニットベース体８０１とギヤカバー８６６とを連結するための取付ボス８２３は、後面側に向かって長く突設され、ユニットサブ板８２５に穿設される貫通穴８５８を貫通した後、ギヤカバー８６６の取付穴８６７に対応させ、そのギヤカバー８６６の表面からネジ８６８を螺着することにより、ユニットサブ板８２５を挟持した状態でユニットベース体８０１とギヤカバー８６６とを連結している。

【０３１６】

上記したユニットベース体８０１を被覆するユニットサブ板８２５の構成について説明すると、ユニットサブ板８２５は、ユニットベース体８０１の屈曲通路８０３部分と振分空間８０５部分と賞球通路８１０部分とを覆う合成樹脂製の板材に払出モータ８１５が取付けられると共に球抜通路８１１の下流部分とを覆うアルミ放熱板８４１を取付けることにより構成されている。そして、ユニットサブ板８２５の合成樹脂板部の表側（後面側）には、中継基板８３０を取付けるための中継基板領域８２６が上部に形成され、その下方に複数のギヤ８４３，８４４，８４７や検出円盤８５０が取付けられるギヤ領域８４０が形成されている。

【０３１７】

この中継基板領域８２６は、ほぼ正方形状に形成され、その正方形状に沿って中継基板８３０を載置する載置リブ８２７が突設され、その一側垂直辺の上下に後述する基板カバー８３５の係合突起８３６と係合する係合溝部８２８が形成され、その他側垂直辺の中央に基板カバー８３５の係止突部８３７と係合する係止爪部８２９が形成されている。また、中継基板領域８２６には、着脱ボタン８２２が挿通されるボタン挿通穴８３４と中継基板８３０をビス（図示しない）で止着するための取付ボス部８３２が形成されている。

【０３１８】

上記した中継基板領域８２６に取付けられる中継基板８３０は、賞球ユニット８００に設けられる上述した払出球検出センサ８１２、払出モータ８１５、及び後述するセンサ８５５からの配線と、後述する払出制御基板１１８６（図２５及び図７２参照）からの配線とを中継するもので、そのために複数のコネクタが設けられると共に、着脱ボタン８２２が挿通されるボタン挿通穴８３３と前記取付ボス部８３２に対応する取付穴８３１とが穿設されている。しかして、中継基板８３０を中継基板領域８２６の載置リブ８２７に載置した状態で取付穴８３１と取付ボス部８３２とを合致させて図示しないビスで止着するこ

とにより中継基板８３０をユニットサブ板８２５の表面（後面）に止着することができる。

【０３１９】

また、上記のように取付けられる中継基板８３０は、基板カバー８３５によって被覆される。基板カバー８３５は、ほぼ正方形状の前面側が開放したボックス状に形成され、その一側垂直辺の上下基部に係合突起８３６と他側垂直辺のほぼ中央側面に係止突部８３７が形成されている。また、基板カバー８３５の正方形状の垂直面には、ボタン開口８３８と接続開口部８３９とが形成されている。しかして、基板カバー８３５の係合突起８３６を中継基板領域８２６の係合溝部８２８に差し込んで係合した後、係止突部８３７と係止爪部８２９とを係合させることにより、簡単に基板カバー８３５で中継基板８３０を被覆することができる。逆に、取り外す場合には、係止爪部８２９を弾性変形させて係止突部８３７との係合を解除すると共に基板カバー８３５を斜め手前側に引いて係合突起８３６と係合溝部８２８との係合を解除することができる。なお、基板カバー８３５を被覆した状態では、ボタン挿通係合穴８２１に係合されている着脱ボタン８２２の頭部がボタン挿通穴８３３，８３４を挿通してボタン開口８３８から外部に僅かに臨んでいる。また、中継基板８３０に接続された配線は、接続開口部８３９から外部に引き出されるようになっている。

【０３２０】

次に、ユニットサブ板８２５に形成されるギヤ領域８４０に設けられるギヤ８４３，８４４，８４７、及び検出円盤８５０について説明する。前述したように、払出モータ８１５のモータ軸８１８の先端は、ユニットサブ板８２５のアルミ放熱板８４１に穿設される軸挿通穴８４２を貫通してユニットサブ板８２５の表面（後面側）に突出しており、その突出した部分に第一ギヤ８４３（駆動ギヤ）が固着されている。第一ギヤ８４３の上方には、該第一ギヤ８４３と噛合する第二ギヤ８４４（回転伝達ギヤ）がギヤカバー８６６の裏面（前面側）に一端が圧入され且つアルミ放熱板８４１に穿設される軸穴８４６に他端が支持される軸８４５に回転自在に設けられ、その第二ギヤ８４４の上方には、該第二ギヤ８４４と噛合する第三ギヤ８４７（回転伝達ギヤ）がユニットサブ板８２５に形成される軸穴８４９に圧入された軸８４８に回転自在に設けられている。更に、第三ギヤ８４７の上方には、該第三ギヤ８４７と噛合するギヤ部８５２（従動ギヤ）を有する検出円盤８５０が前記スプロケット８０７を軸支する回転軸８０８に回転自在に設けられている。

【０３２１】

なお、図５５に示すように、モータ軸８１８の先端部がギヤカバー８６６に形成される受穴に遊嵌されている。また、回転軸８０８は、その一端がユニットベース体８０１に形成される軸受筒８０６に圧入されて支持され、その他端がギヤカバー８６６に形成される軸受穴に支持されるものであるが、ギヤ領域８４０の中央よりやや下方に形成された軸貫通穴８６４を貫通して振分空間８０５においてスプロケット８０７を回転自在に軸支し、ユニットサブ板８２５とギヤカバー８６６とによって形成される空間において検出円盤８５０を回転自在に軸支している。ただし、図５５に示すように、スプロケット８０７の後端部が検出円盤８５０の中心前面部と係合した状態となっているので、スプロケット８０７と検出円盤８５０とは、回転軸８０８を中心として一体的に回転するようになっている。したがって、払出モータ８１５が回転駆動すると、その回転が第一ギヤ８４３、第二ギヤ８４４、第三ギヤ８４７、検出円盤８５０のギヤ部８５２を介してスプロケット８０７を回転するように伝達される。

【０３２２】

この検出円盤８５０の外周は、ギヤ部８５２の円よりも一回り大きく形成されており、そのギヤ部８５２よりも外側に突出している外周部分には、スプロケット８０７の凹部と同じ数（図示の場合には、３個）の検出切欠８５１が形成されている。この検出切欠８５１は、ユニットサブ板８２５の表面に形成される基板取付部８５７に挟持支持されるセンサ基板８５４に設けられる投受光方式のセンサ８５５（回転位置検出手段）によって検出されるものである。そして、センサ８５５は、払出動作時において所定のインターバル時

間内に検出切欠８５１の検出個数を検出することにより、スプロケット８０７が正常に回転しているか否かを監視するためのものである。仮に、センサ８５５により、異常回転が検出されたとき（多くは、スプロケット８０７による球噛み状態）には、スプロケット８０７を所定回数正逆回転させて異常状態（例えば、球噛み状態）を解消するものである。なお、実際に払いだされた球の個数は、前述した賞球通路８１０に設けられる払出球検出センサ８１２によって検出して計数のために使用している。なお、図５５に示すように、センサ基板８５４の他端辺もギヤカバー８６６に形成される基板取付部に挟持されるようになっている。

【０３２３】

上述したように、ギヤ領域８４０に設けられる複数のギヤのうち、第二ギヤ８４４だけがギヤカバー８６６側に圧入される回転軸８４５に回転自在に設けられているところ、ギヤ領域８４０を覆うギヤカバー８６６には、前記ユニットベース体８０１に突設されてユニットサブ板８２５の貫通穴８５８を貫通する取付ボス８２３の先端部に対応する位置に穿設される取付穴８６７が形成されている。そして、ギヤカバー８６６側に設けられる第二ギヤ８４４の歯とユニットサブ板８２５側に設けられる第一ギヤ８４３及び第三ギヤ８４７の歯とを噛み合わせながら、取付穴８６７と取付ボス８２３とを一致させた状態でギヤカバー８６６の後面からネジ８６８で螺着することにより、ユニットサブ板８２５を挟持する状態でベースユニット体４５１とギヤカバー８６６とが一体的に固定される。また、ギヤカバー８６６の一側側面には、前記中継基板８３０に接続される配線（例えば、中継基板８３０と後述する払出制御基板１１８６とを接続する配線等）を掛け留めて纏める配線処理片８６９が突設されている。

【０３２４】

以上、賞球ユニット８００の構成について説明してきたが、ユニットベース体８０１とユニットサブ板８２５と中継基板８３０と基板カバー８３５とギヤカバー８６６とを組み付けた状態においては、図５５に示すように、払い出すべき球が導かれる屈曲通路８０３の下方位置に払出モータ８１５の円筒状の本体部分が収納されるように位置する。また、ユニットベース体８０１には、球通路（屈曲通路８０３、賞球通路８１０、球抜通路８１１）内に配置されたスプロケット８０７と、球通路を避けた位置であって球通路の奥行き幅寸法内に形成されるモータ収納空間８１４に収納された払出モータ８１５と、を設け、ユニットサブ板８２５には、その非閉塞面側に沿って払出モータ８１５のモータ軸８１８の回転をスプロケット８０７の回転軸８０８に伝達する回転伝達部材（第一ギヤ８４３、第二，３ギヤ８４４，８４７、及び検出円盤８５０のギヤ部８５２）を設け、しかも、払出モータ８１５と屈曲通路８０３の振分空間８０５に配置される払出部材としてのスプロケット８０７とをユニットサブ板８２５の後面のギヤ領域８４０に設けられる複数のギヤ８４３，８４４，８４７，８５０（８５２）によって回転駆動するように連結した構造となっている。即ち、ユニットベース体８０１とユニットサブ板８２５との間に形成される球通路（屈曲通路８０３、賞球通路８１０、球抜通路８１１）の奥行き幅内にスプロケット８０７と払出モータ８１５とを収納し、しかも、スプロケット８０７と払出モータ８１５とを連結する回転伝達部材（第一ギヤ８４３、第二，３ギヤ８４４，８４７、及び検出円盤８５０のギヤ部８５２）をユニットサブ板８２５の非閉塞面側の所定幅内に沿って設けたので、球通路の外側に払出モータやスプロケットの一部を配置したものに比べて、賞球ユニット８００を薄型化することができる。

【０３２５】

また、このような賞球ユニット８００は、当該賞球ユニット８００内の球通路（屈曲通路８０３、賞球通路８１０、球抜通路８１１）が一条の通路形状で形成されることにより、より一層の薄型化が図られている。即ち、従来のように、払出モータ８１５を賞球ユニットの前面側又は後面側又は側方側に突出させるものと異なり、本体枠３の軸支側後面壁５４６の後面側に取付けたときに、賞球ユニット８００のいずれの部分もさらに後方に向かって突出することがない構造とすることができる。なお、図５５において、払出モータ８１５の前端部分がユニットベース体８０１の後面よりも僅かに突出して構成されている

が、この突出部分は、図２５に示すように、軸支側後面壁５４６の下方の払出モータ用逃げ開口部５７２から本体枠３の前方部分に臨むようになっているため、結果的にその突出寸法から軸支側後面壁５４６の板厚寸法を差し引いた寸法だけ突出する程度となり、軸支側後面壁５４６よりも前方に向かう突出量は僅かなものとなっている。また、このような構成をとることにより、本実施形態では、賞球ユニット８００が取付けられる本体枠３の軸支側後面壁５４６と遊技盤４の裏面との間に、遊技盤４に設けられる遊技装置の後方突出部分を収納する収納空間を奥行き幅方向で大きくとることができる。

【０３２６】

更に、上記のように構成される賞球ユニット８００を本体枠３の軸支側後面壁５４６に取付けるためには、図４７に示すように、鉤状係合部８２４と係合突片５６５とを対応させて位置合わせした後、賞球ユニット８００の下端を係止溝５７３に掛け止め且つ鉤状係合部８２４と係合突片５６５とを係合させるために賞球ユニット８００を軸支側後面壁５４６に密着させたまま下方に押下げる。このとき、賞球ユニット８００の下端部と係止溝５７３とが係合し且つ鉤状係合部８２４と係合突片５６５とが係合しているので、取付自体は完了しているが、賞球ユニット８００を上方に移動させることにより簡単に上記のそれぞれの係合状態が解除されてしまうため、これを防止するために、ロック用弾性爪５６４がボタン挿通係合穴８２１に係合するようになっている。

【０３２７】

つまり、ロック用弾性爪５６４とボタン挿通係合穴８２１とが係合することにより、取付状態で賞球ユニット８００の上方への移動を防止している。このように、賞球ユニット８００を取付けた後に、球通路ユニット７７０の連結蓋部材７８６を前述したように回動して係止弾性爪８２０で係止することにより、球通路ユニット７７０の球落下通路７７２下流端と賞球ユニット８００の屈曲通路８０３の上流端とを一対の通路壁７９０によって構成される通路を介して連通化することができる。また、賞球ユニット８００を取付けた状態では、賞球通路８１０の下流端と後に詳述する満タンユニット９００の賞球入口９２７とが接続され、球抜通路８１１の下流端が球抜接続通路８８０の上流端と接続される。

【０３２８】

一方、賞球ユニット８００を取り外すときは、係止弾性爪８２０による係合を解除して連結蓋部材７８６を手前側に回動し、その後、着脱ボタン８２２を押圧してロック用弾性爪５６４を前面側に移動させてロック用弾性爪５６４とボタン挿通係合穴８２１との係合を解除させ、その後着脱ボタン８２２を押圧したままの状態で賞球ユニット８００を上方に引き上げて賞球ユニット８００の下端部と係止溝５７３との係合及び鉤状係合部８２４と係合突片５６５との係合を解除して賞球ユニット８００を手前側に引き出すことにより、賞球ユニット８００を簡単に取り外すことができる。

【０３２９】

＜満タンユニット＞

上記した賞球ユニット８００の下流側に配置される満タンユニット９００について、主として図５６乃至図６２を参照して説明する。図５６は、賞球ユニット８００と満タンユニット９００との関係を示す斜視図であり、図５７は、満タンユニット９００の斜視図であり、図５８は、満タンユニット９００の正面から見た分解斜視図であり、図５９は、満タンユニット９００の背面から見た分解斜視図であり、図６０は、満タンユニット９００とファール口６１０との関係を示す一部破断斜視図であり、図６１は、満タンユニット９００に設けられる底面揺動板９０７部分で切断した横断面図であり、図６２は、満タンユニット９００とファール口６１０との関係を示す断面図である。

【０３３０】

満タンユニット９００は、前述したように本体枠３の満タンユニット載置部５３１に載置固定されるものであり、図５８に示すように、上面が開放したボックス状に形成されるボックス主体９０１と、該ボックス主体９０１の上面を覆う蓋体９２６とから構成されている。ボックス主体９０１は、賞球通路８１０の下流端から流入した球が内部をジグザグ状に誘導されて出口９２１から排出されるようになっている。このため、その上流部に蓋

体９２６に形成される賞球入口９２７から流入した球を一端から他端に向かって側方に誘導する側方誘導通路９０２が形成されている。側方誘導通路９０２の賞球入口９２７の直下の一端部には、球を側方に向かって誘導するように凹円弧状に形成される側方誘導受部９０３が設けられ、側方誘導通路９０２の他端内面に側方誘導通路９０２を流れてきた球の衝撃を受け止めて該球を下流側に誘導する緩衝部材９０４が設けられている。

【０３３１】

また、側方誘導通路９０２の他端内面に設けられる緩衝部材９０４に衝突した球は、向きを下流側に変えた後、側方誘導通路９０２の球の流れと逆方向に流れるように誘導される逆側方誘導通路９０５が形成されている。逆側方誘導通路９０５を流れた球は、その後、前方に向かって形成される前方誘導通路９２０に導かれて該前方誘導通路９２０の流下端に形成される出口９２１から前述した皿ユニット３００の賞球連絡樋４５１に導かれる。

【０３３２】

ところで、前記逆側方誘導通路９０５の上流側の底面には、その底面の全域に亘って開口する底面開口９０６が形成され、その底面開口９０６を底面揺動板９０７が揺動自在に閉塞している。底面開口９０６は、上面が開放されたほぼ正方形の凹状に形成され、その内部の正面から見て前後方向の側壁に一対の軸支突起９１１が突設されている。また、底面開口９０６の凹状の底面にバネ９１３の下端を位置決めするための円形状のバネ載置凹部９１２が形成されている。一方、底面開口９０６を閉塞する底面揺動板９０７は、ほぼ正方形状に形成され、その裏面下流側に正面から見て前記軸支突起９１１に嵌合することにより軸支される半円形状の軸受部９０８が突設形成されている。

【０３３３】

また、底面揺動板９０７の裏面中央には、図６１に示すように、バネ９１３の上端が係止されるバネ係止突起９１０が下方に向かって突設されている。したがって、底面揺動板９０７は、バネ９１３の付勢力によりその上流側が常に上方へ揺動された方向に付勢されている。そして、バネ９１３は、通常の賞球の払出個数（例えば、１５個）が一度に底面揺動板９０７上に載置したときでも底面揺動板９０７が下方に揺動せず、賞球の払出個数以上の所定個数の球が底面揺動板９０７上に載置したときに下方に揺動するようなバネ係数を有するバネ部材によって形成されている。更に、底面揺動板９０７の上流側に検出突片９０９が前方に向かって突出されている。この検出突片９０９は、底面揺動板９０７の軸受部９０８を軸支突起９１１に嵌合軸支したときに、連通孔９２９を貫通して次に説明するスイッチ収納空間９１４に位置するようになっている。

【０３３４】

また、逆側方誘導通路９０５の上流端部の側壁の外側には、満タンスイッチ９１６を収納するためのスイッチ収納空間９１４が一体的に形成されている。スイッチ収納空間９１４に満タンスイッチ９１６を取付けるために、スイッチ収納空間９１４の上部であって逆側方誘導通路９０５の上流端部の側壁の外側面にスイッチ取付部９１８が形成され、そのスイッチ取付部９１８に満タンスイッチ９１６を保持するスイッチホルダ９１５の取付片９１７がネジ９１９によって止着されている。満タンスイッチ９１６は、投光器と受光器とからなるスイッチとして構成され、その受光器と投光器との間を検出突片９０９が上下に揺動することによりＯＮ・ＯＦＦを検出するものである。

【０３３５】

更に、逆側方誘導通路９０５の下流側の一側方にファール球通路９２２が形成されている。ファール球通路９２２は、その上流側のファール球入口９２３が図６０に示すように、前述したファール口６１０に連通し、その下流側が前方誘導通路９２０の上流側に連通するように屈曲して形成されている。このため、ファール口６１０に取り入れられたファール球は、ファール球入口９２３から屈曲したファール球通路９２２を通って前方誘導通路９２０に導かれ、さらに出口９２１及び賞球連絡樋４５１を通って皿ユニット３００に戻される。

【０３３６】

また、ボックス主体９０１には、前記出口９２１の両側方と前記ファール球入口９２３の一側方に前記満タンユニット載置部５３１に形成されるユニット係合溝５３２に係合される係合片９２４が突設されると共に、蓋体９２６に形成される掛止片９２８と係合する掛止突起９２５が形成されている。この掛止突起９２５は、ボックス主体９０１の左右後方の側壁上部に適宜形成されている。

【０３３７】

一方、蓋体９２６は、ボックス主体９０１の側方誘導通路９０２、逆側方誘導通路９０５、前方誘導通路９２０、及びファール球通路９２２の上面を覆うような板形状に形成され、前記側方誘導通路９０２に上流端に対応する位置に正方形状の賞球入口９２７が開口されている。また、蓋体９２６の周囲には、ボックス主体９０１の前記掛止突起９２５と係合するための掛止片９２８が下方に向かって突設されている。

【０３３８】

上記のように構成される満タンユニット９００においては、図５６に示すように、賞球ユニット８００の賞球通路８１０から払出された球が賞球入口９２７から側方誘導通路９０２の上流側に入って側方誘導受部９０３によって側方に向かって誘導されて緩衝部材９０４に衝突する。緩衝部材９０４に衝突した球は、そのまま下流側に向かって逆側方誘導通路９０５を前記側方誘導通路９０２の誘導方向と逆方向に誘導されて前方誘導通路９２０に導かれ、前方誘導通路９２０の出口９２１から賞球連絡樋４５１を通って皿ユニット３００に導かれる。また、ファール球入口９２３から入ったファール球も屈曲したファール球通路９２２によって球の勢いを弱められて前方誘導通路９２０に合流し、前方誘導通路９２０の出口９２１から賞球連絡樋４５１を通って皿ユニット３００に導かれる。

【０３３９】

そして、通常時、満タンユニット９００内を球が自然に流れているときには、側方誘導通路９０２から逆側方誘導通路９０５に球が移動する際に、底面揺動板９０７に落下するが、通常の賞球の払出個数程度では、バネ９１３の弾発力が強いので、底面揺動板９０７が揺動することがなく、図６１の実線で示すように、検出突片９０９が投受光方式の満タンスイッチ９１６の投光器と受光器との間に入ってスイッチが導通しない状態（ＯＦＦ）となっている。これに対し、皿ユニット３００に賞球が貯留されて満タンユニット９００内にも球が充満してきたときには、前方誘導通路９２０及び逆側方誘導通路９０５の上流側の全域に形成される底面揺動板９０７上に貯留された球の圧力により底面揺動板９０７がバネ９１３の付勢力に抗して下方に揺動し、図６１の二点鎖線で示すように、検出突片９０９が投受光方式の満タンスイッチ９１６の投光器と受光器との間から外れてスイッチが導通した状態（ＯＮ）となる。満タンスイッチ９１６がＯＮすると、賞球ユニット８００の払出モータ８１５の回転駆動が停止（所定個数の賞球を払出している最中にＯＮ信号が導出された場合には、その所定個数の賞球が払出されてから停止）するようになっている。

【０３４０】

上記したように、満タンユニット９００においては、球が流下する通路（図示の場合には、逆側方誘導通路９０５）の通路底面の幅とほぼ同じ幅の底面揺動板９０７によって満タンスイッチ９１６を作動させるようにすると共に、通常時の球の流れによって揺動せずある程度の球が載置したときに底面揺動板９０７揺動するように付勢部材（バネ９１３）で付勢したので、従来のように一部の通路の底面等に球が載置したことにより球詰まりを検出するものに比べて、その一部の通路部分における球の載置が球詰まりによって検出されない事態を確実に防止することができる。このことは、球の満タンを確実に検出することができるものである。

【０３４１】

また、本実施形態に係る満タンユニット９００においては、本体枠３の満タンユニット載置部５３１に着脱自在に取付けるものであるため、従来のように、満タン装置を本体枠に形成された払出通路の内部に組み付けるものに比べて、本体枠に満タン構造のための通路を形成する必要がない。また、満タンユニット９００の内部をジグザグ状の通路とする

ことにより、賞球ユニット８００の賞球通路８１０から払出された球の勢いを弱めながら皿ユニット３００に誘導することができるので、払い出された賞球が皿ユニット３００から外に飛び出すこともない。更に、本実施形態に係る満タンユニット９００は、ファール球を導くファール球通路９２２が賞球を払い出す前方誘導通路９２０の途中に球の勢いを弱めて合流するようになっているので、賞球の流れを阻害することなくファール球を合流させることができる。

【０３４２】

＜錠装置＞

次に、本体枠３の開放側の裏側端辺に沿って垂直方向に取付けられる錠装置１０００について主として図６３乃至図７１を参照して説明する。図６３は、錠装置１０００と本体枠３との関係を示す背面斜視図であり、図６４は、錠装置１０００の本体枠３への掛け止め構造を示す拡大側方断面図であり、図６５は、パチンコ機１の縦方向中央よりやや下方の位置で水平方向に切断した一部断面図であり、図６６は、錠装置１０００と本体枠３の側壁５４０，５４１との詳細な関係を示す拡大断面図であり、図６７は、錠装置１０００の側面図（Ａ）、前面側から見た斜視図（Ｂ）であり、図６８は、錠装置１０００の背面側から見た斜視図（Ａ）、錠装置１０００のコ字状基体１００１の内部に摺動自在に設けられる扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０の斜視図（Ｂ），（Ｃ）であり、図６９は、錠装置１０００の分解斜視図であり、図７０は、扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０の作用を説明するための正面図であり、図７１は、不正防止部材１０２３，１０３２の作用を説明するための正面図である。

【０３４３】

錠装置１０００は、本体枠３の開放側の第一側面壁５４０に沿って本体枠３のほぼ上端から下端にかけて取付けられるものであり、図６３に示すように、本体枠３の外周側辺と第一側面壁５４０の立ち上がり部との間の上下端近い部分及び中程に形成される複数（図示の場合、３個）の錠係止穴５４８と、第一側面壁５４０の垂直面の上部と中程に切り欠けられて形成される錠取付穴５４７とシリンダ錠貫通穴５２６の上部近傍に形成される錠取付穴５４７と、によって次に説明する錠装置１０００のコ字状基体１００１が支持固定されるものである。そこで、以下、錠装置１０００の構造について詳細に説明する。

【０３４４】

図６７乃至図６９に示すように、錠装置１０００は、断面コ字状に形成される錠基体としてのコ字状基体１００１と、該コ字状基体１００１内に摺動自在に設けられる扉枠用摺動杆１０４０と、前記コ字状基体１００１内に摺動自在に設けられる本体枠用摺動杆１０５０と、該本体枠用摺動杆１０５０の摺動を不正に行うことができないようにコ字状基体１００１の下部に取付けられる不正防止部材１０２３，１０３２と、からなる。

【０３４５】

コ字状基体１００１は、金属を断面コ字状となるように折り曲げ、その内部に扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０とを摺動可能に設けるものであるが、その横幅寸法は従来の断面Ｌ字状に成形された基体に集約される錠装置に比べて極めて薄いものとなっている。これは、前述したように遊技盤４の左右方向及び上下方向の大きさを極めて大きくすると共に、本体枠３の側面壁５４０～５４３で囲まれる空間を大きくしたため、側面壁５４０と本体枠３の外周辺との間の寸法が極めて小さくなっていることにより、本実施形態に係る錠装置１０００の横幅寸法を小さく形成して錠装置１０００を本体枠３の裏側に取付けることができるような取付構造として改良したためである。そして、コ字状基体１００１の断面コ字状の開放側が本体枠３の裏面に対面するように取付けられるため、錠装置１０００が本体枠３に取付けられた状態では、内部に設けられる扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０とが、それぞれのフック部１０４１、１０５４，１０６５を除いてコ字状基体１００１に完全に被覆された状態の不正防止構造となっている。

【０３４６】

まず、コ字状基体１００１の開放側と反対の閉塞側上下に本体枠用摺動杆１０５０のフック部１０５４，１０６５が貫通される長方形状のフック貫通開口１００２が開設される

と共に、閉塞側であって第一側面壁５４０と密着する側面１００１ｂ（図６９参照）上部と中程に水平方向にビス止め部１００３が突設され、更に、開放側の第一側面壁５４０と密着しない側面１００１ａ（図６９参照）の上端部及び中間部と、開放側の両側面１００１ａ，１００１ｂの下端部に係止突起１００４が突設形成されている。

【０３４７】

このビス止め部１００３と係止突起１００４は、錠装置１０００を本体枠３の裏面に取付けるためのものであり、係止突起１００４を本体枠３の錠係止穴５４８に差し込んで上方に移動させ（図６４参照）、その状態でビス止め部１００３と錠取付穴５４７とが一致するため、その一致した穴に図示しないビスを螺着することにより、錠装置１０００を本体枠３に強固に固定することができる。なお、錠装置１０００のビスによる取付けは、上部と中程のビス止め部１００３だけではなく、後述する錠取付片１００８に形成されるビス止め部１００３と前記シリンダ錠貫通穴５２６の上方近傍に形成される錠取付穴５４７とを対応させて図示しないビスで止着することにより、錠装置１０００の下方も取付けられるようになっている。

【０３４８】

また、その取付けに際し、コ字状基体１００１の開放側（前方部）の上中下の３箇所に形成される係止突起１００４を錠係止穴５４８に差し込んで位置決め係止し、コ字状基体１００１の閉塞側（後方部）の上中の２箇所に形成されたビス止め部１００３及びコ字状基体１００１の開放側（前方部）に形成されたビス止め部１００３を錠取付穴５４７にビスで固定する構造であるため、錠装置１０００の前方部を係止突起１００４と錠係止穴５４８で係止し、錠装置１０００の後方部をビス止め部１００３と錠取付穴５４７で固定し且つ錠装置１０００の下方部をビス止め部１００３と錠取付穴５４７で固定するので、極めて簡単な構造で錠装置１０００を本体枠３に強固に固定することができるものである。

【０３４９】

換言すると、錠装置１０００を極めて横幅寸法の薄いコ字状基体１００１に集約して構成した場合でも、錠装置１０００の前方部と後方部との係止及び固定により、錠装置１０００を本体枠３に強固に固定することができるものである。特に、本実施形態の場合には、前方部の係止構造（固定構造でもよい）を構成する係止突起１００４がコ字状基体１００１の第一側面壁５４０と密着しない側面１００１ａに突設形成される一方、後方部の固定構造を構成するビス止め部１００３及びビス止め部１００３がコ字状基体１００１の第一側面壁５４０と密着する側面１００１ｂから水平方向に突設形成される構造であるため、前方部の係止構造が第一側面壁５４０と密着する側面１００１ｂに形成される場合に比べて、ガタ付きが生じないように錠装置１０００を本体枠３に固定することができるものである。

【０３５０】

また、コ字状基体１００１の両側面１００１ａ，１００１ｂの上部、中程、下部に挿通穴１００５が形成され、コ字状基体１００１に扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０を収納した状態で挿通穴１００５にリベット１００６を差込んでかしめることにより、コ字状基体１００１の内部に扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０を摺動自在に取付けることができる。即ち、扉枠用摺動杆１０４０の上中下の３箇所に形成されるリベット用長穴１０４２と本体枠用摺動杆１０５０の上フック部材１０５１及び下フック部材１０５２にそれぞれ１つずつ形成されるリベット用長穴１０５５，１０６１にリベット１００６を貫通させることにより、扉枠用摺動杆１０４０が上方に移動できるようにし、本体枠用摺動杆１０５０が下方に移動できるようになっている。したがって、図６８（Ｂ）に示すように本体枠用摺動杆１０５０のリベット用長穴１０５５，１０６１の下端部にリベット１００６が貫通しており、図６８（Ｃ）に示すように扉枠用摺動杆１０４０のリベット用長穴１０４２の上端部にリベット１００６が貫通している。

【０３５１】

更に、コ字状基体１００１の下方部には、その閉塞側面に不正防止切欠部１００７が形成されると共に、その開放側の本体枠３の第一側面壁５４０と密着する側面１００１ｂの

前端部にシリンダ錠１０１０を取付けるための錠取付片１００８が側方に向かって突設され、更に、第一側面壁５４０と密着する側面１００１ｂに挿入縦開口１０２０、バネ係止片１０２１、及び逃げ横穴１０２２がそれぞれ形成されている。不正防止切欠部１００７は、後に説明する第一不正防止部材１０２３のストッパー片部１０２７が進退するようになっている。この点については、後に詳述する。また、錠取付片１００８は、錠装置１０００を本体枠３の裏面に取付けた状態で、遊技盤設置凹部５１０の下端辺よりも下方の位置となるようにコ字状基体１００１の側面１００１ｂの前端部から側方に向かって突設されるが、この錠取付片１００８には、シリンダ錠１０１０が貫通する錠挿通穴１００９が形成されると共にシリンダ錠１０１０の錠取付基板１０１１に形成される取付穴１０１３をビス１０１２で取付けるための取付穴１０１４が上下２箇所に穿設され、更に、錠装置１０００の下部を本体枠３の裏面に取付けるためのビス止め部１００３が穿設されている。

【０３５２】

また、挿入縦開口１０２０は、シリンダ錠１０１０に固定される係合カム１０１６の第一係合突片１０１７及び第二係合突片１０１８がシリンダ錠１０１０の回動時に侵入するための開口であり、バネ係止片１０２１は、不正防止部材１０２３，１０３２に設けられるバネ１０３５が係止されるものであり、逃げ横穴１０２２は、連結ピン１０３４の移動の邪魔をしないように逃げ穴を構成するものである。この点については後に詳述する。

【０３５３】

上記した錠取付片１００８に取付けられるシリンダ錠１０１０について説明すると、シリンダ錠１０１０は、錠取付基板１０１１の前方に円筒状のシリンダ錠本体が固定され、そのシリンダ錠本体の錠軸１０１５が錠取付基板１０１１より後面に出ており、その錠軸１０１５の後端に係合カム１０１６がビス１０１９によって固定されている。係合カム１０１６は、ブーメラン形状に形成され、その一端辺が回動時に本体枠用摺動杆１０５０の下降係合穴１０６２に係合する第一係合突片１０１７となっており、その他端辺が回動時に扉枠用摺動杆１０４０の上昇係合穴１０４５に係合する第二係合突片１０１８となっている。そして、上記のように構成されるシリンダ錠１０１０は、円筒状のシリンダ錠本体部分を錠挿通穴１００９に挿通して錠取付基板１０１１の上下２箇所に形成される取付穴１０１３と錠取付片１００８の取付穴１０１４とを一致させてビス１０１２で螺着することにより、シリンダ錠１０１０をコ字状基体１００１に固定することができる。

【０３５４】

次に、コ字状基体１００１に取付けられる不正防止部材１０２３，１０３２，について図６９を参照して説明する。不正防止部材１０２３，１０３２は、シリンダ錠１０１０を正式な鍵で回動せずに、例えばピアノ線や針金等で不正に本体枠用摺動杆１０５０を下降させることを防止するためのものである。しかして、不正防止部材１０２３，１０３２は、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とを連結ピン１０３４で連結した構造となっている。第一不正防止部材１０２３は、上端の揺動軸穴１０２５を中心にして揺動自在に構成される縦長の板状に形成され、その揺動軸穴１０２５を前述したコ字状基体１００１の内部に扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０を摺動自在に取付けるための挿通穴１００５及びリベット１００６のうち、最下方の挿通穴１００５及びリベット１００６によって取付けられる。

【０３５５】

また、第一不正防止部材１０２３には、その板状面に前記挿入縦開口１０２０と重複する縦長な突片挿入穴１０２６が開設され、この突片挿入穴１０２６に第二係合突片１０１８が挿入し得るようになっている。つまり、突片挿入穴１０２６と挿入縦開口１０２０を第二係合突片１０１８が貫通することにより、コ字状基体１００１の内部に設けられる扉枠用摺動杆１０４０の上昇係合穴１０４５と第二係合突片１０１８とが係合するようになっている。また、第一不正防止部材１０２３の突片挿入穴１０２６の開設位置の斜め上方の外形線が傾斜部１０２４となっている。この傾斜部１０２４は、係合カム１０１６の回動時に第一係合突片１０１７の後面側と当接するもので、係合カム１０１６の回動時に第

一係合突片１０１７と傾斜部１０２４とが当接することにより第一不正防止部材１０２３が揺動軸穴１０２５を中心として揺動（図７１（Ｂ）において時計回転方向）するようになっている。

【０３５６】

更に、第一不正防止部材１０２３には、前記突片挿入穴１０２６の斜め下方の外形線上にストッパー片部１０２７が突設され、そのストッパー片部１０２７の下方に規制突片１０３１が突設され、該規制突片１０３１の前方部にピン穴１０２９と連結穴１０３０とが上下に形成されている。ストッパー片部１０２７は、本体枠用摺動杆１０５０の施錠時に前記不正防止切欠部１００７及び本体枠用摺動杆１０５０の係合切欠部１０６６に侵入係合して本体枠用摺動杆１０５０が不正に摺動しないようにするものである。また、規制突片１０３１は、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とはバネ１０３５によって連結されるが、そのバネ１０３５で連結されたときに第二不正防止部材１０３２の付勢方向への移動を規制するものである。ピン穴１０２９は、ガイドピン１０２８が固定されるものであり、ガイドピン１０２８が第一不正防止部材１０２３の裏面側からピン穴１０２９に固定された状態で、そのガイドピン１０２８を前記挿入縦開口１０２０の最下端部に形成される横長状開口部に係合させることにより、第一不正防止部材１０２３をコ字状基体１００１の側面１００１ｂに沿って案内するものである。更に、連結穴１０３０は、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とを連結ピン１０３４で連結するためのものである。

【０３５７】

上記した第一不正防止部材１０２３に連結される第二不正防止部材１０３２は、逆「て」字状の板材で形成され、その上部一端に連結穴１０３３が形成され、その上部他端にバネ係止穴１０３６が穿設され、下方端部に当接部１０３７が設けられている。連結穴１０３３は、第一不正防止部材１０２３の連結穴１０３０と一致させて連結ピン１０３４で連結するためのものであり、バネ係止穴１０３６は、一端がコ字状基体１００１のバネ係止片１０２１に係止されるバネ１０３５の他端を係止するものである。また、当接部１０３７は、本体枠３の閉鎖時に外枠２の内側下部に固定される閉鎖用突起４１と当接するものである。なお、上記した第一不正防止部材１０２３及び第二不正防止部材１０３２の作用については、後に詳述する。

【０３５８】

次に、コ字状基体１００１の内部に摺動自在に設けられる扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０について説明する。まず、扉枠用摺動杆１０４０は、縦長の金属製の板状部材から構成され、その一側縦辺の上中下の３箇所に扉枠用フック部１０４１が前方に向かって一体的に突設されている。この扉枠用フック部１０４１は、コ字状基体１００１内に収納したときに、その開放側から前方に突出しているもので、錠装置１０００を本体枠３の裏面に固定したときに、本体枠３に形成される扉用フック穴５４９（図２１及び図２２参照）から前方に突出し、扉枠５の裏面に形成されるフックカバー２２７（図１５参照）に係止するものである。なお、扉枠用フック部１０４１は、下向きの係合爪形状となっているため、扉枠用摺動杆１０４０を上昇させることにより扉枠用フック部１０４１とフックカバー２２７との係止状態を解除することができる。

【０３５９】

また、扉枠用摺動杆１０４０の上中下の側面中央に、前記リベット１００６が挿通される縦長のリベット用長穴１０４２が形成され、該リベット用長穴１０４２のうちの最上部のリベット用長穴１０４２の下方及び扉枠用摺動杆１０４０の最下端にガイド突起１０４３が突設されている。リベット用長穴１０４２は、コ字状基体１００１の挿通穴１００５に挿通されるリベット１００６が貫通されるものであり、しかも、このリベット１００６が扉枠用摺動杆１０４０の上昇動作を邪魔しないように縦長に形成されている。そして、通常状態においては、リベット用長穴１０４２の上端部にリベット１００６が貫通当接した状態となっている。また、ガイド突起１０４３は、本体枠用摺動杆１０５０の上フック部材１０５１及び下フック部材１０５２に形成される突片移動穴１０５６，１０６４に挿

通されるものであり、扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０との相互の摺動動作を案内するようになっている。

【０３６０】

また、扉枠用摺動杆１０４０の上端部にスプリングフック部１０４６が形成され、このスプリングフック部１０４６にスプリング１０４８の一端が係止され、そのスプリング１０４８の他端が本体枠用摺動杆１０５０の上フック部材１０５１に形成されるスプリングフック部１０５７に係止される。これにより、扉枠用摺動杆１０４０が下方向に、本体枠用摺動杆１０５０が上方向に、それぞれ相互に付勢されている。扉枠用摺動杆１０４０の中程には、当接弾性片１０４７が凸状に形成されている。この当接弾性片１０４７は、扉枠用摺動杆１０４０の一側側面からプレスで打ち出して凸状に形成したものであり、コ字状基体１００１の内側面に当接して内部で扉枠用摺動杆１０４０がガタつかないようにするものである。

【０３６１】

更に、扉枠用摺動杆１０４０の下方部分の側面には、共に縦長な遊び穴１０４４と上昇係合穴１０４５とが形成されている。遊び穴１０４４は、係合カム１０１６の第一係合突片１０１７が差し込まれて回動するときに、その回動動作の邪魔にならないように第一係合突片１０１７の先端部が移動しえる空間を構成するものである。また、上昇係合穴１０４５は、係合カム１０１６の第二係合突片１０１８が差し込まれて回動するときに、その回動動作によって扉枠用摺動杆１０４０が上昇するように係合するためのものである。なお、扉枠用摺動杆１０４０の縦辺下部後方には、前記不正防止切欠部１００７よりも上下方向に大きな切欠である逃げ切欠部１０４９が形成されている。この逃げ切欠部１０４９は、第一不正防止部材１０２３のストッパー片部１０２７を確実に不正防止切欠部１００７及び係合切欠部１０６６に係合させるために邪魔しないように形成されるものである。

【０３６２】

一方、本体枠用摺動杆１０５０は、金属板製の上フック部材１０５１と、金属板製の下フック部材１０５２と、上フック部材１０５１と下フック部材１０５２とを連結する連結線杆１０５２と、から構成されている。つまり、本体枠用摺動杆１０５０は、従来のように１つの金属製の縦長板で構成されているわけではなく、フック部１０５４，１０６５を有する上フック部材１０５１と下フック部材１０５２とを金属製の板材をプレスで形成し、その金属製の上フック部材１０５１と下フック部材１０５２とを細い金属製の連結線杆１０５３で連結したものである。このため、狭いコ字状基体１００１の空間に扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０とを効率よく収納することができる。

【０３６３】

ところで、上フック部材１０５１には、その上端部に後方に向かってフック部１０５４が突設され、その板面部にリベット用長穴１０５５と突片移動穴１０５６とが形成され、また、その前方の縦辺下端部にスプリングフック部１０５７と連結穴１０５８とが形成され、さらに、その上辺及び下辺に当接部１０５９が形成されている。フック部１０５４は、コ字状基体１００１の上方のフック貫通開口１００２を貫通して外枠２の開放側内側の上部に設けられる閉鎖用突起３８に係合するもので上向きに係止爪部が形成されている。

【０３６４】

このリベット用長穴１０５５は、扉枠用摺動杆１０４０の上部に形成されるリベット用長穴１０４２に対応するものであり、このリベット用長穴１０５５にリベット１００６が貫通された通常の状態では、リベット１００６がリベット用長穴１０５５の最下端部を貫通した状態となっている。これにより、上フック部材１０５１が下方に向かって移動することができるようになっている。突片移動穴１０５６は、前述したように扉枠用摺動杆１０４０の上方のガイド突片１０４３が挿入されて、扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０との相互の移動を案内するようになっている。スプリングフック部１０５７は、前述したようにスプリング１０４８の他端が係止されるものである。また、連結穴１０５８は、連結線杆１０５３の上端が折り曲げられて挿入されるものである。更に、当接部１０５９は、コ字状基体１００１に収納されたときに、該コ字状基体１００１の内部側壁

に当接して上フック部材１０５１の摺動動作においてガタつきがなくスムーズに行われるようにするためのものである。

【０３６５】

一方、下フック部材１０５２には、その下端部に後方に向かってフック部１０６５が突設され、その板面部の上方から下方にかけてリベット用長穴１０６１と下降係合穴１０６２と遊び穴１０６３と突片移動穴１０６４とが順次形成され、また、その前方の縦辺上端部に連結穴１０６０が、その後方の縦辺下部に係合切欠部１０６６がそれぞれ形成され、さらに、その上辺及び下辺に当接部１０６７が形成されている。フック部１０６５は、コ字状基体１００１の下方のフック貫通開口１００２を貫通して外枠２の開放側内側の下部に設けられる閉鎖用突起４１に係合するもので上向きに係止爪部が形成されている。リベット用長穴１０６１は、扉枠用摺動杆１０４０の下部に形成されるリベット用長穴１０４２に対応するものであり、このリベット用長穴１０６１にリベット１００６が貫通された通常の状態では、リベット１００６がリベット用長穴１０６１の最下端部を貫通した状態となっている。

【０３６６】

これにより、下フック部材１０５２が下方に向かって移動することができるようになっている。下降係合穴１０６２は、係合カム１０１６の第一係合突片１０１７が差し込まれて回動するときに、その回動動作によって本体枠用摺動杆１０５０が下降するように係合するためのものである。また、遊び穴１０６３は、係合カム１０１６の第二係合突片１０１８が差し込まれて回動するときに、その回動動作の邪魔にならないように第二係合突片１０１８の先端部が移動し得る空間を構成するものである。突片移動穴１０６４は、前述したように扉枠用摺動杆１０４０の下方のガイド突片１０４３が挿入されて、扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０との相互の移動を案内するようになっている。また、連結穴１０６０は、連結線杆１０５３の下端が折り曲げられて挿入されるものである。更に当接部１０６７は、コ字状基体１００１に収納されたときに、該コ字状基体１００１の内部側壁に当接して下フック部材１０５２の摺動動作においてガタつきがなくスムーズに行われるようにするためのものである。

【０３６７】

以上、錠装置１０００を構成する各部材について説明してきたが、この錠装置１０００を組み付けるには、本体枠用摺動杆１０５０の上フック部材１０５１と下フック部材１０５２とを連結線杆１０５３で連結し、その状態で扉枠用摺動杆１０４０のガイド突片１０４３を上フック部材１０５１と下フック部材１０５２の突片移動穴１０５６，１０６４に挿入すると共に、相互のリベット長穴１０４２とリベット用長穴１０５５，１０６１を位置合わせして重ね合わせ、その重ね合わせた状態で上フック部材１０５１のフック部１０５４と下フック部材１０５２のフック部１０６５とをコ字状基体１００１のフック貫通開口１００２に貫通させながら扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０をコ字状基体１００１のコ字状の空間に挿入する。その後、挿通穴１００５からリベット１００６を差し込む。

【０３６８】

この際、リベット１００６がリベット用長穴１０５５，１０６１、１０４２を貫通するように差し込む。ただし、最下端のリベット１００６を差し込むときには、第一不正防止部材１０２３の揺動軸穴１０２５にもリベット１００６を差し込んで第一不正防止部材１０２３をコ字状基体１００１に同時に取付ける必要がある。なお、第一不正防止部材１０２３をコ字状基体１００１に取付ける前に、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とを連結ピン１０３４で連結し且つガイドピン１０２８をピン穴１０２９に図示しないビスで止着しておき、さらにガイドピン１０２８を挿入縦開口１０２０の最下端の開口部に挿入しておく必要がある。

【０３６９】

更に、リベット１００６で扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０をコ字状基体１００１内に収納固定した状態で、スプリング１０４８をスプリングフック部１０４

６，１０５７相互間に掛け渡し、扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０とを相互に反対方向に付勢し、さらに、バネ１０３５をバネ係止片（穴）１０２１，１０３６に掛け渡して第二不正防止部材１０３２が規制突片１０３１に当接した状態とする。その後、錠取付片１００８の錠挿通穴１００９にシリンダ錠１０１０の円筒状本体部分を挿入してシリンダ錠１０１０をビス１０１２で取付穴１０１４に固定する。なお、このとき係合カム１０１６の第一係合突片１０１７の先端部が傾斜部１０２４の外側で且つ挿入縦開口１０２０に僅かに挿入し、係合カム１０１６の第二係合突片１０１８の先端部が第一不正防止部材１０２３の突片挿入穴１０２６及び挿入縦開口１０２０に僅かに挿入した状態となるようにシリンダ錠１０１０を錠取付片１００８に取付ける。

【０３７０】

上記のようにして組み付けた錠装置１０００を本体枠３の裏面に取付けるためには、前述したように、扉枠用摺動杆１０４０の扉枠用フック部１０４１を本体枠３に形成される扉用フック穴５４９に差し込みながら、鉤型に突出する係止突起１００４を本体枠３の錠係止穴５４８に差し込んで上方に移動させ、その状態で水平方向に突出したビス止め部１００３及びビス止め部１００３を錠取付穴５４７に一致させ、その一致した穴に図示しないビスを螺着することにより、図６３に示すように、錠装置１０００を本体枠３の裏面に強固に固定することができる。特に、本実施形態の場合には、前方部の係止構造を構成する係止突起１００４がコ字状基体１００１の第一側面壁５４０と密着しない側面１００１ａに突設形成される一方、後方部の固定構造を構成するビス止め部１００３及びビス止め部１００３がコ字状基体１００１の第一側面壁５４０と密着する側面１００１ｂから水平方向に突設形成される構造であるため、前方部の係止構造が第一側面壁５４０と密着する側面１００１ｂに形成される場合に比べて、ガタ付きが生じないように錠装置１０００を本体枠３に固定することができるものである。

【０３７１】

ところで、本体枠３の裏面に取付けられた錠装置１０００の作用について図７０及び図７１を参照して説明する。まず、図７０を参照して本体枠３の開閉動作と扉枠５の開閉動作について説明する。本体枠３が外枠２に対して閉じ且つ扉枠５が本体枠３に対して閉じている状態においては、図７０（Ａ）に示すように、外枠２の閉鎖用突起３８，４１と本体枠用摺動杆１０５０のフック部１０５４，１０６５とが係止し且つ扉枠用摺動杆１０４０の扉枠用フック部１０４１と扉枠５のフックカバー２２７とが係止した状態となっている。その状態でシリンダ錠１０１０に図面示しない鍵を差し込んで係合カム１０１６の第一係合突片１０１７が挿入縦開口１０２０内に侵入する方向に回動すると、図７０（Ｂ）に示すように、第一係合突片１０１７の先端が本体枠用摺動杆１０５０の下降係合穴１０６２に係合してスプリング１０４８の付勢力に抗して下フック部材１０５２を下方に押下げ、これと連結されている連結線杆１０５３と上フック部材１０５１も押下げられて下降する。このため、外枠２の閉鎖用突起３８，４１と本体枠用摺動杆１０５０のフック部１０５４，１０６５とが係止状態が解除されるため、本体枠３を前面側に引くことにより本体枠３を外枠２に対して開放することができる。

【０３７２】

なお、本体枠３を閉じる場合には、フック部１０５４，１０６５がスプリング１０４８の付勢力により上昇した状態（図７０（Ａ）に示す状態と同じ上昇した位置）となっているが、フック部１０５４，１０６５の上辺が外側に向かって下り傾斜しているため、強制的に本体枠３を外枠２に対して押圧することにより、フック部１０５４，１０６５の上辺傾斜部が閉鎖用突起３８，４１の下端部と当接するので、本体枠用摺動杆１０５０が下方に下降し、遂には、フック部１０５４，１０６５の上向き爪部と閉鎖用突起３８，４１とが再度係止した状態となって本体枠用摺動杆１０５０が上昇して係止状態に戻る。

【０３７３】

一方、シリンダ錠１０１０に図示しない鍵を差し込んで係合カム１０１６の第二係合突片１０１８が挿入縦開口１０２０内に侵入する方向に回動すると、図７０（Ｃ）に示すように、第二係合突片１０１８の先端が扉枠用摺動杆１０４０の上昇係合穴１０４５に係合

してスプリング１０４８の付勢力に抗して扉枠用摺動杆１０４０を上方に押し上げ上昇する。このため、扉枠５のフックカバー２２７と扉枠用摺動杆１０４０の扉枠用フック部１０４１とが係止状態が解除されるため、扉枠５を前面側に引くことにより扉枠５を本体枠３に対して開放することができる。

【０３７４】

なお、扉枠５を閉じる場合には、扉枠用フック部１０４１がスプリング１０４８の付勢力により下降した状態（図７０（Ａ）に示す状態と同じ下降した位置）となっているが、扉枠用フック部１０４１の下辺が外側に向かって上り傾斜しているため、強制的に扉枠５を本体枠３に対して押圧することにより、扉枠用フック部１０４１の下辺傾斜部がフックカバー２２７の上端部と当接するので、扉枠用摺動杆１０４０が上方に上昇し、遂には、扉枠用フック部１０４１の下向き爪部とフックカバー２２７とが再度係止した状態となって扉枠用摺動杆１０４０が下降して係止状態に戻る。なお、本実施形態における扉枠用摺動杆１０４０は、コ字状基体１００１の全長とほぼ同じ長さに形成されると共に、そのコ字状基体１００１が本体枠３の縦方向の側面のほぼ全長に亘って取付けられ、しかも、扉枠５との係止部である扉枠用フック部１０４１が扉枠用摺動杆１０４０の上端部、中央部、下端部の３箇所に形成されているため、扉枠５と本体枠３の縦方向の全長における施錠が確実に行われ、扉枠５と本体枠３との間を無理やりこじ開けてその間からピアノ線等の不正具を挿入する不正行為を行うことができないという利点もある。

【０３７５】

上記したように、本実施形態に係る錠装置１０００は、シリンダ錠１０１０に差し込んだ鍵を一方向に回動することにより、外枠２に対する本体枠３の施錠を解除し、他方向に回動することにより、本体枠３に対する扉枠５の施錠を解除することができる。この場合、シリンダ錠１０１０に鍵を差し込むことなく本体枠用摺動杆１０５０のフック部１０５４，１０６５にピアノ線等を引っ掛けてこれを下降させる不正行為が行われることがあるが、本実施形態においては、このような不正行為を行うことができないようになっている。このような不正行為を防止する構造の第一番目が第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とから構成されるロック機構であり、第二番目の不正防止構造がコ字状基体１００１の閉鎖空間に扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０が収納される構造である。

【０３７６】

まず、第一番目の不正防止構造であるロック機構の作用について図７１を参照して説明する。まず、外枠２と本体枠３とが閉じている状態においては、図７１（Ａ）に示すように、外枠２の閉鎖用突起４１と第二不正防止部材１０３２の当接部１０３７とが当接した状態となっている。この状態においては、バネ１０３５の付勢力により第一不正防止部材１０２３が反時計方向に回動してストッパー片部１０２７が不正防止切欠部１００７内に侵入し、ストッパー片部１０２７が不正防止切欠部１００７に対応する位置にある本体枠用摺動杆１０５０の下フック部材１０５２に形成される係合切欠部１０６６と係合した状態となっている。このため、本体枠用摺動杆１０５０にピアノ線等を引っ掛けて引き降ろそうとしても、ストッパー片部１０２７と係合切欠部１０６６とが係合しているので、本体枠用摺動杆１０５０を不正に下方に引き降ろすこと（解錠すること）が不能となり、本体枠３を開放するという不正行為を行うことができない。

【０３７７】

一方、シリンダ錠１０１０に鍵を差し込んで正規に本体枠３を開錠する場合には、図７１（Ｂ）に示すように、鍵を回動させることにより係合カム１０１６の第一係合突片１０１７が挿入縦開口１０２０内に侵入するように回動される。この第一係合突片１０１７の回動時に、第一不正防止部材１０２３の傾斜部１０２４と第一係合突片１０１７の側面とが当接するため、第一不正防止部材１０２３が揺動軸穴１０２５を中心として図示の時計回転方向に回転を始め、ストッパー片部１０２７も不正防止切欠部１００７から退避するように移動する。このため、ストッパー片部１０２７と係合切欠部１０６６との係合が解除された状態となる。このとき、第二不正防止部材１０３２は、バネ１０３５を伸ばして

当接部１０３７が後退した位置となっている。この状態でさらに係合カム１０１６を回動させて第一係合突片１０１７も回動させると、第一係合突片１０１７の先端が下フック部材１０５２の下降係合穴１０６２に係合して本体枠用摺動杆１０５０の全体を下降させるので、フック部１０５４，１０６５と外枠２の閉鎖用突起３８，４１との係止状態が解除されて本体枠３を外枠２に対して開放することができる。

【０３７８】

なお、本体枠３を外枠２に対して閉じるときには、第二不正防止部材１０３２は、規制突片１０３１に当接した状態となっているため、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２との位置関係は、図７１（Ａ）に示す状態とほぼ同じ位置関係になっている。この状態で本体枠３を閉めると、外枠２の閉鎖用突起４１と第二不正防止部材１０３２の当接部１０３７とが正面から当接し、最終的に図７１（Ａ）に示す状態となる。このため、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とが本体枠３を閉じるときに邪魔になることはない。また、本実施形態においては、第一不正防止部材１０２３と第二不正防止部材１０３２とが本体枠用摺動杆１０５０の下降動作だけが不正に行われないように防止しているのは、本体枠用摺動杆１０５０を不正に開放すれば、解放後に扉枠用摺動杆１０４０を手動で簡単に開けることができることと、ピアノ線等で摺動杆を上昇させる不正行為は事実上行い難いという理由により、本体枠用摺動杆１０５０に対する不正操作ができないように工夫されている。

【０３７９】

また、上記した第一番目の不正防止構造であるロック機構であっても、第一不正防止部材１０２３をピアノ線等で揺動させることにより、ロック機構の機能を無力化することも不可能ではない。そこで、万一ロック機構のロック機能が不正な行為により無力化される場合を想定すると、本実施形態においては、錠装置１０００が本体枠３に取付けられた状態では、内部に設けられる扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０とが、それぞれのフック部１０４１、１０５４，１０６５を除いてコ字状基体１００１の閉鎖空間に収納されて完全に被覆された状態となっているので、ピアノ線等を差し込んでコ字状基体１００１の閉鎖空間の内部に設けられる本体枠用摺動杆１０５０を引き下げようとしても、コ字状基体１００１の両側面１００１ａ，１００１ｂによって不正具の閉鎖空間への侵入が阻止されるため、不正行為を簡単に行うことができない構造となっている。

【０３８０】

以上、詳述したように、本実施形態に係る錠装置１０００は、その横幅寸法が従来のＬ字状基体に集約される錠装置に比べて極めて薄いコ字状基体１００１の内部に扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０とを摺動可能に設け且つ錠装置１０００を操作するためのシリンダ錠１０１０のコ字状基体１００１への取付位置を遊技盤の下端辺よりも下方となる位置としたので、遊技盤４の左右方向及び上下方向の大きさを極めて大きくすると共に、本体枠３の側面壁５４０～５４３で囲まれる空間を大きくしても、錠装置１０００を本体枠３の裏側に強固に取付けることができる。そして、断面コ字状の開放側が本体枠３の裏面に対面するように取付けられるため、錠装置１０００が本体枠３に取付けられた状態では、内部に設けられる扉枠用摺動杆１０４０と本体枠用摺動杆１０５０とが、それぞれのフック部１０４１、１０５４，１０６５を除いてコ字状基体１００１に完全に被覆された状態となっているので、ピアノ線等を差し込んで内部に設けられる本体枠用摺動杆１０５０を引き下げる等の不正行為を簡単に行うことができない。

【０３８１】

また、錠装置１０００の取付けに際し、コ字状基体１００１の開放側（前方部）の上中下の３箇所に形成される係止突起１００４を錠係止穴５４８に差し込んで位置決め係止し、コ字状基体１００１の閉塞側（後方部）の上中下の３箇所に形成されたビス止め部１００３及びビス止め部１００３を錠取付穴５４７にビスで固定する構造であるため、錠装置１０００の前方部を係止突起１００４と錠係止穴５４８で係止し、錠装置１０００の後方部をビス止め部１００３及びビス止め部１００３と錠取付穴５４７で固定するので、極めて簡単な構造で錠装置１０００を本体枠３に強固に固定することができるものである。

【０３８２】
なお、上記した実施形態においては、コ字状基体１００１の下方部をビス止めする構造として錠取付片１００８に形成されたビス止め部１００３と本体枠３のシリンダ錠貫通穴５２６の上部近傍に形成した錠取付穴５４７とを螺着する構造としたが、これに代えて、シリンダ錠１０１０を錠取付片１００８に取付けるビス１０１２を利用して、該ビス１０１２の先端が錠取付片１００８を貫通して螺着される錠取付穴をシリンダ錠貫通穴５２６の上下に形成する構造でも良い。また、コ字状基体１００１の下方部をビス止めしなくても、錠装置１０００の後方部のビス止め部１００３と錠取付穴５４７との固定だけでも、錠装置１０００を本体枠３の裏面に強固に固定されることを確認している。
【０３８３】
また、上記した実施形態においては、扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０を左右の側面１００１ａ，１００１ｂを有するコ字状基体１００１で完全に被覆するものとしたが、例えば、扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０を第一側面壁５４０に密着しない反対側の側面１００１ａに摺動自在にリベット等で装着し、第一側面壁５４０に密着する側面１００１ｂを省略したＬ字状基体（錠基体）とし、そのＬ字状基体（錠基体）の側面１００１ａと第一側面壁５４０とによって形成される閉鎖空間に扉枠用摺動杆１０４０及び本体枠用摺動杆１０５０を収納する構造としてもよい。この場合でも、実施形態と同じような取付構造及び不正防止構造とすることができる。
【０３８４】
＜基板ユニット＞
次に、本体枠３の裏面下部に取付けられる基板ユニット１１００について、主として図７２及び図７３を参照して説明する。図７２は、基板ユニット１１００を背面側から見た斜視図であり、図７３は、基板ユニット１１００を前面側から見た斜視図である。
【０３８５】
基板ユニット１１００は、本体枠３の裏面下部に複数形成されるホルダ用の取付穴部５２７（図２２，図２４参照）に取付けられるものであり、図示すように、合成樹脂成形された枠用基板ホルダ１１０１に、扉中継基板、電源基板ボックス１１０３、端子基板ボックス１１０４、払出制御基板ボックス１１０５、主ドロワ中継基板、及び副ドロワ中継基板の各種基板を取付けることにより構成されている。上記の基板のうち、扉中継基板、電源基板ボックス１１０３、端子基板ボックス１１０４、及び払出制御基板ボックス１１０５は、枠用基板ホルダ１１０１の後面側に前後方向に重複して取付けられ、主ドロワ中継基板及び副ドロワ中継基板は、枠用基板ホルダ１１０１の前面側に取付けられるものである。なお、払出制御基板ボックス１１０５の裏面には、電源基板等からの電磁波の影響を防止するためにシールド板が取付けられ、また、主ドロワ中継基板及び副ドロワ中継基板は、基板カバー１１０９に被覆されて取付けられている。
【０３８６】
まず、枠用基板ホルダ１１０１は、横長状に合成樹脂で成形され、図示すように、その後面側一側部に配線用開口１１２４が形成され、図示は省略するが、配線用開口１１２４の内側に扉中継基板を取付けるための中継基板用凹部が形成されている。この枠用基板ホルダ１１０１の左右両辺及び下辺には、基板ユニット１１００を本体枠３に取付けるための取付片１１２２が外側に向かって突設され、該取付片１１２２を本体枠３の前記取付穴部５２７（図２２参照）に対応させて図示しないビスで止着することにより、基板ユニット１１００が本体枠３の背面下部に取付けられる。なお、取付穴部５２７は、図２４に示すように、取付片１１２２の外形形状に合致する外周壁を有して形成されている。更に、枠用基板ホルダ１１０１の他端側（図７３の右側）側壁の外側に、配線を係止するための配線掛止片１１２３が突設形成されている。
【０３８７】
また、枠用基板ホルダ１１０１の前面側のほぼ中央には、アウト球通路１１１９が逆さＬ字状に形成されている。このアウト球通路１１１９は、前述したアウト口６０６（図３１参照）、球抜排出通路５２４（図２２参照）の下流側、及び落下口６２９（図２９参照

）と対応するように上方が幅広く形成され、下流側が球を列状に排出するように幅狭く形成されている。したがって、基板ユニット１１００を本体枠３に取付けたときには、図２５に示すように、アウト球通路１１１９の幅広上流部がアウト口６０６の下面を支持する通路支持突起５１３の後方に位置するようになっている。そして、アウト球通路１１１９の下流端からアウト球や入賞球、あるいは球抜き球がパチンコ遊技機の外部（一般的に、島の回収樋）に向かって放出されるものである。

【０３８８】

基板カバー１１０９には、主ドロワ中継基板に設けられる主ドロワ中継コネクタ１２００及び払出制御基板用コネクタ１２０１と、副ドロワ中継基板に設けられる副ドロワ中継コネクタ１２０２及び扉枠用コネクタ１２０３とが基板カバー１１０９の外側に突出するための長方形状のコネクタ用開口が開設されている。

【０３８９】

払出制御基板ボックス１１０５は、横長の長方形状の払出制御基板が固定されるボックス主体と、ボックス主体に取付けられて払出制御基板の表面を覆うカバー体と、から構成されている。ボックス主体とカバー体とは、その一側辺を係合させ、その他側辺に分離切断部１１８３でカシメ固定している。これによってボックス主体とカバー体とを分離するためには、分離切断部１１８３を切断しないと分離できないようになっている。ただし、分離切断部１１８３におけるカシメ固定は、複数箇所（図示の場合は、１～４の数字で示す４箇所）のうち、いずれかをカシメ部材でカシメれば良く、例えば、検査等で分離する必要がある場合には、３回まで行うことができる。もちろん、不正に分離した場合には、切断した痕跡が残ることになるので、不正行為があったか否かを直ちに知ることができるようになっている。

【０３９０】

＜カバー体＞

次に、カバー体１２５０について、図６、図２４及び図２８を参照して説明する。カバー体１２５０は、本体枠３の後面開口５８０を覆うものであり、その一側の上中下の３箇所に本体枠３の背面一側に形成されるカバー体支持筒部５７５に上方から挿入される軸支ピン１２５１が形成され、その他側のほぼ中央に球通路ユニット７７０に形成されるカバー体係合溝７８５と係合する係合片１２５２が形成されている。しかして、カバー体１２５０の軸支ピン１２５１をカバー体支持筒部５７５に差し込むことにより、カバー体１２５０を本体枠３に開閉自在に軸支し、係合片１２５２をカバー体係合溝７８５に係止することにより、カバー体１２５０を本体枠３に閉じた状態とすることができ、遊技盤４に設けられる各種部品の背面を保護することができる。なお、開放する場合には、係合片１２５２とカバー体係合溝７８５との係合を解除すればよい。

【０３９１】

また、図示の場合のカバー体１２５０においては、開放側の係合片１２５２の上下に止め穴１２５３が形成され、また、本体枠３の施錠壁５６９に突設される施錠用突出鉤片５７０を貫通させる貫通穴１２５４が形成され、更に詳細に図示しないが、次に説明する第二実施形態に係るカバー体１２７０と同じように、接続操作用開口１２５５、立壁、当接突起、補強リブが形成されている。これら接続操作用開口１２５５、立壁、当接突起、補強リブは、第二実施形態に係るカバー体１２７０の接続操作用開口１２８３、立壁１２８４、当接突起１２８５、補強リブ１２８６と同じ位置に設けられて同じ機能を奏するものである。そして、カバー体１２５０を閉じた状態で、カバー体１２５０の止め穴１２５３と本体枠３側の止め穴５６８とを一致させて図示しないビスで止着することにより、カバー体１２５０によって本体枠３の後面開口５８０を閉塞固定することができる。そして、本体枠３に対してカバー体１２５０を閉じた状態で施錠用突出鉤片５７０がカバー体１２５０の貫通穴１２５４を貫通しているので、例えば、南京錠等の錠を施錠用突出鉤片５７０に掛け止めることにより、南京錠の鍵を有する責任者しかカバー体１２５０を開放することができないようにすることができる。

【０３９２】

＜遊技盤の詳細構成＞

遊技盤４の詳細な構成について、主に図７４乃至図７７を参照して説明する。図７４（ア）は遊技盤の正面図であり、（イ）は遊技盤における状態表示器を拡大して示す正面図である。また、図７５は、遊技盤を斜め右前から見た斜視図であり、図７６は、遊技盤を斜め左前から見た斜視図である。また、図７７は、遊技盤を斜め後から見た斜視図であり、図７８は、図７４におけるＡ－Ａ断面図である。また、図７９は、図７５におけるステージ付近を拡大して示す斜視図である。更に、図８０は、遊技盤を構成する主な部材ごとに分解して斜め前から見た斜視図であり、図８１は、遊技盤を構成する主な部材ごとに分解して斜め後から見た斜視図である。

【０３９３】

図示するように、本実施形態のパチンコ機１における遊技盤４は、外レール６０２及び内レール６０３を有し、遊技者が操作ハンドル部４６１を操作することで遊技媒体としての遊技球が打ち込まれる遊技領域６０５の外周を区画形成する枠状の前構成部材６０１と、前構成部材６０１の後側で前構成部材６０１の枠内を閉鎖するように配置されると共に遊技領域６０５の後端を区画形成可能な板状の遊技パネル６００と、遊技パネル６００前面側で遊技領域６０５内の略中央に取付けられる枠状のセンター役物１４００と、センター役物１４００の下側且つ遊技領域６０５内でアウト口６０６の上側に配置されるアタッカユニット１５００と、アタッカユニット１５００よりも上側且つセンター役物１４００の左下側で遊技領域６０５の外周に略沿って配置されるサイド部材１６００と、遊技領域６０５の外側で前構成部材６０１の右下に配置され遊技状態を表示可能な状態表示器１８００と、遊技パネル６００の後側に裏箱６２１を介して取付けられる裏ユニット２０００と、裏ユニット２０００における裏箱６２１の後面側に着脱可能に支持され所定の演出画像を表示可能な演出表示手段としての液晶表示装置６４０と、遊技パネル６００の後側に固定され裏ユニット２０００及び裏箱６２１の下部を覆い後側に主制御基板ボックス６２４が固定される盤用基板ホルダ６２３とを備えている。

【０３９４】

本実施形態の遊技盤４におけるセンター役物１４００は、詳細な構成については後述するが、遊技領域６０５内の略中央に配置され、枠の内周下面に遊技球が左右方向へ転動可能とされると共に前側の遊技領域６０５内へ放出可能とされた役物側転動面１４０２と、枠の左側外周に配され遊技領域６０５内へ向かって開口し遊技領域６０５内の遊技球が進入可能とされたゲート入口１４０４と、ゲート入口１４０４の下側で遊技領域６０５内へ向かって開口しゲート入口１４０４へ進入した遊技球が放出されるゲート出口１４０６とを備えており、ゲート入口１４０４へ進入した遊技球がゲートセンサ３０１２（図１０３を参照）により検出された後にゲート出口１４０６から遊技領域６０５内へ放出されるようになっている。また、センター役物１４００には、ゲート出口１４０６の下側で枠の左側外周に配置され遊技領域６０５内へ向かって開口するワープ入口１４１０と、ワープ入口１４１０よりも下側で枠内の左側内周に開口するワープ出口１４１２とを備えている。

【０３９５】

また、遊技盤４におけるアタッカユニット１５００は、詳細な構成については後述するが、図示するように、センター役物１４００における役物側転動面１４０２の下側に配置されており、常時遊技球が受入可能とされた三つの一般入賞口１５０２と、センター役物１４００における役物側転動面１４０２の所定位置の直下に配置され常時遊技球を受入可能とされた第一始動口１５０４と、第一始動口１５０４の下側に配置されセンター役物１４００におけるゲート受入口１４０４へ遊技球が進入してゲートセンサ３０１２により検出されることで抽選される普通抽選結果に応じて、遊技球を受入可能又は受入不能となる第二始動口１５０６と、第二始動口１５０６の下側に配置され横長で矩形状に開口する大入賞口１５１０と、大入賞口１５１０の下端に略沿って回転可能に軸支され大入賞口１５１０を開閉可能な板状の開閉片１５１２と、開閉片１５１２を開閉駆動するアタッカソレノイド１５１８とを備えている。

【０３９６】

更に、遊技盤４における裏ユニット２０００には、詳細は後述するが、遊技パネル６００の後面と当接すると共に、遊技パネル６００の後面に取付可能とされ、液晶表示装置６４０の表示画面と略同形状の開口２１０２を有した裏ユニットベース２１００と、裏ユニットベース２１００における開口２１０２の下側且つ前側に支持されるステージ部材２２００と、裏ユニットベース２１００における開口２１０２の右側且つ前側に支持される揺動体ユニット２３００と、ステージ部材２２００及び揺動体ユニット２３００よりも後側に配置され裏ユニットベース２１００の開口２１０２を閉鎖可能とされた横行体ユニット２５００と、横行体ユニット２３００を内部に支持すると共に前側が開放された箱状とされ後壁に液晶表示装置６４０の表示画面と略同形状の開口部２１５２を有し裏ユニットベース２１００に取付けられる裏ケース２１５０と、横行体ユニット２５００よりも下側で裏ユニットベース２１００の後側に支持される周辺制御基板ボックス２０５０とを主に備えている。この裏ユニット２０００におけるステージ部材２２００には、左右方向の略中央に、ステージ始動口２２２０が備えられている。

【０３９７】

本実施形態の遊技盤４は、センター役物１４００のワープ入口１４１０へ進入した遊技球がワープ出口１４１２から裏ユニット２０００のステージ部材２２００へ供給されるようになっている。そして、ステージ部材２２００へ供給された遊技球は、ステージ部材２２００上を転動し、ステージ始動口２２２０へ受入れられなければ、センター役物１４００の役物側転動面１４０２上へと放出され、役物が転動面１４０２を転動した後に遊技領域６０５内へ放出されるようになっている。

【０３９８】

本例の遊技盤４（パチンコ機１）では、アタッカユニット１５００における一般入賞口１５０２、第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、大入賞口１５１０、及び裏ユニット２０００におけるステージ始動口２２２０に受入れられた遊技球は、一般入賞口センサ２１１０、第一始動口センサ２１１２、第二始動口センサ１５２２、カウントセンサ１５２４、及びステージ始動口センサ２１１４によって夫々検出されるようになっており、検出したセンサに応じて所定数の遊技球を払出すようになっている。また、このパチンコ機１では、第一始動口１５０２、第二始動口１５０４、及びステージ始動口２２２０へ遊技球が受入れられて第一始動口センサ２１１２、第二始動口センサ１５２２、及びステージ始動口センサ２１１４で検出されると、所定の特別抽選結果が抽選され、その特別抽選結果（例えば、「大当り」、「小当り」、等）に応じて所定のパターンで開閉片１５１２を開閉させて大入賞口１５１０が受入可能となるようになっている。

【０３９９】

また、本例の遊技盤４における状態表示器１８００は、図７４に示すように、遊技領域６０５の外側でアウト口６０６よりも右側の前構成部材６０１下部に配置されており、第一始動口１５０４やステージ始動口２２２０への遊技球の受入れを契機として変動表示される第一特別図柄表示器１８０２と、第二始動口１５０６への遊技球の受入れを契機として変動表示される第二特別図柄表示器１８０４と、ゲート入口１４０４へ遊技球が進入することで変動表示が開始される普通図柄表示器１８０６と、第一特別図柄表示器１８０２や第二特別図柄表示器１８０４が変動表示中に第一始動口１５０４やステージ始動口２２２０へ遊技球が受入れられた場合に変動表示の開始を保留した記憶数を表示する第一特別図柄記憶数表示器１８０８と、第一特別図柄表示器１８０２や第二特別図柄表示器１８０４が変動表示中に第二始動口１５０６へ遊技球が受入れられた場合に変動表示の開始を保留した記憶数を表示する第二特別図柄記憶数表示器１８１０と、普通図柄表示器１８０６が変動表示中にゲート入口１４０４へ遊技球が進入した場合に変動表示の開始を保留した記憶数を表示する普通図柄記憶数表示器１８１２とを備えている。

【０４００】

この状態表示器１８００の第一特別図柄表示器１８０２及び第二特別図柄表示器１８０４は、夫々７セグメントＬＥＤにより構成されており、各セグメントの組合せ態様によって、第一始動口１５０２やステージ始動口２２２０、及び第二始動口１５０４への始動入

賞による特別抽選結果を示唆するようになっている。また、普通図柄表示器１８０６は、二色の色（本例では赤色と緑色）に発光可能なＬＥＤにより構成されており、遊技球がゲート入口１４０４へ進入することで抽選される普通抽選結果を発光色によって示唆するようになっている。なお、ゲート入口１４０４へ遊技球が進入して普通図柄表示器１８０６が当りを示唆する色（例えば、緑色）に発光すると、第二始動口１５０６を閉鎖する一対の可動片１５０８が所定時間（例えば、０．５秒）拡開して遊技球が第二始動口１５０６へ受入可能（入賞可能）となるようになっている。

【０４０１】

また、第一特別図柄記憶数表示器１８０８、第二特別図柄記憶数表示器１８１０、及び普通図柄記憶数表示機１８１２は、夫々二つのＬＥＤによって構成されており、各ＬＥＤの点灯・点滅の組合せによって保留された記憶数（例えば、最大四つ）を示唆するようになっている。

【０４０２】

また、状態表示器１８００には、第一特別図柄記憶数表示器１８０８や第二特別図柄記憶数表示器１８１０とは別に、第一始動口１５０４やステージ始動口２２２０、及び第二始動口１５０６への始動入賞に基て抽選される特別抽選結果が、アタッカユニット１５００の大入賞口１５１０を開閉する開閉片１５１２が所定パターンで開閉動作する「大当り」の時に、開閉片１５１２の開閉回数（ラウンド回数）を表示するラウンド表示器１８１４と、特別抽選結果が「小当り」の時に点灯する一つのＬＥＤからなる小当り表示器１８１６と、を更に備えている。ラウンド表示器１８１４は、三つのＬＥＤから構成されており、点灯するＬＥＤの位置によって、例えば、「２Ｒ大当り」、「５Ｒ大当り」、「１５Ｒ大当り」の何れかを表示することができるようになっている。

【０４０３】

更に、状態表示器１８００には、第一始動口１５０４やステージ始動口２２２０、及び第二始動口１５０６への始動入賞に基て抽選される特別抽選結果が、「確変時短当り」、「確変当り」、「時短当り」、或いは、遊技状態が「確変時短」状態、「確変」状態、「時短」状態となると、所定の色彩で点灯する一つのＬＥＤからなる確変・時短表示器を更に備えている。この確変・時短表示器１８１８は、例えば、特別抽選結果として「確変時短当り」が抽選されると、或いは、遊技状態が「確変時短」状態となると赤色に、また、特別抽選結果として「確変当り」が抽選されると、或いは、遊技状態が「確変」状態となると緑色に、更に、特別抽選結果として「時短当り」が抽選されると、或いは、遊技状態が「時短」状態となると橙色に、夫々点灯・点滅等することで特別抽選結果や遊技状態等を表示することができるようになっている。

【０４０４】

［センター役物、アタッカユニット、及びサイド部材］

センター役物１４００、アタッカユニット１５００、及びサイド部材１６００の構成について、主に図８２及び図８３を参照して説明する。図８２（ａ）はセンター役物、アタッカユニット、及びサイド部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）はセンター役物、アタッカユニット、及びサイド部材を後から見た斜視図である。図８３は、図８２（ａ）における矢視Ａの方向から見たセンター役物の側面図である。

【０４０５】

まず、センター役物１４００は、図示するように、遊技パネル６００の前面よりも前側へ突出する前部１４００ａと、前部１４００ａの後端から外方へ延出し遊技パネル６００の前面と当接する板状のフランジ部１４００ｂと、遊技パネル６００における開口部６００ａの内周に略沿った外周とされフランジ部１４００ｂよりも後方へ延出し開口部６００ａ内に挿入される後部１４００ｃとを備え、遊技盤４における遊技領域６０５の略中央に配置されている。このセンター役物１４００は、全体として枠状に形成されており、枠内を通して前方（遊技者側）から裏ユニット２０００における横行体ユニット２５００や液晶表示装置６４０に表示される演出画像等を視認することができるようになっている。

【０４０６】

このセンター役物１４００には、前部１４００ａにおける枠内の内周下面に遊技球が左右方向へ転動可能とされると共に前側へ放出可能とされた役物側転動面１４０２を備えている。この役物側転動面１４０２は、左右両端が高くなるように形成されていると共に、最も低くなった位置を除いて前端側に配置される所定高さの堤部１４０２ａと、最も低くなった位置に配置され前端側が低くなると共に後端から前端へ向かって左右方向へ扇状に広がる湾曲状の凹部１４０２ｂとを備えている。遊技球がこの役物側転動面１４０２上に供給されると、堤部１４０２ａにより前側へ放出されるのを抑制された状態で左右方向へ転動すると共に、極めて高い確率で凹部１４０２ｂにから前側へ放出されるようになっている。

【０４０７】

また、センター役物１４００における前部１４００ａの左側外周には、遊技領域６０５内へ向かって開口し遊技領域６０５内の遊技球が進入可能とされたゲート入口１４０４と、ゲート入口１４０４の下側で遊技領域６０５内へ向かって開口するゲート出口１４０６と、ゲート入口１４０４とゲート出口１４０６とを連通するゲート通路１４０８と、ゲート通路１４０８内に配置されゲート入口１４０４へ進入した遊技球を検出可能なゲートセンサと、ゲート出口１４０６の下側で遊技領域６０５内へ向かって開口し遊技球が進入可能とされたワープ入口１４１０とを備えている。遊技領域６０５内からゲート入口１４０４へ進入した遊技球は、ゲートセンサによって検出された上でゲート通路１４０８を通ってゲート出口１４０６から再び遊技領域６０５内へ放出されるようになっている。

【０４０８】

また、センター役物１４００には、ワープ入口１４１０よりも下側で後部１４００ｃの左側内周の枠内に開口するワープ出口１４１２と、ワープ入口１４１０とワープ出口１４１２とを連通するワープ通路１４１４とを更に備えている。このワープ入口１４１０に進入した遊技球は、ワープ通路１４１４を通ってワープ出口１４１２から放出されるようになっており、ワープ通路１４１４を通ることで、遊技領域６０５内の遊技球がセンター役物１４００の枠内へと移動できるようになっている。

【０４０９】

更に、センター役物１４００における前部１４００ａの上側外周には、左右方向の略中央から左側に、左端が低くなるように略直線状に傾斜した誘導棚１４１６と、左右方向の略中央から右側に、遊技領域６０５の外周に略沿って遊技領域６０５の下端まで延びた円弧状の外周壁１４１８とを備えている。遊技者の操作によって遊技領域６０５内の上部へ打ち込まれた遊技球は、左右方向の略中央左側を流下すると、誘導棚１４１６によってセンター役物１４００の左側へと誘導され、センター役物１４００における左側の遊技領域６０５を流下して、ゲート入口１４０４やワープ入口１４１０等へ進入する機会が得られるようになっている。一方、左右方向の略中央右側の外周壁１４１８上へ遊技球が流下すると、外周壁１４１８と遊技領域６０５の外周との間を通って、遊技領域６０５の下端へと一気に案内され、遊技球の動きを楽しめないようになっている。

【０４１０】

このセンター役物１４００における外周壁１４１８には、図示するように、複数の突起１４１８ａが所定間隔で備えられていると共に、外周壁１４１８の下部に外周壁１４１８に沿って流下してきた遊技球の流下速度を減速させる減速部１４２０が備えられている。この減速部１４２０は、外周壁１４１８の前端から外方へ延出する共に外周壁１４１８の周方向に沿った略扇形状とされた透明板状の前板１４２０ａを備えており、前板１４２０ａ、外周壁１４１８、及びフランジ部１４００ｂにより遊技球が通過可能な流路を形成している。また、減速部１４２０には、図８３に示すように、前板１４２０ａの裏面と、フランジ部１４００ｂにおける前板１４２０ａと対向する位置に、外周壁１４１８の周方向に対して略直角方向へ延びる突条１４２０ｂが、外周壁１４１８の周方向に沿って交互に複数備えられている。この減速部１４２０によって、外周壁１４１８に沿って流下してきた遊技球が、交互に配置された突条１４２０ｂと当接することで、外周壁１４１８、前板１４２０ａ、及びフランジ部１４００ｂにより形成された流路内をジグザグに流下して流

下速度を減速させることができるようになっている。従って、外周壁１４１８に沿って流下してきた遊技球が減速部１４２０で減速した上でアウト口６０６へ進入するようになっており、勢いの付いた遊技球が、アウト口６０６を越えてアタッカユニット１５００やサイド部材１６００における前方へ突出した部分に激突して破損してしまうのを防止することができるようになっている。

【０４１１】

また、このセンター役物１４００は、図示するように、右側の枠部分に配置され円弧状の外周壁１４１８に沿った三日月形状のメイン装飾体１４２２と、上側の枠部分の略中央に配置され回転可能とされた花弁状の回転装飾体１４２４とを更に備えている。センター役物１４００におけるメイン装飾体１４２２は、図示は省略するが、本例のパチンコ機１のコンセプトを特徴付ける所定のロゴが形成された表面部材１４２２ａと、表面部材１４２２ａの後側に配置され表面に複数のＬＥＤが実装されたメイン装飾基板３１２６（図１０８を参照）と、メイン装飾基板３１２６と表面部材１４２２ａとの間に配置され、ＬＥＤからの光を拡散させるレンズ部材（図示は省略する）とを備えており、メイン装飾基板３１２６のＬＥＤを適宜発光させることで、メイン装飾体１４２２の表面部材１４２２ａを発光装飾させることができるようになっている。

【０４１２】

また、センター役物１４００における回転装飾体１４２４は、花弁状に形成されると共に前後方向へ延びる軸芯周りに回転可能に軸支された花弁装飾体１４２４ａと、花弁装飾体１４２４ａの回転軸を回転駆動させる花弁用モータ３１２８（図１０８を参照）と、花弁装飾体１４２４ａの後側に配置され表面に複数のＬＥＤが実装された回転体装飾基板１４２４ｂとを備えている。この回転装飾体１４２４は、遊技状況等に応じて花弁用モータ３１２８により花弁装飾体１４２４ａが回転駆動されるようになっていると共に、回転体装飾基板１４２４ｂのＬＥＤを適宜発光させることで、花弁装飾体１４２４ａを発光装飾させることができるようになっている。なお、詳細な図示は省略するが、この回転装飾体１４２４は、花弁用モータにより回転駆動されるモータギヤと、モータギヤと噛合する従動ギヤ及び従動ギヤと一体回転する駆動プーリを有したプーリギヤと、花弁装飾体１４２４ａと一体回転する花弁プーリと、花弁プーリとプーリギヤの駆動プーリとに巻き掛けられるベルトとを備えており、花弁用モータ３１２８の回転駆動が、ギヤ、プーリ、及びベルトを介して花弁装飾体１４２４ａに伝達されるようになっている。

【０４１３】

更に、センター役物１４００は、役物側転動面１４０２の下側でメイン装飾体１４２２寄りに配置されたサブ装飾体１４２６を更に備えている。このサブ装飾体１４２６は、図示するように、川に掛かった橋をイメージしたものであり、役物側転動面１４０２に略沿って配置され橋の欄干を模した欄干部１４２６ａと、欄干部１４２６ａの下側に配置され花札等の札を模した札部１４２６ｂとを備えている。このサブ装飾体１４２６における札部１４２６ｂは、四角形の枠体１４２６ｃと、枠体１４２６ｃの枠内を閉鎖すると共に透光性を有した白色板状の表示部１４２６ｄと、表示部１４２６ｄの後側で上下方向の略中央に配置され左右方向の中央が高くなった円弧状の第一隔壁１４２６ｅと、第一隔壁１４２６ｅの上側に配置された円筒状の第二隔壁１４２６ｆとを備えている（図１０５（ａ）を参照）。この札部１４２６ｂは、詳細は後述するが、後側に配置されたステージ装飾基板２０１２のＬＥＤを適宜点灯させることで、表示部１４２６ｄに、「柄無し」、「芒」、「芒に月」、の三種類の図柄を表示させることができるようになっている。

【０４１４】

また、センター役物１４００には、上下方向の略中央で右側の枠部分（メイン装飾体１４２２）の内側に配置され、遊技領域６０５の前面の所定範囲内に位置した物体を検知可能な物体検知センサ１４２８を更に備えている。この物体検知センサ１４２８は、前方の所定方向へ赤外線等の非可視光からなる検知光を発光する発光部１４２８ａと、発光部１４２８ａの上側に配置され発光部１４２８ａから発光された検知光の反射光を受光可能な受光部１４２８ｂとを備え、遊技領域６０５前方の所定範囲内で、上下方向へ移動する遊

技者の手等を検知することができるようになっている。この物体検知センサ１４２８は、例えば、所定の遊技状態の時に、物体検知センサ１４２８の検知を有効とすると共に、液晶表示装置６４０に遊技領域６０５の前で上下方向へ手を移動させるのを促す演出画像を表示させ、遊技領域６０５の前で遊技者が移動させた手を検知することで所定の演出を行うための契機となるものであり、遊技者を遊技の演出に参加させて興趣を高められるようにするものである。

【０４１５】

次に、アタッカユニット１５００は、図示するように、遊技パネル６００の前面よりも前側に突出する前部１５００ａと、前部１５００ａの後端から外方へ延出し遊技パネル６００の前面と当接する板状のフランジ部１５００ｂと、フランジ部１５００ｂから後方へ突出し遊技パネル６００における対応する開口部６００ａへ挿入可能とされた本体部１５００ｃとを備えており、センター役物１４００における役物側転動面１４０２の下側に配置されている。このアタッカユニット１５００の前部１５００ａには、上述したように、常時遊技球が受入可能とされた三つの一般入賞口１５０２と、センター役物１４００における放出口１４２０の直下に配置され常時遊技球を受入可能とされた第一始動口１５０４と、第一始動口１５０４の下側に配置されセンター役物１４００におけるゲート受入口１４０４へ遊技球が進入してゲートセンサにより検出されることで抽選される普通抽選結果に応じて、遊技球を受入可能又は受入不能となる第二始動口１５０６とを備えている。

【０４１６】

このアタッカユニット１５００は、第二始動口１５０６の左右両側に上端が自由端とされた一対の可動片１５０８と、一対の可動片１５０８の自由端を互いに接近した位置と離反した位置との間で回動させる始動口ソレノイド１５１６（図８２（ｂ）を参照）とを備えており、この可動片１５０８が略直立した状態（自由端同士が接近した状態）となっていると、一対の可動片１５０８と第一始動口１５０６とによって、第二始動口１５０６へ遊技球が受入不能な状態となる。一方、一対の可動片１５０８の上端（自由端）が互いに遠ざかる方向へ離反した状態となると、第二始動口１５０６へ遊技球が受入可能な状態となる。また、一対の可動片１５０８が拡開することで、可動片１５０８によって第二始動口１５０６側へ遊技球を誘導することができ、第二始動口１５０６の大きさに対して遊技球の受入確率が高くなった状態となるようになっている。

【０４１７】

また、アタッカユニット１５００には、第二始動口１５０６の下側に配置され、横長で矩形状に開口する大入賞口１５１０と、大入賞口１５１０の下端に略沿って回転可能に軸支され大入賞口１５１０を開閉可能な板状の開閉片１５１２と、開閉片１５１２を開閉駆動するアタッカソレノイド１５１８（図８２（ｂ）を参照）とを備えている。この開閉片１５１２は、左右方向に延びる下辺を略回転軸として回動するように軸支されており、開閉片１５１２が略垂直な状態となると大入賞口１５１０が閉鎖された状態となり、開閉片１５１２の上辺が前方へ移動するように回動することで大入賞口１５１０が開放された状態となると共に、開閉片１５１２の裏面によって流下してきた遊技球を大入賞口１５１０側へ案内させることができるようになっている。なお、大入賞口１５１０は、通常時では開閉片１５１２によって閉鎖された受入不能な状態となっている。

【０４１８】

更に、アタッカユニット１５００には、センター役物１４００の左側を流下してきた遊技球を、遊技領域６０５の中央側へ誘導可能な誘導片１５１４を複数備えている。なお、図示は省略するが、アタッカユニット１５００には、表面に複数のＬＥＤを実装したアタッカユニット装飾基板３１３０（図１０４を参照）を備えており、そのＬＥＤを適宜発光させることで、一般入賞口１５０２付近を発光装飾することができるようになっている。

【０４１９】

また、アタッカユニット１５００には、一般入賞口１５０２及び第一始動口１５０４へ受入れられた遊技球を後側に配置された裏ユニット２０００へ誘導する誘導樋１５２０を備えている。また、アタッカユニット１５００の本体部１５００ｃには、第二始動口１５

０６へ受入れられた遊技球を検出する第二始動口センサ１５２２と、大入賞口１５１０へ受入れられた遊技球を検出するカウントセンサ１５２４とを備えており、第二始動口１５０６及び大入賞口１５１０へ受入れられた遊技球が第二始動口センサ１５２２及びカウントセンサ１５２４で検出された後に、本体部１５００ｃの下部から下方へ放出されるようになっている。

【０４２０】

続いて、サイド部材１６００は、図示するように、遊技パネル６００の前面よりも前方へ突出する前部１６００ａと、前部１６００ａの後端から外方へ延出し遊技パネル６００の前面と当接する板状のフランジ部１６００ｂと、フランジ部１６００ｂから後方へ延出し遊技パネル６００における所定の開口部６００ａ内へ挿入可能とされた後部１６００ｃとを備えており、遊技領域６０内におけるセンター役物１４００の左側且つアタッカユニット１５００の上側に遊技領域６０５の外周に略沿って配置されている。このサイド部材１６００の前部１６００ａには、センター役物１４００の左側を流下してきた遊技球を左右方向の中央側へ誘導可能な誘導棚１６０２が備えられている。また、サイド部材１６００は、部分的に透光性を有した部材により形成されており、サイド部材１６００の後方で裏ユニット２０００に備えられたサイド装飾基板２０１０に実装されたＬＥＤからの光により発光装飾させることができるようになっている。

【０４２１】

［前構成部材、及び遊技パネル］

遊技盤４における前構成部材６０１、及び遊技パネル６００の構成について、主に図８４を参照して説明する。図８４（ａ）は前構成部材と遊技パネルとを組立てた状態で前から見た斜視図であり、（ｂ）は前構成部材と遊技パネルとを組立てた状態で後から見た斜視図である。

【０４２２】

本例の遊技盤４における前構成部材６０１は、上述したように、遊技領域６０５の外周を区画形成すると共に遊技領域６０５内に遊技球を案内する外レール６０２及び内レール６０３を備えている。また、遊技パネル６００は、所定厚さの木製合板からなり、センター役物１４００、アタッカユニット１５００、及びサイド部材１６００を夫々挿入固定するための貫通した開口部６００ａを備えている。これら開口部６００ａは、挿入固定するセンター役物１４００等の外形形状と略沿った形状とされている。なお、アウト口６０６と対応する位置にも、貫通した開口部６００ａが形成されている。

【０４２３】

この遊技パネル６００の前面には、前構成部材６０１、センター役物１４００、アタッカユニット１５００、及びサイド部材１６００が取付けられるようになっている。また、遊技パネル６００の前面には、遊技領域６０５と対応する位置に、複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されている。更に、遊技パネル６００の後面には、裏ユニット２０００と盤用基板ホルダ６２３が取付けられるようになっている。

【０４２４】

〔裏ユニット〕

遊技盤４における裏ユニット２０００の全体構成について、主に図８５乃至図９０を参照して説明する。図８５は、裏ユニットの正面図である。図８６（ａ）は裏ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットを後から見た斜視図である。また、図８７は、裏ユニットを主要な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図８８は、図８７の分解図を後から見た分解斜視図である。更に、図８９は、裏ユニットにおける裏ユニットベースに取付けられる各部材を分解して前から見た分解斜視図であり、図９０は、図８９の分解斜視図を後から見た分解斜視図である。

【０４２５】

本例の遊技盤４における裏ユニット２０００は、図示するように、遊技パネル６００の後面と当接すると共に、遊技パネル６００の後面に取付可能とされ、液晶表示装置６４０の表示画面と略同形状の開口２１０２を有した裏ユニットベース２１００と、裏ユニット

ベース２１００の前側で開口２１０２の下部に支持されステージ始動口２２２０を有したステージ部材２２００と、裏ユニットベース２１００の前側で開口２１０２の右部に支持される揺動体ユニット２３００と、ステージ部材２２００及び揺動体ユニット２３００よりも後側に配置され裏ユニットベース２１００の開口２１０２を閉鎖する透明板状の仕切板２１０４（図８９及び図９０を参照）と、仕切板２１０４の後側に配置される横行体ユニット２５００と、横行体ユニット２５００を内部に支持すると共に前側が開放された箱状とされ後壁に液晶表示装置６４０の表示画面と略同形状の開口部２１５２を有し裏ユニットベース２１００に取付けられる裏ケース２１５０とを備えている。なお、本例では、裏ユニットベース２１００と裏ケース２１５０とで裏箱６２１が形成されている。

【０４２６】

また、裏ユニット２０００には、裏ユニットベース２１００の後側下部に取付けられ内部に周辺制御基板３１００（図７８を参照）が封入された周辺制御基板ボックス２０５０と、周辺制御基板ボックス２０５０の横側に取付けられ主制御基板ボックス６２４内の主制御基板１３５０と、周辺制御基板ボックス２０５０内の周辺制御基板３１００や遊技球を検出する各種センサ等とを中継するパネル中継端子板１３５２とを備えている。また、裏ユニット２０００は、裏ケース２１５０の後側に取付けられ、周辺制御基板３１００と接続されると共に周辺制御基板３１００の回路に対して抵抗器を集約させた抵抗基板２１５４と、裏ケース２１５０の後側に取付けられ周辺制御基板３１００と横行体ユニット２５００における各駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４との接続を中継する横行体中継基板２１５６と、を更に備えている。

【０４２７】

また、裏ユニット２０００には、アタッカユニット１５００及びサイド部材１６００の後側で裏ユニットベース２１００の前側に固定され、表面に複数のＬＥＤが実装されたサイド装飾基板２０１０と、センター役物１４００におけるサブ装飾体１４２６の後側で裏ユニットベース２１００の前側に固定され、表面に複数のＬＥＤが実装されたステージ装飾基板２０１２とを更に備えている。これらサイド装飾基板２０１０及びステージ装飾基板２０１２のＬＥＤを適宜発光させることで、アタッカユニット１５００、サイド部材１６００、及びセンター役物１４００のサブ装飾体１４２６等を発光装飾させることができるようになっている。

【０４２８】

更に、裏ユニット２０００には、アタッカユニット１５００における一般入賞口１５０２へ受入れられた遊技球を検出する一般入賞口センサ２１１０と、アタッカユニット１５００における第一始動口１５０４へ受入れられた遊技球を検出する第一始動口センサ２１１２と、ステージ部材２２００におけるステージ始動口２２２０へ受入れられた遊技球を検出するステージ始動口センサ２１１４と、を備えており、それらセンサ２１１０，２１１２，２１１４が裏ユニットベース２１００に支持されている。また、裏ユニット２０００の裏ユニットベース２１００には、アタッカユニット１５００における第一始動口１５０４の後方にあたる位置に磁気センサ２１１６が取付けられており、この磁気センサ２１１６により、遊技盤４の前側からアタッカユニット１５００へ近づけられた磁石の磁気を検知することができるようになっている。

【０４２９】

この裏ユニット２０００における裏ユニットベース２１００は、図示するように、外形が略矩形状とされ、中央に前後方向へ貫通する矩形状の開口２１０２と、外周の所定位置に遊技パネル６００の後面と当接し遊技パネル６００の後側へ取付固定するための固定部２１０６を備えている。また、裏ユニットベース２１００は、アタッカユニット１５００における一般入賞口１５０２及び第一始動口１５０４へ受入れられて誘導樋１５２０によって遊技パネル６００の後側へ誘導された遊技球や、ステージ部材２２００のステージ始動口２２２０へ受入れられた遊技球を、夫々受取って下方へ放出する複数の誘導路２１０８を備えている。これら複数の各誘導路２１０８には、夫々対応するセンサ２１１０，２１１２，２１１４が取付けられるようになっており、各誘導路２１０８を流通する遊技球

を検出することができるようになっている。また、各誘導路２１０８は、流通する遊技球の流通速度が増加するのを抑制させることができるように形成されている。

【０４３０】

また、裏ユニット２０００におけるステージ部材２２００は、センター役物１４００における役物側転動面１４０２よりも高い位置に配置され、遊技球が左右方向へ転動可能とされると共に前側へ放出可能とされた第一裏側転動面２２０２と、第一裏側転動面２２０２と役物側転動面１４０２との間で第一裏側転動面２２０２よりも低く且つ役物側転動面１４０２よりも高い位置に配置され、遊技球が左右方向へ転動可能とされると共に前側へ放出可能とされた第二裏側転動面２２０４とを備えている。本例では、図７９等に示すように、センター役物１４００のワープ出口１４１２が、第一裏側転動面２２０２の左側端部に開口するように配置されており、遊技領域６０５内からワープ入口１４１０へ進入した遊技球がステージ部材２２００における第一裏側転動面２２０２へ供給されるようになっている。

【０４３１】

これら第一裏側転動面２２０２及び第二裏側転動面２２０４は、夫々左右両端が最も高くなると共に、左右方向の略中央が盛上った波状に形成されている。また、第一裏側転動面２２０２及び第二裏側転動面２２０４は、最も低くなった部分を除いた前端側に所定高さの堤部２２０２ａ，２２０４ａが夫々配置されていると共に、最も低くなった部分に前端側が低く且つ後端から前端へ向かって左右方向へ扇状に広がる湾曲状の凹部２２０２ｂ，２２０４ｂを備えている。また、図示するように、第一裏側転動面２２０２における左右方向略中央の盛上った略頂部には、所定幅で後方へ向かって低くなる凹部２２０２ｃが備えられており、この凹部２２０２ｃの後端に遊技球が受入可能とされたステージ始動口２２２０が備えられている。このステージ部材２２００は、ステージ始動口２２２０へ受入れられなかった遊技球が、第二裏側転動面２２０４から前方へ配置されたセンター役物１４００の役物側転動面１４０２へ供給されるようになっている。

【０４３２】

このステージ部材２２００における第一裏側転動面２２０２は、図示するように、前後方向の幅が、左右両端で広幅とされると共に左右両端より中央側では遊技球の径と略同じ細幅とされており、この細幅の部分の後側には第一裏側転動面２２０２に対して略一定量高くされた棚部２２０６が備えられている。ステージ部材２２００は、棚部２２０６の存在により、遊技者に対して、第一裏側転動面２２０２と第二裏側転動面２２０４とを加えた三段の転動面を有しているように見せることができ、ステージを広く見せることができるようになっている。

【０４３３】

また、ステージ部材２２００は、部材の略全体が透明を含む透光性を有した素材により形成されていると共に、ステージ部材２２００の後端に取付けられたステージ装飾基板２０１２の表面に実装されたＬＥＤによって適宜発光装飾させることができるようになっている。

【０４３４】

更に、ステージ部材２２００の後側、つまり、ステージ部材２２００と横行体ユニット２５００との間には、透明板状の仕切板２１０４（図８９及び図９０を参照）が配置されており、この仕切板２１０４によって、ステージ部材２２００から横行体ユニット２５００側へ遊技球が侵入するのを防止することができ、横行体ユニット２５００へ遊技球が侵入して不具合が発生するのを防止することができるようになっている。

【０４３５】

［揺動体ユニット］

遊技盤４の裏ユニット２０００における揺動体ユニット２３００の構成について、主に図９１を参照して説明する。図９１（ａ）は揺動体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は揺動体ユニットの正面図であり、（ｃ）は揺動体ユニットにおける揺動機構を拡大して示す斜視図である。

【０４３６】
裏ユニット２０００における揺動体ユニット２３００は、図示するように、提灯を模した外形形状とされた複数の揺動体２３１０と、所定数の揺動体２３１０を前後方向へ延びる軸芯に対して回転可能に軸支すると共に揺動体２３１０を所定方向へ移動させる揺動機構２３２０と、揺動機構２３２０を保持する揺動体ユニットベース２３３０と、揺動体ユニットベース２３３０の所定位置に固定され揺動機構２３２０と周辺制御基板３１００との電気的な接続を中継する揺動体中継基板２３４０と、を主に備えている。本例の揺動体ユニット２３００は、二つの揺動体２３１０を軸支した揺動機構２３２０を上下方向に三つ備えており、上から第一揺動機構２３２０ａ、第二揺動機構２３２０ｂ、及び第三揺動機構２３２０ｃの順に配置されている。

【０４３７】
この揺動体ユニット２３００における揺動機構２３２０は、図示するように、揺動体ユニットベース２３３０に支持され上下方向に進退可能とされたプランジャ２３２２ａを有する揺動体ソレノイド２３２２と、揺動体ソレノイド２３２２におけるプランジャ２３２２ａの進退によって前後方向へ延びる所定軸周りに回動可能とされた第一作動部材２３２４と、第一棹部材２３２４の回動に伴って前後方向へ延びる所定軸周りに回動可能とされ二つの揺動体２３１０を軸支する第二作動部材２３２６と、第二作動部材２３２６に取付けられると共に軸支された揺動体２３１０の後側に配置され表面にＬＥＤが実装された揺動体装飾基板２３２８と、を備えている。

【０４３８】
この揺動機構２３２０における第一作動部材２３２４は、全体的に棒状に形成され、一端に揺動体ユニットベース２３３０に対して軸支される軸支部２３２４ａと、軸支部２３２４ａとは反対側の他端に長手方向へ延びるスリット状の伝達部２３２４ｂと、伝達部２３２４ｂと軸支部２３２４ａとの間に配置され揺動体ソレノイド２３２２におけるプランジャ２３２２ａの先端が連結される連結部２３２４ｃとを備えている。また、揺動機構２３２０における第二作動部材２３２６は、第一作動部材２３２４におけるスリット状の伝達部２３２４ｂに対して挿入可能とされた伝達ピン２３２６ａと、伝達ピン２３２６ａを一端側に支持し所定方向へ延出する伝達棹２３２６ｂと、伝達棹２３２６ｂにおける他端側に配置され揺動体ユニットベース２３３０に対して回転可能に軸支される軸支部２３２６ｃと、軸支部２３２６ｃから伝達棹２３２６ｂが延びる方向とは異なる方向へ延出する作用棹２３２６ｄと、作用棹２３２６ｄの先端に配置され二つの揺動体２３１０を所定距離離反して軸支可能とされた揺動体支持部２３２６ｅとを備えており、伝達棹２３２６ｂと作用棹２３２６ｄとによって略Ｌ字状に形成されている。

【０４３９】
この揺動機構２３２０は、図示するように、正面視で、揺動体ソレノイド２３２２の右側で第一作動部材２３２４の軸支部２３２４ａが揺動体ユニットベース２３３０に軸支されており、第一作動部材２３２４の伝達部２３２４ｂが揺動体ソレノイド２３２２の左側で軸支部２３２４ａよりも下がった位置となるように第一作動部材２３２４が配置されている。一方、第二作動部材２３２６、第一作動部材２３２４よりも左側に配置されていると共に、第二作動部材２３２６の軸支部２３２６ｃが第一作動部材２３２４の軸支部２３２４ａと略同じ高さとなるように揺動体ユニットベース２３３０に軸支されている。その状態で、第二作動部材２３２６の伝達ピン２３２６ａが第一作動部材２３２４の伝達部２３２４ｂ内へ挿入されていると共に、第二作動部材２３２６の作用棹２３２６ｄが軸支部２３２６ｃから略垂直に上方へ立上るように延出している。

【０４４０】
なお、揺動機構２３２０によって軸支される二つの揺動体２３１０は、第二作動部材２３２６の揺動体支持部２３２６ｅによって、左右方向に半分程重なるように前後方向の異なる位置に夫々軸支されていると共に、左側の揺動部材２３１０が若干高くなるように軸支されている。また、第二作動部材２３２６における揺動体支持部２３２６ｅの後側に揺動体装飾基板２３２８が固定されており、揺動体装飾基板２３２８に実装されたＬＥＤに

よって揺動体２３１０を適宜発光装飾させることができるようになっている。
【０４４１】
この揺動体ユニット２３００は、通常時では揺動体ソレノイド２３２２のプランジャ２３２２ａが、下方へ突出した状態となっているので、第二作動部材２３２６の作用棹２３２６ｄが略直立した状態となり、複数の揺動体２３１０がセンター役物１４００におけるメイン装飾体１４２２の後側に隠れた位置となって、遊技者から視認し難い位置となっている。一方、揺動体ソレノイド２３２２に通電することでプランジャ２３２２ａが上方へ移動すると、プランジャ２３２２ａの移動に伴って第一作動部材２３２４が、その軸支部２３２４ａを中心として時計回りに回動すると共に、第一作動部材２３２４の伝達部２３２４ｂに挿入された第二作動部材２３２６の伝達ピン２３２６ａを介して第二作動部材２３２６が、その軸支部２３２６ｃを中心として反時計回りに回動する。
【０４４２】
これにより、第二作動部材２３２６における作用棹２３２６ｄが左側へ倒れるように回動し、作用棹２３２６ｄ先端の揺動体支持部２３２６ｅに軸支された揺動体２３１０が、メイン装飾体１４２２の後側から液晶表示装置６４０の前面側へと移動して、遊技者から視認可能となる位置へ移動することとなる（図１０７を参照）。その際に、各揺動体２３１０が夫々軸支されているので、揺動体ソレノイド２３２２による駆動停止後も、慣性力によって暫く揺動することとなり、揺れ動く揺動体２３１０によって、揺動体２３１０の動きをより楽しませることができるようになっていると共に、遊技者の関心を強く引き付けることができるようになっている。
【０４４３】
〔横行体ユニット〕
遊技機４の裏ユニット２０００における横行体ユニット２５００の構成について、主に図９２乃至図１０２を参照して説明する。図９２は、裏ユニットの横行体ユニットを、前横行体駆動ユニット、後横行体駆動ユニット、及び下レールユニットに分解して前から見た分解斜視図であり、図９３は、図９２の分解斜視図を後から見た分解斜視図である。図９４は、横行体ユニットの正面図であり、図９５は、横行体ユニットの背面図である。図９６は、横行体ユニットにおける前横行体駆動ユニットの一部を省略して示す斜視図である。図９７（ａ）は前横行体駆動ユニットにおける前下駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図であり、（ｂ）は前横行体駆動ユニットにおける前下駆動ユニットの一部を省略して後から見た斜視図である。図９８は、前横行体駆動ユニットにおける前上駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図である。図９９は、後横行体駆動ユニットの正面図であり、図１００は、後横行体駆動ユニットの一部を省略して示す背面図である。図１０１は、後横行体駆動ユニットにおける後下駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図であり、図１０２は、後横行体駆動ユニットにおける後上駆動ユニットの一部を省略して前から見た斜視図である。
【０４４４】
本実施形態の裏ユニット２０００における横行体ユニット２５００は、図示するように、複数の襖状の横行体２５１０を左右方向へ横行させると共に、複数の横行体２５１０を所定配列とすることで液晶表示装置６４０の前面を横行体２５１０によって被覆することができるようにしたものである（図７４等を参照）。この横行体ユニット２５００における複数（四つ）の横行体２５１０は、横行体２５１０の上部に配置され、左右方向に延びると共に前後方向に並んで配置された円柱状の上前レール２５２０ａ及び上後レール２５２０ｂによって左右方向へ案内されるようになっている。これら上前レール２５２０ａ及び上後レール２５２０ｂの夫々には、横行体２５１０が二つずつ案内されるようになっており、上前レール２５２０ａによって案内される二つの前横行体２５１２と、上後レール２５２０によって案内される二つの後横行体２５１４とによって横行体２５１０が構成されている。
【０４４５】
なお、上前レール２５２０ａ及び上後レール２５２０ｂは、その長さが、横行体ユニッ

ト２５００における左右方向の長さ（幅）と略同じ長さとされており、横行体２５１０における左右方向の長さ（幅）に対して、５～６倍（約５．６倍）の長さとされている。因みに、本例では、液晶表示装置６４０の左右方向の幅（表示画面の幅）が、遊技領域６０５の全幅に対して、約０．７倍の長さとされていると共に、横行体２５１０の幅が、液晶表示装置６４０の幅（表示画面の幅）に対して、約０．２５倍とされている。

【０４４６】

この横行体ユニット２５００は、上前レール２５２０ａを支持すると共に二つの前横行体２５１２を左右方向へ横行駆動させる前横行体駆動ユニット２６００と、前横行体駆動ユニット２６００の後側に配置され上後レール２５２０ｂを支持すると共に二つの後横行体２５１４を左右方向へ横行駆動させる後横行体駆動ユニット２７００と、前横行体駆動ユニット２６００及び後横行体駆動ユニット２７００よって横行する前横行体２５１２及び後横行体２５１４の下端を左右方向へ案内する下レールユニット２８００と、を備えている。横行体ユニット２５００における前横行体駆動ユニット２６００と後横行体駆動ユニット２７００は、前後方向に略接するように並んで配置されている（図７８を参照）。また、これら、前横行体駆動ユニット２６００、後横行体駆動ユニット２７００、及び下レールユニット２８００は、夫々裏ケース２１５０に支持されている。

【０４４７】

まず、横行体ユニット２５００における横行体２５１０は、図示するように、枠状に形成された本体部２５１０ａと、本体部２５１０ａの後端を閉鎖する板状の閉鎖板２５１０ｂと、本体部２５１０ａの上部に備えられた案内連結部２５１０ｃと、本体部２５１０ａの下端から下方へ突出する板状の下案内部２５１０ｄとを主に備えている。この横行体２５１０における案内連結部２５１０ｃには、左右方向の両端に上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂを挿通可能なリング状の一対の挿通環２５１０ｅと、挿通環２５１０ｅ同士の間に配置され上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂの上端及び下端と当接し案内連結部２５１０ｃに回転可能に軸支された四つの案内ローラ２５１０ｆと、案内ローラ２５１０ｆよりも上側に配置され横行体駆動ユニット２６００，２７００における横行用ベルト２６２４，２６６４，２７２４，２７６４と連結可能な連結部２５１０ｇとを備えている。

【０４４８】

この横行体２５１０は、一対の挿通環２５１０ｅの軸芯が、本体部２５１０ａ（横行体２５１０）の前後方向の略中央を通るように配置されており、四つの案内ローラ２５１０ｆによって上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂに案内される横行体２５１０が、略垂直な状態で案内されるようになっている。また、四つの案内ローラ２５１０ｆは、図示するように、上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂを挟むように上下に対向配置された一対の案内ローラ２５１０ｆが、夫々挿通環２５１０ｅの近傍に配置されている。つまり、一対の案内ローラ２５１０ｆ同士が、案内連結部２５１０ｃにおいて左右方向に可及的に離れた位置に配置されており、横行体２５１０がガタツクことなく案内されるようになっている。

【０４４９】

なお、本例では、後横行体２５１４には、本体部２５１０ａにおける遊技領域６０５の中央寄りに配置される枠の上下方向略中央に備えられた半円状の装飾部２５１０ｈと、装飾部２５１０ｈの内部に備えられＬＥＤを有した横行体装飾基板２５１１と、横行体装飾基板２５１１と下レールユニット２８００の中央中継端子板２８０８とを電気的に接続し可撓性を有したフラットケーブ状の配線部材２１５０ｉとを備えている。この後横行体２５１４は、横行体装飾基板２５１１のＬＥＤによって装飾部２５１０ｈを適宜発光装飾させることができるようになっている。また、本例では、横行体２５１４の閉鎖板２５１０ｂが透明板とされており、横行体２５１０を通して後側に位置する液晶表示装置６４０を、遊技者側から視認することができるようになっている。

【０４５０】

また、本例では、左側の前横行体２５１２及び右側の後横行体２５１４の案内連結部２

５１０ｃが、他の横行体２５１２，２５１４よりも上方へ長く延出していると共に、前下駆動ユニット２６１０の横行用ベルト２６２４又は後下駆動ユニット２７１０の横行用ベルト２７２４が通過可能とされた通過溝２５１０ｊを備えており（図９８及び図１０２を参照）、通過溝２５１０ｊよりも上側に連結部２５１０ｇが配置されている。これら左側の前横行体２５１２及び右側の後横行体２５１４に形成された通過溝２５１０ｊによって、左側の前横行体２５１２及び右側の後横行体２５１４が、前下駆動ユニット２６１０の横行用ベルト２６２４及び後下駆動ユニット２７１０の横行用ベルト２７２４と接触するのを回避させることができるようになっている。

【０４５１】

更に、横行体２５１０には、下案内部２５１０ｄの下端から下方へ突出する検知片２５１０ｋが夫々備えられており、図示するように、前横行体２５１２では下案内部２５１０ｄの左端に、また、後横行体２５１４では下案内部２５１０ｄの略中央に、夫々配置されている。

【０４５２】

本実施形態の横行体ユニット２５００における前横行体駆動ユニット２６００は、図９６乃至図９８等に示すように、二つの前横行体２５１２を左右方向へ横行可能に支持する一つの上前レール２５２０ａを支持すると共に、正面視で右側に配置される前横行体２５１２（前横行体右２５１２Ｒ）を左右方向へ駆動する前下駆動ユニット２６１０と、前下駆動ユニット２６１０の上側に配置され正面視で左側に配置される前横行体２５１２（前横行体左２５１２Ｌ）を左右方向へ駆動する前上駆動ユニット２６５０とを備えている。

【０４５３】

この前横行体駆動ユニット２６００における前下駆動ユニット２６１０は、上前レール２５２０ａの両端を保持し左右方向に延びる板状の下ベース板２６１２と、下ベース板２６１２の右端部上方に配置され下方へ延出するように回転軸が配置された前右駆動モータ２６１４と、前右駆動モータ２６１４の回転軸と一体回転する駆動ギヤ２６１６と、駆動ギヤ２６１６と噛合して回転する従動ギヤ２６１８と、従動ギヤ２６１８と一体回転する駆動プーリ２６２０と、駆動プーリ２６２０とは左右方向の反対側で下ベース板２６１２の左端部付近に配置される従動プーリ２６２２と、従動プーリ２６２２と駆動プーリ２６２０とに巻き掛けられる横行用ベルト２６２４と、を備えており、横行用ベルト２６２４の所定位置に右側の前横行体２５１２（２５１２Ｒ）の連結部２５１０ｇが連結固定されている。

【０４５４】

また、前下駆動ユニット２６１０は、下ベース板２６１２の右端部上面に固定され従動ギヤ２６１８及び駆動プーリ２６２０を回転可能に軸支する板状の軸支部材２６２６（図９６を参照）と、軸支部材２６２６によって下面が閉鎖されるような箱状に形成され、駆動ギヤ２６１６、従動ギヤ２６１８及び駆動プーリ２６２０を収容すると共に上面に前右駆動モータ２６１４が取付けられる右ケース部材２６２８（図８７等を参照）と、を更に備えている。

【０４５５】

更に、前下駆動ユニット２６１０は、駆動プーリ２６２０と従動プーリ２６２２とに巻き掛けられた横行用ベルト２６２４の環内に配置されると共に下ベース板２６１２に左右方向へ摺動可能に保持され、従動プーリ２６２２を回転可能に支持する従動プーリ支持部材２６３０と、従動プーリ支持部材２６３０を駆動プーリ２６２０とは反対方向へ移動するように付勢するテンションばね２６３２と、テンションばね２６３２の駆動プーリ２６２０側端部を保持し下ベース部材２６１２に固定されるばね保持部材２６３４と、を更に備えている。この前下駆動ユニット２６１０は、テンションばね２６３２の付勢力によって従動プーリ２６２２が駆動プーリ２６２０と離反する方向に付勢されており、その付勢力によって横行用ベルト２６２４に所定のテンションが付与されるようになっている。

【０４５６】

この前下駆動ユニット２６１０は、図示するように、上前レール２５２０ａが下ベース

板２６１２の下側に支持されていると共に、駆動ギヤ２６１６、従動ギヤ２６１８、駆動プーリ２６２０、従動プーリ２６２２、及び横行用ベルト２６２４が、下ベース板２６１２の上側に配置されている。また、本例の下ベース板２６１２は、所定厚さの金属板をプレス成形したものを用いた剛性の高いものとなっており、上前レール２５２０ａ、駆動プーリ２６２０や従動プーリ２６２２等がガタついたり変形したりすることなく、しっかり支持することができるようになっている。

【０４５７】

一方、前横行体駆動ユニット２６００における前上駆動ユニット２６５０は、下ベース板２６１２の上方に配置され左右方向に延びると共に右端部が前下駆動ユニット２６１０における右ケース部材２６２８の上面に固定される板状の上ベース板２６５２と、上ベース板２６５２の左端部上面に配置され下方へ延出するように回転軸が配置された前左駆動モータ２６５４と、前左駆動モータ２６５４の回転軸と一体回転する駆動ギヤ２６５６と、駆動ギヤ２６５６と噛合して回転する従動ギヤ２６５８と、従動ギヤ２６５８と一体回転する駆動プーリ２６６０と、駆動プーリ２６６０とは左右方向の反対側で上ベース板２６５２の右端部付近に配置される従動プーリ２６６２と、従動プーリ２６６２と駆動プーリ２６６０とに巻き掛けられる横行用ベルト２６６４と、を備えており、横行用ベルト２６６４の所定位置に左側の前横行体２５１２（２５１２Ｌ）の連結部２５１０ｇが連結固定されている。

【０４５８】

また、前上駆動ユニット２６５０は、下ベース板２６１２の左端部上面に固定され従動ギヤ２６５８及び駆動プーリ２６６０を回転可能に軸支する板状の軸支部材２６６６（図９６を参照）と、軸支部材２６６６によって下面が閉鎖されるような箱状に形成されると共に前下駆動ユニット２６１０における右ケース部材２６２８と略同じ高さに形成され、駆動ギヤ２６１６、従動ギヤ２６１８及び駆動プーリ２６２０を収容すると共に上面に上ベース板２６５２の左端部が載置固定される左ケース部材２６６８（図８７等を参照）と、を更に備えている。

【０４５９】

更に、前上駆動ユニット２６５０は、駆動プーリ２６６０と従動プーリ２６６２とに巻き掛けられた横行用ベルト２６６４の環内に配置されると共に上ベース板２６５２に左右方向へ摺動可能に保持され、従動プーリ２６６２を回転可能に支持する従動プーリ支持部材２６７０と、従動プーリ支持部材２６７０を駆動プーリ２６６０とは反対方向へ移動するように付勢するテンションばね２６７２と、テンションばね２６７２の駆動プーリ２６６０側端部を保持し上ベース部材２６５２に固定されるばね保持部材２６７４と、を更に備えている。この前上駆動ユニット２６５０では、テンションばね２６７２の付勢力によって従動プーリ２６６２が駆動プーリ２６６０と離反する方向に付勢されており、その付勢力によって横行用ベルト２６６４に所定のテンションが付与されるようになっている。

【０４６０】

この前上駆動ユニット２６５０は、図示するように、駆動ギヤ２６５６、従動ギヤ２６５８、駆動プーリ２６６０、従動プーリ２６６２、及び横行用ベルト２６６４が、上ベース板２６５２の下側に配置されている。また、本例の上ベース板２６５２は、所定厚さの金属板をプレス成形したものを用いた剛性の高いものとなっており、駆動プーリ２６６０や従動プーリ２６６２等がガタついたり変形したりすることなく、しっかり支持することができるようになっている。更に、上ベース板２６５２は、左右方向の長さが、上前レール２５２０ａの長さよりも短い長さとされている。

【０４６１】

本例の前横行体駆動ユニット２６００は、図示するように、前下駆動ユニット２６１０と前上駆動ユニット２６５０とが、左右方向の両端に配置される右ケース部材２６２８、左ケース部材２６６８、及び左右方向の略中央に配置される支持部材２６０２によって、上下方向に対して略平行に配置固定されている。また、前下駆動ユニット２６１０及び前上駆動ユニット２６５０における駆動プーリ２６２０，２６６０と従動プーリ２６２２，

２６６２との間隔は、略同じ間隔とされており、横行体２５１０の左右方向の幅に対して約４倍の間隔とされていると共に、上前レール２５２０ａの長さに対して約０．８倍の間隔とされている。

【０４６２】

更に、前横行体駆動ユニット２６００は、前下駆動ユニット２６１０における駆動プーリ２６２０が上前レール２５２０ａの右端付近に配置されていると共に、前上駆動ユニット２６５０における駆動プーリ２６６０が上前レール２５２０ａの左端付近に夫々配置されており、前下駆動ユニット２６１０と前上駆動ユニット２６５０とでは、横行体２５１０の横行範囲が左右方向の中央に対して、右側と左側とに夫々オフセットした状態となっている。つまり、前下駆動ユニット２６１０によって横行させられる右側の前横行体２５１２（２５１２Ｒ）は、上前レール２５２０ａの右端から左端近傍までの間を移動することができ、前上駆動ユニット２６５０によって横行させられる左側の前横行体２５１２（２５１２Ｌ）は、上前レール２５２０ａの左端から右端近傍までの間を移動することができるようになっている。

【０４６３】

次に、本実施形態の横行体ユニット２５００における後横行体駆動ユニット２７００は、図９９乃至図１０２等に示すように、二つの後横行体２５１４を左右方向へ横行可能に支持する一つの上後レール２５２０ｂを支持すると共に、正面視で左側に配置される後横行体２５１４（後横行体左２５１４Ｌ）を左右方向へ駆動する後下駆動ユニット２７１０と、後下駆動ユニット２７１０の上側に配置され正面視で右側に配置される後横行体２５１４（後横行体右２５１４Ｒ）を左右方向へ駆動する後上駆動ユニット２７５０とを備えている。

【０４６４】

この後横行体駆動ユニット２７００における後下駆動ユニット２７１０は、上後レール２５２０ｂの両端を保持し左右方向に延びる板状の下ベース板２７１２と、下ベース板２７１２の左端部上方に配置され下方へ延出するように回転軸が配置された後左駆動モータ２７１４と、後左駆動モータ２７１４の回転軸と一体回転する駆動ギヤ２７１６と、駆動ギヤ２７１６と噛合して回転する従動ギヤ２７１８と、従動ギヤ２７１８と一体回転する駆動プーリ２７２０と、駆動プーリ２７２０とは左右方向の反対側で下ベース板２７１２の右端部付近に配置される従動プーリ２７２２と、従動プーリ２７２２と駆動プーリ２７２０とに巻き掛けられる横行用ベルト２７２４と、を備えており、横行用ベルト２７２４の所定位置に左側の後横行体２５１４（２５１４Ｌ）の連結部２５１０ｇが連結固定されている。

【０４６５】

また、後下駆動ユニット２７１０は、下ベース板２７１２の左端部上面に固定され従動ギヤ２７１８及び駆動プーリ２７２０を回転可能に軸支する板状の軸支部材２７２６（図１０１を参照）と、軸支部材２７２６によって下面が閉鎖されるような箱状に形成され、駆動ギヤ２７１６、従動ギヤ２７１８及び駆動プーリ２７２０を収容すると共に上面に後左駆動モータ２７１４が取付けられる左ケース部材２７２８（図９２等を参照）と、を更に備えている。

【０４６６】

更に、後下駆動ユニット２７１０は、駆動プーリ２７２０と従動プーリ２７２２とに巻き掛けられた横行用ベルト２７２４の環内に配置されると共に下ベース板２７１２に左右方向へ摺動可能に保持され、従動プーリ２７２２を回転可能に支持する従動プーリ支持部材２７３０と、従動プーリ支持部材２７３０を駆動プーリ２７２０とは反対方向へ移動するように付勢するテンションばね２７３２と、テンションばね２７３２の駆動プーリ２７２０側端部を保持し下ベース部材２７１２に固定されるばね保持部材２７３４と、を更に備えている。この後下駆動ユニット２７１０は、テンションばね２７３２の付勢力によって従動プーリ２７２２が駆動プーリ２７２０と離反する方向に付勢されており、その付勢力によって横行用ベルト２７２４に所定のテンションが付与されるようになっている。

【０４６７】
この後下駆動ユニット２７１０は、図示するように、上後レール２５２０ｂが下ベース板２７１２の下側に支持されていると共に、駆動ギヤ２７１６、従動ギヤ２７１８、駆動プーリ２７２０、従動プーリ２７２２、及び横行用ベルト２７２４が、下ベース板２７１２の上側に配置されている。また、本例の下ベース板２７１２は、所定厚さの金属板をプレス成形したものを用いた剛性の高いものとなっており、上後レール２５２０ｂ、駆動プーリ２７２０や従動プーリ２７２２等がガタついたり変形したりすることなく、しっかり支持することができるようになっている。
【０４６８】
一方、後横行体駆動ユニット２７００における後上駆動ユニット２７５０は、下ベース板２７１２の上方に配置され左右方向に延びると共に左端部が後下駆動ユニット２７１０における左ケース部材２７２８の上面に固定される板状の上ベース板２７５２と、上ベース板２７５２の右端部上面に配置され下方へ延出するように回転軸が配置された後右駆動モータ２７５４と、後右駆動モータ２７５４の回転軸と一体回転する駆動ギヤ２７５６と、駆動ギヤ２７５６と噛合して回転する従動ギヤ２７５８と、従動ギヤ２７５８と一体回転する駆動プーリ２７６０と、駆動プーリ２７６０とは左右方向の反対側で上ベース板２７５２の左端部付近に配置される従動プーリ２７６２と、従動プーリ２７６２と駆動プーリ２７６０とに巻き掛けられる横行用ベルト２７６４と、を備えており、横行用ベルト２７６４の所定位置に右側の後横行体２５１４（２５１４Ｒ）の連結部２５１０ｇが連結固定されている。
【０４６９】
また、後上駆動ユニット２７５０は、下ベース板２７１２の右端部上面に固定され従動ギヤ２７５８及び駆動プーリ２７６０を回転可能に軸支する板状の軸支部材２７６６（図１０２を参照）と、軸支部材２７６６によって下面が閉鎖されるような箱状に形成されると共に後下駆動ユニット２７１０における左ケース部材２７２８と略同じ高さに形成され、駆動ギヤ２７１６、従動ギヤ２７１８及び駆動プーリ２７２０を収容すると共に上面に上ベース板２７５２の右端部が載置固定される右ケース部材２７６８（図９２等を参照）と、を更に備えている。
【０４７０】
更に、後上駆動ユニット２７５０は、駆動プーリ２７６０と従動プーリ２７６２とに巻き掛けられた横行用ベルト２７６４の環内に配置されると共に上ベース板２７５２に左右方向へ摺動可能に保持され、従動プーリ２７６２を回転可能に支持する従動プーリ支持部材２７７０と、従動プーリ支持部材２７７０を駆動プーリ２７６０とは反対方向へ移動するように付勢するテンションばね２７７２と、テンションばね２７７２の駆動プーリ２７６０側端部を保持し上ベース部材２７５２に固定されるばね保持部材２７７４と、を更に備えている。この後上駆動ユニット２７５０では、テンションばね２７７２の付勢力によって従動プーリ２７６２が駆動プーリ２７６０と離反する方向に付勢されており、その付勢力によって横行用ベルト２７６４に所定のテンションが付与されるようになっている。
【０４７１】
この後上駆動ユニット２７５０は、図示するように、駆動ギヤ２７５６、従動ギヤ２７５８、駆動プーリ２７６０、従動プーリ２７６２、及び横行用ベルト２７６４が、上ベース板２７５２の下側に配置されている。また、本例の上ベース板２７５２は、所定厚さの金属板をプレス成形したものを用いた剛性の高いものとなっており、駆動プーリ２７６０や従動プーリ２７６２等がガタついたり変形したりすることなく、しっかり支持することができるようになっている。更に、上ベース板２７５２は、左右方向の長さが、上後レール２５２０ｂの長さよりも短い長さとされている。
【０４７２】
本例の後横行体駆動ユニット２７００は、図示するように、後下駆動ユニット２７１０と後上駆動ユニット２７５０とが、左右方向の両端に配置される左ケース部材２７２８、右ケース部材２７６８、及び左右方向の略中央に配置される支持部材２７０２（図９９及

び図１００を参照）によって、上下方向に対して略平行に配置固定されている。また、後下駆動ユニット２７１０及び後上駆動ユニット２７５０における駆動プーリ２７２０，２７６０と従動プーリ２７２２，２７６２との間隔は、略同じ間隔とされており、横行体２５１０の左右方向の幅に対して約４倍の間隔とされていると共に、上後レール２５２０ｂの長さに対して約０．８倍の間隔とされている。

【０４７３】

更に、後横行体駆動ユニット２７００は、後下駆動ユニット２７１０における駆動プーリ２７２０が上後レール２５２０ｂの左端付近に配置されていると共に、後上駆動ユニット２７５０における駆動プーリ２７６０が上後レール２５２０ｂの右端付近に夫々配置されており、後下駆動ユニット２７１０と後上駆動ユニット２７５０とでは、横行体２５１０の横行範囲が左右方向の中央に対して、左側と右側とに夫々オフセットした状態となっている。つまり、後下駆動ユニット２７１０によって横行させられる左側の後横行体２５１４（２５１４Ｌ）は、上後レール２５２０ｂの左端から右端近傍までの間を移動することができ、後上駆動ユニット２７５０によって横行させられる右側の後横行体２５１４（２５１４Ｒ）は、上後レール２５２０ｂの右端から左端近傍までの間を移動することができるようになっている。

【０４７４】

なお、本例の横行体ユニット２５００における各駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４は、夫々回転位置を特定可能なステッピングモータとされており、周辺制御基板３１００によって、回転位置、すなわち、横行体２５１０の横行位置（移動位置）がフィードバック制御されるようになっていると共に、各横行体２５１０の検知片２５１０ｋが対応する開位置センサ２８１０，２８１１，２８１２，２８１３検知されることで原点設定が行われるようになっている。

【０４７５】

続いて、本実施形態の横行体ユニット２５００における下レールユニット２８００は、図９２及び図９３等に示すように、左右方向の長さが上前レール２５２０ａ及び上後レール２５２０ｂと略同じ長さとされ、上方及び後方が開放された箱状の下レール本体２８０２と、下レール本体２８０２内に配置されると共に、下レール本体２８０２の前端内側との間で横行体２５１０の下案内部２５１０ｄを挿入可能な隙間を形成する板状の中レール２８０４と、下レール本体２８０２の後端を閉鎖する後端部材２８０６と、を備えている。なお、後端部材２８０６は、左右方向の略中央で二つに分割された形態となっている。

【０４７６】

また、下レールユニット２８００は、下レール本体２８０２における底部の所定位置に、横行体ユニット２５００における右側の前横行体２５１２が開位置の時にその検知片２５１０ｋを検知可能な前右開位置センサ２８１０と、左側の前横行体２５１２が開位置の時にその検知片２５１０ｋを検知可能な前左開位置センサ２８１１と、右側の後横行体２５１４が開位置の時にその検知片２５１０ｋを検知可能な後右開位置センサ２８１２と、左側の後横行体２５１４が開位置の時にその検知片２５１０ｋを検知可能な後左開位置センサ２８１３と、右側の後横行体２５１４が閉位置の時にその検知片２５１０ｋを検知可能な後右閉位置センサ２８１４と、左側の後横行体２５１４が閉位置の時にその検知片２５１０ｋを検知可能な後左閉位置センサ２８１５と、を更に備えている。

【０４７７】

前右開位置センサ２８１０及び前左開位置センサ２８１１は、下レール本体２８０２の前端内側と中レール２８０４との間の所定位置に夫々配置されている。また、後右開位置センサ２８１２、後左開位置センサ２８１３、後右閉位置センサ２８１４、及び後左閉位置センサ２８１５は、中レール２８０４と後端部材２８０６との間の所定位置に夫々配置されている。

【０４７８】

更に、下レールユニット２８００は、前右開位置センサ２８１０、前左開位置センサ２８１１、後右開位置センサ２８１２、後左開位置センサ２８１３、後右閉位置センサ２８

１４、後左閉位置センサ２８１５、及び後横行体２５１４における配線部材２５１０ｊが電気的に接続され、下レール本体２８０２の後端略中央に配置された中央中継端子板２８０８を更に備えている。この中央中継端子板２８０８によって、各センサ２８１０，２８１１，２８１２，２８１３，２８１４，２８１５等が周辺制御基板３１００と接続されるようになっている。

【０４７９】

この下レールユニット２８００は、前横行体２５１２の下案内部２５１０ｄを、下レール本体２８０２の前端内側と中レール２８０４との間に挿入することで、前横行体２５１２の下端が前後方向へ移動するのを規制した状態で左右方向へ前横行体２５１２を案内することができるようになっている。また、この下レールユニット２８００は、裏ケース２１５０に取付けることで、中レール２８０４と、裏ケース２１５０における開口部２１５２の下縁との間に、後横行体２５１２の下案内部２５１０ｄが挿通可能な隙間を形成することができ、而して、その隙間により、後横行体２５１４の下端が前後方向へ移動するのを規制した状態で左右方向へ後横行体２５１４を案内することができるようになっている。

【０４８０】

本実施形態の横行体ユニット２５００は、上述した構成により、各駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４を回転駆動させることで、各横行体２５１０を夫々独立して左右方向へ移動（横行）させることができるようになっている。従って、図７４等にも示すように、後横行体駆動ユニット２７００における二つの後横行体２５１４を、左右方向の略中央で互いに当接した位置にすると共に、前横行体駆動ユニット２６００における二つの前横行体２５１２（２５１２Ｒ，２５１２Ｌ）を、正面視で後横行体２５１４の両端と若干重なるように、二つの後横行体２５１４（２５１４Ｒ，２５１４Ｌ）の左右外側に夫々位置させることにより、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面側を被覆することができるようになっている。本例では、各横行体２５１０を上述した配置とすることで、遊技者に対して違和感の無い状態となるようになっている。また、四つの横行体２５１０が、液晶表示装置６４０の前面を被覆した状態では、後横行体２５１２が左右方向の中央に、前横行体２５１４が後横行体２５１４の左右方向外側に配置された状態となるので、中央に配置された横行体２５１０が遊技者側から遠ざかった位置となり、遊技者に対して閉塞感を与えてしまうのを抑制することができるようになっている。

【０４８１】

また、横行体ユニット２５００は、右側の前横行体２５１２（２５１２Ｒ）及び後横行体２５１４（２５１４Ｒ）を上前レール２５２０ａ及び上後レール２５２０ｂの右側端部に、左側の前横行体２５１２（２５１２Ｌ）及び後横行体２５１４（２５１４Ｌ）を上前レール２５２０ａ及び上後レール２５２０ｂの左側端部に夫々位置させることで、各横行体２５１０を正面視で液晶表示装置６４０の前面と略重ならない位置とすることができ、液晶表示装置６４０を遊技者に露出させることができるようになっている（図１０６及び図１０８等を参照）。

【０４８２】

更に、この横行体ユニット２５００における前横行体駆動ユニット２６００では、前下駆動ユニット２６１０により右側の前横行体２５１２（２５１２Ｒ）が上前レール２５２０ａの右側端部から左右方向の中央を越えて反対側（左側）へ移動することができると共に、前上駆動ユニット２６５０により左側の前横行体２５１２（２５１２Ｌ）が上前レール２５２０ａの左側端部から左右方向の中央を越えて反対側（右側）へ移動することができるようになっており、液晶表示装置６４０の前面の広い範囲内を夫々の前横行体２５１２が、左右方向へ移動することができるようになっている。なお、二つの前横行体２５１２は、一つの上前レール２５２０ａにより案内されているので、右側又は左側の前横行体２５１２が、他の前横行体２５１２を越えて左右方向の反対側へ移動することができないようになっている。

【０４８３】

また、横行体ユニット２５００における後横行体駆動ユニット２７００でも、後下駆動ユニット２７１０により左側の後横行体２５１４（２５１４Ｌ）が上後レール２５２０ｂの左側端部から左右方向の中央を越えて反対側（右側）へ移動することができると共に、後上駆動ユニット２７５０により右側の後横行体２５１４（２５１４Ｒ）が上後レール２５２０ｂの右側端部から左右方向の中央を越えて反対側（左側）へ移動することができるようになっており、液晶表示装置６４０の前面の広い範囲内を夫々の後横行体２５１４が、左右方向へ移動することができるようになっている。なお、二つの後横行体２５１４は、一つの上後レール２５２０ｂにより案内されているので、右側又は左側の後横行体２５１４が、他の後横行体２５１４を越えて左右方向の反対側へ移動することができないようになっている。

【０４８４】

なお、上述したように、各横行体２５１０は、左右方向へ夫々独立して移動することができるので、上述の組合せ以外でも液晶表示装置６４０の前面を被覆することができ（例えば、図１１４を参照）、横行体２５１０の組合せにより、遊技状態等を示唆させるようにしても良く、横行体２５１０の動きだけでなく、液晶表示装置６４０の被覆状態によっても遊技者を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができるようになっている。

【０４８５】

＜主基板及び周辺制御基板による制御構成＞

本実施形態のパチンコ機１における主基板３０００及び周辺制御基板３１００による詳細な制御構成について、主に図１０３及び図１０４を参照して説明する。図１０３は、パチンコ機における主基板周辺の制御構成を概略的に示すブロック図である。図１０４は、パチンコ機における周辺制御基板周辺の制御構成を概略的に示すブロック図である。なお、これらの図面において太線の矢印は電源の接続および方向を示し、細線の矢印は信号の接続および方向を示している。

【０４８６】

本実施形態のパチンコ機１の制御は、大きく分けて主制御基板１３５０及び払出制御基板１１８６を含む主基板３０００のグループと、周辺制御基板３１００のグループとで分担されている。主基板３０００のグループは遊技動作（入賞検出や当り判定、特別図柄表示、賞球払出等）を制御しており、周辺制御基板３１００のグループは演出動作（発光装飾や可動演出、音響出力、液晶表示等）を制御している。

【０４８７】

図１０３に示すように、主基板３０００の主制御基板１３５０には、中央演算装置としてのＣＰＵ３００２、読み出し専用メモリとしてのＲＯＭ３００４および読み書き可能メモリとしてのＲＡＭ３００６を備えている。このＣＰＵ３００２は、ＲＯＭ３００４に格納されている制御プログラムを実行することによりパチンコ機１で行われる各種遊技を制御したり、周辺制御基板３１００や払出制御基板１１８６に出力するコマンド信号を作成したりする。また、ＲＡＭ３００６には、主制御基板１３５０で実行される種々の処理において生成される各種データや入力信号等の情報が一時的に記憶される。なお、主制御基板１３５０は、中継端子板６２５、払出制御基板１１８６、及び電源中継端子板３００８を介して電源基板３０１０に接続されており、電源基板３０１０から作動用電力が供給されるようになっている。

【０４８８】

この主制御基板１３５０の入力インタフェースには、パネル中継端子板１３５２を介して、ゲート入口１４０４へ進入した遊技球を検出するゲートセンサ３０１２、一般入賞口１５０２に入賞した遊技球を検出する一般入賞口センサ２１１０、第一始動口１５０４に入賞した遊技球を検出する第一始動口センサ２１１２、第二始動口１５０６に入賞した遊技球を検出する第二始動口センサ１５２２、大入賞口１５１０に入賞した遊技球を検出するカウントセンサ１５２４、ステージ始動口２２２０に入賞した遊技球を検出するステージ始動口センサ２１１４、及び、全ての入賞口に対する入賞数をカウントするための全入

賞口入賞数検出センサ２５２０が接続されている。なお、図１０３での図示は省略するが、パネル中継端子板１３５２を介して遊技盤４に近付けられた不正な磁気を検知する磁気センサ２１１６も接続されている。

【０４８９】

また、主制御基板１３５０の入力インタフェースには、中継端子板６２５を介して、遊技球を遊技領域６０５へ打ち込むための遊技者によって操作される操作ハンドル部４６１の操作状態を検出する操作センサ３０１６、本体枠３の開放状態を検出する本体枠開放スイッチ３０１８、及び扉枠５の開放状態を検出する扉枠開放スイッチ３０２０も接続されている。

【０４９０】

一方、パネル中継端子板１３５２の出力インタフェースには、第二始動口１５０６を開閉可能な一対の可動片１５０８を開閉駆動する始動口ソレノイド１５１６、及び大入賞口１５１０を閉鎖可能な開閉片１５１２を開閉駆動するアタッカソレノイド１５１８が接続されており、主制御基板１３５０から駆動信号が出力されるようになっている。また、パネル中継端子板１３５２の出力インタフェースには、状態表示基板３０２２を介して、普通図柄表示器１８０６、第一及び第二特別図柄表示器１８０２，１８０４、普通図柄記憶数表示器１８１２、第一及び第二特別図柄記憶数表示器１８０８，１８１０が接続されており、主制御基板１３５０から、状態表示器１８００に備えられた普通図柄表示器１８０６や第一及び第二特別図柄表示器１８０２，１８０４等へ駆動信号を出力することが可能になっている。

【０４９１】

一方、払出制御基板１１８６は、中央演算装置としてのＣＰＵ３０２４、読み出し専用メモリとしてのＲＯＭ３０２６および読み書き可能メモリとしてのＲＡＭ３０２８を備えている。そして、払出制御基板１１８６は、主基板１３５０から入力したコマンド信号を処理し、払出モータ８１５や、発射制御基板３０３０に接続された発射モータ６９５に対して駆動信号を出力する。これにより、払出モータ８１５は、駆動信号に従って遊技球を払い出し、発射モータ６９５は駆動信号に従って遊技球を発射させることが可能になる。

【０４９２】

なお、払出制御基板１１８６には、賞球タンク７２０内に貯留された遊技球が無くなったことを検出する球切れスイッチ７７８が接続されており、この球切れスイッチ７７８の検出に基づいて、遊技者及びホール側（ホールコンピュータ）へ球切れの報知がなされる。また、払出制御基板１１８６には、皿ユニット３００の貯留部３８１に貯留された遊技球が満タンになったことを検出する満タンスイッチ９１６が接続されており、この満タンスイッチ９１６の検出に基づいて、「遊技球を貯留部から取り出して下さい」旨の報知がなされるようになっている。

【０４９３】

また、主制御基板１３５０と払出制御基板１１８６との間では、それぞれの入出力インタフェースを介して双方向通信が実施されており、たとえば主基板１３５０が賞球コマンドを送信すると、これに応えて払出制御基板１１８６から主制御基板１３５０にＡＣＫ信号が返されるようになっている。

【０４９４】

更に、主制御基板１３５０および払出制御基板１１８６には、外部端子板３０３２が接続されており、始動口１５０４，１５０６，２２２０や大入賞口１５１０等への入賞状態、普通図柄・特別図柄の変動状態および各抽選結果に基づく遊技状態等の各種情報が、遊技施設に設けられたホールコンピュータ等へ出力されるようになっている。

【０４９５】

一方、周辺制御基板３１００は、図１０４に示すように、ＣＰＵ３１０２をはじめＲＯＭ３１０４やＲＡＭ３１０６等の電子部品を有しており、これら電子部品によって所定の演出制御プログラムを実行することが可能となっている。また、周辺制御基板３１００には、音声や音楽の基となる音源を記憶したＲＯＭ３１０８と、ＲＯＭ３１０８に記憶され

た音源を基に、演出内容等に応じた音声や音楽を出力する音源ＩＣ３１１０とが設けられている。なお、上記の主基板３０００と周辺制御基板３１００との間では、それぞれの入出力インタフェースと入力インタフェースとの間で一方向だけの通信が行われており、主制御基板１３５０から周辺制御基板３１００へのコマンド送信はあっても、その逆は行われないようになっている。また、周辺制御基板３１００に対しても電源中継端子板３００８を介して電源基板３０１０から作動用電力が供給されるようになっている。

【０４９６】

なお、本例の周辺制御基板３１００は、図７８に示すように、周辺制御基板ボックス２０５０内に封入されると共に、盤用基板ホルダ６２３の内部に配置されており、充分に放熱することができない虞があるので、周辺制御基板３１００の電子回路を構成する電子部品のうち、複数の抵抗器を周辺制御基板３１００とは分離して、放熱性を充分に確保することができる位置（裏ケース２１５０の後面側部）に配置するようにしており、それら複数の抵抗器を備えた抵抗基板２１５４が双方向に接続されている。これにより、周辺制御基板３１００での温度上昇を抑制することができ、ＣＰＵ３１０２等が熱影響を受けて遊技に係る演出制御に不具合が発生するのを防止することができるようになっている。

【０４９７】

この周辺制御基板３１００には、液晶表示装置６４０での演出画像の表示を制御する液晶表示制御基板３１１２が接続されている。この液晶表示制御基板３１１２には、液晶表示装置６４０が接続されており、液晶表示制御基板３１１２で周辺制御基板３１００から送信されたコマンド信号を処理し、液晶表示装置６４０に対して駆動信号を出力する。詳しく説明すると、液晶表示制御基板３１１２には、ＣＰＵ３１１４、ＲＡＭ３１１６、ＲＯＭ３１１８、ＶＤＰ３１２０及び画像ＲＯＭ３１２２が備えられている。

【０４９８】

液晶表示制御基板３１１２のＣＰＵ３１１４は、周辺制御基板３１００から送られてきたコマンド信号を、入出力インタフェースを介して受信すると共に、そのコマンドを基に演算処理を行って、ＶＤＰ３１２０の制御を行う。ＲＡＭ３１１６は、ＣＰＵ３１１４の作業領域を提供すると共に、表示コマンドに含まれる情報を一時的に記憶する。また、ＲＯＭ３１１８は、ＣＰＵ３１１４用（表示制御用）のプログラムを保持する。

【０４９９】

また、ＶＤＰ（ビデオディスプレイプロセッサ）３１２０は、液晶表示装置６４０に組み込まれたＬＣＤドライバ（液晶駆動回路）を直接操作する描画回路である。ＶＤＰ３１２０の内部には、レジスタが設けられており、ＶＤＰ３１２０の動作モードや各種表示機能の設定情報等を保持しておくことが可能となっている。そして、このレジスタに保持される各種情報をＣＰＵ３１１４が書き換えることにより、液晶表示装置６４０における表示態様を種々に変化させることが可能となる。画像ＲＯＭ３１２２は、各種の画像データを記憶する不揮発性メモリであり、各種の表示図柄のビットマップ形式画像データおよび背景画像用のＪＰＥＧ形式画像データ等が記憶されている。

【０５００】

なお、周辺制御基板３１００と液晶表示制御基板３１１２との間では、それぞれの入出力インタフェースとの間で双方向に通信が行われる。また、液晶表示制御基板３１１２に対しても、周辺制御基板３１００及び電源中継端子板３００８を介して電源基板３０１０から作動用電力が供給されるようになっている。

【０５０１】

また、周辺制御基板３１００には、枠装飾中継端子板２９０を介して、扉枠５に備えられた扉枠装飾ランプ３１２４、及びスピーカ１６３等が接続されており、周辺制御基板３１００から、これらランプやスピーカ１６３等に対して駆動信号が出力されるようになっている。また、周辺制御基板３１００には、枠装飾中継端子板２９０を介して、扉枠５の前面に配置された左ボタン３３０ａ、中ボタン３３０ｂ、右ボタン３３０ｃからなる操作ボタン３３０が夫々接続されており、各操作ボタンの操作信号が入力されるようになっている。

【０５０２】
更に、周辺制御基板３１００には、センター役物１４００におけるメイン装飾体１４２２を発光装飾させるメイン装飾基板３１２６、センター役物１４００における回転装飾体１４２４を回転させる花弁用モータ３１２８、回転装飾体１４２４を発光装飾させる回転体装飾基板１４２４ｂ、アタッカユニット１５００を発光装飾させるアタッカユニット装飾基板３１３０、サイド装飾体１６００を発光装飾させるサイド装飾基板２０１０、及びステージ部材２２００やセンター役物１４００におけるサブ装飾体１４２６を発光装飾させるステージ装飾基板２０１２が接続されている。そして、周辺制御基板３１００から花弁用モータ３１２８に対して駆動信号を出力することで、花弁用モータ３１２８を駆動して回転装飾体１４２４を回転させることができるようになっている。また、周辺制御基板３１００は、各装飾基板３１２６，１４２４ｂ，３１３０，２０１０，２０１２に実装されたＬＥＤに対して駆動信号を出力することで各ＬＥＤを適宜発光駆動させて発光装飾（発光演出）させることができるようになっている。
【０５０３】
また、周辺制御基板３１００には、物体検知センサ１４２８が双方向に接続されており、所定の遊技状態の時に物体検知センサ１４２８の発光部１４２８ａを発光させると共に、受光部１４２８ｂでの検知信号を受付けるようにして、遊技領域６０５前方の所定範囲内で、上下方向へ移動する遊技者の手等を検知することができるようになっている。
【０５０４】
更に、周辺制御基板３１００には、揺動体中継基板２３４０を介して揺動体ソレノイド２３２２、及び揺動体装飾基板２３２８が夫々接続されており、揺動体ソレノイド２３２２及び揺動体装飾基板２３２８へ駆動信号を出力することで、揺動体ソレノイド２３２２を駆動して複数の揺動体２３１０を揺動させたり、揺動体装飾基板２３２８に実装されたＬＥＤを発光駆動して複数の揺動体２３１０を発光装飾させたりすることができるようになっている。
【０５０５】
また、周辺制御基板３１００には、横行体中継基板２１５６を介して横行体ユニット２５００における前右駆動モータ２６１４、前左駆動モータ２６５４、後左駆動モータ２７１４、及び後右駆動モータ２７５４が夫々双方向接続されており、各駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４へ駆動信号を出力すると共に、各駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４のエンコーダからの回転位置情報が入力されるようになっている。これにより、各駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４の回転駆動をフィードバック制御して、前横行体２５１２や後横行体２５１４の横行位置（移動位置）を高精度で左右方向へ横行させることができるようになっている。
【０５０６】
更に、周辺制御基板３１００には、中央中継端子板２８０８を介して横行体装飾基板２５１１が接続されており、横行体装飾基板２５１１に実装されたＬＥＤに対して駆動信号を出力することで、後横行体２５１４の装飾部２５１０ｈを発光装飾させることができるようになっている。また、周辺制御基板３１００には、中央中継端子板２８０８を介して横行体ユニット２５００における下レールユニット２８００に配置された前右開位置センサ２８１０、前左開位置センサ２８１１、後右開位置センサ２８１２、後左開位置センサ２８１３、後右閉位置センサ２８１４、及び後左閉位置センサ２８１５が接続されており、各位置センサ２８１０，２８１１，２８１２，２８１３，２８１４，２８１５から入力された検知信号に基いて各駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４を制御するようになっている。
【０５０７】
［主な演出動作］
上述した遊技盤４の構成を用いた主な演出動作について図１０５乃至図１１８を参照して説明する。図１０５（ａ）はセンター役物におけるサブ装飾体付近を拡大して示す正面図であり、（ｂ）はサブ装飾体における表示部の表示態様を示す説明図である。図１０６

は、横行体を全開状態とした遊技盤の正面図であり、図１０７は、横行体を全開状態とすると共に揺動体を露出揺動させた状態を示す遊技盤の正面図である。また、図１０８は、複数の横行体が液晶表示装置の前面を被覆した状態から露出（全開）した状態までの横行体の動きの一例を示す説明図であり、図１０９は、図１０８とは異なる複数の横行体により液晶表示装置の前面を被覆する動きの例を示す説明図である。また、図１１０は、横行体の移動可能範囲を示す説明図であり、図１１１は、前後方向の何れか一方の横行体が他方の横行体を追抜く動きの例を示す説明図であり、図１１２は、前後方向の異なる位置に配置された横行体同士がクロスするような動きの例を示す説明図である。更に、図１１３は、図１０８や図１０９とは異なる複数の横行体により液晶表示装置の前面を被覆する動きの例を示す説明図であり、図１１４は、複数の横行体により液晶表示装置の前面を被覆する更に異なる動きの例を示す説明図である。図１１５は、図１１４の（キ）の状態から液晶表示装置が全開となるまでの横行体の動きの例を示す説明図である。また、図１１６は、液晶表示装置の前面を被覆した状態における横行体の動きの例を示す説明図であり、図１１７は、二つの横行体が接した状態での動きの例を示す説明図であり、図１１８は、液晶表示装置の前面で三つの横行体が所定間隔で並ぶ動きの例を示す説明図である。

【０５０８】

まず、センター役物１４００におけるサブ装飾体１４２６の動作について説明する。センター役物１４００におけるサブ装飾体１４２６は、図１０５（ａ）に示すように、花札を模した札部１４２６ｂを備えており、この札部１４２６ｂは、四角形の枠体１４２６ｃと、枠体１４２６ｃの枠内を閉鎖すると共に透光性を有した白色板状の表示部１４２６ｄと、表示部１４２６ｄの後側で上下方向の略中央に配置され左右方向の中央が高くなった円弧状の第一隔壁１４２６ｅと、第一隔壁１４２６ｅの上側に配置された円筒状の第二隔壁１４２６ｆとで構成されている。また、このサブ装飾体１４２６における札部１４２６ｂは、遊技盤４に取付けられた状態で、後側に裏ユニット２０００におけるステージ装飾基板２０１２の一部が望むようになっている。そして、ステージ装飾基板２０１２に備えられた対応するＬＥＤを適宜発光させることで、札部１４２６ｂにおける枠体１４２６ｃの内側の表示部１４２６ｄに、花札の図柄として、「柄無し」、「芒」や「芒に月」の三つの図柄を表示させることができるようになっている。

【０５０９】

具体的には、札部１４２６ｂにおける表示部１４２６ｄの後側に配置されたステージ装飾基板２０１２のＬＥＤを全て同一色に点灯、或いは、全て消灯させることで、図１０５（ｂ）の（ア）に示すような「柄無し」の札部１４２６ｂとすることができる。なお、札部１４２６ｂと対応するＬＥＤは、白色以外に様々な色を発光可能なカラーＬＥＤとされており、点灯させる色に応じて、白色の「柄無し」だけでなく、有色の「柄無し」とすることができ、色によって示唆するものを異ならせてより多様な演出表示をさせることができるようになっている。

【０５１０】

一方、札部１４２６ｂにおける円弧状の第一隔壁１４２６ｅよりも下側のＬＥＤを非点灯（消灯）とすると共に、第一隔壁１４２６ｅよりも上側のＬＥＤを全て同一色（例えば、白色）に点灯させることで、同図（ｂ）の（イ）に示すような「芒」の図柄を表示させることができる。更に、その状態で、第一隔壁１４２６ｅよりも上側のＬＥＤを第二隔壁１４２６ｆ内側と外側とで発光色を異ならせることで、同図（ｂ）の（ウ）に示すような「芒に月」の図柄を表示させることができる（例えば、第二隔壁１４２６ｆの内側を白色、外側を赤色に夫々発光させる）。

【０５１１】

このように、サブ装飾体１４２６における札部１４２６ｂの後側に配置されたＬＥＤを適宜発光させることで、表示部１４２６ｄに複数種類の図柄を表示させることができるので、図柄の表示を楽しませることができると共に、遊技状態や、各始動口１５０４，１５０６，２２２０への遊技球の入賞による抽選結果等に応じて適宜の図柄を表示させることで、表示された図柄により遊技に対する期待感を高めることができ、遊技に対する興趣が

低下するのを抑制することができるようになっている。

【０５１２】

次に、裏ユニット２０００における揺動体ユニット２３００の動作について説明する。この揺動体ユニット２３００は、通常の遊技状態では、図１０６に示すように、センター役物１４００におけるメイン装飾体１４２２の後側（直後）に位置し、遊技者側からは見辛い位置となっている。なお、図示するように、揺動体ユニット２３００における揺動体２３１０が部分的に遊技者側から見えるようになっているので、静止している揺動体２３１０が所定の遊技状態になると、遊技者から良く見える位置に出てくるものと思わせることが可能となり、何時揺動体２３１０が動くかで揺動体２３１０に対して期待感を抱かせることができ、揺動体２３１０に注目させて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができるようになっている。

【０５１３】

本例の揺動体ユニット２３００は、二つの揺動体２３１０を夫々支持した第一揺動機構２３２０ａ、第二揺動機構２３２０ｂ、及び第三揺動機構２３２０ｃからなる揺動機構２３２０を有している。そして、遊技状態に応じて、第一揺動機構２３２０ａ、第二揺動機構２３２０ｂ、及び第三揺動機構２３２０ｃに備えられた揺動体ソレノイド２３２２が駆動させられると、それらに支持された各揺動体２３１０が、メイン装飾体１４２２の後側から液晶表示装置６４０の前面側へと移動して、図１０７に示すように、遊技者から視認可能となる位置へ移動すると共に、各揺動体２３１０が夫々軸支されているので、揺動体ソレノイド２３２２による駆動停止後も、慣性力によって暫く揺動することとなり、揺れ動く揺動体２３１０によって、揺動体２３１０の動きをより楽しませることができるようになっていると共に、遊技者の関心を強く引き付けることができるようになっている。

【０５１４】

続いて、裏ユニット２０００における横行体ユニット２５００の動作について説明する。この横行体ユニット２５００は、センター役物１４００の後側で且つ液晶表示装置６４０の前側に配置され左右方向へ横行可能な四つの横行体２５１０を備えている。横行体ユニット２５００は、四つの横行体２５１０が二つずつ前後に分かれて配置されており、前側に配置された前横行体２５１２（前横行体右２５１２Ｒ、前横行体左２５１２Ｌ）を左右方向へ横行させる前横行体駆動ユニット２６００と、前横行体２５１２よりも後側に配置された後横行体２５１４（後横行体右２５１４Ｒ、後横行体２５１４Ｌ）を左右方向へ横行させる後横行体駆動ユニット２７００とを備えている。そして、各横行体２５１０（２５１２，２５１４）は、前横行体駆動ユニット２６００及び後横行体駆動ユニット２７００によって、センター役物１４００の枠内よりも外側へ移動して遊技者から視認不能となる位置（視認不能領域Ａ２）と、センター役物１４００の枠内で液晶表示装置６４０の前面に位置して遊技者から視認可能となる位置（視認可能領域Ａ１）との間で移動（横行）することができるようになっている。

【０５１５】

この横行体ユニット２５００における各横行体２５１０（２５１２，２５１４）は、例えば、図１０８（ア）に示すように、通常の遊技状態では、後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌが左右方向の略中央で互いに当接する位置に配置されると共に、前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌが後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌの左右両側に続くような位置に配置されており、前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌと後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌの四つの横行体２５１０によって、液晶表示装置６４０の前面が被覆された状態、つまり、複数の横行体２５１０が閉じられた状態となっている。

【０５１６】

そして、液晶表示装置６４０の前面が四つの横行体２５１０によって閉じられた状態から、まず、後横行体駆動ユニット２７００の駆動モータ２７１４，２７５４を適宜方向へ回転駆動させて、左側の後横行体左２５１４Ｌを左側へ、右側の後横行体右２５１４Ｒを右側へ略同時に移動させる（同図（イ）を参照）。そして、後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌが前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌと略重なるように位置へ移動したら、更に、前移

動体駆動ユニット２６００の駆動モータ２６１４，２６５４を適宜方向へ回転駆動させ、右側の前横行体右２５１２Ｒを右側へ、左側の前横行体左２５１２Ｌを左側へ移動させる。これにより、右側及び左側の前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌと後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌが夫々重なった状態で、移動することとなる（同図（ウ）を参照）。

【０５１７】

その後、各横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌ，２５１４Ｒ，２５１４Ｌの検知片２５１０ｋが、夫々の対応する開位置センサ２８１０，２８１１，２８１２，２８１３に検出されると、夫々の駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４を停止させる。これにより、前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌ及び後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌが、センター役物１４００の枠内（視認可能領域Ａ１）から外側へ移動して液晶表示装置６４０の前面と重ならない位置（視認不能領域Ａ２）、つまり、複数の横行体２５１０が開かれた状態となり、液晶表示装置６４０の表示画面が遊技者側に対して完全に露出した（開かれた）状態となる（同図（エ）を参照）。

【０５１８】

ところで、液晶表示装置６４０の前面が横行体２５１０によって閉じられた状態から、完全に開かれた状態となる各横行体２５１０の動作としては、図１０８に示した例の他に、例えば、図１０９に示す例のような動作としても良い。具体的には、図１０９に示すように、まず、液晶表示装置６４０の前面が四つの横行体２５１０によって閉じられた状態（同図（ア）を参照）から各横行体駆動ユニット２６００，２７００の駆動モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４を適宜方向へ回転駆動させて、右側の前横行体右２５１２Ｒ及び後横行体右２５１４Ｒを右方向へ、左側の前横行体左２５１２Ｌ及び後横行体左２５１４Ｌを左方向へ、略同時に移動させて、左右方向の中央から横行体２５１０が左右へ開くように移動させる（同図（イ）を参照）。そして、はじめに前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌの検知片２５１０ｋが、前右開位置センサ２８１０及び前左開位置センサ２８１１によって夫々検知されると、前右駆動モータ２６１４及び前左駆動モータ２６５４を夫々停止させる（同図（ウ）を参照）。その後も後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを更に移動させ、後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌの検知片２５１０ｋが、後右開位置センサ２８１２及び後左開位置センサ２８１３によって夫々検出されると、後左駆動モータ２７１４及び後右駆動モータ２７５４を夫々停止させる（同図（エ）を参照）。これによっても、前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌ及び後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌが、センター役物１４００の枠内から外側へ移動して複数の横行体２５１０が開かれた状態となり、液晶表示装置６４０の表示画面が遊技者側に対して完全に露出した状態とすることができる。

【０５１９】

なお、図示は省略するが、液晶表示装置６４０が露出した状態（複数の横行体２５１０が開かれた状態）から、横行体２５１０によって被覆された状態（複数の横行体２５１０が閉じられた状態）とする場合は、まず、はじめに後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを閉位置への横行を開始させ、続いて前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌを閉位置への横行を開始させるようにしても良いし、前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌと後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌとを略同時に閉位置への横行を開始させるようにしても良い。

【０５２０】

ところで、本実施形態の横行体ユニット２５００は、各横行体２５１０が夫々独立して左右の何れかの視認不能領域Ａ２内と視認可能領域Ａ１との間を横行することができると共に、一方の視認不能領域Ａ２から視認可能領域Ａ１における左右方向中心を挟んで反対側へ横行することができるようになっている。具体的には、図１１０に示すように、例えば、一つの横行体２５１０（図では、右側の後横行体右２５１４Ｒ）に着目した場合、右側の視認不能領域Ａ１内の後横行体右２５１４Ｒ（同図（ア）を参照）を、左方向へ移動させ（同図（イ）（ウ）を参照）、視認可能領域Ａ１の左右方向中心を跨いで反対側にある左側の視認不能領域Ａ２内の後横行体左２５１４Ｌの右端に当接するまで後横行体２５１４Ｒを移動させることができ（同図（エ）を参照）、上述した範囲を最大範囲として他

の横行体２５１０も略同様の最大範囲内で移動することができるようになっている。

【０５２１】

図１１１に示す例は、前後方向の異なる位置に配置された二つの横行体２５１０が、互いに同一方向へ移動すると共に、一方の横行体２５１０が他方の横行体２５１０に追着き追抜くような動作をする一例である。この例では、右側の視認不能領域Ａ２に前横行体右２５１２Ｒ及び後横行体右２５１４Ｒが夫々配置されると共に、左側の視認不能領域Ａ２に前横行体左２５１２１Ｌ及び後横行体左２５１４Ｌが夫々配置された状態で、右側の視認不能領域Ａ２から後横行体右２５１４Ｒが所定速度で左方向へ移動を開始する。そして、後横行体右２５１４Ｒの略全体が視認可能領域Ａ１内へ入ると、前横行体右２５１２Ｒが左方向への移動を開始する（同図（ア）を参照）。この際に、前横行体右２５１２Ｒの移動速度は、後横行体右２５１４Ｒの移動速度よりも速い速度とされている（同図（イ）を参照）。

【０５２２】

そして、上述したように、後横行体右２５１４Ｒよりも前横行体右２５１２Ｒのほうが移動速度が速いので、或る所で、後横行体右２５１４Ｒと前横行体右２５１２Ｒとが互いに前後方向に略一致した状態となり、それら横行体２５１４Ｒ，２５１２Ｒが瞬間的に重なった状態となる（同図（ウ）を参照）。この状態から更に、後横行体右２５１４Ｒ及び前横行体右２５１２Ｒが左方向へ移動し、それらの速度差によって、前横行体右２５１２Ｒが、後横行体右２５１４Ｒよりも左側へと突出して、前横行体右２５１２Ｒが後横行体右２５１４Ｒを追抜くような状態となる（同図（エ）を参照）。その後、後横行体右２５１４Ｒを追抜いた前横行体右２５１２Ｒが、左側の視認不能領域Ａ２内に配置された前横行体左２５１２Ｌの右端に当接し、移動が停止させられるとと共に、後横行体右２５１４Ｒが先に停止した前横行体右２５１２Ｒに追着いて停止することとなる（同図（オ）を参照）。

【０５２３】

このように、前後方向の異なる位置に配置された前横行体右２５１２Ｒが、後横行体右２５１４Ｒを追抜くような動きをさせることもでき、一方の横行体２５１０が他方の横行体２５１０を抜くことで、遊技者を驚かせて横行体２５１０の動きを楽しませることができると共に、遊技者に対して期待感を抱かせることができ、遊技に対する興趣を高められるようになっている。なお、この例では、前横行体右２５１２Ｒと後横行体右２５１４Ｒとを例に示したが、前横行体左２５１２Ｌと後横行体左２５１４Ｌとしても良いし、前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌと後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌとを夫々適宜組合せても良い。また、前横行体２５１２が後横行体２５１４を追抜くものを示したが、後横行体２５１４が前横行体２５１２を追抜くようにしても良い。

【０５２４】

次に、図１１２の例は、前後方向の異なる位置に配置された二つの横行体２５１０が、互いに異なる方向へ移動してクロスするような動作をする一例である。詳述すると、図１１２に示すように、まず、右側の視認不能領域Ａ２に前横行体右２５１２Ｒ及び後横行体右２５１４Ｒが夫々配置されると共に、左側の視認不能領域Ａ２に前横行体左２５１２１Ｌ及び後横行体左２５１４Ｌが夫々配置された状態とされ、各横行体２５１０が左右に開いて液晶表示装置６４０が完全に露出した状態となっている（同図（ア）を参照）。その状態で、左側の視認不能領域Ａ２内の前横行体左２５１２Ｌが右方向へ、右側の視認不能領域Ａ２の後横行体右２５１４Ｒが左方向へ、夫々略同じ速度で移動を開始する（同図（イ）を参照）。

【０５２５】

そして、視認可能領域Ａ１における左右方向の略中央で、前横行体左２５１２Ｌと後横行体右２５１４Ｒとが前後方向に略重なった状態（同図（ウ）を参照）となった後に、前横行体左２５１２Ｌが更に右側へ、後横行体右２５１４Ｒが更に左側へと移動して、重なった状態から離反した状態へと移行する（同図（エ）を参照）。その後、前横行体左２５１２Ｌが、右側の視認不能領域Ａ２に配置された前横行体右２５１２Ｒの左端に当接する

ように移動が停止すると共に、後横行体右２５１４Ｒが、左側の視認不能領域Ａ２に配置された後横行体左２５１４Ｌの右端に当接するように移動が停止する（同図（オ）を参照）。

【０５２６】

このように、前後方向の異なる位置に配置された前横行体左２５１２Ｌと後横行体右２５１４Ｒとが視認可能領域Ａ１内で、互いにクロスするような動作をさせることもでき、互いに左右方向へ離反した一方の横行体２５１０と他方の横行体２５１０とがクロスすることで、横行体２５１０にダイナミックな動きを付与することができ、遊技者を驚かせて楽しませることができるようになっている。

【０５２７】

続いて、図１１３の例は、四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面を被覆する（閉鎖する）動作において、上述の図１０８や図１０９とは異なる動きの例である。この例では、まず、図１１３（ア）に示すように、右側の視認不能領域Ａ２内から後横行体右２５１４Ｒが、視認可能領域Ａ１内で、左側の視認不能領域Ａ２に配置された後横行体左２５１４Ｌの右端と略接したような状態となっている（図１１０（エ）と同じ状態）。この状態となってから所定時間（例えば、０．５秒～３０秒）が経過すると、後横行体右２５１４Ｒと後横行体左２５１４Ｌとが夫々同じ速度で右方向へ移動し始め、後横行体左２５１４Ｌの左枠が前横行体左２５１２Ｌの右枠と前後方向で略一致するとそれらの移動が停止する（同図（イ）を参照）。この動きにより、後横行体右２５１４Ｒと後横行体左２５１４Ｌとが互いにくっ付いたような感じで動くこととなり、後横行体右２５１４Ｒが後横行体左２５１４Ｌによって押出されているような、或いは、後横行体右２５１４Ｒが後横行体左２５１４Ｌを引っ張り出しているような動きとなっている。また、図示するように、液晶表示装置６４０の前面の左側半分が後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌによって被覆された状態となる。

【０５２８】

そして、上記の状態となってから所定時間（例えば、０．５秒～３０秒）が経過すると今度は、後横行体右２５１４Ｒと後横行体左２５１４Ｌ、更に、前横行体左２５１２Ｌが、夫々同時に同じ速度で右方向へ移動し始め、後横行体右２５１４Ｒと後横行体左２５１４Ｌの接する位置が、視認可能領域Ａ１の左右方向略中央に到達するとそれらの移動が停止し、液晶表示装置６４０の前面の略３／４が後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌと前横行体左２５１２Ｌによって被覆された状態となる（同図（ウ）を参照）。更に、この状態から所定時間（例えば、０．５秒～３０秒）が経過すると、右側の視認不能領域Ａ２に配置された前横行体右２５１２Ｒが左方向への移動を開始し、前横行体右２５１２Ｒの左枠が視認可能領域Ａ１内で停止している後横行体右２５１４Ｒの右枠と略一致すると前横行体右２５１２Ｒの移動が停止し、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆（閉鎖）された状態となる（同図（エ）を参照）。

【０５２９】

図１１３に示すような一連の動作によって、横行体２５１０が段階的に液晶表示装置６４０の前面を覆って行くような演出動作をすることができ、ステップアップするような横行体２５１０の動きによって遊技者に対して遊技に対する期待感を抱かせると共に、期待感を高揚させることができるようになっている。

【０５３０】

次の図１１４の例は、四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面を被覆する（閉鎖する）動作において、上述の例とは更に異なる動きの例である。この例では、液晶表示装置６４０の前面が完全に露出し、右側の視認不能領域Ａ２に前横行体右２５１２Ｒと後横行体右２５１４Ｒが、左側の視認不能領域Ａ２に前横行体左２５１２Ｌと後横行体左２５１４Ｌが夫々配置された状態（同図（ア）を参照）から、まず、後横行体右２５１４Ｒが左方向へと移動を開始する（同図（イ）を参照）。そして、後横行体右２５１４Ｒが、左側の視認不能領域Ａ２に配置された後横行体左２５１４Ｌの右端と略当接するような位置へ到達すると、その移動が停止して、後横行体右２５１４Ｒが視認可能領域Ａ１

の左端に配置された状態となる（同図（ウ）を参照）。この状態は、上述の図１１０（エ）や図１１３（ア）の状態と同じ状態である。

【０５３１】

この状態から、今度は、左側の視認不能領域Ａ２に配置された前横行体左２５１２Ｌが、後横行体右２５１４Ｒの前側を横切るように右方向への移動を開始し（同図（エ）を参照）、前横行体左２５１２Ｌの右端が右側の視認不能領域Ａ２に配置された前横行体右２５１２Ｒの左端と略当接ような位置に到達すると、その移動が停止して、前横行体左２５１２Ｌが視認可能領域Ａ１の右端に配置された状態となる（同図（オ）を参照）。つまり、視認可能領域Ａ１の左端に後横行体右２５１４Ｒが、視認可能領域Ａ１の右端に前横行体左２５１２Ｌが夫々配置された状態となり、上述の図１１２（オ）と同じ状態となる。なお、上記の動作では、後横行体右２５１４Ｒと前横行体左２５１２Ｌとを時間を置いて夫々移動させるようにしているが、図１１２の例のように、同時に移動させて略中央でクロスさせるようにしても良い。

【０５３２】

そして、視認可能領域Ａ１の左右両端に後横行体右２５１４Ｒと前横行体左２５１２Ｌとが夫々配置された状態から、後横行体右２５１４Ｒと後横行体左２５１４Ｌとを同時に同じ速度で右方向へと移動を開始させ、後横行体右２５１４Ｒの右端が視認可能領域Ａ１の左右方向略中央に到達すると、夫々の移動を停止させる（同図（カ）を参照）。その後、前横行体左２５１２Ｌと前横行体右２５１２Ｒとを同時に同じ速度で左方向へ移動させ、前横行体左２５１２Ｌの左端が、視認可能領域Ａ１の左右方向略中央に到達してその左枠が後横行体右２５１４Ｒの右枠と略一致すると、夫々の移動を停止させ、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が完全に被覆（閉鎖）された状態となる（同図（キ）を参照）。

【０５３３】

この例では、同図（オ）～（キ）の動きが、横行体２５１０が二つずつ出現して液晶表示装置６４０の前面を被覆するようにしており、上述の図１１３の例のように横行体２５１０が一つずつ出現して液晶表示装置６４０の前面を段階的に被覆する動きと比較して、より大きな動きを表現することが可能となり、遊技者をより楽しませられるようになっている。なお、この例では、上述の図１０８や図１１３等の例とは異なり、図示するように、二つの後横行体２５１４が、視認可能領域Ａ１の左右方向中央から左側に配置されると共に、二つの前横行体２５１２が視認可能領域Ａ１の左右方向中央から右側に配置された状態となっており、液晶表示装置６４０の前面を被覆する状態が明らかに異なる状態となり、遊技者に対して特別な状態であることを認識させることができるようになっている。

【０５３４】

続く図１１５の例は、上述の図１１４（キ）の状態から液晶表示装置６４０の前面を完全に露出させる動作の一例である。図１１５（ア）に示すように、視認可能領域Ａ１内の左側に後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを、右側に前横行体２１５２Ｒ，２５１２Ｌを夫々配置して、液晶表示装置６４０の前面を完全に被覆した状態から、前横行体右２５１２Ｒと後横行体右２５１４Ｒとを、夫々略同じ速度で同時に右方向への移動を開始させると共に、前横行体左２５１２Ｌと後横行体左２５１４Ｌとを、夫々略同じ速度で同時に左方向への移動を開始させる（同図（イ）を参照）。この動きにより、前横行体右２５１２Ｒが右側の視認不能領域Ａ２内へ、後横行体左２５１４Ｌが左側の視認不能領域Ａ２内へと夫々進入すると共に、前横行体左２５１２Ｌと後横行体右２５１４Ｒとが視認可能領域Ａ１内の左右方向略中央で、互いに前後方向に重なるように移動する。

【０５３５】

そして、左方向へ移動する後横行体２５１４Ｌと、右方向へ移動する前横行体右２５１２Ｒとが、夫々左右の視認不能領域Ａ２内へ移動すると、夫々の横行体２５１４Ｌ，２５１２Ｒの移動が停止する。一方、視認可能領域Ａ１の略中央で重なった前横行体左２５１２Ｌと後横行体右２５１４Ｒとは、前横行体左２５１２Ｌが更に左方向へ、後横行体右２５１４Ｒが更に右方向へと夫々移動し（同図（ウ）を参照）、次第に、部分的に重なった

状態から互いに離反した状態となる（同図（エ）を参照）。その後、前横行体左２５１２Ｌが左側の視認不能領域Ａ２へ、後横行体右２５１４Ｒが右側の視認不能領域Ａ２へ、夫々進入し（同図（オ）を参照）、前横行体左２５１２Ｌと後横行体右２５１４Ｒとが、夫々左右の視認不能領域Ａ２内へ移動すると、夫々の横行体２５１２Ｌ，２５１４Ｒの移動が停止して、液晶表示装置６４０の前面が完全に露出した（開いた）状態となる（同図（カ）を参照）。

【０５３６】

この例では、中央の二つの横行体２５１２Ｌと２５１４Ｒとがクロスしてから分れて行くことで、液晶表示装置６４０の前面が完全に露出した状態となるので、上述の図１０８等の視認可能領域Ａ１の左右方向略中央を境として各横行体２５１０が左右へ分れて行くような例の動きとは全く異なる動きとなり、遊技者の関心を強く引き付けたり、楽しませたりすることができるようになっている。なお、この例では、初めに、視認可能領域Ａ１内の左側に後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを、右側に前横行体２１５２Ｒ，２５１２Ｌを夫々配置して、液晶表示装置６４０の前面を完全に被覆した状態としているが、後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを中央から右側に、前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌを中央から左側に夫々配置した状態としても良い。

【０５３７】

次に、図１１６の例は、液晶表示装置６４０の前面を被覆した状態で、上述した例とは異なる各横行体の動きの例である。この例は、上述の図１０８（ア）等と同様に、二つの後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを視認可能領域Ａ１の略中央に配置すると共に、後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌの左右に前横行体２５１２Ｌ，２５１２Ｒを夫々配置して、液晶表示装置６４０の前面を完全に被覆した状態から開始される（同図（ア）を参照）。この状態では、図示するように、四つの横行体２５１０が左右方向へ互いが略接したように並んでおり、この状態で四つの横行体２５１０を略同じ速度で同じ方向へ同時に移動させる（同図（イ）又は（ウ）を参照）。これにより、左右方向へ並んだ四つの横行体２５１０が揃って同一方向へ移動することで、遊技者を驚かせることができるようになっている。また、前面が被覆された液晶表示装置６４０の左端のみを露出させたり、右端のみを露出させたりすることができるようになっている。

【０５３８】

また、図１１７の例は、二つの横行体２５１０が略接した状態での動きの一例であり、ここでは二つの後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌが互いに接した状態で説明する。同図（ア）は、左右の視認不能領域Ａ２から後横行体左２５１４Ｌ及び後横行体右２５１４Ｒが、夫々右方向及び左方向へ移動し、視認可能領域Ａ１の左右方向略中央で、夫々の後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌが互いに接するように停止した状態であり、この状態から、二つの後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを、夫々略同じ速度で同一方向へ同時に移動させる（同図（イ）又は（ウ）を参照）。これにより、二つの横行体２５１０がくっ付いて移動することとなり、くっ付くことで見掛けが大きくなった横行体２５１０が左右方向へ移動することで、遊技者の関心を強く引き付けることができるようになっている。

【０５３９】

なお、くっ付いた二つの横行体２５１０を、視認可能領域Ａ１内のみで左右方向へ移動させるようにしても良いし、少なくとも一部が視認不能領域Ａ２内へ進入するように左右方向へ移動させるようにしても良い。また、この例では、二つの横行体２５１０として、二つの後横行体２５１４Ｒ，２５１４Ｌを用いたものを示したが、二つの前横行体２５１２Ｒ，２５１２Ｌとしても良いし、前横行体２５１２と後横行体２５１４を夫々一つずつ用いても良い。

【０５４０】

更に、図１１８の例は、視認可能領域Ａ１内での横行体２５１０の配置の一例であり、この例では、左右の前横行体２５１２Ｌ，２５１２Ｒを夫々視認可能領域Ａ１内の左右両端近傍に配置した上で（同図（イ）を参照）、右側の視認不能領域Ａ２に配置された後横行体右２５１４Ｒを視認可能領域Ａ１の略中央に配置すると共に、前横行体２５１２Ｌ，

２５１２Ｒと後横行体右２５１４Ｒとの左右方向の間に所定の隙を形成した状態で各横行体２５１０を配置したものである（同図（ウ）を参照）。この例では、視認可能領域Ａ１内に配置された三つの横行体２５１２Ｌ，２５１２Ｒ，２５１４Ｒにより、液晶表示装置６４０の前面の大部分を被覆することができるようになっていると共に、三つの横行体２５１２Ｌ，２５１２Ｒ，２５１４Ｒの間の隙間から後側の液晶表示装置６４０が臨むようになっている。なお、詳細な図示は省略するが、三つの横行体２５１２Ｌ，２５１２Ｒ，２５１４Ｒと、三つの操作ボタン３３０とが互いに関連付けられるように、液晶表示装置６４０の表示画面における、三つの横行体２５１２Ｌ，２５１２Ｒ，２５１４Ｒと対応する位置に、夫々所定の案内をするための演出画像を表示させることで、あたかも三つの横行体２５１２Ｌ，２５１２Ｒ，２５１４Ｒに案内が表示されているようにして、三つの操作ボタン３３０の何れかの操作を促すことができるようになっている。

【０５４１】

なお、詳細な図示や説明は省略するが、上述の図１０８乃至図１１８で示した横行体２５１０の可動演出の際に、可動する横行体５２１０の動きに合せて、液晶表示装置６４０に所定の演出画像を表示させるようになっており、横行体２５１０の動きだけではなく、横行体２５１０の動きと共に表示される演出画像によっても遊技者を楽しませることができるようになっている。

【０５４２】

＜遊技内容＞

本実施形態のパチンコ機１における遊技内容について、図１１９乃至図１３５を主に参照して具体的に説明する。図１１９は、主制御基板における機能的な構成を示すブロック図であり、図１２０は、周辺制御基板における機能的な構成を示すブロック図である。図１２１は、始動入賞による抽選結果を示唆する通常の抽選結果演出画像の一例を示す説明図である。図１２２の（Ｂ１）～（Ｂ４）は抽選結果予告演出における横行体が一つのみ出現する演出の一例を示す説明図であり、（Ｃ）は（Ｂ１）～（Ｂ４）とは異なる演出の例を示す説明図であり、（Ｄ１）～（Ｄ３）は更に異なる演出の例を示す説明図である。図１２３の（Ｅ１）～（Ｅ２）は抽選結果予告演出における二つの接した横行体が出現すると共に一つの大きな前演出画像を表示する演出の例を示す説明図であり、（Ｆ１）～（Ｆ２）は抽選結果予告演出における二つの横行体が順次出現する演出の一例を示す説明図であり、（Ｇ１）～（Ｇ４）は（Ｆ１）～（Ｆ２）とは異なる演出の例を示す説明図である。図１２４の（Ｈ１）～（Ｈ４）は図１２３の（Ｆ１）～（Ｆ２）とは更に異なる演出の例を示す説明図であり、（Ｉ１）～（Ｉ４）は（Ｈ１）～（Ｈ４）とは異なる演出の例を示す説明図である。

【０５４３】

また、図１２５の（Ｊ１）～（Ｊ４）は図１２３の（Ｆ１）～（Ｆ２）とは更に異なる演出の例を示す説明図であり、（Ｋ１）～（Ｋ４）は抽選結果予告演出における三つの横行体が順次出現する演出の一例を示す説明図である。図１２６は図１２５の（Ｋ１）～（Ｋ４）とは異なる演出の例を示す説明図である。図１２７の（Ｍ１）～（Ｍ４）は四つの横行体が順次出現して液晶表示装置の前面を被覆する演出の一例を示す説明図であり、（Ｎ１）～（Ｎ４）は（Ｍ１）～（Ｍ４）とは異なる演出の例を示す説明図である。図１２８は、図１２７の例とは更に異なる演出の例を示す説明図である。図１２９は、図１２７及び図１２８の例とは更に異なる演出の例を示す説明図である。

【０５４４】

更に、図１３０は、抽選結果特別予告演出の一例を示す説明図である。図１３１は、図１３０とは異なる抽選結果特別予告演出の一例を示す説明図である。図１３２は、リーチ発展演出における横行体を用いた演出の一例を示す説明図であり、図１３３は、図１３２に続くリーチ発展演出を示す説明図である。図１３４は、図１３２及び図１３３の例とは異なるリーチ発展演出の例を示す説明図であり、図１３５は、図１３４に続くリーチ発展演出を示す説明図である。図１３６は、リーチに続いて発展演出を予告するリーチ発展予告演出の一例を示す説明図である。

【０５４５】
まず、本実施形態のパチンコ機１における主制御基板１３５０での遊技演出制御に係る機能的な構成について、図１１９等を参考に説明する。なお、遊技球の払出しに係る機能的な構成については省略する。本例の主制御基板１３５０では、ＲＯＭ３００４に予め格納された所定のプログラムをＣＰＵ３００２によって実行することで各種の遊技制御や演出制御等が具現化されるようになっている。この主制御基板１３５０には、ゲートセンサ３０１２から遊技球の検出信号が入力されると、普通図柄に対する抽選結果となる所定の普通乱数を発生させる普通乱数発生手段３０５０と、発生した普通乱数を所定の条件に応じて一時的に記憶する普通図柄保留記憶手段３０５２と、普通図柄保留記憶手段３０５２により記憶された上で実行された普通乱数と対応する普通図柄変動パターンを、ＲＯＭ３００４に格納された所定の普通図柄変動パターンテーブルから選択する普通図柄変動パターン選択手段３０５４と、選択された普通図柄変動パターンに基いて普通図柄表示器１８０６の普通図柄を変動表示させる普通図柄表示制御手段３０５６と、普通図柄表示制御手段３０５６によって普通図柄表示器１８０６に表示された普通乱数（普通抽選結果）が「普通当り」であると始動口ソレノイド１５１６を駆動して一対の可動片１５０８を拡開させる始動口開閉制御手段３０５８と、普通図柄保留記憶手段３０５２に保留記憶された普通図乱数の数を記憶数として普通図柄記憶数表示器１８１２に表示させる普通図柄記憶数表示制御手段３０６０とを備えている。

【０５４６】
上述の普通図柄保留記憶手段３０５２は、普通図柄表示制御手段３０５６によって普通図柄が変動表示中に、ゲートセンサ３０１２からの遊技球の検出信号を契機として発生した普通乱数を所定数（例えば、四つ）まで記憶すると共に、普通図柄の変動表示が可能となるまで記憶した普通乱数の実行を保留するものである。

【０５４７】
また、主制御基板１３５０には、第一始動口１５０４への始動入賞により第一始動口センサ２１１２で検出された検出信号、又は、ステージ始動口２２２０への始動入賞によりステージ始動口センサ２１１４で検出された検出信号、に基いて第一特別図柄に対する第一特別抽選結果となる所定の第一特別乱数を発生させる第一特別乱数発生手段３０６２と、第一特別乱数発生手段３０６２において発生した第一特別乱数を所定の条件に応じて一時的に記憶する第一特別図柄保留記憶手段３０６４と、第一特別図柄保留記憶手段３０６４により記憶された上で実行された第一特別乱数と対応する第一特別図柄変動パターンを、ＲＯＭ３００４に予め記憶された所定の特別図柄変動表示パターンテーブルから選択する第一特別図柄変動パターン選択手段３０６６と、第一特別図柄変動パターン選択手段３０６６で選択された第一特別図柄変動パターンに基いて第一特別図柄表示器１８０２の第一特別図柄を変動表示させる第一特別図柄表示制御手段３０６８と、第一特別図柄保留記憶手段３０６４で保留記憶された第一特別乱数の数を記憶数として第一特別図柄記憶数表示器１８０８に表示させる第一特別図柄記憶数表示制御手段３０７０とを備えている。

【０５４８】
更に、主制御基板１３５０には、第二始動口１５０６への始動入賞により第二始動口センサ１５２２で検出された検出信号に基いて第二特別図柄に対する第二特別抽選結果となる所定の第二特別乱数を発生させる第二特別乱数発生手段３０７２と、第二特別乱数発生手段３０７２において発生した第二特別乱数を所定の条件に応じて一時的に記憶する第二特別図柄保留記憶手段３０７４と、第二特別図柄保留記憶手段３０７４で記憶された上で実行された第二特別乱数と対応する第二特別図柄変動パターンを、ＲＯＭ３００４に予め記憶された所定の特別図柄変動表示パターンテーブルから選択する第二特別図柄変動パターン選択手段３０７６と、第二特別図柄変動パターン選択手段３０７６で選択された第二特別図柄変動パターンに基いて第二特別図柄表示器１８０４の第二特別図柄を変動表示させる第二特別図柄表示制御手段３０７８と、第二特別図柄保留記憶手段３０７４で保留記憶された第二特別乱数の数を記憶数として第二特別図柄記憶数表示器１８１０に表示させる第二特別図柄記憶数表示制御手段３０８０とを備えている。

【０５４９】
これら第一特別図柄保留記憶手段３０６４及び第二特別図柄保留記憶手段３０７４は、第一及び第二特別図柄表示制御手段３０６８，３０７８によって第一及び第二特別図柄が変動表示中等の新たに特別図柄を変動表示させることができない時に、第一始動口センサ２１１２，ステージ始動口センサ２１１４や第二始動口センサ１５２２からの検出信号を契機とした第一特別乱数や第二特別乱数を夫々所定数（例えば、夫々四つ）まで記憶すると共に、特別図柄の変動表示が可能となるまで記憶した第一特別乱数や第二特別乱数の実行を保留するものである。
【０５５０】
また、主制御基板１３５０には、第一特別図柄保留記憶手段３０６４や第二特別図柄保留記憶手段３０７４に記憶された、第一特別乱数（第一特別抽選結果）や第二特別乱数（第二特別抽選結果）に基いて遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させる有利遊技状態発生手段３０８２と、有利遊技状態発生手段３０８２からの指示に基いて大入賞口１５１０を閉鎖する開閉片１５１２を所定パターンで開閉するようにアタッカソレノイド１５１８の駆動制御をする大入賞口開閉制御手段３０８４とを備えている。
【０５５１】
また、主制御基板１３５０には、有利遊技状態発生手段３０８２によって有利遊技状態が発生する第一特別乱数や第二特別乱数（第一特別図柄変動パターンや第二特別図柄変動パターン）に応じて、第一特別図柄変動パターンテーブルや第二特別図柄変動パターンテーブルを変更する変動パターンテーブル変更手段３０８６を更に備えている。この変動パターンテーブル変更手段３０８６は、例えば、通常の変動パターンテーブルよりも有利遊技状態の発生する変動パターンが高い確率で選択される変動パターンテーブル（例えば、高確率変動パターンテーブル）に変更したり（所謂、確変）、通常の変動パターンテーブルよりも第一特別図柄や第二特別図柄の変動時間が短い時間の変動パターンテーブル（例えば、時間短縮変動パターンテーブル）に変更したり（所謂、時短）、通常よりも有利遊技状態が発生する確率が高く特別図柄の変動時間の短い変動パターンテーブル（例えば、確変時短変動パターンテーブル）に変更したり（所謂、確変・時短）するものである。
【０５５２】
更に、主制御基板１３５０には、普通乱数、第一特別乱数、第二特別乱数に応じた、普通図柄変動パターン、第一図柄変動パターン、第二図柄変動パターン、及び、第一特別図柄記憶数、第二特別図柄記憶数等に基いて、演出コマンド等の所定の制御用のコマンドを生成するコマンド生成手段３０８８と、コマンド生成手段３０８８で生成されたコマンドを周辺制御基板３１００へ送信するコマンド送信手段３０９０とを備えている。
【０５５３】
一方、周辺制御基板３１００には、主制御基板１３５０から送信される制御用のコマンドを受信するコマンド受信手段３１５０と、コマンド受信手段３１５０で受信されたコマンドに基いて、ＲＯＭ３１０４に格納された演出パターンを選択する演出パターン選択手段３１５２と、演出パターン選択手段３１５２で選択された演出パターンに基いて遊技者に対して提示する所定の遊技演出を制御する演出制御手段３１５４と、演出制御手段３１５４によって制御され、四つの横行体２５１０を駆動する各モータ２６１４，２６５４，２７１４，２７５４、回転装飾体１４２４の花弁装飾体１４２４ａを回転させる花弁用モータ３１２８、及び、揺動体２３１０を揺動させる三つの揺動体ソレノイド２３２２を適宜駆動することで行われる可動演出を制御可能な可動演出制御手段３１５６と、演出制御手段３１５４によって制御され、液晶表示装置６４０に表示される演出画像を制御可能な演出画像制御手段３１５８と、演出制御手段３１５４によって制御され、各装飾基板１４２６ｂ，２０１０，２０１２，２３２８，２５１１，３１２４，３１２６，３１３０に実装されたＬＥＤを点灯・点滅させたり、種々の色に発光させたりすることで行われる発光演出を制御可能な発光演出制御手段３１６０と、演出制御手段３１５４によって制御され、スピーカ１６３を駆動して所定の演出音を制御可能な演出音制御手段３１６２とを備えている。

【０５５４】
また、周辺制御基板３１００には、演出パターン選択手段３１５２で選択された演出パターンに応じて演出を制御する演出制御手段３１５４により物体検知センサ１４２８による物体の検知を受付可能又は受付不能とする物体検知受付手段と３１６４、選択された演出パターンに応じて演出を制御する演出制御手段３１５４により操作ボタン３３０（３３０ａ，３３０ｂ，３３０ｃ）の操作信号を受付可能又は受付不能とする操作受付手段３１６６とを更に備えている。
【０５５５】
更に、周辺制御基板３１００には、液晶表示装置６４０の前面に配置された横行体２５１０の枠状の本体部２５１０ａと対応する前演出画像を制御する前演出画像制御手段３１５８ａと、液晶表示装置６４０の画面全体に亘る後演出画像を制御する後演出画像制御手段３１５８ｂと、前演出画像や後演出画像等に対して適宜のエフェクト（例えば、ホワイトアウト・ホワイトイン、ブラックアウト・ブラックイン、ワイプ処理、モザイク処理、ぼかし、画像回転、画像変形、効果線挿入、等の特殊効果）を施すエフェクト制御手段３１５８ｃと、前演出画像、後演出画像、エフェクト等を演出画像における複数のレイヤーの適宜位置に配置してそれらを合成する画像合成手段３１５８ｄとを更に備えている。これら前演出画像制御手段３１５８ａ、後演出画像制御手段３１５８ｂ、エフェクト制御手段３１５８ｃ、及び、画像合成手段３１５８ｄ等によって演出画像制御手段３１５８が構成されている。
【０５５６】
そして、上記のような構成とされた本実施形態のパチンコ機１は、扉枠５の右下に配置された操作ハンドル部４６１を遊技者が回転操作することで、皿ユニット３００の貯留部３８１に貯留された遊技球が、透明な遊技パネル５９９の前面に配置された遊技領域６０５内の上部へと打ち込まれて、遊技球による遊技が開始されるようになっている。遊技領域６０５内の上部へ打ち込まれた遊技球は、その打込強さによってセンター役物１４００の上側の左側或いは右側の遊技領域６０５内を流下することとなる。なお、遊技球の打込強さは、操作ハンドル部４６１の回転量によって調整することができるようになっており、時計回りの方向へ回転させるほど強く打ち込むことができるようになっている。また、遊技領域６０５内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘が遊技パネル５９９の前面に植設されており、遊技球がその障害釘に当接することで、遊技球の流下速度が抑制されると共に、遊技球に様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。
【０５５７】
センター役物１４００の上部へ打ち込まれた遊技球が、左右方向の略中央から左側を流下してセンター役物１４００の誘導棚１４１６へ到達すると、誘導棚１４１６によってセンター役物１４００の左側の領域へと誘導される。そして、センター役物１４００の左側を流下する遊技球が、センター役物１４００の左側側面に開口したゲート入口１４０４に進入してゲートセンサ３０１２により検出されると、その検出信号に基いて主制御基板１３５０では、普通乱数発生手段３０５０によって普通抽選結果としての普通乱数が発生する。そして、その普通乱数に基いて、状態表示器１８００における普通図柄表示器１８０６の普通図柄が変動表示（一つのＬＥＤからなる普通図柄表示器１８０６が、赤色と緑色とに交互に発光）され、所定時間（例えば、２秒～３０秒の間）経過後に抽出され普通乱数（普通抽選結果）に基いた普通図柄が停止表示（普通図柄表示器１８０６が赤色又は緑色に発光）される。この普通図柄の変動表示は、所定の普通図柄変動パターン選択テーブルから選択された普通図柄変動パターンに基いて行われるようになっている。
【０５５８】
詳しくは、抽選された普通乱数が「普通当り」乱数の場合、当りを示唆する普通図柄で停止表示（普通図柄表示器１８０６が緑色に発光）され、抽選された普通乱数が「普通ハズレ」乱数の場合、ハズレを示唆する普通図柄で停止表示（普通図柄表示器１８０６が赤色に発光）されるようになっている。そして、当りを示唆する普通図柄が停止表示される

と、第二始動口１５０６を閉鎖する一対の可動片１５０８が所定時間（例えば、０．３秒～３秒の間）拡開して、第二始動口１５０６へ遊技球が入賞できるようになっている。

【０５５９】

なお、普通図柄の変動時間や第二始動口１５０６における可動片１５０８の拡開時間については、後述する特別乱数（特別抽選結果）に応じて変化させるようにしても良く、例えば、特別乱数（特別抽選結果）として、「時短当り（普通時短当り、高確率時短当り、等を含む）」が抽出された場合に、その変動時間や拡開時間を短い時間に変更するようにしても良い。具体的には、変動パターンテーブル変更手段３０８６によって、普通図柄変動パターン選択手段３０５４で普通図柄変動パターンを選択する普通図柄変動パターンテーブルを異なるテーブルと変更した（差替えた）上で、選択させることで容易に変化させることができる。

【０５６０】

なお、本例のパチンコ機１では、センター役物１４００の上側において、左右方向中央から左側には遊技球が流下可能な領域が備えられているものの、中央から右側は遊技領域６０５の外周に沿って下方へ延びる円弧状の領域が備えられており、この領域に遊技球が進入するとゲート入口１４０４やワープ入口１４１０へ遊技球が進入する機会を得ることなくセンター役物１４００の下側へ送られてしまい、チャンスが少なくなると共に遊技球の動きがあまり楽しめなくなるようになっている。従って、遊技者は、遊技球がセンター役物１４００の上側において左右方向中央から左側の領域を流下するように、操作ハンドル部４６１の回転量を適宜調整して遊技することとなり、闇雲に遊技球を強く打ち込むような遊技操作を抑制して、パチンコ機１本来の操作ハンドル部４６１の操作による遊技を楽しませて興趣が低下するのを防止することができるようになっている。

【０５６１】

ところで、本例では、普通図柄表示器１８０６において普通図柄が変動表示中に、ゲートセンサ３０１２で遊技球の通過が検出されると、変動中の普通図柄停止して先に普通乱数発生手段３０５０で発生・抽出された普通乱数の結果が確定するまでの間、ゲートセンサ３０１２からの検出信号に基いて抽出された普通乱数を、普通図柄保留記憶手段３０５２により一時的に記憶してその表示を保留するようになっており、その記憶された普通乱数の数（保留数とも言う）を、普通図柄記憶数表示器１８１２で表示するようになっている。この普通図柄記憶数表示器１８１２は、二つのＬＥＤからなっており、消灯・点灯・点滅する各ＬＥＤの発光状態の組合せによって記憶数を示唆するようになっており、本例では、四つまで記憶して表示するようになっている。なお、記憶数が四つを越えた場合は、ゲートセンサ３０１２の検出信号に基いて抽出された普通乱数が破棄されるようになっている。

【０５６２】

また、遊技領域６０５内へ打ち込まれセンター役物１４００の左側を流下した遊技球は、サイド部材１６００の誘導棚１６０２や、アタッカユニット１５００の誘導片１５１４によってセンター役物１４００の下側で遊技領域６０５の中央側へ寄せられるようになっている。そして、センター役物１４００の下方に配置された一般入賞口１５０２に遊技球が入賞して、一般入賞口センサ２１１０に検出されると、その検出信号に基いて主制御基板１３５０では払出制御基板１１８６に対して所定の払出コマンドを送信し、その払出コマンドに応じて払出制御基板１１８６が賞球ユニット８００の払出モータ８１５を制御して所定数（例えば、１０個）の遊技球が、貯留部３８１へ払出されるようになっている。

【０５６３】

なお、遊技領域６０５内へ打ち込まれた遊技球が、一般入賞口１５０２、第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、ステージ始動口２２２０、及び大入賞口１５１０の何れにも入賞しなかった場合、遊技領域６０５の左右方向中央下端に設けられてアウト口６０６から、遊技盤４の後側下方へ排出されるようになっている。また、遊技球が、一般入賞口１５０２、第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、及び大入賞口１５１０の何れに入賞しても、入賞した遊技球は、遊技領域６０５内へ戻されること無く遊技盤４の後側下方

へ排出されるようになっている。

【０５６４】

一方、センター役物１４００の左側を流下する遊技球が、センター役物１４００の左側側面に開口するワープ入口１４１０へ進入すると、ワープ通路１４１４を介して裏ユニット２０００のステージ部材２２００における第一裏側転動面２２０２へと供給されるようになっている。そして、第一裏側転動面２２０２上へ供給された遊技球は、第一裏側転動面２２０２上を左右方向へ転動して、凹部２２０２ｂから前方へと放出されて第二裏側転動面２２０４上へと供給される。この第二裏側転動面２２０４でも遊技球が左右方向へ転動し凹部２２０４ｂから前側の役物側転動面１４０２上へと放出される。このステージ部材２２００へ供給された遊技球が、第一裏側転動面２２０２における中央の凹部２２０２ｃから、その後側に配置されたステージ始動口２２２０へ進入してステージ始動口センサ２１１４されると、主制御基板１３５０等を介して賞球ユニット８００から所定数（例えば、３個）の遊技球が、貯留部３８１へ払出されるようになっている。

【０５６５】

このステージ部材２２００へ供給された遊技球が可変受入口２２２０へ受入れられなかった場合、第二裏側転動面２２０４の前側に配置されたセンター役物１４００の役物側転動面１４０２上へと供給され、役物側転動面１４０２上を左右方向へ転動した後に、凹部１４０２ｂから遊技領域６０５内へと放出される。なお、役物側転動部１４０２の凹部１４０２ｂは、第一始動口１５０４の直上（上側）に配置されており、凹部１４０２ｂから放出された遊技球が、高い確率で第一始動口１５０４へと受入れられるようになっている。従って、ステージ部材２２００へ供給された遊技球が、ステージ始動口２２２０へ受入れられなかった場合でも、役物側転動部１４０２の凹部１４０２ｂから放出されることで、第一始動口１５０４へ受入れられる可能性が有り、受入れへの期待感を維持させて興趣が低下するのを抑制することができるようになっている。そして、遊技球が第一始動口１５０４に受入れられて第一始動口センサ２１１２に検出されると、主制御基板１３５０等を介して賞球ユニット８００から所定数（例えば、３個）の遊技球が、貯留部３８１へ払出されるようになっている。

【０５６６】

なお、本例のパチンコ機１では、第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、及び大入賞口１５１０が、上下方向に並んで配置されているので、役物側転動面１４０２の凹部１４０２ｂから放出される遊技球が、高い確率で第一始動口１５０４等に受入れられるようになっており、第二始動口１５０６や大入賞口１５１０が受入可能な時に、遊技球が放出口１４２０や凹部１４０２ｂから放出されると受入れられる可能性が高いので、第一始動口１５０４だけでなく第二始動口１５０６や大入賞口１５１０に対しても、遊技球の受入れに関する期待感を持たせて興趣を高めることができるようになっている。

【０５６７】

ところで、遊技球がゲート入口１４０４へ進入してゲートセンサ３０１２により検出されて普通抽選結果として「普通当り」が抽選されると、上述したように、第二始動口１５０６を閉鎖する一対の可動片１５０８が所定時間拡開して入賞可能となり、その入賞可能となった時に、遊技球が第二始動口１５０６へ受入れられて第二始動口センサ１５２２に検出されると、主制御基板１３５０等を介して賞球ユニット８００から所定数（例えば、４個）の遊技球が、貯留部３８１へ払出されるようになっている。

【０５６８】

また、主制御基板１３５０では、これら第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、ステージ始動口２２２０に遊技球が入賞して、第一始動口センサ２１１２、第二始動口センサ１５２２、ステージ始動口センサ２１１４に検出されると、第一始動口１５０４及びステージ始動口２２２０では第一特別乱数発生手段３０６２による所定の第一特別乱数の発生・抽出が、第二始動口１５０６では第二特別乱数発生手段３０７２による所定の第二特別乱数の発生・抽出が夫々行われる。そして、抽出された特別乱数に基づいて、状態表示器１８００の対応する第一特別図柄表示器１８０２や第二特別図柄表示器１８０４に表示

された特別図柄の変動表示が開始された後に、抽出された特別乱数と対応する特別図柄が特別抽選結果として停止表示されるようになっている。これら第一特別図柄表示器１８０２や第二特別図柄表示器１８０４において、「大当り」を示唆する態様で特別図柄が停止表示されると、アタッカユニット１５００の開閉片１５１２が、所定のパターンで開閉動作する特別有利遊技状態（例えば、大当り遊技）が発生し、その間に大入賞口１５１０へ遊技球を入賞させることで、より多くの遊技球を獲得できるようになっている。なお、一つの遊技球が大入賞口１５１０へ入賞すると、賞球ユニット８００から所定数（例えば、１３個）の遊技球が貯留部３８１へ払い出されるようになっている。

【０５６９】

なお、これら第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、ステージ始動口２２２０においても、ゲート入口１４０４への遊技球の進入による普通図柄の変動表示と同様に、第一特別図柄表示器１８０２や第二特別図柄表示器１８０４において特別図柄が変動表示中、又は、特別有利遊技状態としての大当り遊技中等の特別図柄を変動表示させることができない時に、始動口１５０４，１５０６，２２２０へ遊技球が入賞して第一始動口センサ２１１２、第二始動口センサ１５２２、ステージ始動口センサ２１１４で検出されると、特別図柄の変動表示が可能となるまでの間、第一始動口センサ２１１２、第二始動口センサ１５２２、ステージ始動口センサ２１１４からの検出信号に基いて抽出された第一特別乱数や第二特別乱数を第一特別図柄保留記憶手段３０６４や第二特別図柄保留記憶手段３０７４によって記憶してその表示を保留するようになっており、その記憶された特別乱数の数を、第一特別図柄記憶数表示器１８０８や第二特別図柄記憶数表示器１８１０において表示するようになっている。これら第一特別図柄記憶数表示器１８０８や第二特別図柄記憶数表示器１８１０は、夫々二つのＬＥＤからなっており、消灯・点灯・点滅する各ＬＥＤの発光状態の組合せによって記憶数を示唆するようになっており、本例では、夫々四つまで記憶して表示するようになっている。なお、記憶数が四つを越えた場合は、抽出された特別乱数が破棄されるようになっている。

【０５７０】

また、主制御基板１３５０では、第一始動口センサ２１１２、第二始動口センサ１５２２、ステージ始動口センサ２１１４の検出に基いて抽出された第一特別乱数や第二特別乱数の特別乱数を、予め決められた所定の乱数判定テーブル（特別図柄変動パターンテーブルとも称す）と照合することで、その特別乱数が、「ハズレ」、「小当り」、「大当り」の何れであるかが判別されると共に、「大当り」について、「２Ｒ大当り」、「５Ｒ大当り」、「１５Ｒ大当り」の何れかであるかも判別されるようになっている。また、乱数判定テーブルによって、「確変時短無し当り」「確変当り」、「時短当り」、「確変時短当り」等も判別されるようになっている。

【０５７１】

そして、第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、ステージ始動口２２２０への遊技球の始動入賞を契機として抽出（抽選）された第一特別乱数や第二特別乱数が（特別抽選結果が）、「小当り」の場合、主制御基板１３５０は、アタッカユニット１５００の開閉片１５１２を、所定短時間（例えば、０．２秒～０．６秒の間）の間開状態として閉鎖する開閉パターンを複数回（例えば、２回）繰り返すようになっている。

【０５７２】

一方、抽出された第一特別乱数や第二特別乱数が、「大当り」の場合、主制御基板１３５０は、アタッカユニット１５００の開閉片１５１２を開状態とした後に、所定時間（例えば、約３０秒）経過、或いは、所定個数（例えば、１０個）の遊技球が大入賞口１５１０に入賞の何れかの条件が充足すると開閉片１５１２を閉状態とする開閉パターン（一回の開閉パターンを１ラウンドと称す）を、所定回数（所定ラウンド数）繰り返すようになっており、「２Ｒ大当り」であれば２ラウンド、「５Ｒ大当り」であれば５ラウンド、「１５Ｒ大当り」であれば１５ラウンド、夫々繰り返して、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させるようになっている。なお、所定ラウンド数の終了後に、「大当り」については、抽出された特別乱数に応じて乱数判定テーブルを高確率時短テーブル等と交換するよう

になっている。

【０５７３】

また、抽出された第一特別乱数や第二特別乱数（特別抽選結果）が、「確変当り」、「時短当り」、「確変時短当り」の場合、その「当り」に係る有利遊技状態が終了すると、変動パターンテーブル変更手段３０８６によって、第一特別図柄変動パターン選択手段３０６６や第二特別図柄変動パターン選択手段３０７６で用いられる特別図柄変動パターンテーブルを、特別抽選結果に応じて変更するようになっている。具体的には、特別抽選結果が「確変当り」の時は、変動パターンテーブル変更手段３０８６によって、「小当り」や「大当り」が選択される確率が高確率とされた特別図柄変動パターンテーブルに変更する。また、特別抽選結果が「時短当り」の時は、変動パターンテーブル変更手段３０８６によって、特別図柄の変動時間が通常時よりも短い時間とされた特別図柄変動パターンテーブルに変更する。更に、特別抽選結果が「確変時短当り」の時は、変動パターンテーブル変更手段３０８６によって、「小当り」や「大当り」が選択される確率が高確率とされると共に特別図柄の変動時間が通常時よりも短い時間とされた特別図柄変動パターンテーブルに変更する。この変動パターンテーブル変更手段３０８６によって特別図柄変動パターンテーブルを変更することで、通常の遊技状態から、確変状態、時短状態、或いは、確変時短状態としたり、確変状態、時短状態、或いは、確変時短状態から通常の遊技状態としたりすることができるようになっている。

【０５７４】

なお、本例では、変動パターンテーブル変更手段３０８６によって通常の特別図柄変動パターンテーブルから確変用や時短用等の特別図柄変動パターンテーブルに変更された後に、特別図柄が所定回数（例えば、２０回～１５０回）変動表示されると、通常の特別図柄変動パターンテーブルに戻すようになっている。また、確変状態や時短状態等の時に、「小当り」や「大当り」等が抽選されると、確変状態や時短状態等を更に追加継続させることができるようになっている。

【０５７５】

ところで、本実施形態のパチンコ機１では、第一始動口１５０４及びステージ始動口２２２０や第二始動口１５０６への遊技球の始動入賞により第一特別乱数発生手段３０６２や第二特別乱数発生手段３０７２で発生・抽出された第一特別乱数や第二特別乱数に応じて（特別抽選結果に応じて）、状態表示器１８００の第一特別図柄表示器１８０８や第二特別図柄表示器１８１０が変動表示される他に、液晶表示装置６４０においても、特別乱数（特別抽選結果）に応じて特別抽選結果を示唆する抽選結果演出として抽選結果演出画像が表示されるようになっている。

【０５７６】

具体的には、図１２１に示すように、液晶表示装置６４０において、複数の異なる図柄からなる一連の図柄列が横方向に三列表示された状態（同図（Ａ１）を参照）で各図柄列の変動表示が開始され（同図（Ａ２），（Ａ３）を参照）、その後に、順次停止表示され（同図（Ａ４）～（Ａ７）を参照）、最終的に全ての図柄列が停止表示（同図（Ａ８）を参照）されると、停止表示された図柄（左側の左図柄ＺＬ、中央の中図柄ＺＣ、右側の右図柄ＺＲ）の組合せによって抽出された特別乱数の判定結果（特別抽選結果）が遊技者側に示唆されるようになっている。つまり、始動入賞による特別抽選結果に応じて、複数の図柄列が変動表示された後に特別抽選結果を示唆するように停止表示される演出画像が表示されるようになっている。なお、第一及び第二特別図柄表示器１８０８，１８１０の特別図柄よりも、液晶表示装置６４０に表示される図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの方が大きく見易いため、一般的に遊技者は液晶表示装置６４０に表示された図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲに注目することとなり、図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動表示や各種演出画像を楽しませることができるようになっている。

【０５７７】

この抽選結果演出では、抽選された特別抽選結果に応じて、複数の図柄列の変動表示中に特別抽選結果を予告する「抽選結果予告演出」を実施することができるようになってい

る。この「抽選結果予告演出」は、液晶表示装置６４０に直接的、又は、横行体２５１０の本体枠２５１０ａを通して間接的に、所定のキャラクタを登場させたり、サブ装飾体１４２６により表示演出させたり、或いは、回転装飾体１４２４、揺動体２３１０、及び四つの横行体２５１０を適宜駆動させたりすることで、特別抽選結果が「当り」又は「ハズレ」であるか否かの可能性（期待値とも称する）を遊技者に認識させることができるものである。

【０５７８】

また、抽選結果演出では、複数の図柄列が変動表示する抽選結果演出画像の一つとして、一つの変動する図柄列（主に中央の図柄列）を残して停止表示された図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せが特定条件（「大当り遊技」等の有利遊技状態）を充足可能となるように表示される「リーチ演出」としての「リーチ演出画像」があり（例えば、図１２１に示すような演出画像）、この「リーチ演出画像」が表示される特別抽選結果として、「リーチ当り」、「リーチハズレ」、がある。なお、本例では、図１２１（Ａ５）～（Ａ７）に示すように、左右の図柄ＺＬ，ＺＲが同じ柄となって「リーチ」となると、夫々の図柄ＺＬ，ＺＲが発光し（同図（Ａ６）を参照）、「リーチ」となったことを遊技者に対して明確に判るようにしている。

【０５７９】

また、「リーチ演出」と繋がるように表示され、リーチ表示後に、変動表示している残りの図柄列を強調して表示する「リーチ発展演出」としての「リーチ発展演出画像」もある。また、「リーチ発展演出」に先立って、「リーチ」後の発展を予告する「リーチ発展予告演出」としての「リーチ発展予告演出画像」もある。更に、液晶表示装置６４０には、始動入賞に係る演出画像（抽選結果演出画像）だけでなく、「大当り」遊技中に表示される「大当り遊技演出」としての「大当り遊技演出画像」も表示可能とされている。なお、これらの演出時においても、特別抽選結果に応じて横行体２５１０等が適宜駆動され可動演出が行われるようになっている。

【０５８０】

なお、第一特別図柄表示器１８０８や第二特別図柄表示器１８１０での特別図柄の変動表示は、主制御基板１３５０によって直接制御されるようになっているのに対して（図１０３を参照）、液晶表示装置６４０での図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動表示は、主制御基板１３５０から周辺制御基板３１００へ送信される抽選結果に係るコマンドに基づいて周辺制御基板３１００及び液晶表示制御基板３１１２によって制御されるようになっている。これにより、特に遊技者が注目する液晶表示装置６４０での図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動表示を周辺制御基板３１００等で制御するようにしているので、主制御基板１３５０から送信されてくる抽選結果に係る或る一つのコマンドに対して、複数の図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動パターンを予め用意して液晶表示装置６４０における図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動パターンをより多くすることができる。また、「大当り」遊技中等に表示される「大当り遊技演出」等も周辺制御基板３１００等で制御されるようになっており、様々なパターンの演出が予め用意されている。これにより、主制御基板１３５０における演算処理の負荷を高めることなく演出画像の表示パターンや横行体２５１０等による可動演出の可動パターンを増やすことができ、遊技者をより楽しませて飽きられ難いパチンコ機１とすることができるようになっている。

【０５８１】

また、本実施形態のパチンコ機１では、詳細な図示は省略するが、液晶表示装置６４０に表示される特別抽選結果を示唆する図柄列の図柄には、所定の色彩とされた一般図柄（例えば、「一」，「二」，「四」，「六」）と、一般図柄とは異なる色彩とされた特殊図柄（例えば、「三」，「五」，「七」，「金」）とで構成されており、特別抽選結果が「確変当り」、「時短当り」、「確変時短当り」の時は、一般図柄のみからなる図柄の組合せで停止表示されるようになっている。つまり、一般図柄のみの図柄の組合せで有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技状態、「小当り」遊技状態、等）が発生すると、その「大当り」遊技後の遊技状態が、確変状態や時短状態等に変更（又は継続）されるようになっ

ており、遊技者に対して確変状態や時短状態等が開始（又は継続）されるのを認識させることができるようになっている。

【０５８２】

［抽選結果予告演出］

続いて、本実施形態のパチンコ機１の抽選結果演出における「抽選結果予告演出」について具体的に説明する。この「抽選結果予告演出」は、始動口１５０４，２２２０，１５０６への始動入賞により発生した（抽選された）特別乱数（特別抽選結果）に基いて、演出パターン選択手段３１５２で所定の演出パターンテーブルから選択された演出パターン沿って実施（制御）されるものであり、液晶表示手段６４０に表示された三つの図柄列の変動表示が開始されると、例えば、液晶表示装置６４０に所定のキャラクタを登場させることで、特別抽選結果が示唆される前（全ての図柄列が停止表示される前）に、登場するキャラクタによって「大当り」に対する期待値を遊技者に認識させるものである。これにより、図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動表示にメリハリを与えて抽選結果演出を飽き難くすると共に、抽選結果演出により期待感を高めて遊技を楽しませることができるようになっている。

【０５８３】

この「抽選結果予告演出」では、液晶表示手段６４０に表示される抽選結果予告演出画像のみの演出だけでなく、横行体２５１０等を適宜可動させる上に、液晶表示装置６４０に横行体２５１０の本体部２５１０ａに画像が表示されているように見える前演出画像を表示させると共に、前演出画像よりも後側に配置されたような後演出画像を表示させる演出もあり、この液晶表示装置６４０と横行体２５１０とを用いた「抽選結果予告演出」としては、例えば、図１２２乃至図１３１に示すような演出パターンがある。

【０５８４】

まず、図１２２（Ｂ１）～（Ｂ４）に示す抽選結果予告演出の例は、まず、後演出画像として液晶表示装置６４０に停止表示された三つの図柄列の変動表示を開始させた状態で、右側の視認不能領域Ａ２内に配置された一つの横行体２５１０を、その横行体２５１０の本体枠２５１０ａ内に前演出画像として所定のキャラクタ（ここでは、女性の町人をデフォルメした第一キャラクタＣ１）を表示させた上で、横行体２５１０の右端が視認可能領域Ａ１の右端と略接するような位置となるように視認可能領域Ａ１内へ移動させる（同図（Ｂ１）を参照）。そして、横行体２５１０をその位置で所定時間（例えば、０．３秒～２秒）停止させた後に、横行体２５１０を右側の視認不能領域Ａ２内へ移動させて、液晶表示装置６４０の前面（視認可能領域Ａ１内）から全ての横行体２５１０を排除するものである。その後、抽選結果演出として、左側の図柄列、右側の図柄列、中央の図柄列の順に順次停止表示させて、特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示させる（同図（Ｂ２）～（Ｂ４）を参照）。この抽選結果予告演出では、キャラクタの表示された一つの横行体２５１０が出現することで、遊技者の期待感を高めることができると共に、表示されるキャラクタによって期待値（「大当り」の可能性）を推測することができるようになっている。一方、図１２２（Ｃ）に示す抽選結果予告演出は、上記の（Ｂ１）の例とは逆に、左側の視認不能領域Ａ２内から、その視認不能領域Ａ２と略接した位置へキャラクタが表示された一つの横行体２５１０が出現する例である。

【０５８５】

また、図１２２（Ｄ１）～（Ｄ３）に示す抽選結果予告演出は、視認可能領域Ａ１内に全ての横行体２５１０が配置されていない状態で、右側の視認不能領域Ａ２内から所定のキャラクタを本体枠２５１０ａ内に表示した一つの横行体２５１０が、図１１０に示した横行体２５１０の動きと同様に、その横行体２５１０の左端が演出表示装置６４０の前面を横切って視認可能領域Ａ１の左端と略接するような位置となるように視認可能領域Ａ１内へ移動させた上で、所定時間（例えば、０．３秒～２秒）停止させた後に、再び右側の視認不能領域Ａ２内へ移動させるものである。なお、同図（Ｄ１）～（Ｄ３）では、右側の視認不能領域Ａ２内から一つの横行体２５１０が出現する例を示したが、これとは逆に左側の視認不能領域Ａ２内から一つの横行体２５１０が出現するようにしても良い。これ

により、キャラクタの表示された横行体２５１０が、右端から左端へ大きく移動するので、遊技者に対してダイナミックな印象を与えることができ、楽しませることができると共に、一見して、上記の同図（Ｂ１）や（Ｃ）の例よりも期待値が高いものであると推測させることができるようになっている。

【０５８６】

更に、図１２３（Ｅ１），（Ｅ２）に示す抽選結果予告演出は、図１２１の（Ｂ１）や（Ｃ）の例では一つの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１内に出現するのに対して、一方の視認不能領域Ａ２内から、二つの横行体２５１０が互いに連結されたような状態とされると共に二つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａ内に表示された前演出画像としての所定のキャラクタ一が一つの画像となるように表示した上で、視認可能領域Ａ１における配置されていた視認不能領域Ａ２と同じ側の端と略接するような位置となるように視認可能領域Ａ１内へ移動させ、所定時間（例えば、０．３秒～２秒）その位置で停止させた後に、再び元の視認不能領域Ａ２内へ移動させるものである。なお、同図（Ｅ２）では、二つの横行体２５１０に表示されるキャラクタに、第一キャラクタＣ１とは異なる第二キャラクタＣ２（悪代官をデフォルメしたもの）を表示したものであり、同図（Ｅ１）や（Ｅ２）で表示されるキャラクタを任意のものとすることができる。これにより、互いに接して並んだ二つの横行体２５１０が出現すると共に、前演出画像としてキャラクタがより大きく表示されているので、見た目のインパクトが高くなり遊技者の関心を強く引き付けることができるようになっている。なお、この例では、横行体２５１０が配置された視認不能領域Ａ２と同じ側の視認可能領域Ａ１の端と略接するような位置へ移動するものを示したが、図１２２の（Ｄ１）～（Ｄ３）の例と同様に、視認可能領域Ａ１の反対側の端と略接するように位置へ移動させるようにしても良い。

【０５８７】

また、図１２３（Ｆ１）～（Ｆ２）に示す抽選結果予告演出は、まず、図１２２（Ｂ１）と同様に、右側の視認不能領域Ａ２内から、一つの横行体２５１０を、その本体枠２５１０ａに所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）を表示させた状態で、視認可能領域Ａ１の右端と略接するような位置となるように移動させる（同図（Ｆ１）を参照）。続いて、左側の視認不能領域Ａ２内から、その本体枠２５１０ａに先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）を表示させた状態で、視認可能領域Ａ１の左端と略接するような位置となるように移動させ、その状態で所定時間（例えば、０．３秒～２秒）経過すると、夫々の横行体２５１０を、初めに配置されていた視認不能領域Ａ２内へと移動させるものである。これにより、第一キャラクタＣ１が表示された一つの横行体２５１０が一方側から出現した後に、反対側から第二キャラクタＣ２が表示された一つの横行体２５１０が出現するので、二段階で横行体２５１０と同時にキャラクタが登場し、遊技者を楽しませることができると共に、遊技に対する期待感を高めることができるようになっている。なお、ここでは、横行体２５１０が初めに右側の視認不能領域Ａ２内から出現するものを示したが、横行体２５１０が初めに左側の視認不能領域Ａ２内から出現させるようにしても良い。

【０５８８】

更に、図１２３（Ｇ１）～（Ｇ４）に示す抽選結果予告演出は、まず、図１２２（Ｂ１）と同様に、右側の視認不能領域Ａ２内から、一つの横行体２５１０を、その本体枠２５１０ａに所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）を表示させた状態で、視認可能領域Ａ１の右端と略接するような位置となるように移動させる（同図（Ｇ１）を参照）。続いて、右側の視認不能領域Ａ２内から先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）を表示させた一つの横行体２５１０を、視認可能領域Ａ１の反対側（左側）の左端と略接するような位置となるように液晶表示装置６４０の前面を横切るように移動させる（同図（Ｇ２）及び（Ｇ３）を参照）。そして、所定時間（例えば、０．３秒～２秒）経過すると、夫々の横行体２５１０が初めに配置されていた視認不能領域Ａ２内へと移動するものである。これにより、図１１１の例と略同様に、二つ目の第二キャラクタＣ２が表示された横行体２５１０が、一つ目の

第一キャラクタＣ１が表示された横行体２５１０を追抜くような動きをして出現するので、同図（Ｆ１）～（Ｆ２）の動きと比較してよりダイナミックな動きとすることができ、遊技者を楽しませることができると共に、期待感を高めることができる。なお、ここでは、右側の視認不能領域Ａ２内から二つの横行体２５１０が順次出現する例を示したが、これとは逆に左側の視認不能領域Ａ２内から二つの横行体２５１０が順次出現するようにしても良い。

【０５８９】

また、図１２４（Ｈ１）～（Ｈ４）に示す抽選結果予告演出は、左右の視認不能領域Ａ２内に配置された横行体２５１０を、夫々一つずつ略同時に、反対側の視認可能領域Ａ１の端と略接するような位置となるように液晶表示装置６４０の前面を横切って移動させると共に、夫々の横行体２５１０に互いに異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２と、悪商人をデフォルメした第三キャラクタＣ３）を表示させるようにし、その後、所定時間（例えば、０．２秒～２秒）経過すると、夫々の横行体２５１０が初めに配置されていた視認不能領域Ａ２内へと移動するものである。この演出における横行体２５１０の動きは、図１１２に示した動きと同じ動きであり、左右の視認不能領域Ａ２内に配置された横行体２５１０が夫々一つずつ視認可能領域Ａ１内へ互いにクロスするように移動して出現するので、よりダイナミックな感じとすることができ、遊技者を楽しませることができるようになっている。

【０５９０】

また、図１２４（Ｉ１）～（Ｉ４）に示す抽選結果予告演出は、まず、右側の視認不能領域Ａ２内から所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）が表示された一つの横行体２５１０が、液晶表示装置６４０の前面を横切るように視認可能領域Ａ１の左端と略接するような視認可能領域Ａ１内の位置へと移動した後に（同図（Ｉ１）及び（Ｉ２）を参照）、左側の視認不能領域Ａ２内から先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）が表示された一つの横行体２５１０が、先の横行体２５１０を越えると共に液晶表示装置６４０の前面を横切るように視認可能領域Ａ１の右端と略接するような視認可能領域Ａ１内の位置へ移動し（同図（Ｉ３）及び（Ｉ４）を参照）、その後所定時間（例えば、０．３秒～２秒）経過すると、夫々の横行体２５１０が最初に配置されていた視認不能領域Ａ２内へと移動するものである。これにより、左右の視認不能領域Ａ２から交互に出現する横行体２５１０が、夫々液晶表示装置６４０の前面を横切るようなダイナミックな動きを交互にするので、遊技者の関心を強く引き付けることができるようになっている。

【０５９１】

更に、図１２５（Ｊ１）～（Ｊ４）に示す抽選結果予告演出は、右側の視認不能領域Ａ２内から所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）が表示された一つの横行体２５１０を、液晶表示装置６４０の前面を横切って視認可能領域Ａ１の左端と略接するように位置へと移動させる（同図（Ｊ１）及び（Ｊ２）を参照）。続いて、左側の視認不能領域Ａ２内に配置された一つの横行体２５１０を、先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）を表示させた上で、先の横行体２５１０を左右方向の中央へ押出すように、夫々の横行体２５１０が互いに略接した状態で一緒に右方向へ第二キャラクタＣ２を表示した横行体２５１０が視認可能領域Ａ１の左端と略接した位置となるまで移動させる（同図（Ｊ３）を参照）。その後、所定時間（例えば、０．３秒～２秒）が経過すると、夫々の横行体２５１０を初めに配置された視認不能領域Ａ２内へと移動させるものである。これにより、第一キャラクタＣ１の表示された横行体２５１０がダイナミックに液晶表示装置６４０の前面を横切った上で、第二キャラクタＣ２の表示された横行体２５１０により押出されるように移動するので、遊技者を驚かせることができるようになっている。なお、この例では、初めに出現する横行体２５１０を、図１２２（Ｃ１）～（Ｃ４）に示した例と同様に液晶表示装置６４０の前面を横切らせるようにしているが、図１２２（Ｂ１）に示した例と同様に初めに配置された視認不能領域Ａ２側と同じ側の視認可能領域Ａ１の端と略接するような位置へ移動させた

上で、同じ側の視認不能領域Ａ２内に配置された横行体２５１０によって押出されるようにしても良い。

【０５９２】

また、図１２５（Ｋ１）～（Ｋ４）に示す抽選結果予告演出は、まず、図１２４（Ｉ１）～（Ｉ４）に示した例と同様に、まず、右側の視認不能領域Ａ２内から所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）が表示された一つの横行体２５１０を、液晶表示装置６４０の前面を横切るように視認可能領域Ａ１の左端と略接するような視認可能領域Ａ１内の位置へと移動させる（同図（Ｋ１）を参照）。続いて、左側の視認不能領域Ａ２内から先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）が表示された一つの横行体２５１０を、先の横行体２５１０を越えると共に液晶表示装置６４０の前面を横切るように視認可能領域Ａ１の右端と略接するような視認可能領域Ａ１内の位置へと移動させる（同図（Ｋ２）及び（Ｋ３）を参照）。そして、右側の視認不能領域Ａ２内から更に異なるキャラクタ（ここでは、第三キャラクタＣ３）が表示された横行体２５１０を、第二キャラクタＣ２が表示された横行体２５１０が中央側へ押出させるように、夫々の横行体２５１０が互いに略接した状態で一緒に右方向へ後の横行体２５１０が視認可能領域Ａ１の右端と略接した位置となるまで移動させる（同図（Ｋ４）を参照）。その後、所定時間（例えば、０．３秒～２秒）が経過すると、夫々の横行体２５１０を初めに配置された視認不能領域Ａ２内へと移動させるものである。これにより、三つの横行体２５１０が段階的に出現するので、遊技者を楽しませることができると共に、遊技に対する期待感をより高めることができるようになっている。なお、各横行体２５１０が出現する方向を、夫々逆方向とするようにしても良い。

【０５９３】

また、図１２６（Ｌ１）～（Ｌ８）に示す抽選結果予告演出は、まず、右側の視認不能領域Ａ２内から、所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）が表示された一つの横行体２５１０が、視認可能領域Ａ１の右端と略接する位置となるように視認可能領域Ａ１内へ移動した上で（同図（Ｌ１）を参照）、右側の視認不能領域Ａ２内から、先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）が表示された一つの横行体２５１０を、第一キャラクタＣ１の表示された横行体２５１０を越えると共に液晶表示装置６４０の前面を横切るように、視認可能領域Ａ１の左端と略接する位置へと移動させる（同図（Ｌ２）及び（Ｌ３）を参照）。続いて、左側の視認不能領域Ａ２内から、更に異なるキャラクタ（ここでは、第三キャラクタＣ３）が表示された一つの横行体２５１０を、第二キャラクタＣ２が表示された横行体２５１０を押出すようにすると共に、第二キャラクタＣ２が表示された横行体２５１０が、第一キャラクタＣ１の表示された横行体２５１０と略接するような位置へと一緒に移動させる（同図（Ｌ４）及び（Ｌ５）を参照）。そして、三つの横行体２５１０が互いに略接したような状態で、各キャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３よりも前側のレイヤーに左側の変動する図柄列を表示させた上で左図柄ＺＬを停止表示させる（同図（Ｌ６）を参照）。その後、各横行体２５１０を初めに配置されていた視認不能領域Ａ２内へ夫々移動させた後に、右側の図柄列、中央の図柄列の順に順次停止表示させて特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲを表示させるものである（同図（Ｌ７）及び（Ｌ８）を参照）。これによっても上記と同様に遊技者を楽しませることができるようになっている。

【０５９４】

更に、図１３０（Ｍ１）～（Ｍ４）に示す抽選結果予告演出は、右側の視認不能領域Ａ２内から、二つの横行体２５１０を、互いに連結されたような状態とすると共に二つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａで一つの画像となるように所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）を表示させた上で、視認可能領域Ａ１の右端と略接するような位置（互いに連結されたような横行体２５１０の左端が左右方向の略中央に配置される位置）へと一緒に移動させる（同図（Ｍ１）を参照）。続いて、反対側の左側の視認不能領域Ａ２内から、同じく二つの横行体２５１０を、互いに連結されたような状態とすると共に二つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａで一つの画像となるように異なるキャラクタ（

ここでは、第二キャラクタＣ２）を表示させた上で、視認可能領域Ａ１の左端と略接するような位置（互いに連結されたような横行体２５１０の右端が左右方向の略中央に配置される位置、つまり、第一キャラクタＣ１が表示された横行体２５１０と略接するような位置）へと一緒に移動させ、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面を被覆した状態とする（同図（Ｍ２）を参照）。その状態で、各キャラクタＣ１，Ｃ２よりも前側のレイヤーに左側の変動する図柄列を表示させた上で左図柄ＺＬを停止表示させる（同図（Ｍ３）を参照）。その後、各横行体２５１０を初めに配置されていた視認不能領域Ａ２内へ夫々移動させた後に、右側の図柄列（同図（Ｍ４）を参照）、中央の図柄列の順に順次停止表示させて特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲを表示させるものである。これにより、二つの横行体２５１０によってキャラクタＣ１，Ｃ２を大きく表示させた上で、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆されて閉じられたような状態となるので、遊技者をより驚かせることができると共に、遊技者の期待感をより高めることができるようになっている。

【０５９５】

また、図１２７（Ｎ１）～（Ｎ４）に示す抽選結果予告演出は、右側の視認不能領域Ａ２内から、所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）を表示させた一つの横行体２５１０を、視認可能領域Ａ１の右端と略接するような位置となるように移動させた上で（同図（Ｎ１）を参照）、左側の視認不能領域Ａ２内から、先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）を表示させた一つの横行体２５１０を、視認可能領域Ａ１の左端と略接するような位置となるように移動させる（同図（Ｎ２）を参照）。続いて、左側の視認不能領域Ａ２内に配置された一つの横行体２５１０を、更に異なるキャラクタ（ここでは、第三キャラクタＣ３）を表示させた上で、第二キャラクタＣ２を表示した横行体２５１０を左右方向の中央へ押出すように、夫々の横行体２５１０が互いに略接した状態で一緒に右方向へ第三キャラクタＣ３を表示した横行体２５１０が視認可能領域Ａ１の左端と略接した位置となるまで移動させる（同図（Ｎ３）を参照）。その後、右側の視認不能領域Ａ２内から、一つの横行体２５１０を、第一キャラクタＣ１が表示された横行体２５１０を左側へ押出すように一緒に左方向へ移動させると同時に、各横行体２５１０の本体枠２５１０ａに表示された前演出画像の各キャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を消去して変動中の左図柄列、右図柄列を順次表示させると共に停止表示させ（同図（Ｎ４）を参照）る。そして、左右の図柄列が停止表示されると、各横行体２５１０を夫々最初に位置した視認不能領域Ａ２内へ移動させると共に、変動中の中図柄を表示させた上で停止表示させて、特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示させるものである。これにより、異なる三つのキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３が横行体２５１０と共に段階的に順次出現した上で四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆されるので、遊技者の期待感を段階的に高めることができると共に、強いインパクトを与えることができるようになっている。

【０５９６】

更に、図１２８（Ｏ１）～（Ｏ６）に示す抽選結果予告演出は、図１２５（Ｊ１）～（Ｊ３）に示した例の更に多段階（ステップアップ）となった例であると共に、図１２７（Ｎ１）～（Ｎ４）に示した例の変形パターンであり、まず、右側の視認不能領域Ａ２内から所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）が表示された一つの横行体２５１０を、液晶表示装置６４０の前面を横切って視認可能領域Ａ１の左端と略接するように位置へと移動させる（同図（Ｏ１）及び（Ｏ２）を参照）。続いて、左側の視認不能領域Ａ２内に配置された一つの横行体２５１０を、先の横行体２５１０に表示されたキャラクタとは異なるキャラクタ（ここでは、第二キャラクタＣ２）を表示させた上で、第一キャラクタＣ１を表示した横行体２５１０を左右方向の中央へ押出すように、夫々の横行体２５１０が互いに略接した状態で一緒に右方向へ第二キャラクタＣ２を表示した横行体２５１０が視認可能領域Ａ１の左端と略接した位置となるまで移動させる（同図（Ｏ３）を参照）。そして、更に左側の視認不能領域Ａ２内から、更に異なるキャラクタ（ここでは、第三キャラクタＣ３）を表示した一つの横行体２５１０を、第一キャラクタＣ１、第二キャ

ラクタＣ２を夫々表示した二つの横行体２５１０を右方向へ押出すように視認可能領域Ａ１へと移動させる（同図（Ｏ４）を参照）。その後、右側の視認不能領域Ａ２内から一つの横行体２５１０を、第一キャラクタＣ１が表示された横行体２５１０の右端と略接するように移動させて四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面を被覆するようにすると共に、各横行体２５１０に表示されたキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を消去して変動中の左図柄列、右図柄列を順次表示させると共に停止表示させ（同図（Ｏ５）を参照）る。そして、左右の図柄列が停止表示されると、各横行体２５１０を夫々最初に位置した視認不能領域Ａ２内へ移動させると共に、変動中の中図柄を表示させた上で停止表示させて、特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示させるものである（同図（Ｏ６）を参照）。これによっても、異なる三つのキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３が横行体２５１０と共に段階的に順次出現した上で四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆されるので、遊技者の期待感を段階的に高めることができると共に、強いインパクトを与えることができるようになっている。

【０５９７】

図１２９（Ｐ１）～（Ｐ８）に示す抽選結果予告演出は、図１２８等に示した段階的に四つの横行体２５１０で液晶表示装置６４０の前面を被覆するパターンの更に異なる例であり、まず、左右の視認不能領域Ａ２内から、夫々異なるキャラクタ（ここでは、右側からは第三キャラクタＣ３、左側からは第二キャラクタＣ２）を表示した横行体２５１０を、夫々一つずつ略同時に、反対側の視認可能領域Ａ１の端と略接するような位置となるように液晶表示装置６４０の前面を横切って移動させ（同図（Ｐ１）～（Ｐ４）を参照）。そして、更に、左右の視認不能領域Ａ２内から、横行体２５１０を夫々一つずつ略同時に視認可能領域Ａ１内へ移動させて、四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面を被覆した上で、中央の二つの横行体２５１０に、二つで一つの画像となる所定のキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１）を表示させる（同図（Ｐ５）及び（Ｐ６）を参照）。ここで、同図（Ｐ４）から同図（Ｐ５）へ至る各横行体２５１０とキャラクタＣ１，Ｃ２Ｃ３等の前演出画像の動作について詳述すると、同図（Ｐ４）の状態から、左右の視認不能領域Ａ２内に配置された横行体２５１０は、夫々隣接する第二キャラクタＣ２や第三キャラクタＣ３を表示した横行体２５１０を、視認可能領域Ａ１の中央側へ押出すように視認可能領域Ａ１内へ移動させると共に、液晶表示装置６４０では前演出画像として視認可能領域Ａ１の両端に表示した第二キャラクタＣ２及び第三キャラクタＣ３を移動する横行体２５１０に対して追従させずに、そのままの位置で固定して表示させ、押出された左右二つの横行体２５１０が略中央で互いに接して四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面を被覆すると、中央の二つの横行体２５１０に第一キャラクタＣ１を表示させるようにしており、この動作を素早く（例えば、０．１秒～０．５秒の間）行うことで、前演出画像を表示した横行体２５１０が入替わったのを気付かせ難くするうよにしている。そして、四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面を被覆されたら、各横行体２５１０に表示されたキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を消去して変動中の左図柄列を表示させると共に停止表示させる（同図（Ｐ７）を参照）。その後、各横行体２５１０を夫々最初に位置した視認不能領域Ａ２内へ移動させると共に、変動中の右図柄列、中図柄列を表示させた上で（同図（Ｐ８）を参照）順次停止表示させて、特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示させるものである。これによっても、異なる三つのキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３が横行体２５１０と共に段階的に順次出現した上で四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆されるので、遊技者の期待感を段階的に高めることができると共に、強いインパクトを与えることができるようになっている。

【０５９８】

ところで、本実施形態のパチンコ機１では、遊技状態が「確変」状態、「時短」状態、又は「確変時短」状態となると、四つの横行体２５１０が所定配列で視認可能領域Ａ１内に配置されて液晶表示装置６４０の前面を被覆した状態とすると共に、各横行体２５１０の本体枠２５１０ａに前演出画像として特別抽選結果を示唆する三つの図柄列が変動表示

されると共に順次停止表示されるようになっている。つまり、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆された状態で三つの図柄列が変動する抽選結果演出画像が表示されることで、遊技者に対して現在の遊技状態が「確変」や「時短」等の遊技状態であることを認識させることができるようになっている。そして、上記した抽選結果予告演出が通常の遊技状態の時に実施されるものであるのに対して、「確変」や「時短」等の遊技状態の時に実施される抽選結果特別予告演出と称する抽選結果予告演出もある。

【０５９９】

図１３０（Ｑ１）～（Ｑ８）に示す抽選結果特別予告演出は、上述した通り「確変」や「時短」等の遊技状態の時に実施されるものであり、まず、四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面が被覆された状態で、三つの図柄列が変動表示を開始すると（同図（Ｑ１）及び（Ｑ２）を参照）、変動する各図柄列よりも前のレイヤーに「チャンスタイム」の文字を短時間表示させた上で、中央に配置された二つの横行体２５１０を、左右に配置された横行体２５１０と重なるように夫々離反する方向へ移動させると共に、液晶表示装置６４０の中央に縦軸周りに「小」「中」「大」「超」の絵柄Ｐ１を順に配置した絵柄列が回転（変動）する画像（特別演出画像）を表示させる（同図（Ｑ３）を参照）。それと同時に、その絵柄列よりも前のレイヤーに半透明の手形Ｈを表示させると共に、左右の横行体２５１０の本体枠２５１０ａ内に、遊技者に対して手形Ｈに手を合せるように画面に触れる旨の案内画像を表示させる（同図（Ｑ４）を参照）と共に、物体検知受付手段３１６４により物体検知センサ１４２８からの検知信号を所定時間受付可能とする。その後、所定時間内に物体検知センサ１４２８で物体（遊技者の手等）を検知すると、変動表示中の絵柄列の回転を停止させて所定の絵柄Ｐを表示させると共に、絵柄Ｐ１の後方を光らせて絵柄Ｐ１が確定したことを遊技者に認識させる（同図（Ｑ５）及び（Ｑ６）を参照）。なお、所定時間内に物体検知センサ１４２８が物体を検知しなかった時も、同様に絵柄列を停止表示させる。なお、物体を検知しなかった場合は、検知した時と同じ、若しくは、それよりもランクの低い絵柄Ｐ１が停止表示されるようになっている。そして、絵柄Ｐ１が確定すると、その絵柄Ｐ１を画面の右端上へと縮小移動させると共に最も前側のレイヤーに表示させ（同図（Ｑ７）を参照）、その後、重なっていた二つの横行体２５１０が中央へと移動して四つの横行体２５１０により再び液晶表示装置６４０の前面を被覆した状態とした上で、変動表示中の三つの図柄列を表示させると共に、順次停止表示させて特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示するものである（同図（Ｑ８）を参照）。これにより、遊技者に対して画面に手を触れさせるような動作を促すようにしているので、遊技球を打ち込む通常の遊技とは明らかに異なる動作をさせることができ、遊技にアクセントを付けて飽き難くすることができると共に、遊技者を楽しませることができるようになっている。

【０６００】

また、図１３１（Ｒ１）～（Ｒ８）に示す抽選結果特別予告演出は、まず、四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面が被覆された状態で（同図（Ｒ１）を参照）、三つの図柄列が変動表示を開始すると、一つの横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へと移動した上で、視認可能領域Ａ１内の三つの横行体２５１０が、所定間隔で配置された状態（図１１８（ウ）と略同じ状態）となると共に、各横行体２５１０の本体枠２５１０ａに前演出画像として「待人」「恋愛」「願望」の三つの選択肢画像Ｐ２を表示させる（同図（Ｒ２）及び（Ｒ３）を参照）。また、液晶表示装置６４０の画面には、三つの選択肢画像Ｐ２の他に、操作ボタン３３０の何れかを操作するように促す旨の案内表示を表示すると共に、操作受付手段３１６６により所定時間の間操作ボタン３３０からの操作信号を受付可能とする。そして、所定時間の間に何れかの操作ボタン３３０が操作されると（例えば、ここでは左ボタン３３０ａ）、視認可能領域Ａ１内の三つの横行体２５１０を夫々視認不能領域Ａ２内へと移動させると共に、操作された操作ボタン３３０と対応した選択肢画像Ｐ２（例えば、ここでは「待人」）を中央に表示させた上で（同図（Ｒ４）及び（Ｒ５）を参照）、その選択肢画像Ｐ２（「待人」）と入替わるように対応する占い画像（例えば、ここでは「末吉　来たらず」）を表示する（同図（Ｒ６）を参照）。その後、

左右の視認不能領域Ａ２内から、特別抽選結果を示唆する組合せで停止表示された図柄ＺＬ，ＺＲを表示した横行体２５１０を、液晶表示装置６４０の前面全体を被覆するように視認可能領域Ａ１内へ移動させ（同図（Ｒ７）を参照）、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆されると、中央の中図柄ＺＣも確実に視認できるようになるものである。これにより、遊技者に対して三つの操作ボタン３３０の何れかを選択して操作させるような演出を提示するようにしているので、遊技者に対して通常の遊技とは異なる動作をさせることができ、遊技にアクセントを付けて飽き難くすることができるようになっている。

【０６０１】

なお、「確変」や「時短」等の遊技状態の時には、図１３０や図１３１に示すように、液晶表紙装置６４０の画面の右上に縮小表示された絵柄Ｐ１が最も前側のレイヤーに略常時表示されるようになっており、「大当り」となる時期が近いか否かを遊技者に認識させることができるようになっている。また、この縮小表示された絵柄Ｐ１は、上記の図１３０に示した抽選結果特別予告演出により変化するようになっており、より「大当り」の時期が近い（「小」「中」「大」「超」の順で「大当り」の時期が近い）ことを示唆する絵柄Ｐ１に変化するか否かによって遊技者を楽しませることができるようになっている。

【０６０２】

［リーチ発展演出］

次に、本実施形態のパチンコ機１における「リーチ発展演出」の例について具体的に説明する。「リーチ発展演出」は変動表示中の三つの図柄列のうち、二つの図柄列が停止して表示された図柄の組合せが、有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技状態）となる組合せを充足可能な図柄の組合せの状態（一般的には、左図柄ＺＬと右図柄ＺＲとが同じ図柄で停止表示された状態）の後に、変動表示された最後の図柄列の変動表示が、通常とは異なる変動表示を行う演出である。この「リーチ発展演出」の一例として図１３２及び図１３３の（Ｓ１）～（Ｓ１６）に示す例は、まず、変動表示された三つの図柄列のうち、左右の図柄列が同じ図柄ＺＬ，ＺＲに停止表示されて「リーチ」（同図（Ｓ１）を参照）となった後に、最後の図柄列（中央の図柄列）が他の図柄ＺＬ，ＺＲと異なる図柄ＺＣで停止すると（同図（Ｓ２）を参照）、左右の視認不能領域Ａ２内から、夫々一つの横行体２５１０が前演出画像として所定の模様（例えば、ここでは紗綾形の模様）を表示した状態で互いに接近するように視認領域可能Ａ１内へと移動を開始する（同図（Ｓ３）を参照）。そして、左右から出現した二つの横行体２５１０によって左右の図柄ＺＬ，ＺＲが本体枠２５１０ａに表示された前演出画像として模様によって隠されると（同図（Ｓ４）を参照）、各横行体２５１０に前演出画像として模様よりも前側のレイヤーに隠された図柄ＺＬ，ＺＲと同じ図柄が表示され、「リーチ」を示唆する図柄ＺＬ，ＺＲが横行体２５１０に乗移ったような状態となると共に、その二つの横行体２５１０により中央に表示された中図柄ＺＣが挟まれた状態となる（同図（Ｓ５）を参照）。

【０６０３】

そして、二つの横行体２５１０が略中央で互いに接したような状態となることで、中図柄ＺＣが二つの横行体２５１０によって隠された状態となる（同図（Ｓ６）を参照）。その後、互いに接した二つの横行体２５１０が、互いに離反する方向へ移動することで、二つの横行体２５１０の間から、変動した次の中図柄ＺＣが現れ、その現れた中図柄ＺＣを左図柄ＺＬ及び右図柄ＺＲを表示した二つの横行体２５１０によって狭持し、中図柄ＺＣが二つの横行体２５１０によって挟まれて潰れるか否かの可動演出と画像演出が行われ（同図（Ｓ７）～（Ｓ１１）を参照）。その後、中図柄ＺＣが二つの横行体２５１０によって潰されると、見えなくなった中図柄ＺＣが次の図柄に変動すると共に、二つの横行体２５１０が再び互いに離反して変動した中図柄ＺＣが現れて、中図柄ＺＣが挟まれる動作が所定回数繰り返される。そして、最後の動作では、二つの横行体２５１０によって挟まれた中図柄ＺＣが潰されずに、二つの横行体２５１０が更に互いに離反する方向へと移動して左右の視認不能領域Ａ２内へ移動しだすと、二つの横行体２５１０に表示された図柄ＺＬ，ＺＲが、前演出画像から後演出画像へと移り、横行体２５１０の動きには追従せずに

位置が固定された状態となる（同図（Ｓ１２）～（Ｓ１５）を参照）。そして、左右の図柄ＺＬ，ＺＲと中図柄ＺＣとが、変動開始時の図柄列の図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの大きさに表示されて特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せが表示されることとなる。これにより、「リーチ」の図柄ＺＬ，ＺＲが乗移った二つの横行体２５１０によって、変動している中図柄ＺＣを挟んで変動させるようにしており、単に演出画像のみの演出と比較して、立体的な横行体２５１０が一緒に可動するので、より図柄列の変動をリアルな感じにすることができ、遊技者の関心を強く引き付けることができると共に、遊技者を楽しませることができるようになっている。

【０６０４】

次に、図１３４及び図１３５の（Ｔ１）～（Ｔ１６）に示す「リーチ発展演出」は、詳細は後述するが、「リーチ」となった後に、「リーチ」となった左右の図柄ＺＬ，ＺＲを夫々左右の上部に縮小した上で、最も前側のレイヤーに表示させた状態で、一旦、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面が被覆された状態となった後に、全ての横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動させる（同図（Ｔ１）及び（Ｔ２）を参照）。続いて、左右の視認不能領域Ａ２内から、二つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａで一つの画面となるような大きな中図柄ＺＣを夫々表示させた横行体２５１０を、互いに接近するように視認可能領域Ａ１の略中央へ移動させ（同図（Ｔ３）を参照）、略中央で二つの横行体２５１０が互いに接したような状態となることで、一つの大きな中図柄ＺＣが表示された状態となる（同図（Ｔ４）を参照）。その後、中図柄ＺＣを表示した二つの横行体２５１０を互いに接した状態で一緒に左右方向へ所定回数往復移動させた上で、左右方向の略中央で停止させる（同図（Ｔ５）～（Ｔ９）を参照）。そして、中図柄ＺＣを表示した二つの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１の略中央に停止すると、その表示された中図柄ＺＣも含めて中央が明るく光だすと共に、二つの横行体２５１０がゆっくりと互いに離反する方向へと移動し、二つの横行体２５１０の間から光に包まれた変動後の中図柄ＺＣが現れだす（同図（Ｔ１０）～（Ｔ１２）を参照）。

【０６０５】

その後、二つの横行体２５１０が左右の視認不能領域Ａ２内へ移動すると略同時に、中図柄ＺＣを包んだ光が止んで、後演出画像として大きな中図柄ＺＣが表示された状態となる（同図（Ｔ１３）を参照）。そして、左右上部に縮小表示された左右の図柄ＺＬ，ＺＲと、中央で拡大表示された中図柄ＺＣとが、夫々通常の大きさに変化し、特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せで表示するものである（同図（Ｔ１４）及び（Ｔ１５）を参照）。なお、本例では、図示するように「大当り」を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せで停止表示されるので、その後に、「大当り」である旨を認識させる画像（同図（Ｔ１６）を参照）を表示して特別抽選結果に応じた「大当り」遊技が開始される。これにより、「リーチ」状態となった後に、中図柄ＺＣが乗移った二つの横行体２５１０が出現して大きな中図柄ＺＣを表示させながら、ゆっくりと左右方向へ移動して次の中図柄ＺＣを表示させるようにしているので、変動する大きな中図柄ＺＣによって遊技者に対して強いインパクトを与えることができるようになっている。

【０６０６】

ところで、本実施形態のパチンコ機１には、「リーチ」状態となった後に、上記したような様々な「リーチ発展演出」が予め用意されており、「リーチ」の後に直接「リーチ発展演出」を実施する場合と、「リーチ」の後に、「リーチ」が発展することを遊技者に対して明確に認識させることができる「リーチ発展予告演出」を実施する場合とがあり、この「リーチ発展予告演出」について具体的に説明する。図１３６（Ｕ１）～（Ｕ８）に示すリーチ発展予告演出の例は、まず、すべての横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内に配置された上で「リーチ」状態となった後に（同図（Ｕ１）を参照）、全ての図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲを再度変動表示させると共に、図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲよりも後側のレイヤーに主要なキャラクタ（ここでは、第一キャラクタＣ１や、パチンコ機１のコンセプトとなっている物語の主人公をデフォルメして特別キャラクタＣ０等）を表示させる（同図（Ｕ２）を参照）。

【０６０７】
そして、図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動表示が速くなるに連れて、多くの光の粒が現れる画像をオーバーラップさせた上で、光の粒が束となって収束すると同時に、左右の視認不能領域Ａ２内から、前演出画像として所定の模様（ここでは、紗綾形の模様）を表示した横行体２５１０を液晶表示装置６４０の前面全体を被覆するように移動させる（同図（Ｕ３）～（Ｕ５）を参照）。そして、四つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａで一つの画像（ここでは、所定キャラクタのシルエット画像）となるような画像を順次表示させ（同図（Ｕ６）～（Ｕ８）を参照）、その後に続いて、上記のような「リーチ発展演出」が実施されることとなる。これにより、確実に「リーチ」が発展することを遊技者に認識させることができ、特別抽選結果が「大当り」である可能性が極めて高いと思わせ、遊技に対する期待感を高めることができるようになっている。

【０６０８】
なお、詳細な説明は省略するが、上記の「抽選結果演出」、「抽選結果予告演出」、「リーチ発展演出」、「リーチ発展演出」等を実施している途中で、特別抽選結果に応じて、回転装飾体１４２４、サブ装飾体１４２６、揺動体２３１０等を適宜、可動駆動させたり、発光駆動させたりするようになっており、液晶表示装置６４０や横行体２５１０による演出だけでなく、回転装飾体１４２４や揺動体２３１０等の演出によっても、特別抽選結果が「大当り」である可能性（期待値）を認識させることができ、遊技に対する期待感を高めることができると共に、遊技者を楽しませることができるようになっている。

【０６０９】
また、図示は省略するが、横行体２５１０の本体枠２５１０ａ内に前演出画像として表示された各キャラクタＣ０，Ｃ１，Ｃ２，Ｃ３は、演出画像制御手段３１５８によって、横行体２５１０の移動開始時では移動方向に対して反対方向へ一旦揺れ、停止時では移動方向へ一旦揺れるように表示制御するようになっており、これにより、横行体２５１０に表示されたキャラクタＣ０，Ｃ１，Ｃ２，Ｃ３にあたかも慣性力が作用しているように見せることができ、横行体２５１０の動きと合せた画像によりリアルな感じとすることができ、遊技者を楽しませて興趣が低下するのを抑制することができるようになっている。

【０６１０】
なお、本実施形態における物体検知センサ１４２８が、本発明の物体検知手段に相当している。また、本実施形態における横行体２５１０（前横行体２５１２、後横行体２５１４）が本発明の可動体に、また、本実施形態の横行体２５１０における本体枠２５１０ａが本発明の窓枠に、更に、本実施形態の上前レール２５２０ａ、上後レール２５２０ｂ、下レールユニット２８００が本発明の案内部材に、夫々相当している。

【０６１１】
また、本実施形態における図１３０に示す抽選結果特別予告演出が、本発明の抽選結果特別演出に相当している。また、本実施形態における第一特別乱数発生手段３０６２及び第二特別乱数発生手段３０７２が本発明の抽選手段に相当している。更に、本実施形態における変動パターンテーブル変更手段３０８６が、本発明の演出時間変更手段に相当している。

【０６１２】
このように、本実施形態のパチンコ機１によると、遊技者による操作ハンドル部４６１の操作によって遊技領域６０５内へ打ち込まれた遊技球が、一般入賞口１５０２等の入賞口へ受入れられると賞球ユニット８００（払出ユニット）から所定数の遊技球が払出される。また、遊技領域６０５内へ打ち込まれた遊技球が、第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、ステージ始動口２２２０等へ受入れられると賞球ユニット８００から所定数の遊技球が払出されると共に第一特別乱数発生手段３０６２や第二特別乱数発生手段３０７２等の抽選手段によって所定の特別抽選結果が抽選され、その特別抽選結果に応じて液晶表示装置６４０に、複数の図柄列を変動表示させた上で、停止表示された図柄列の図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せが特別抽選結果を示唆する組合せとなるように、各図柄列を順次停止表示させる後演出画像としての抽選結果演出画像を表示させて、遊技者に対して抽選

された特別抽選結果を認識させる。そして、その特別抽選結果に応じて遊技者が有利となる有利遊技状態としての「大当り」遊技等を発生させることで、遊技者に対しより多くの遊技球が払出される機会を与えて遊技に対する興趣を高めることができる。この有利遊技状態が発生する特別抽選結果を示唆する際に、停止表示された図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲが一般図柄のみの組合せで表示された場合、その特別抽選結果に係る「大当り」遊技が終了すると、図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの変動時間（演出時間）が通常よりも短い「時短」状態、又は、「確変・時短」状態となると共に、液晶表示装置６４０の前面全体を四つの横行体２５１０により被覆した状態でそれらの本体枠２５１０ａに前演出画像として抽選結果演出画像が表示される遊技状態となる。この遊技状態は抽選結果演出画像の表示が所定回数実施されるまで継続されるようになっている。そして、この「時短」状態の時に、特別抽選結果に応じて、複数の図柄列が変動表示を開始して全ての図柄列が停止表示される前に、視認可能領域Ａ１内の中央に液晶表示装置６４０が露出するように視認可能領域Ａ１内で左右両側に横行体２５１０が移動し、露出した液晶表示装置６４０に特別演出画像として図柄列の変動方向とは異なる方向へ変動表示された複数の絵柄Ｐ１が表示された上で、左右の横行体２５１０の本体枠２５１０ａに、液晶表示装置６４０の前面に物体として遊技者の手を位置させるように促す案内画像が表示されると共に、変動表示された絵柄Ｐ１と重なるように案内画像としての手形Ｈの画像が表示されると略同時に、物体検知センサ１４２８による物体の検知が所定時間（例えば、１秒～３０秒の間）受付可能となる。その後、所定時間内に遊技者が手を液晶表示装置６４０の前面に差出して物体検知センサ１４２８に検知されると、変動表示された絵柄Ｐ１が特別抽選結果に応じた絵柄Ｐ１に停止表示されて抽選した特別抽選結果における有利遊技状態（「大当り」遊技）の発生する可能性（期待値）を遊技者に示唆して特別演出画像の表示が終了する。一方、所定時間内に物体検知センサ１４２８が何も検知しないと、変動表示された絵柄Ｐ１が所定の絵柄Ｐ１で停止表示されて特別演出画像の表示が終了する。このように、特別演出画像の表示（抽選結果特別予告演出）が終了すると、液晶表示装置６４０の前面全体を被覆するように横行体２５１０が移動し、それら横行体２５１０の本体枠２５１０ａに変動表示された複数の図柄列が表示された後に順次停止表示され、全ての図柄列が停止表示して、停止した図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せによって抽選された特別抽選結果を遊技者に示唆する一連の演出を行うことができる。これにより、特別抽選結果を示唆する抽選結果示唆演出の途中で、案内画像により遊技者に対し液晶表示装置６４０の前面に手等の物体を位置させるように促して、遊技者を打込操作とは異なる動作させることができるので、これまでとは明らかに異なる予告演出を遊技者に体験させることができ、予告演出を楽しませることができると共に、様々な案内画像や絵柄Ｐ１（特別演出画像）を表示させることで、予告演出の種類をより多彩なものとすることができ、飽き難くして遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０６１３】

また、抽選結果特別予告演出では、特別演出画像において遊技者に認識可能な順序で並んだ複数の絵柄Ｐ１が変動表示されているので、液晶表示装置６４０の前面に手等の物体を位置させるタイミングによって、停止表示する絵柄Ｐ１を決めることができると思わせることが可能となり、遊技者にタイミングを計らせることで特別演出画像に集中させることができ、特別演出画像を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、タイミングを長い間取りすぎて所定時間が経過してしまうと、物体の検知を受付けなくなって抽選結果特別予告演出が終了してしまい残念な気分になってしまうので、所定時間内で物体としての手等を差出させることができ、遊技にメリハリが付いて興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６１４】

また、抽選結果特別予告演出では、特別演出画像が左右方向の略中央に表示されることとなるので、複数の絵柄Ｐ１が変動する特別演出画像を見易くすることができると共に、左右の横行体２５１０によって挟まれたように特別演出画像（絵柄Ｐ１）が表示されるので、特別演出画像を目立たせることができ、特別演出画像に集中させて遊技に対する興趣

が低下するのを抑制することができる。また、中央に表示された特別演出画像の左右両側に、横行体２５１０の本体枠２５１０ａを介して案内画像が表示される、つまり、特別演出画像を挟むように案内画像が表示されるので、遊技者が特別演出画像に注目した場合でも何れかの案内画像が視界に入る可能性が高く、案内画像を認識させることができ、遊技者に対して液晶表示装置６４０の前面に手等の物体を位置させて抽選結果特別予告演出に参加させることができる。

【０６１５】

また、抽選結果特別予告演出では、液晶表示装置６４０の特別演出画像が表示されている部位にも案内画像としての手形Ｈの画像が表示されるので、案内画像を見落とし難くすることができると共に、遊技者に対してその手形Ｈと合せるように自身の手を差出せば良いと直感的に認識させることができるので、遊技者を確実に動作させることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、特別演出画像と重なるように案内画像としての手形Ｈの画像が表示されるので、遊技者に対してその案内画像を確実に視認させることができ、抽選結果特別予告演出に参加させ易くすることができる。

【０６１６】

更に、抽選結果特別予告演出では、特別演出画像における複数の絵柄Ｐ１の変動方向が、特別抽選結果を示唆するための複数の図柄列の変動方向とは異なる方向とされているので、遊技者に対して絵柄Ｐ１の変動表示と図柄列の変動表示とが全く別物であることを認識させ易くすることが可能となり、絵柄Ｐ１と図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲを混同して抽選結果演出画像と特別演出画像との違いが判らなくなって混乱してしまうのを防止することができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６１７】

また、抽選結果特別予告演出では、所定時間内に物体検知センサ１４２８で遊技者の手等の物体が検知されなくても、絵柄Ｐ１が停止表示されるので、とりあえずは特別演出画像が完結して、変動表示された複数の絵柄Ｐ１がそのままの状態で終了してしまうことで絵柄Ｐ１が決まらずに遊技者にモヤモヤとした違和感を感じさせてしまうのを防止することができ、遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、一回の抽選結果特別予告演出において、所定時間内に物体を検知するしないに関わらず、抽選された特別抽選結果の示唆を開始してから特別抽選結果が示唆されるまでの時間（変動時間）を、何れの場合も略同じ時間とすることができるので、演出制御に対する間合いを取り易くして制御が煩雑になるのを防止することが可能となり、演出制御の負荷を軽減させることができ、演出制御の負荷が遊技制御（例えば、普通・特別抽選結果の抽選、遊技球の払出し、始動口ソレノイド１５１６やアタッカソレノイド１５１８等の動き、等）に影響を与えてしまって遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを防止することができる。

【０６１８】

また、抽選結果特別予告演出の開始前に四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面全体を覆った状態としており、抽選結果特別予告演出が開始されると、液晶表示装置６４０が遊技者側から直接見えるように二つの横行体２５１０が移動するので、閉じた横行体２５１０が開いた感じとなって遊技者に対してこれから何かが起こるような感じにさせることができ、遊技者の期待感を高めることができる。また、抽選結果特別予告演出が終了すると、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面全体が再び被覆されるので、抽選結果特別予告演出が終了したことを遊技者に認識させて続く特別抽選結果の示唆に意識を切替えさせることが可能となり、演出にメリハリを付けて飽き難くすることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６１９】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、遊技状態が「時短」状態の時に、特別抽選結果に応じて、複数の図柄列が変動表示を開始して全ての図柄列が停止表示される前に、三つの操作ボタン３３０と同じ数の横行体２５１０が、その本体枠２５１０ａに前演出画

像として夫々異なる選択肢画像Ｐ２を表示させた状態で視認可能領域Ａ１内に所定間隔で配置されると共に、操作ボタン３３０の操作が所定時間の間（例えば、１秒～３０秒の間）受付可能となる抽選結果特別予告演出が実施される。この抽選結果特別予告演出では、所定時間内に選択肢画像Ｐ２と対応した操作ボタン３３０を操作すると、全ての横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動すると共に、液晶表示装置６４０の略中央に選択した選択肢画像Ｐ２と関連した占い画像Ｐ３（特別演出画像）が表示される。一方、所定時間内に何れの操作ボタン３３０も操作されなければ、全ての横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動すると共に、表示された何れかの選択肢画像Ｐ２と関連した占い画像Ｐ３が液晶表示装置６４０の略中央に表示される。そして、表示された占い画像Ｐ３と重なるように抽選結果演出画像（変動図柄）の表示が再開させると同時に四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面全体が覆われた状態となり、その後、変動表示された全ての図柄列が停止表示されて抽選結果を遊技者に示唆することができるようになっている。これにより、抽選結果特別予告演出では、三つの操作ボタン３３０と同じ数の横行体２５１０が、その本体枠２５１０ａに前演出画像として夫々異なる選択肢画像Ｐ２を表示させた状態で視認可能領域Ａ１内に所定間隔で配置されると共に、操作ボタン３３０の操作が所定時間の間（例えば、１秒～３０秒の間）受付可能となるので、三つの選択肢画像Ｐ２の内容による選択肢から何れの選択肢画像Ｐ２（選択肢）を選択するのかで遊技者の思考を巡らさせて楽しませることができると同時に飽き難くすることができる。また、所定の時間内に遊技者が三つの本体枠２５１０ａに表示された選択肢画像Ｐ２の何れかを選択して対応する操作ボタン３３０を押すと、選択した選択肢画像Ｐ２の内容と対応する占い画像Ｐ３が表示されるので、この占い画像Ｐ３によって、抽選された特別抽選結果が「大当り」である可能性が高いものであるか否かを認識させることができ、その後に示唆される特別抽選結果に対する期待感を高めて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。従って、特別抽選結果を示唆する抽選結果演出画像の途中で、三つの操作ボタン３３０と夫々対応した横行体２５１０の本体枠２５１０ａに選択肢画像Ｐ２を表示させて、何れかの操作ボタン３３０（選択肢画像Ｐ２）を選択させるようにしているので、これまでとは明らかに異なる予告演出を遊技者に体験させることができ、予告演出を楽しませることができると共に、様々な選択肢画像Ｐ２を表示させることで、予告演出の種類をより多彩なものとすることができ、飽き難くして遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０６２０】

また、抽選結果特別予告演出では、従来のように液晶表示装置６４０の演出画像のみによって特別抽選結果を予告する場合と比較して、視認可能領域Ａ１内で三つの操作ボタン３３０と対応した三つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａに選択肢画像Ｐ２が表示されて何れかの操作ボタン３３０を選択させるような演出を能動的に体験させることができ、これまでのパチンコ機では体験したことのない斬新な予告演出とすることができ、遊技者を楽しませることができると共に飽き難くすることができると共に、遊技者に対する訴求力を高くすることができ、他のパチンコ機に対して大きく差別化して遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０６２１】

更に、抽選結果特別予告演出では、選択した選択肢画像Ｐ２（操作ボタン３３０）に応じて異なる占い画像Ｐ３が表示されるので、例えば、三つの選択肢画像Ｐ２が同じ組合せで表示されても、選択する選択肢画像Ｐ２（操作ボタン３３０）を異ならせると、違う占い画像Ｐ３が表示されることとなり、抽選結果特別予告演出の種類をより多様なものとすることができ、予告演出を飽き難くして遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６２２】

また、抽選結果特別予告演出では、三つの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１内で三つの操作ボタン３３０と夫々対応する位置へ移動することで抽選結果特別予告演出が開始されるので、抽選結果演出画像の表示途中で、三つの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１内

で三つの操作ボタン３３０と対応する位置へ移動を開始すると、遊技者によっては抽選結果特別予告演出が開始されたことを認識することができ、横行体２５１０の本体枠２５１０ａに表示される選択肢画像Ｐ２の内容や操作ボタン３３０の操作等に対し思いを巡らして抽選結果特別予告演出に対する期待感を高めることができる。

【０６２３】

また、抽選結果特別予告演出では、横行体２５１０の本体枠２５１０ａに選択肢画像Ｐ２が表示されてから所定時間の間のみ操作ボタン３３０の操作を受付けるようにし、所定時間を経過すると操作ボタン３３０の操作が受付けられなくなるだけでなく、選択肢画像Ｐ２を表示した横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動してしまうようにしており、選択肢画像Ｐ２を選択する（操作ボタン３３０を操作する）期限を区切ることで遊技者に対して目的意識を持たせることが可能となり、遊技者を抽選結果特別予告演出に積極的に参加させることができ、抽選結果特別予告演出を楽しませることができると共に飽き難くして遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６２４】

更に、抽選結果特別予告演出では、三つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａに表示された選択肢画像Ｐ２の何れかを選択して対応する操作ボタン３３０を操作すると、視認可能領域Ａ１内の全ての横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動した上で、液晶表示装置６４０に後演出画像として占い画像Ｐ３を表示させるようにしているので、占い画像Ｐ３が横行体２５１０によって遮られることがなく、占い画像Ｐ３を見易くすることができると共に、液晶表示装置６４０の略全体を使って占い画像Ｐ３を表示させることができるので、占い画像Ｐ３を可及的に大画面で見せることができ、占い画像Ｐ３を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６２５】

また、抽選結果特別予告演出では、所定時間の間、遊技者による操作が受付可能となる操作ボタン３３０を押ボタンとしているので、静電容量等を検出するタッチセンサや、赤外線或いは可視光線等を検知するフォトセンサ等を用いた場合と比較して、遊技者に対して操作ボタン３３０の操作感を確実に実感させることができ、抽選結果特別予告演出への参加意欲を高めることができると共に、操作ボタン３３０の操作後に表示される占い画像Ｐ３をより楽しませて、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６２６】

また、抽選結果特別演出では、横行体２５１０に選択肢画像Ｐ２が表示されてから所定時間が経過するまでに何れの操作ボタン３３０も操作されなかった場合、全ての横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動した後に、所定の選択肢画像Ｐ２と関連した占い画像Ｐ３を表示させるようにしているので、所定時間内に操作ボタン３３０を操作し損ねても、表示された何れかの選択肢画像Ｐ２と関連した占い画像Ｐ３が表示されることで、遊技者によっては残念な気分になるのを回避させることができ、遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、所定時間が経過するまでに何れの操作ボタン３３０も操作されなかった場合でも、占い画像Ｐ３が表示されるので、抽選結果特別予告演出が途中で終って尻切れトンボのように見えるのを防止することが可能となり、抽選結果特別予告演出を違和感無く進行させることができ、占い画像Ｐ３を楽しませて遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６２７】

更に、操作ボタン３３０を操作しなくても占い画像Ｐ３を表示させるようにしており、一回の抽選結果特別予告演出において、所定時間内に操作ボタン３３０を操作するしないに関わらず、抽選された特別抽選結果の示唆を開始してから特別抽選結果が示唆されるまでの時間（変動時間）を何れの場合も略同じ時間とすることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【０６２８】

また、占い画像Ｐ３の表示中に抽選結果演出画像を重なる（オーバーラップする）よう

に再表示するようにしており、占い画像Ｐ３と抽選結果演出画像とが途切れることなく連続しているように見せることができるので、占い画像Ｐ３によって高められた興趣をそのままの状態で抽選結果演出画像へ移行させて維持させることができる、興趣が低下するのを抑制することができる。また、占い画像Ｐ３と同時に抽選結果演出画像つまり変動する図柄列を視認することができるので、占い画像Ｐ３の内容と停止表示される図柄列の図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲとを同時に楽しませることができる。

【０６２９】

更に、抽選結果演出画像の変動時間が通常よりも短い時間のみに変更されている時（所謂、「時短」状態、又は、「確変・時短」状態）に、特別抽選結果に応じて抽選結果特別予告演出を実施するようにしているので、通常よりも「大当り」が抽選される可能性の高い有利な遊技状態の時、つまり、遊技者の興趣が高められている時に抽選結果特別予告演出が実施されることとなり、抽選結果特別予告演出の実施によって更に遊技者の興趣を高めることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、通常の遊技状態では抽選結果特別予告演出を体験することができないので、抽選結果特別予告演出に対するプレミアム感を高くすることができ、抽選結果特別予告演出が実施されることで遊技者の期待感を高めることができると共に、抽選結果特別予告演出自体を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６３０】

また、特別抽選結果に応じて、抽選結果演出画像の変動時間を通常よりも短い時間のみに変更可能な変動パターンテーブル変更手段３０８６（演出時間変更手段）を備えているので、所定の特別抽選結果の抽選により複数の図柄列が変動表示を開始してから停止表示して特別抽選結果が示唆されるまでの時間が短い短時間の状態となり、この状態では、蓋然的に単位時間当りの抽選回数が増加するため、同じ時間内であれば特別抽選結果として「大当り」が抽選される可能性が高くなり、遊技者にとっては有利な状態となり遊技に対する興趣を高めることができる。また、特別抽選結果が短時間で示唆されて抽選結果演出画像の変動表示がサクサクと実行されるので、遊技球の打込操作等をテンポ良く進めることができ、遊技者の興趣を高めて飽き難くすることができる。

【０６３１】

更に、有利遊技状態の発生する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せとして、特殊図柄の組合せと、一般図柄のみの組合せとでは、一般図柄のみの方が発生する有利遊技状態の有利具合が低いような感じがして、有利遊技状態が発生しても損した気分になって遊技に対する興趣を高められない虞があるが、一般図柄のみの組合せで有利遊技状態が発生すると抽選結果特別予告演出を実施することができるようにしているので、抽選結果特別予告演出の実施によって損した気分になるのを抑制することができる。また、一般図柄のみの組合せで有利遊技状態が発生すると、抽選結果演出画像の変動時間を通常よりも短い時間のみの時間に変更するようにしており、有利遊技状態の価値が低そうに見える一般図柄のみの組合せにより有利遊技状態が発生しても、その後に変動時間が短くなって有利遊技状態としての「大当り」が抽選される可能性が高くなるので、遊技者が損した気分になるのを抑制することができると共に、一般図柄のみの組合せで有利遊技状態が発生すると変動時間が短くなるのを認識することができ、変動時間の短い遊技状態（「時短」状態、「確変・時短」状態）に対して期待感を高めることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６３２】

また、抽選結果演出画像の変動時間が通常よりも短い時間のみに変更されていると、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面全体を被覆した状態で、それらの横行体２５１０の本体枠２５１０ａに、前演出画像として抽選結果演出画像つまり複数の図柄列が変動表示された後に順次停止表示して特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示させるようにしているので、四つの横行体２５１０に変動表示された図柄列によって遊技者に対して明らかに通常時とは異なる遊技状態（例えば、「時短」遊技状態、「確変・時短」遊技状態、等）であることを一見して認識させることが可能とな

り、他のパチンコ機よりも本パチンコ機１を目立たせることができ、遊技者の関心を強く引き付けることができる。

【０６３３】

更に、抽選結果演出画像の変動時間が通常よりも短い時間のみに変更されていると、四つの横行体２５１０により液晶表示装置６４０の前面全体を覆った状態で、それら横行体２５１０に抽選結果演出画像を表示させるようにしているので、遊技者に対して一見して変動時間が通常よりも短い時間のみ（「時短」状態、「確変・時短」状態）に変更されたことを認識させることができ、「大当り」（有利遊技状態）が抽選される単位時間当りの確率が高く「大当り」に対する期待感を高めて、遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６３４】

また、抽選結果演出画像の変動時間が短い時間のみの状態の時に、特別抽選結果に応じて上記した抽選結果特別予告演出を実施するようにしており、抽選結果特別予告演出が開始されると、液晶表示装置６４０の前面全体を覆った四つの横行体２５１０のうち三つの横行体２５１０が、三つの操作ボタン３３０と対応する位置へ移動すると共に一つの横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へと移動し、視認可能領域Ａ１内の三つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａに変動表示中の図柄列に代えて選択肢画像Ｐ２が表示され、所定時間内に何れかの操作ボタン３３０が操作されると全ての横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へと移動して、操作した操作ボタン３３０（選択した選択肢画像Ｐ２）と関連した占い画像Ｐ３が液晶表示装置６４０に表示された後に、視認不能領域Ａ２内から四つの横行体２５１０が液晶表示装置６４０の前面全体を覆うように移動すると共に、それらの本体枠２５１０ａに変動表示された複数の図柄列が表示され、その状態で各図柄列が順次停止表示して特別抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示するような一連の演出が行われることとなる。つまり、抽選結果特別予告演出の前後で、四つの横行体２５１０によって液晶表示装置６４０の前面全体を覆う可動演出が行われるので、抽選結果特別予告演出だけでなくその前後の横行体２５１０の動きも楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６３５】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、特別抽選結果に応じて、特別抽選結果を遊技者に示唆する前に、複数の横行体２５１０を視認不能領域Ａ２内に配置した状態で、少なくとも一つの横行体２５１０を、その本体枠２５１０ａに所定のキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を表示させた状態で視認不能領域Ａ２内から、視認可能領域Ａ１内で視認不能領域Ａ２と略接するような位置へ移動させる抽選結果予告演出を行うようになっており、特別抽選結果が示唆される前に、キャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を表示した横行体２５１０が視認可能領域Ａ１に出現することで、遊技者を驚かせることができると共に、有利遊技状態（「大当り」遊技）の発生する可能性が高いとを思わせることができ、特別抽選結果の示唆に対する期待感を高めて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、横行体２５１０の本体枠２５１０ａにキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を表示させるようにしており、表示するキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を変化させるだけで横行体２５１０の見た目を様々に変化させることができるので、特別抽選結果に対する抽選結果予告演出の種類をより多彩なものとすることができ、飽き難くして遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０６３６】

また、抽選結果予告演出では、従来のように液晶表示装置の演出画像のみにより特別抽選結果に対する予告演出として所定の絵柄を表示する場合と比較して、キャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３（前演出画像）を立体的な横行体２５１０の本体枠２５１０ａに表示させると共に、その状態で横行体２５１０を視認不能領域Ａ２内から視認可能領域Ａ１内へ移動させるようにしているので、これまでのパチンコ機１では見たことのない新鮮味のある特別抽選結果に対する抽選結果予告演出を遊技者に見せることができ、飽き難くして遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができると共に、遊技者に対する訴求力を

高くすることができ、他のパチンコ機に対して大きく差別化して遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０６３７】

更に、抽選結果予告演出では、視認不能領域Ａ２内から、所定のキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を投影表示した横行体２５１０を、視認可能領域Ａ１内で視認不能領域Ａ２と略接する位置へ少なくとも移動させるようにしているので、例えば、横行体２５１０を、初めに配置されていた視認不能領域Ａ２と略接するような視認可能領域Ａ１内の位置へ出現移動させたり、初めに配置されていた視認不能領域Ａ２とは反対側の視認不能領域Ａ２と略接するような視認可能領域Ａ１内の位置へ出現移動させたりすることができ、横行体２５１０の動きだけでも種々の動きをさせることができ、特別抽選結果を予告するだけでなく、横行体２５１０や本体枠２５１０ａに投影表示されたキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３の動きについても遊技者を楽しませることができ、少なくとも特別抽選結果が示唆されるまでは遊技者の興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６３８】

また、抽選結果予告演出で、視認不能領域Ａ２内から出現移動する横行体２５１０が視認可能領域Ａ１を横切って反対側の視認不能領域Ａ２と略接する位置へ移動するので、横行体２５１０の動きが大きな動きとなってダイナミックな感じを遊技者に与えることができ、有利遊技状態の発生する可能性が高いと思わせて遊技者の期待感を高めることができると共に、本体枠２５１０ａにキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３が投影表示された横行体２５１０の動きを楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６３９】

また、抽選結果予告演出では、視認不能領域Ａ２内から、視認不能領域Ａ２と略接するような視認可能領域Ａ１内の位置へ所定のキャラクタＣ１を投影表示した横行体２５１０が出現移動した後に、その横行体２５１０が略接した視認不能領域Ａ２内から異なるキャラクタＣ２を投影表示した横行体２５１０が、先の横行体２５１０を視認可能領域Ａ１の中央へ押出すように出現移動するので、横行体２５１０の押出す動作によって横行体２５１０の動きを楽しませることができると共に、遊技者の関心を強く引き付けることができる。

【０６４０】

更に、抽選結果予告演出では、視認可能領域Ａ１の左右両端に、夫々横行体２５１０が順次出現したり、視認可能領域Ａ１の一方の端に横行体２５１０が出現した後に、反対側から視認可能領域Ａ１を横切るようにして初めの横行体２５１０と接するように出現移動したり、初めの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１を横切って反対側の端に出現移動した後に、次の横行体２５１０が初めの横行体２５１０が移動した側から初めの横行体２５１０を越えると共に視認可能領域Ａ１を横切って反対側（初めの横行体２５１０が配置されていた視認不能領域Ａ２の側）の端に出現移動したり、更には、初めの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１を横切って反対側の端へ出現移動した後に、次の横行体２５１０が初めの横行体２５１０が移動した側から、初めの横行体２５１０を越えて初めの横行体２５１０と略接する位置へと出現移動したりするので、横行体２５１０の出現に合せて遊技者の視線を左右に移動させることができ、遊技が単調な感じとなるのを払拭することが可能となって飽き難くすることができると共に、横行体２５１０が交互に視認可能領域Ａ１を横切るダイナミックな動きを見せることができ、抽選結果予告演出を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６４１】

また、抽選結果予告演出では、有利遊技状態の発生する可能性が高い特別抽選結果が抽選されるほど、より重要度の高いキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３を横行体２５１０の本体枠２５１０ａに表示させて、横行体２５１０を視認可能領域Ａ１内へ出現移動させることができるので、出現する横行体２５１０に表示されたキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３によって、遊技者に対して簡単に有利遊技状態が発生する可能性を認識させることができ、表示されたキャラクタＣ１，Ｃ２，Ｃ３に応じた期待感を得て遊技に対する興趣が低下するのを

抑制することができる。

【０６４２】

また、抽選結果予告演出では、視認不能領域Ａ２内から複数の横行体２５１０を、それらの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１内の全体に亘るように一旦移動させた後に、全ての横行体２５１０を視認不能領域Ａ２内へ移動させる抽選結果予告開始演出を実施した後に、その特別抽選結果が抽選結果予告演出を実施する特別抽選結果であれば、上述したような抽選結果予告演出を開始させるようにしているので、所定の特別抽選結果が抽選されてその特別抽選結果が示唆される前に、複数の横行体２５１０によって一旦視認可能領域Ａ１の全体が覆われた後に横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動すると、上述したような抽選結果予告演出が開始される可能性が有る、つまり、抽選結果予告演出の開始により有利遊技状態が発生する可能性が有ると判るので、遊技者の期待感を高めることができ、遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６４３】

更に、抽選結果予告演出では、抽選結果予告演出で視認可能領域Ａ１内へ出現移動した横行体２５１０が、全て視認不能領域Ａ２内へ移動することで抽選結果予告演出が終了したことを遊技者に対して認識させることができ、抽選結果予告演出と、特別抽選結果を示唆する演出とを明確にすることができるので、夫々の演出を分けて楽しませることができ、遊技にメリハリを付けて飽き難くすることができる。また、抽選結果予告演出の終了時に全ての横行体２５１０を視認不能領域Ａ２へ移動させるようにしているので、抽選結果を示唆する際に、抽選結果を示唆する演出（示唆演出）に可動体を用い易くすることができ、示唆演出を楽しませて遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６４４】

また、抽選結果予告演出では、出現移動した複数の横行体２５１０が視認可能領域Ａ１の全体に亘るように（液晶表示装置６４０の前面全体を覆うように）配置されると、その後に続く抽選結果演出画像で一つの図柄列を除いて停止表示する複数の図柄列における図柄ＺＬ，ＺＲの組合せが、有利遊技状態の発生する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを充足可能な組合せとなる、つまり、停止表示された図柄ＺＬ，ＺＲの組合せが「リーチ」となって有利遊技状態の発生する可能性が高くなるので、抽選結果予告演出で、視認可能領域Ａ１内へ順次出現移動する複数の横行体２５１０が、視認可能領域Ａ１の全体に亘るか否かによって、遊技者をワクワクさせることができ、遊技者の期待感を高めて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６４５】

また、上述したような抽選結果予告演出を実施し、視認可能領域Ａ１内に出現した横行体２５１０が全て視認不能領域Ａ２内へ移動して抽選結果予告演出が終了すると、抽選結果演出画像で変動表示された複数の図柄列を順次停止表示させるようにしているので、抽選結果演出画像において図柄列を停止表示させる時には、視認可能領域Ａ１内つまり液晶表示装置６４０の前側に横行体２５１０が配置されていない状態となっており、横行体２５１０によって図柄列や図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲが遮られるのを防止して停止表示される図柄列の図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲを見易くすることができ、抽選結果演出画像を見易くして遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、抽選結果予告演出で視認可能領域Ａ１内へ出現した横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動すると、抽選結果演出画像における変動表示された図柄列を停止表示して抽選結果を示唆する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを表示させるので、視認可能領域Ａ１内の横行体２５１０が視認不能領域Ａ２内へ移動することで、いよいよ特別抽選結果が示唆されることを遊技者に認識させることができ、抽選された特別抽選結果の示唆に対する期待感を高めて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６４６】

更に、抽選結果予告演出で、一つの上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂに案内された二つの横行体２５１０が視認可能領域Ａ１内で互いに接した状態となるように出

現移動させると共に、前後方向の異なる位置に配置された上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂに案内された二つの横行体２５１０を視認可能領域Ａ１の略全体に亘るように出現移動させ、抽選結果予告演出の終了時に、一つの上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂに案内された二つの横行体２５１０を左右の視認不能領域内へ移動させるようにしているので、抽選結果予告演出の終了時に四つの横行体２５１０が視認不能領域Ａ２へ移動する際に、横行体２５１０の動きが、視認可能領域Ａ１を横切るようにダイナミックに移動したり横行体２５１０同士がクロスしたりする動きとなり、遊技者に対してインパクトの強い動きとすることができるので、遊技者を驚かせると同時に楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６４７】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、一つの図柄列を除いて停止表示された左右の図柄ＺＬ，ＺＲの組合せが有利遊技状態の発生する図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲの組合せを充足可能な組合せとなる特別抽選結果、つまり、「リーチ」となる特別抽選結果に応じて、後演出画像としての抽選結果演出画像で一つの図柄列（中図柄列）を除いて停止表示された左右の図柄ＺＬ，ＺＲの組合せが「リーチ」となると、左右の視認不能領域Ａ２内に配置された横行体２５１０が互いに接近するように夫々視認可能領域Ａ１内へと移動開始すると共に、夫々の横行体２５１０の本体枠２５１０ａに一つの画像となるように前演出画像として変動表示されている中図柄ＺＣが表示され、それら二つの横行体２５１０が左右方向の略中央で互いに略接した状態となることで夫々の本体枠２５１０ａに表示された画像が一つの中図柄ＺＣとなり、変動表示されている中図柄ＺＣが横行体２５１０の本体枠２５１０ａに乗移ったような状態となる。その状態で二つの横行体２５１０が一緒に左右方向へ往復移動した後に略中央の位置に停止すると共に、二つの横行体２５１０に隠れるように後側の液晶表示装置６４０に本体枠２５１０ａに表示された中図柄ＺＣ対して次の中図柄ＺＣを後演出画像として表示させた後に、二つの横行体２５１０を互いに離反する方向へと移動させて後側に表示された中図柄ＺＣを遊技者に視認できるようにすると共に、この後側の中図柄ＺＣが視認できるようにする際に、少なくとも後側の中図柄ＺＣが見辛くなるようなエフェクトを所定時間合成した後に後側の中図柄ＺＣを認識させて特別抽選結果を遊技者に示唆させる抽選結果特別演出としての「リーチ発展演出」を行うことができる。

【０６４８】

換言すると、第一始動口１５０４、第二始動口１５０６、ステージ始動口２２２０へ遊技球が受入れられて特別抽選結果として「リーチ」となる特別抽選結果が抽選されると、その特別抽選結果に応じて、抽選結果演出画像の表示が開始された上で変動表示された各図柄列が順次停止表示されて、まず「リーチ」の状態となるので、有利遊技状態（「大当り」や「小当り」）の発生する可能性が高くなり、遊技者の期待感を高めて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。そして、抽選結果演出画像で「リーチ」状態となると、左右の視認不能領域Ａ２内から夫々横行体２５１０が互いに接近するように視認可能領域Ａ１内へと移動開始するので、視認可能領域Ａ１内へ横行体２５１０が現れることで遊技者に対して「リーチ発展演出」（抽選結果特別演出）が開始されたことを認識させることができると共に、横行体２５１０の出現によって遊技者の関心を強く引き付けることができ、遊技者の期待感を高めて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。この互いに接近する二つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａには、二つの本体枠２５１０ａで一つの画像となるように変動中の中図柄ＺＣが分割して表示されており、二つの横行体２５１０が左右方向の略中央で互いに略接した状態となることで、後側に表示された変動中の中図柄ＺＣが徐々に横行体２５１０によって隠されて行くと共に、横行体２５１０の本体枠２５１０ａに表示された中図柄ＺＣが完成した一つの図柄の状態となるので、後側の中図柄ＺＣが横行体２５１０の本体枠２５１０ａに乗移ったように錯覚させることが可能となり、遊技者の関心を後側の演出画像から前側の横行体２５１０へと移行させることができると共に、二つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａにより大きな中図柄ＺＣを表示させることができ、遊技者の関心を横行体２５１０の動きや本体枠２５１

０ａの中図柄ＺＣに強く引き付けることができる。また、中図柄ＺＣが横行体２５１０へ乗移ったような状態となるので、従来のパチンコ機のように演出画像のみで図柄を変動表示させているものと比較して、立体的な横行体２５１０に変動中の中図柄ＺＣが表示されることで横行体２５１０の印象を大きく変化させることができる。その後、二つの横行体２５１０は互いに略接した状態で一緒に左右方向へ往復移動した上で略中央の位置に停止するので、遊技者の関心を横行体２５１０の中図柄ＺＣへ引き付けることができ、横行体２５１０の動きを楽しませることができる。そして、本体枠２５１０ａに中図柄ＺＣが表示された二つの横行体２５１０が互いに略接した状態で略中央に停止すると、横行体２５１０に隠れるように後側の液晶表示装置６４０に次の中図柄ＺＣが表示され、その後、二つの横行体２５１０が互いに離反する方向へ移動を開始するのに加えて所定時間の間少なくとも後側の中図柄ＺＣが見辛くなる光のエフェクトが施された後に、二つの横行体２５１０により隠された中図柄ＺＣが視認可能となって、その中図柄ＺＣが所望の図柄であるか否かによって、遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができ、認識可能となる中図柄ＺＣに対する期待感を高めることができる。従って、上述の通り横行体２５１０の本体枠２５１０ａに変動表示中の中図柄ＺＣを表示するようにしているので、立体的な横行体２５１０の見た目を大きく変化させることができ、横行体２５１０と液晶表示装置６４０に表示された後演出画像との組合せによるコラボレーション演出の種類をより多くすることができ、より多彩な横行体２５１０と演出画像とのコラボレーション演出を具現化し、飽き難くして遊技者の興趣が低下するのを抑制可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０６４９】

また、従来のように液晶表示装置６４０の演出画像のみによる中図柄ＺＣの変動表示（「リーチ発展演出」）と比較して、液晶表示装置６４０に表示された後演出画像の中図柄ＺＣを、立体的な横行体２５１０の本体枠２５１０ａに表示させると共にその状態で横行体２５１０を左右方向へ移動させるようにしているので、これまでになく見慣れない新鮮味のある変動演出を遊技者に見せることができ、飽き難くして遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができると共に、横行体２５１０と演出画像とによるコラボ演出によって遊技者に対する訴求力を高くすることができ、他のパチンコ機に対して大きく差別化して遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０６５０】

また、二つの横行体２５１０を左右方向に接した状態で一緒に移動させると共に、二つの本体枠２５１０ａを一つの画面として一つの中図柄ＺＣを表示させた上で、二つの横行体２５１０を互いに離反する方向へ移動させることで後側の液晶表示装置６４０に表示された後演出画像の中図柄ＺＣを遊技者に対して視認できるようにしているので、二つの横行体２５１０の本体枠２５１０ａで一つの画面を構成することで中図柄ＺＣをより大きく表示させることができ、横行体２５１０に乗移った中図柄ＺＣを見易くして遊技者の関心を強く引き付けることができると共に、横行体２５１０と共に移動することで目立たせることができ、一見して他のパチンコ機とは異なる印象を与えて、他のパチンコ機よりも訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。また、二つの横行体２５１０が離反することで後側の中図柄ＺＣを視認することができるので、横行体２５１０側（前側）の中図柄ＺＣが二つに割れて次の中図柄ＺＣ（後側の中図柄ＺＣ）が現れるような演出とすることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６５１】

また、抽選結果演出画像において、一つの図柄列を除いて停止表示された左右の図柄ＺＬ，ＺＲの組合せが「リーチ」となると、「リーチ発展演出」（抽選結果特別演出）を開始させるようにしているので、抽選結果特別演出が開始される機会が限定されることとなり、抽選結果特別演出に対するプレミアム感を高めることができ、上述のような抽選結果特別演出が飽きられ易くなるのを防止することができると共に、抽選結果特別演出の開始によってプレミアム感により遊技者の期待感を高めることができ、遊技に対する興趣が低

下するのを抑制することができる。

【０６５２】

更に、横行体２５１０が移動して後側の中図柄ＺＣが視認できるようになる際に、前後の中図柄ＺＣが見辛くなるようなエフェクトを所定時間かけるようにしているので、横行体２５１０の移動途中で後側の中図柄ＺＣの一部が見えてどんな図柄ＺＣであるのかを認識することができることで期待感が低くなり遊技に対する興趣が低下してしまうのを防止することができる。また、前後の中図柄ＺＣにエフェクトをかけるようにしているので、横行体２５１０が移動して初めて横行体２５１０が移動したのに気が付いても、後側の中図柄ＺＣが視認可能となるタイミングを逃してしまうのを抑制することができ、横行体２５１０の移動による後側の中図柄ＺＣの出現演出を十分に楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６５３】

また、画像合成手段３１５８ｄによって後演出画像の前側のレイヤーに前演出画像を配置することで、液晶表示装置６４０に表示される演出画像を合成するようにしているので、前演出画像よりも後側に後演出画像が配置されているように見えると共に、横行体２５１０の本体枠２５１０ａによって前演出画像の外周が仕切られることで、あたかも本体枠２５１０ａ内に前演出画像が表示されているように錯覚させることができ、簡単な構成で上述した作用効果を確実に奏することが可能なパチンコ機１を具現化することができる。また、液晶表示装置６４０に表示された前演出画像によって、横行体２５１０に表示装置を備えたり別途映写装置を備えたりしなくても横行体２５１０の本体枠２５１０ａにあたかも前演出画像が表示されているように錯覚させることができ、横行体２５１０の構成を簡略化して移動させ易くすることができると共に、横行体２５１０等の配置スペースを充分に確保することが可能となり、横行体２５１０を可及的に大きくしてよりインパクトの高いパチンコ機１とすることができる。更に、横行体２５１０の本体枠２５１０ａに前演出画像を表示させるための表示装置や映写装置等を必要としないので、パチンコ機１に係るコストが増加するのを抑制することができる。

【０６５４】

更に、画像合成手段３１５８ｄによって液晶表示装置６４０に表示される演出画像にエフェクトを合成することができるので、エフェクトが施されていない演出画像に対して、エフェクトとを合成するだけで、簡単にエフェクトの施された演出画像を得ることができ、複数種類の演出画像と複数種類のエフェクトとを適宜組合せることで、より多くの種類の演出を簡単に得ることができ、飽き難くして遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、エフェクトの無いものと有るものとを夫々用意するようにした場合と比較して、画像ＲＯＭ３１２２（記憶手段）の容量が同じでも、演出画像とエフェクトの組合せによってより多くの種類の演出を具現化することができると共に、コストが増加するのを抑制することができる。

【０６５５】

また、複数の横行体２５１０を左右方向へ夫々独立して移動できるようにしているので、互いに接近したり離反したりするだけの従来の可動体と比較して、複数の横行体２５１０により複雑な動きをさせることができ、横行体２５１０の本体枠２５１０ａに投影表示される様々な前演出画像と融合して、横行体２５１０をより目立たせたり多彩な演出を可能としたりすることができ、見慣れ難くして遊技者の興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６５６】

更に、各横行体２５１０が、液晶表示装置６４０の前面側となる視認可能領域Ａ１と、視認可能領域Ａ１の左右両側に配置された視認不能領域Ａ２との間で大きく左右方向へ移動することができるようにしているので、横行体２５１０を視認不能領域Ａ２から視認可能領域Ａ１へ移動させたり、横行体２５１０を視認可能領域Ａ１から視認不能領域Ａ２へ移動させたりして、横行体２５１０を遊技者側から見えるようにしたり見えなくなるようにしたりすることができ、横行体２５１０の可動演出をより多彩なものとし、飽き難くし

て遊技者の興趣が低下するのを抑制することが可能なパチンコ機１とすることができる。
【０６５７】
また、横行体２５１０を、左右何れかの一方の視認不能領域Ａ２から視認可能領域Ａ１の左右方向中央を越えて反対側へ移動することができるようにしているので、横行体２５１０の移動範囲が大きくなり、視認可能領域Ａ１の略全体を使って横行体２５１０同士の追抜き動作をさせたり、横行体２５１０同士がクロスする動作をさせたりすることが可能となり、よりダイナミックな動きの可動演出を行うことができ、遊技者を驚かせたり楽しませたりして遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができると共に、ダイナミックに移動する横行体２５１０の本体枠２５１０ａに前演出画像を表示させることができるようにしているので、横行体２５１０をより目立たせることができ、遊技者の関心を強く引き付けることができる。
【０６５８】
更に、遊技パネル６００の後側に配置し遊技パネル６００の幅と略同じ長さの上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂによって横行体２５１０を左右方向へ案内するようにしているので、横行体２５１０の移動範囲を可及的に広くすることができ、視認不能領域Ａ２から出現した横行体２５１０をより広い範囲へ出現させるようにすることができると共に、横行体２５１０を広い範囲で案内させることでよりダイナミックな動きをさせることが可能となって、横行体２５１０の動きを遊技者に楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、大きく動く横行体２５１０によって横行体２５１０や横行体２５１０が配置された遊技領域６０５内を目立たせることができ、一見して他のパチンコ機と異なる印象を遊技者に与えて遊技者の関心を強く引き付けられるパチンコ機１とすることができる。
【０６５９】
また、上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂを遊技パネル６００の後側に配置しているので、遊技者側から上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂを見辛くすることができ、上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂが見えることでパチンコ機１の見栄えが悪くなるのを防止することができると共に、蓋然的に横行体２５１０が遊技パネル６００の後側に配置されることとなり、遊技パネル６００によって横行体２５１０の視認可能領域Ａ１や視認不能領域Ａ２等を形成し易くすることができ、複数の横行体２５１０によるより多彩な可動演出を具現化することができる。
【０６６０】
更に、一つの上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂに対して、二つの横行体２５１０を案内させるようにしているので、横行体２５１０同士が実際に互いに接した状態となり、横行体２５１０による可動演出をより楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂの数よりも多い数の横行体２５１０を案内させることができるので、多くの横行体２５１０によってより遊技者の関心を強く引き付けられる可動演出を具現化することができ、飽き難くしたり楽しませたりして遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、上前レール２５２０ａや上後レール２５２０ｂの数よりも多い数の横行体２５１０を案内させることができるので、横行体２５１０の案内に係る機構の前後方向の奥行が大きくなるのを抑制することが可能となり、相対的に横行体２５１０や遊技領域６０５内等に配置される役物等を大きくすることができ、横行体２５１０等を目立たせて遊技者の関心を強く引き付けられるものとすることができる。
【０６６１】
また、横行体２５１０の左右方向の幅を、液晶表示装置６４０の左右方向の幅に対して１／２～１／１０の範囲内の幅とすることで、横行体２５１０を最適な大きさとしており、遊技者に対して液晶表示装置６４０の前面で横行体２５１０全体を明確に視認させることができるので、横行体２５１０や本体枠２５１０ａに表示された図柄ＺＬ，ＺＣ，ＺＲ（前演出画像）を見易くすることができ、横行体２５１０等の動きを楽しませて遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。また、横行体２５１０の大きさを液晶表

示装置６４０（視認可能領域Ａ１）の大きさに対して適度な大きさとすることができるので、上述した横行体２５１０による多彩な可動演出を確実に具現化することができ、可動演出を飽き難くして遊技者の興趣が低下するのを抑制することができる。

【０６６２】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

【０６６３】

すなわち、上記実施形態では、遊技機としてパチンコ機１に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【符号の説明】

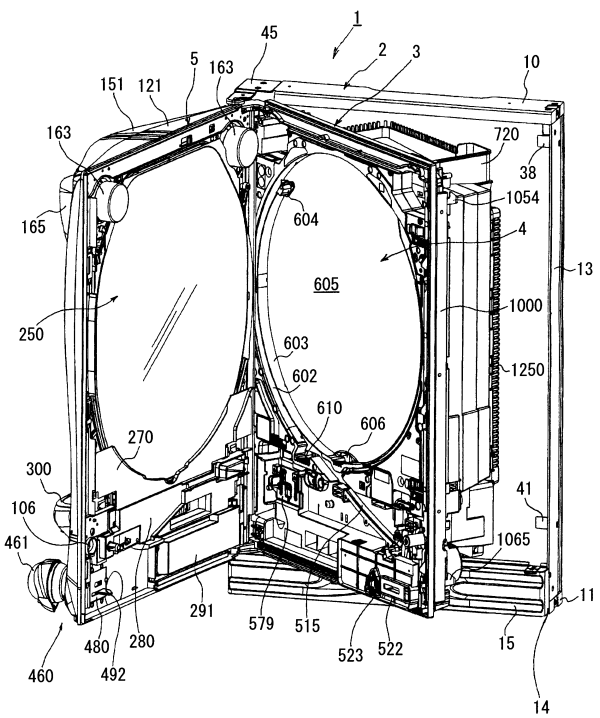
【０６６４】

１　パチンコ機
２　外枠
３　本体枠
４　遊技盤
５　扉枠
３００　皿ユニット
３３０　操作ボタン
３３０ａ　左ボタン
３３０ｂ　中ボタン
３３０ｃ　右ボタン
４６０　ハンドル装置
４６１　操作ハンドル部（打込操作部）
５９９　遊技パネル
５９９ｅ　開口部
６００　パネルホルダ
６００ａ　保持段部
６００ｂ　貫通口
６０１　前構成部材
６０２　外レール
６０３　内レール
６０５　遊技領域
６０６　アウト口
６１０　ファール口
６２１　裏箱
６２１ａ　前側裏箱
６２１ｂ　後側裏箱
６４０　液晶表示装置（演出表示手段）
８００　賞球ユニット（払出ユニット）
１３５０　主制御基板
１４２４　回転装飾体
１４２４ａ　花弁装飾体
１４２６　サブ装飾体
１４２８　物体検知センサ（物体検知手段）
１４２８ａ　発光部
１４２８ｂ　受光部
１５０２　一般入賞口（受入口）

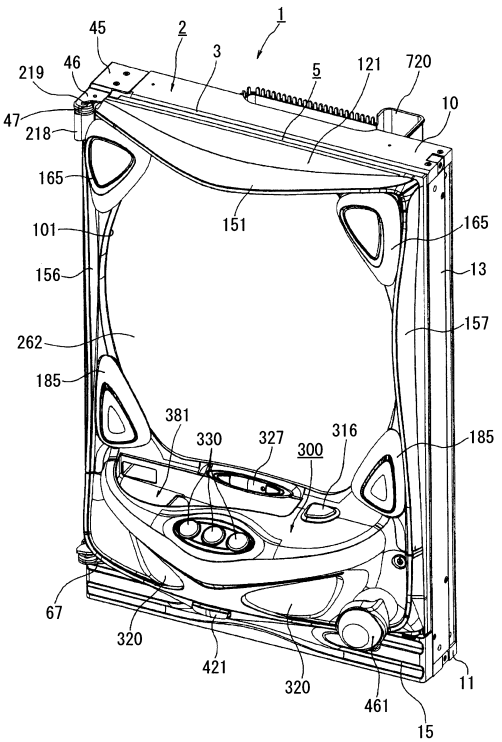
１５０４　第一始動口（始動口）
１５０６　第二始動口（始動口）
２０００　裏ユニット
２２２０　ステージ始動口（始動口）
２３１０　揺動体
２５００　横行体ユニット
２５１０　横行体（可動体）
２５１０ａ　本体部（窓枠）
２５１２　前横行体（可動体）
２５１２Ｒ　前横行体右
２５１２Ｌ　前横行体左
２５１４　後横行体（可動体）
２５１４Ｒ　後横行体右
２５１４Ｌ　後横行体左
２５２０ａ　上前レール（案内部材）
２５２０ｂ　上後レール（案内部材）
２６００　前横行体駆動ユニット
２６１０　前下駆動ユニット
２６５０　前上駆動ユニット
２７００　後横行体駆動ユニット
２７１０　後下駆動ユニット
２７５０　後上駆動ユニット）
２８００　下レールユニット（案内部材）
３０００　主基板
３０６２　第一特別乱数発生手段（抽選手段）
３０６６　第一特別図柄変動パターン選択手段
３０７２　第二特別乱数発生手段（抽選手段）
３０７４　第二特別図柄保留記憶手段
３０７６　第二特別図柄変動パターン選択手段
３０８２　有利遊技状態発生手段
３０８４　大入賞口開閉制御手段
３０８６　変動パターンテーブル変更手段（演出時間変更手段）
３１００　周辺制御基板
３１５２　演出パターン選択手段
３１５４　演出制御手段
３１５６　可動演出制御手段
３１５８　演出画像制御手段
３１５８ａ　前演出画像制御手段
３１５８ｂ　後演出画像制御手段
３１５８ｃ　エフェクト制御手段
３１５８ｄ　画像合成手段
３１６４　物体検知受付手段
３１６６　操作受付手段
Ａ１　視認可能領域
Ａ２　視認不能領域
ＺＬ　左図柄
ＺＣ　中図柄
ＺＲ　右図柄
Ｃ０　特別キャラクタ
Ｃ１　第一キャラクタ

Ｃ２　第二キャラクタ
Ｃ３　第三キャラクタ
Ｐ１　絵柄（特別演出画像）
Ｐ２　選択肢画像
Ｐ３　占い画像
Ｈ　手形（案内画像）

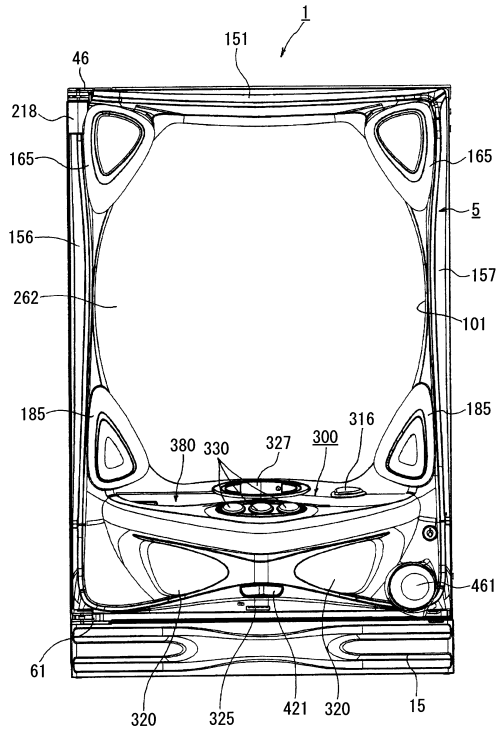
【図１】



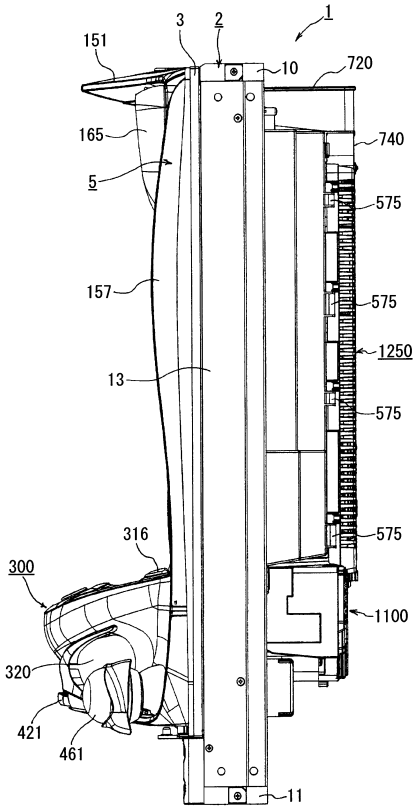
【図２】



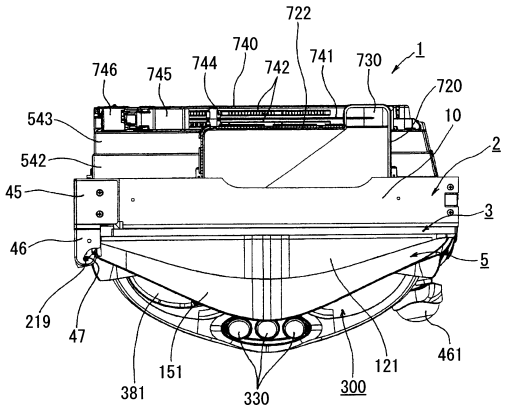
【図３】


1
151
46
218
165
165
5
156
157
262
101
185
185
380
330
327
300
316
461
61
320
325
421
320
15

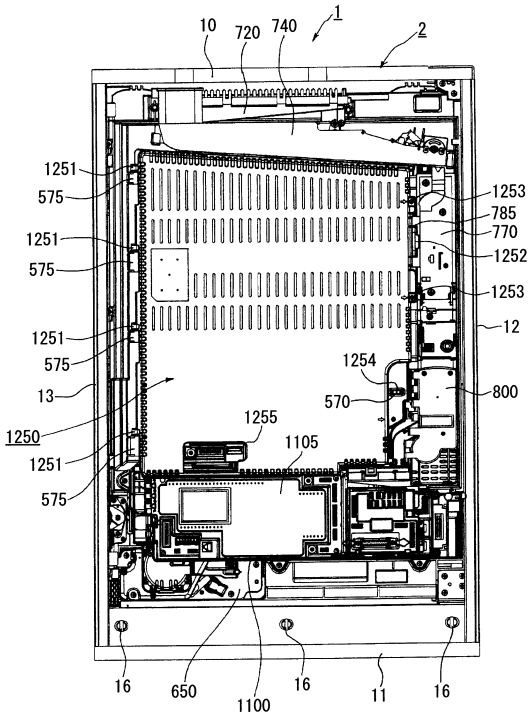
【図４】


1
3
2
151
10
720
165
740
5
575
157
575
1250
13
575
316
575
300
1100
320
421
461
11

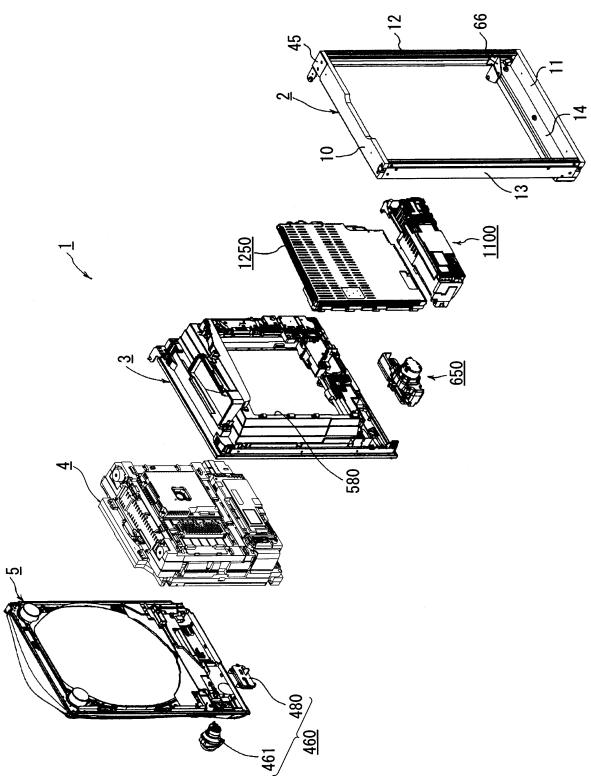
【図５】


722
740
746
745
744
742
741
730
1
720
543
10
542
2
45
3
46
5
219
47
381
151
330
121
300
461

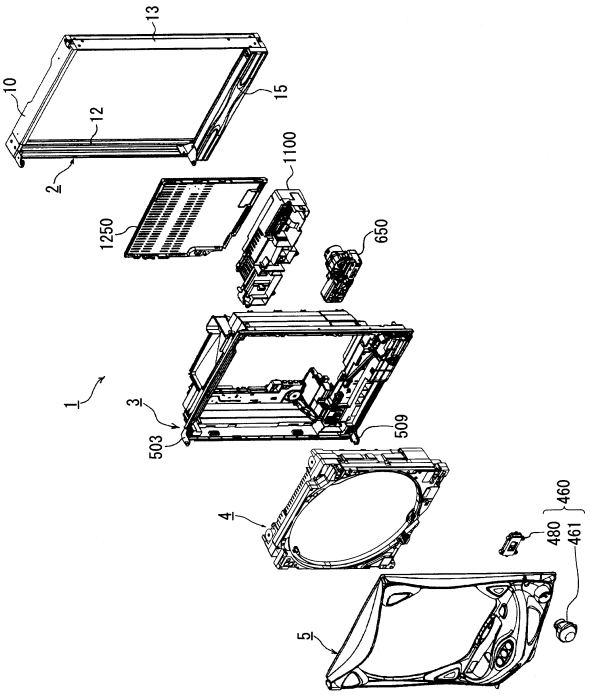
【図６】


10
720
740
1
2
1251
575
1253
785
1251
575
770
1252
1253
1251
575
12
1254
13
570
800
1255
1250
1105
1251
575
16
650
1100
16
11
16

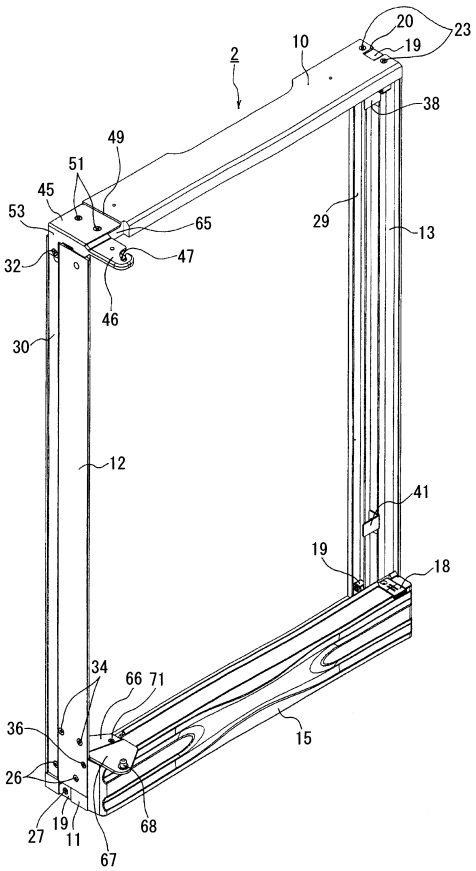
【図７】


1
2
3
4
5
10
11
12
13
14
45
66
1250
1100
650
580
480
460
461

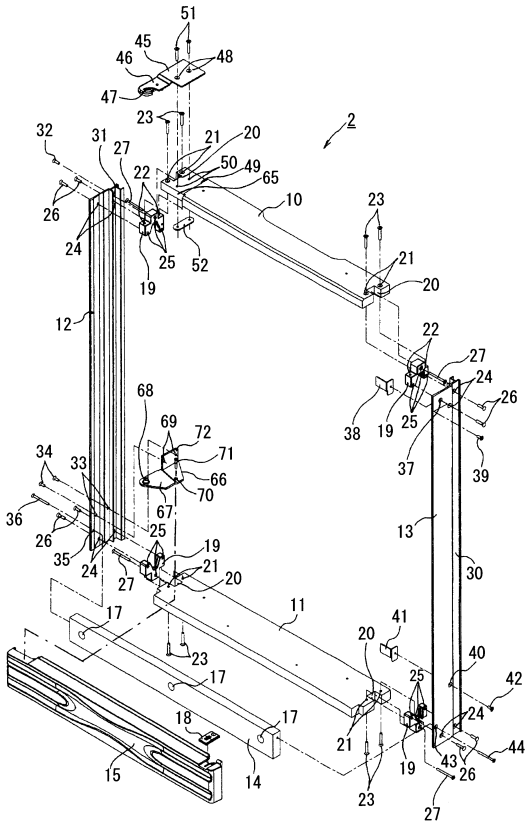
【図８】


1
2
3
4
5
10
12
13
15
1100
1250
650
503
509
460
480
461

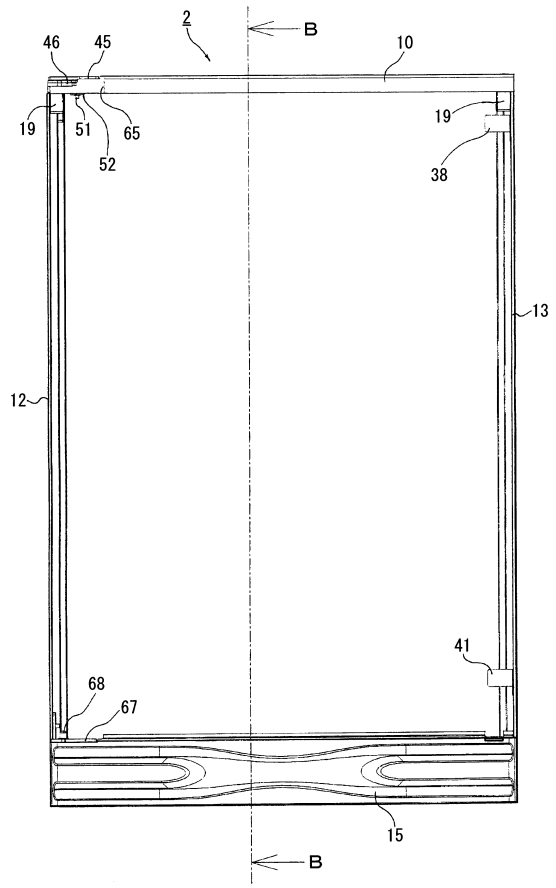
【図９】


2
10
12
13
15
18
19
20
23
29
30
32
34
36
38
41
45
46
47
49
51
53
65
66
67
68
71

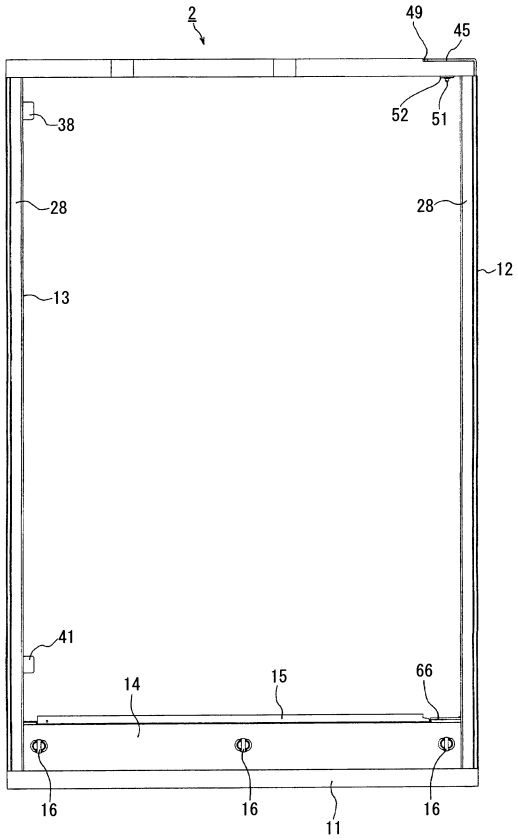
【図１０】


2
10
11
12
13
14
15
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
65
66
67
68
69
70
71
72

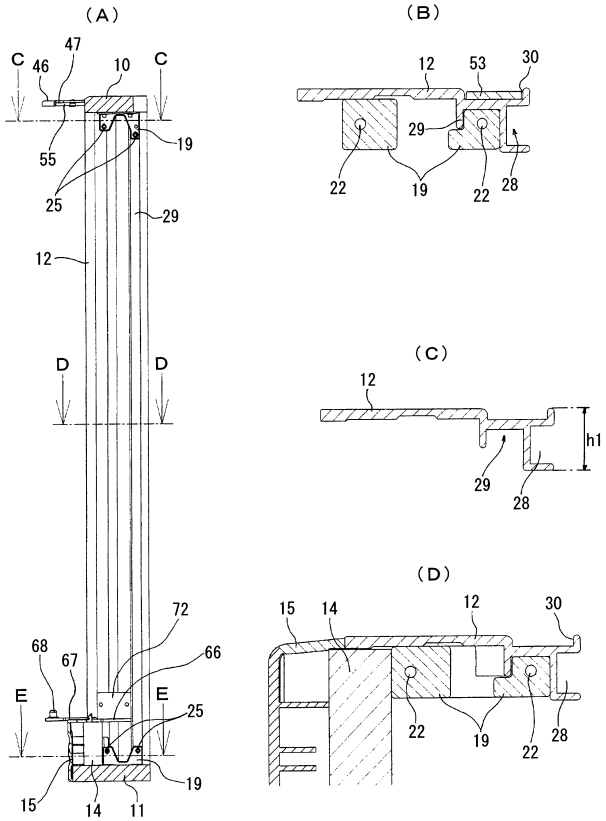
【図１１】



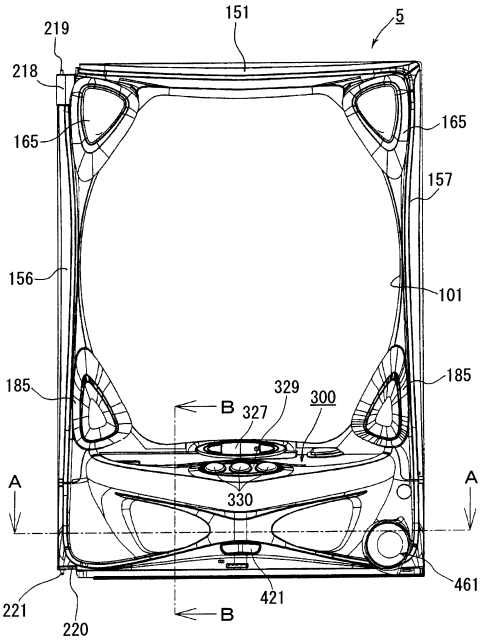
【図１２】



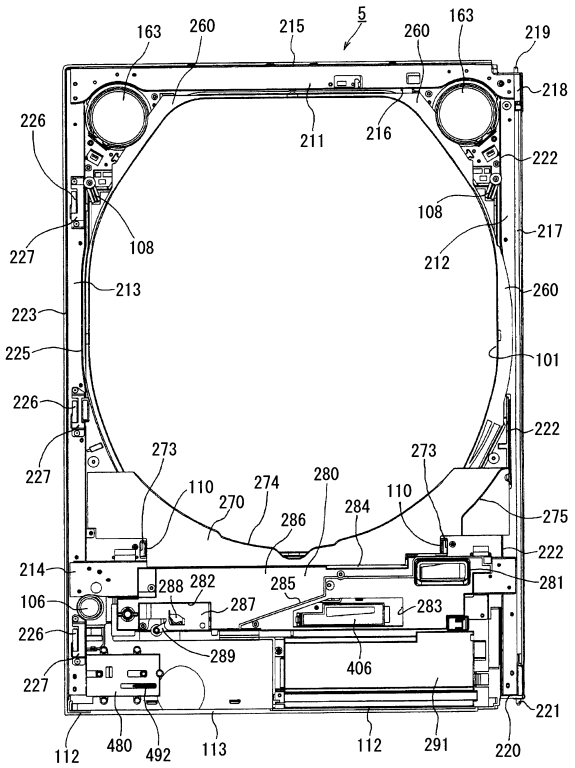
【図１３】



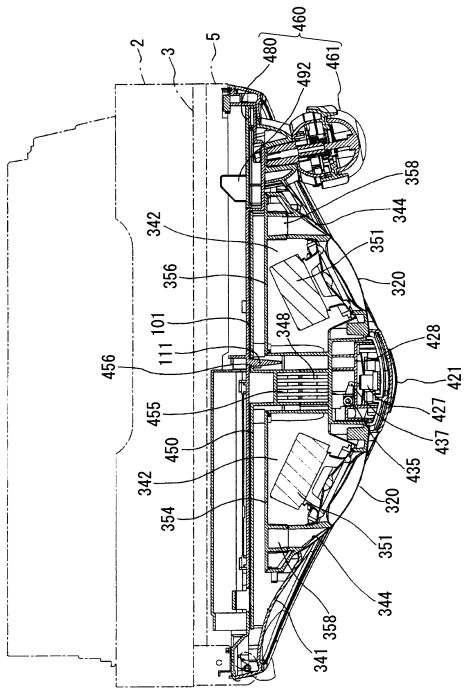
【図１４】



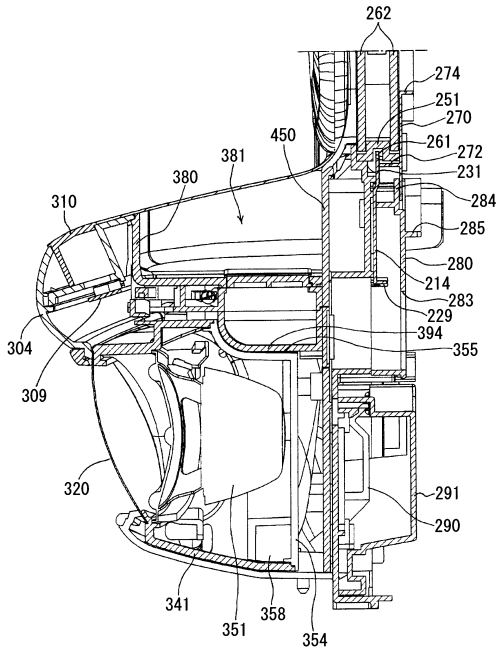
【図１５】



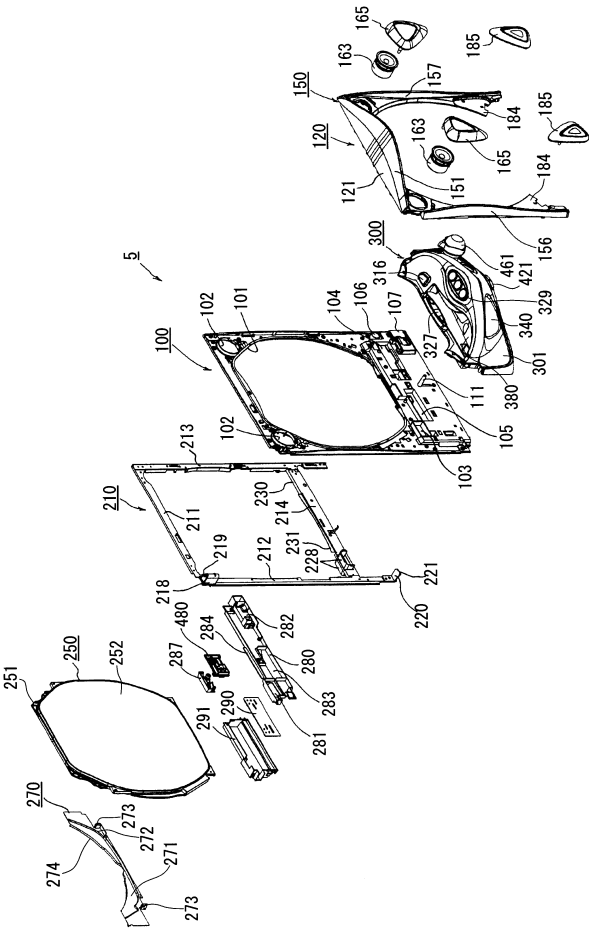
【図１６】



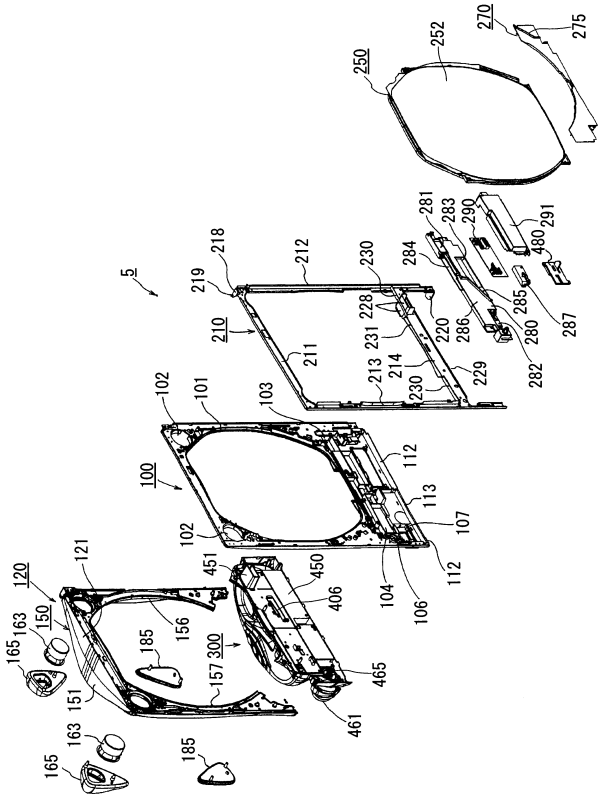
【図１７】



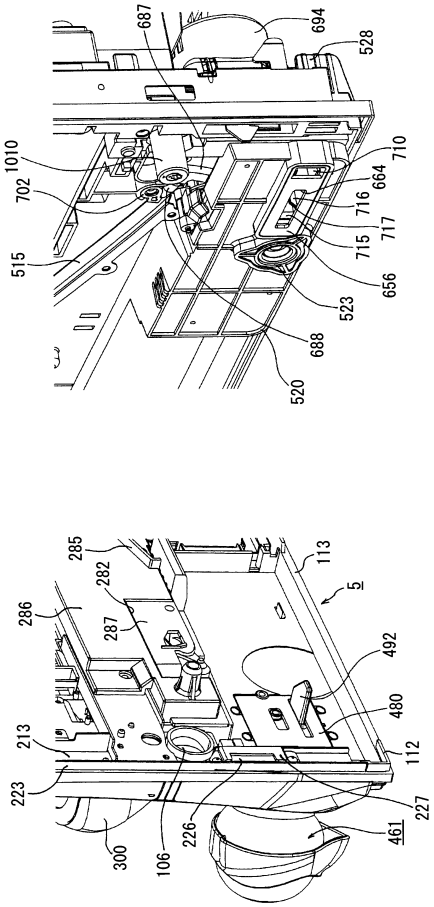
【図１８】



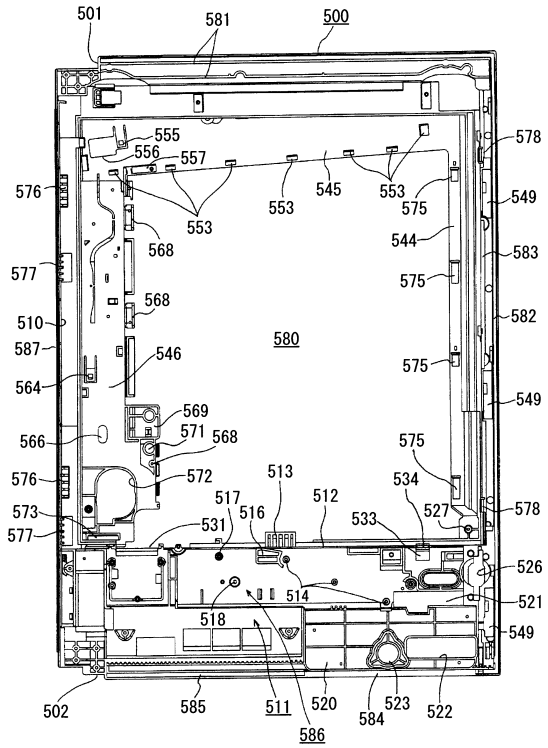
【図１９】



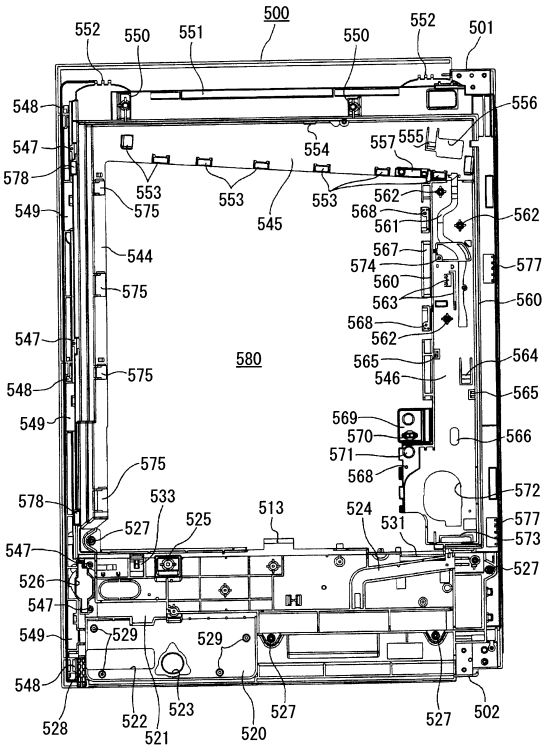
【図２０】



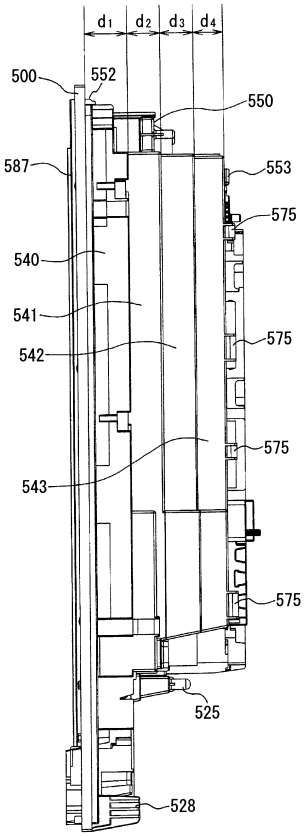
【図２１】



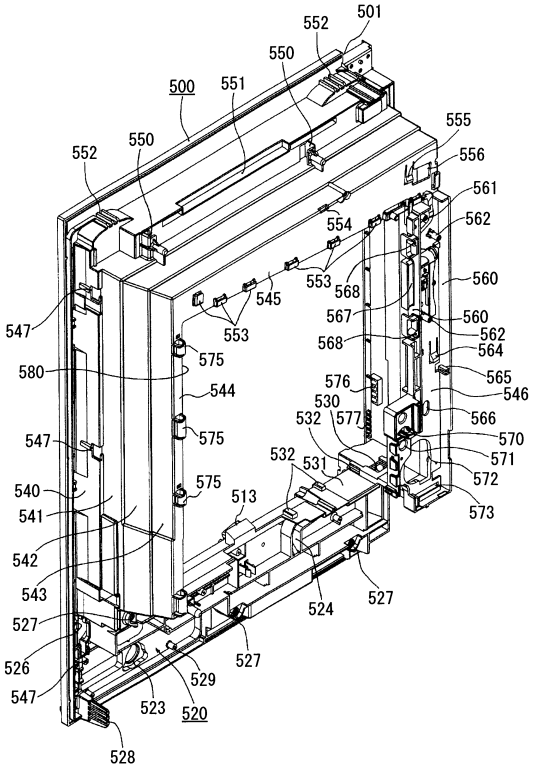
【図２２】



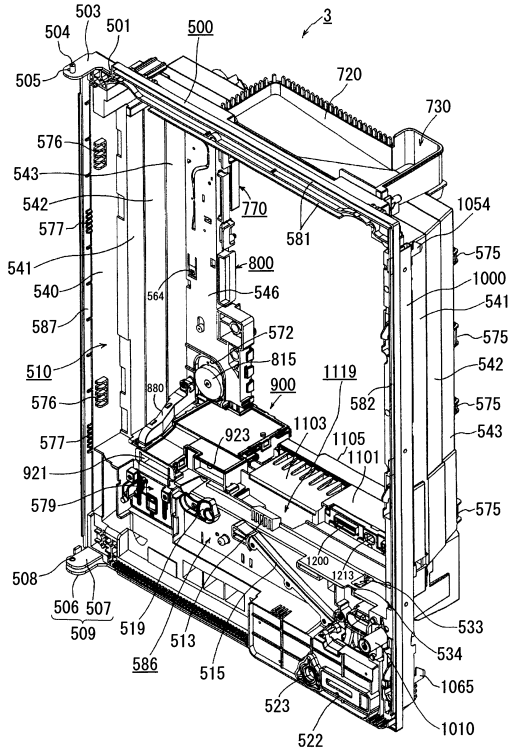
【図２３】



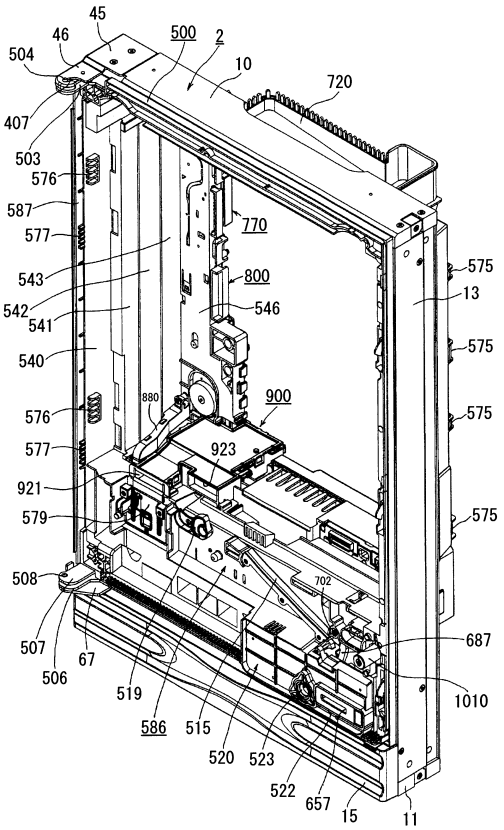
【図２４】



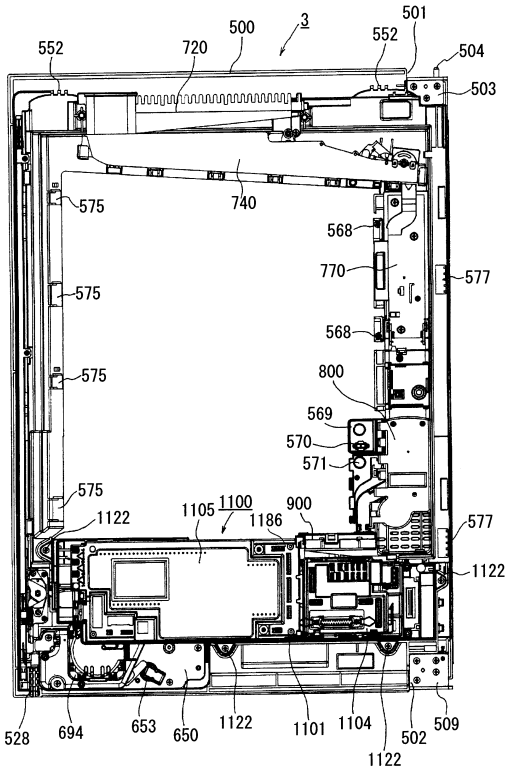
【図２５】



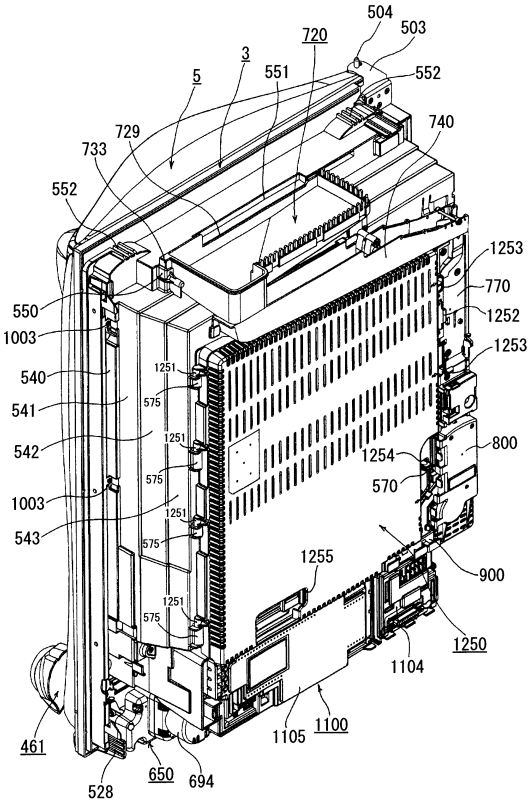
【図２６】



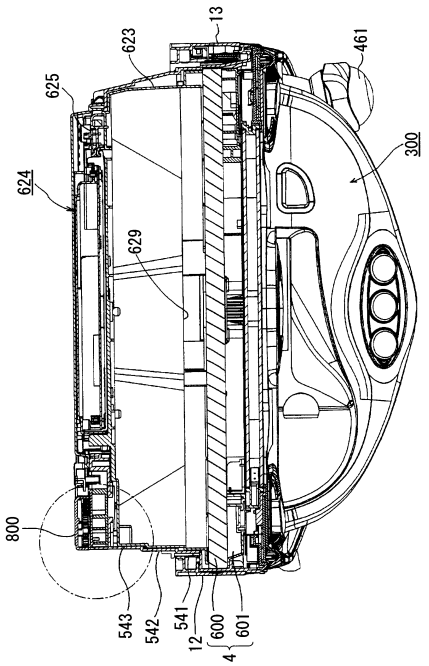
【図２７】



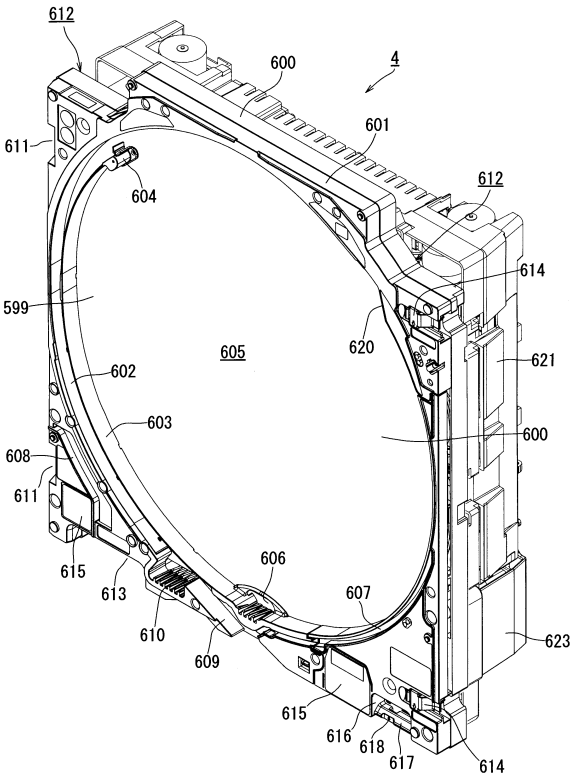
【図２８】



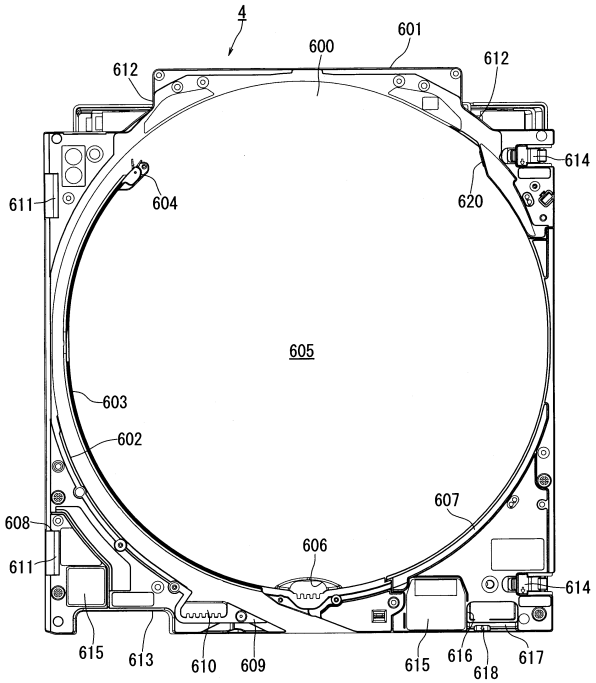
【図２９】



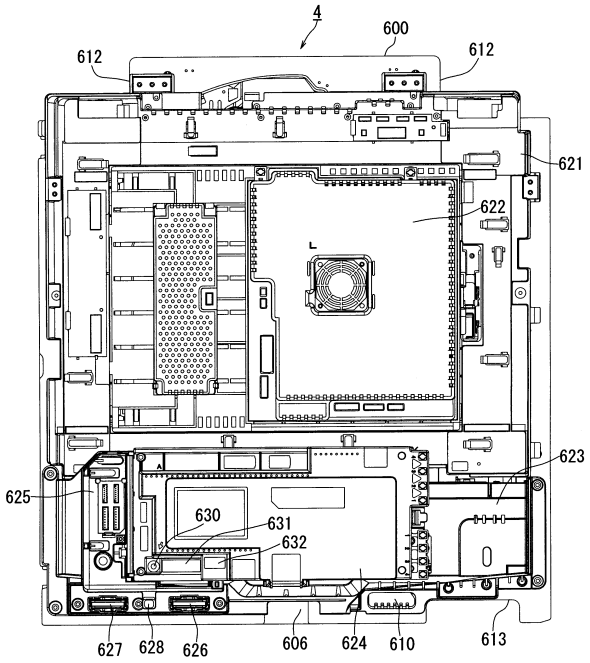
【図３０】



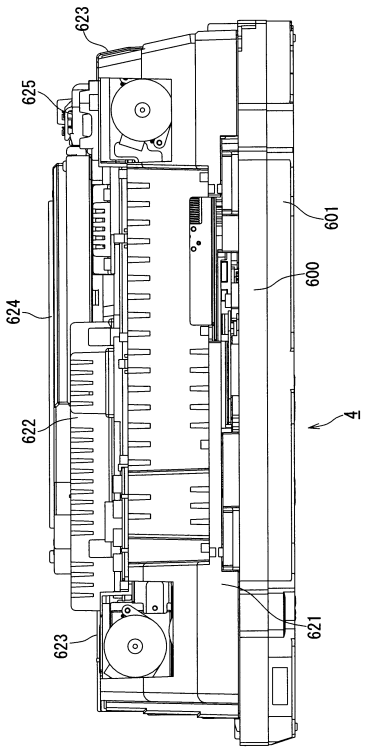
【図３１】



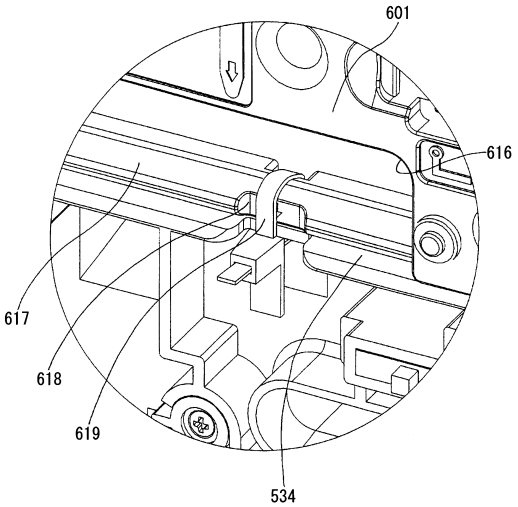
【図３２】



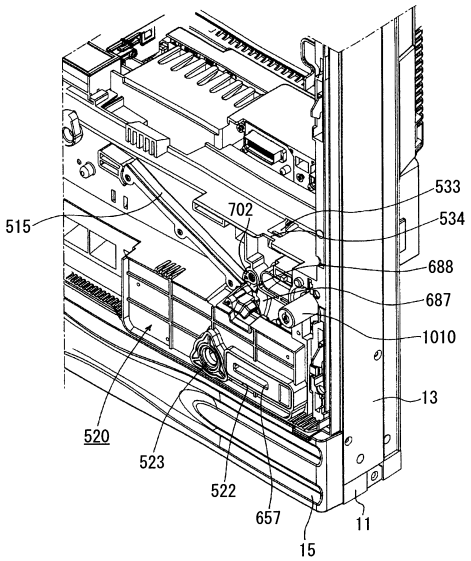
【図３３】



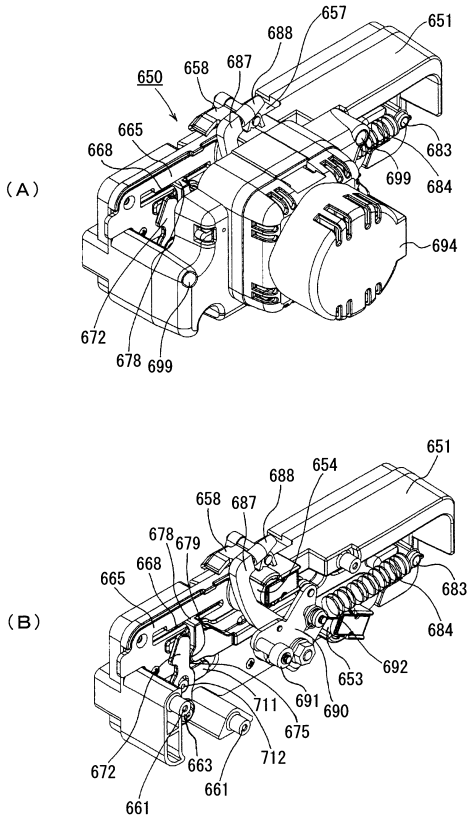
【図３４】



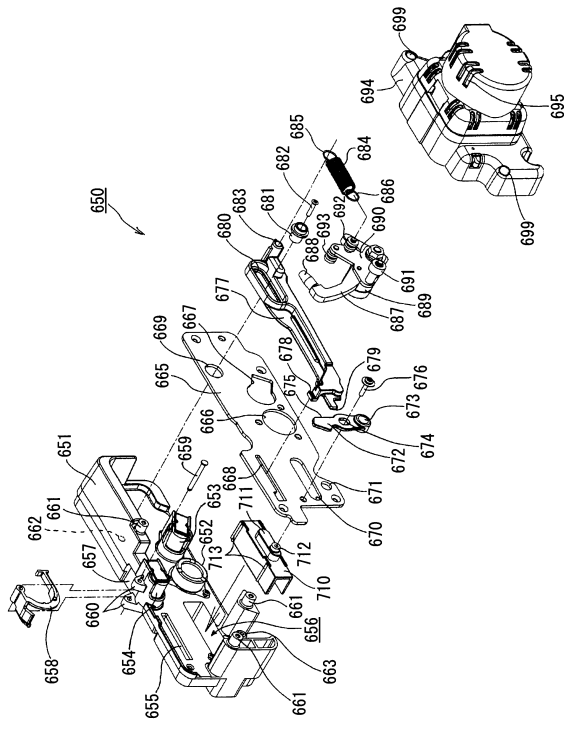
【図３５】



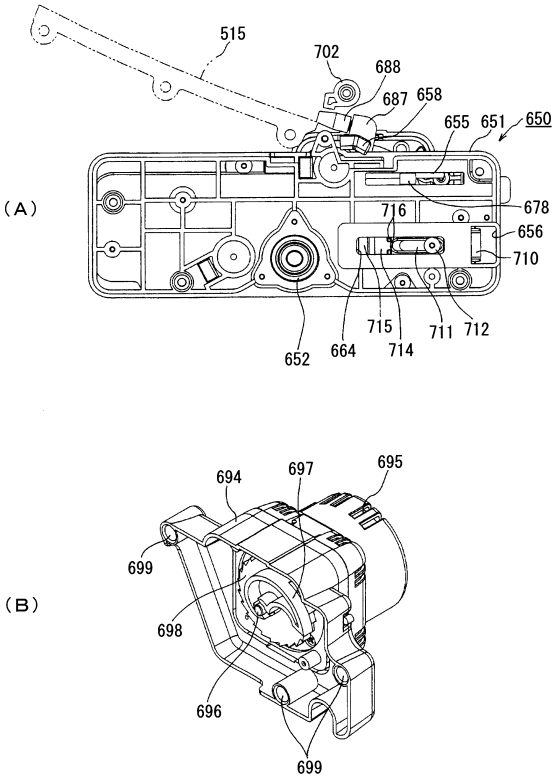
【図３６】



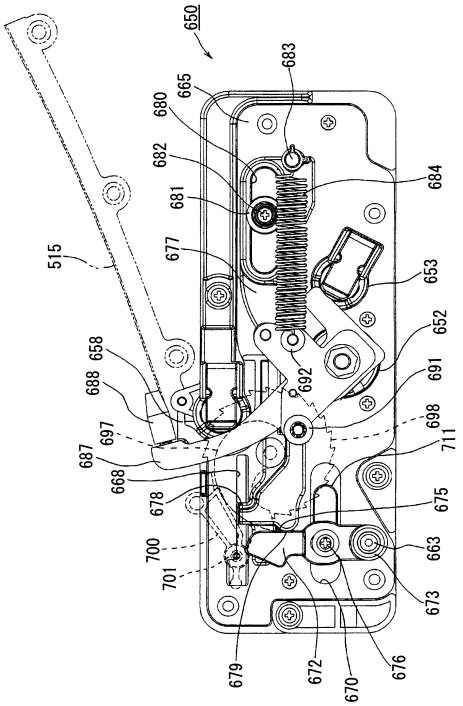
【図３７】



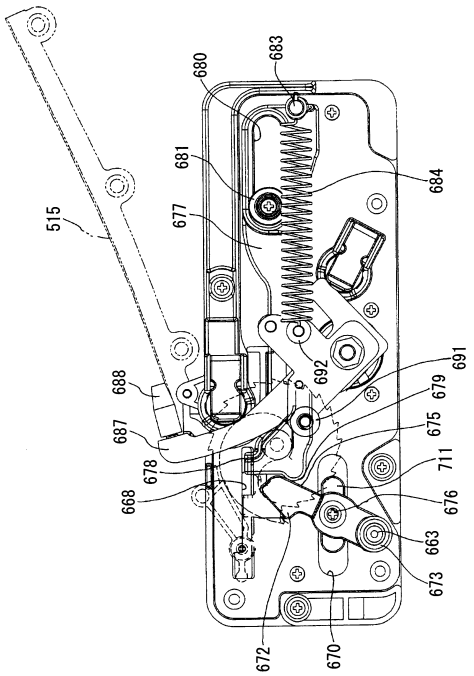
【図３８】



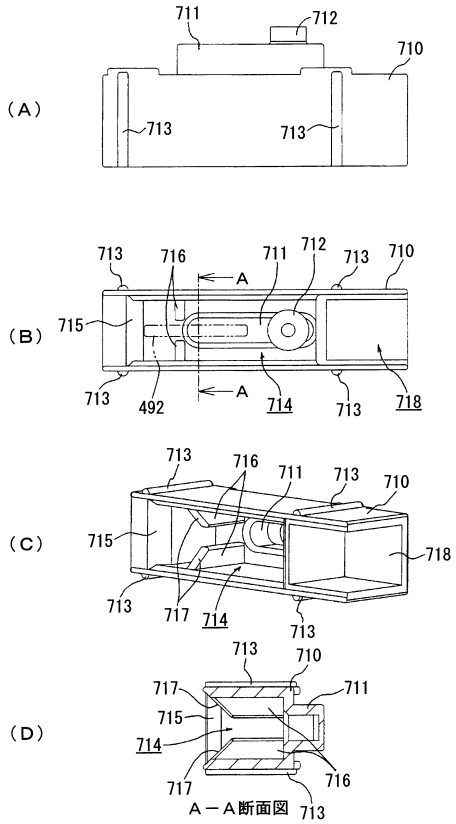
【図３９】



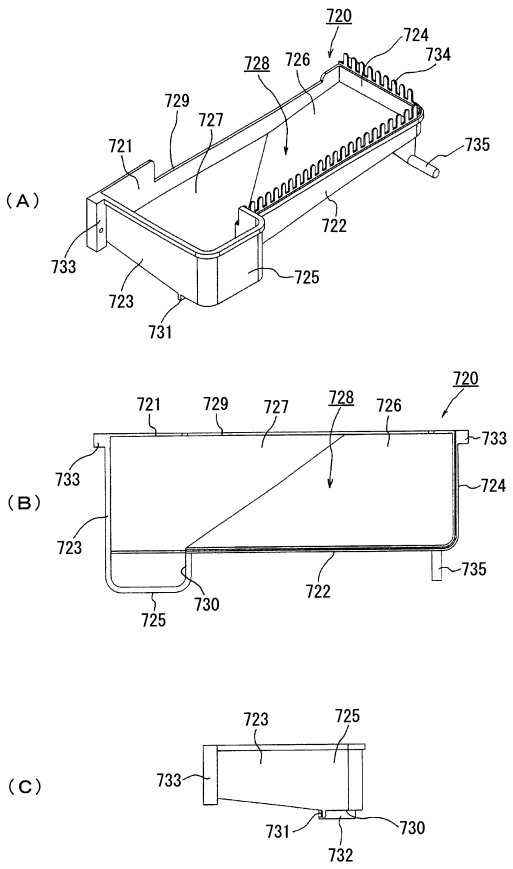
【図４０】



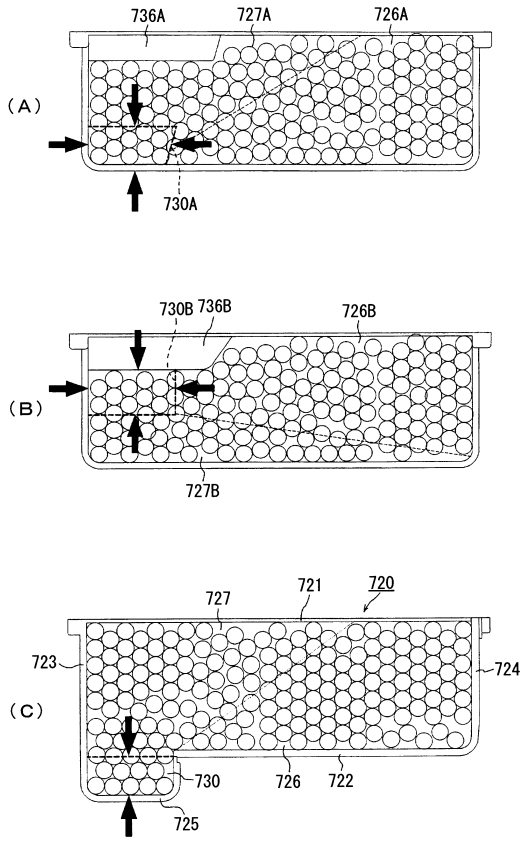
【図４１】



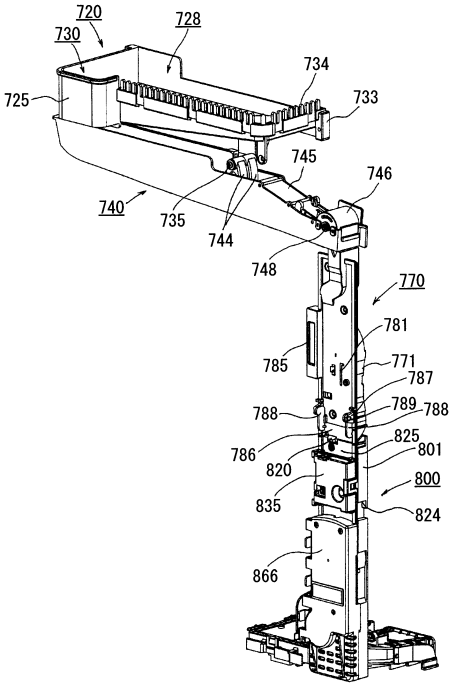
【図４２】



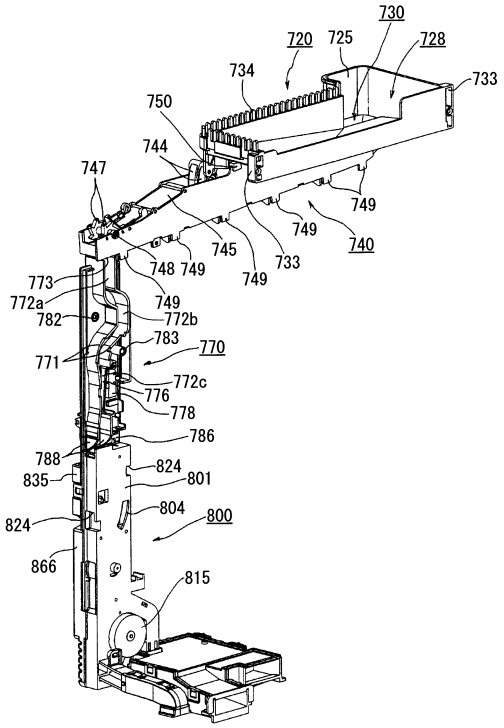
【図４３】



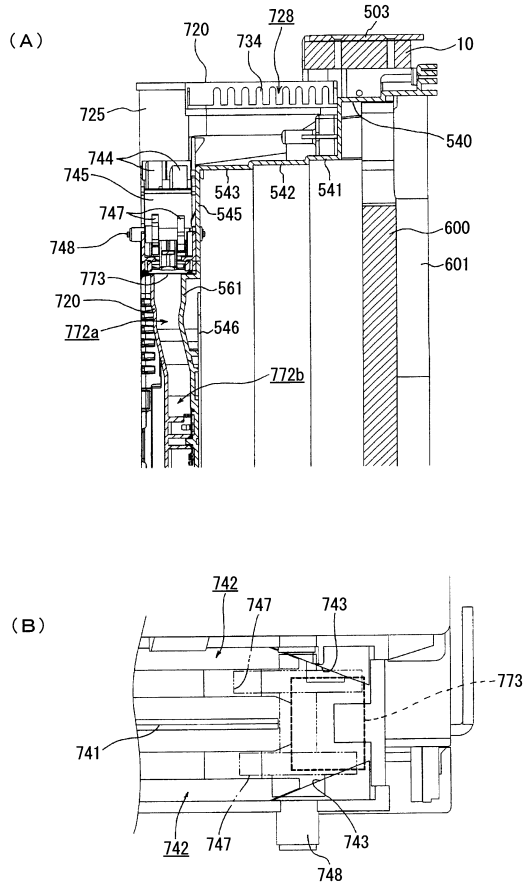
【図４４】



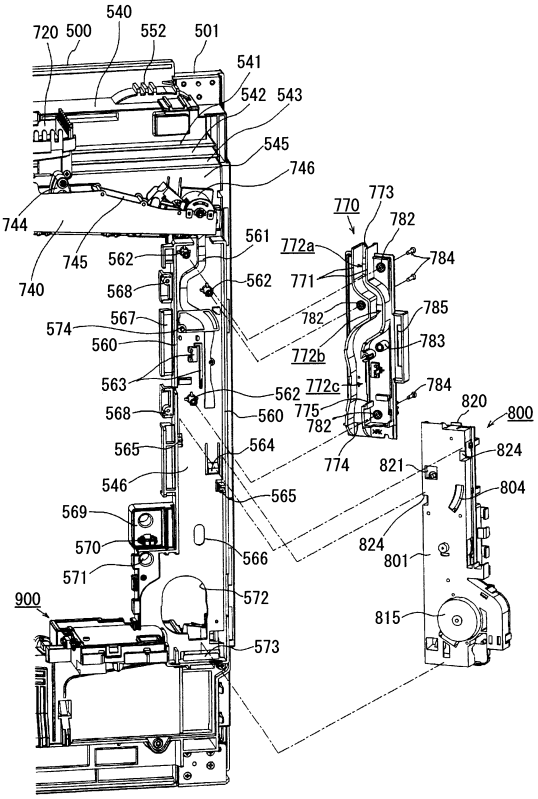
【図４５】



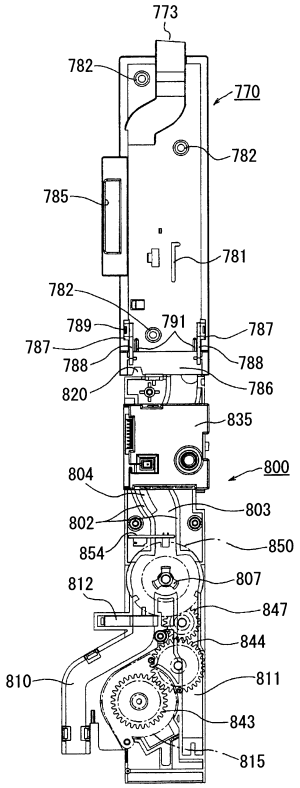
【図４６】



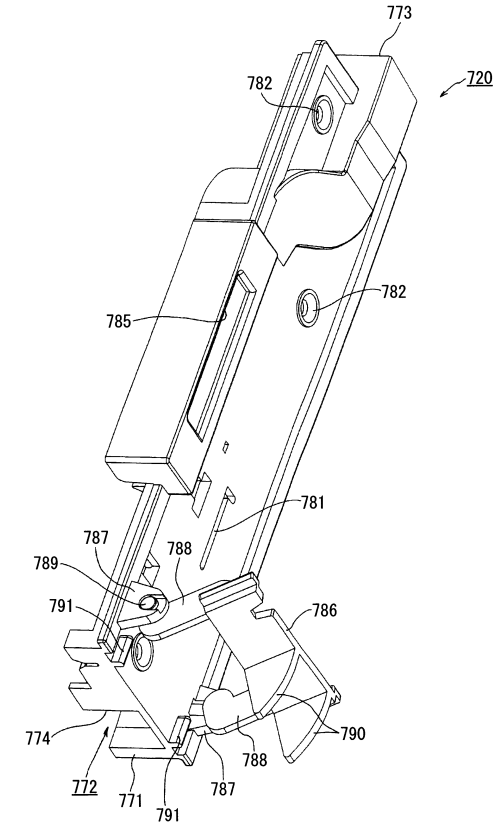
【図４７】



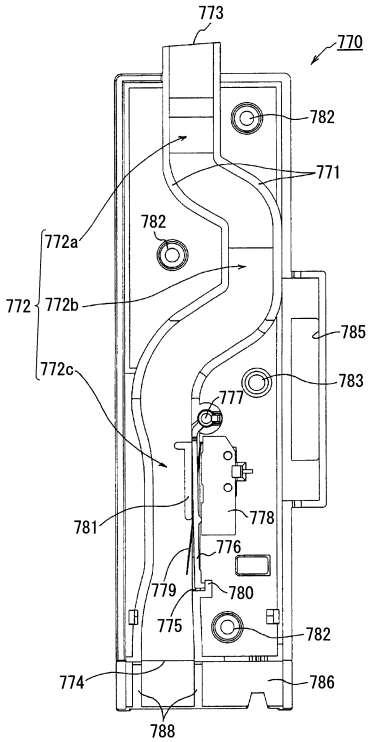
【図４８】



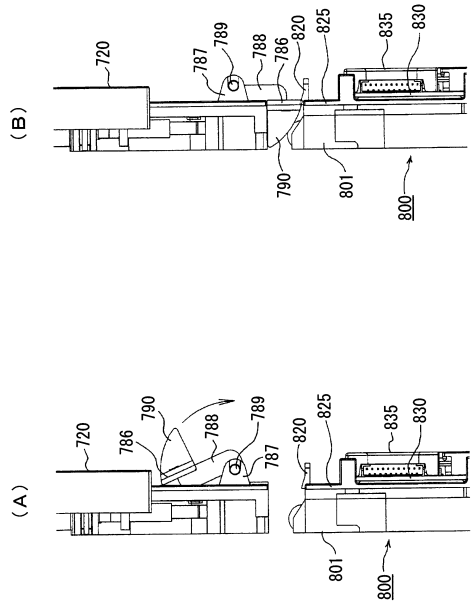
【図４９】



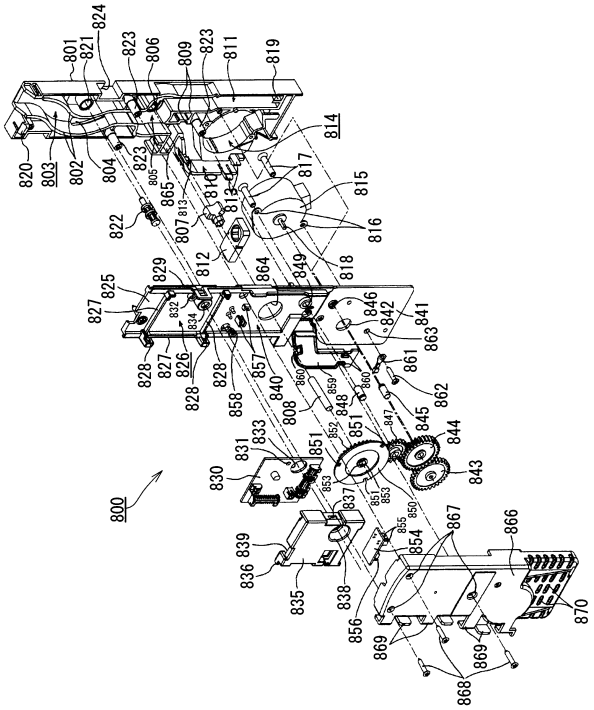
【図５０】



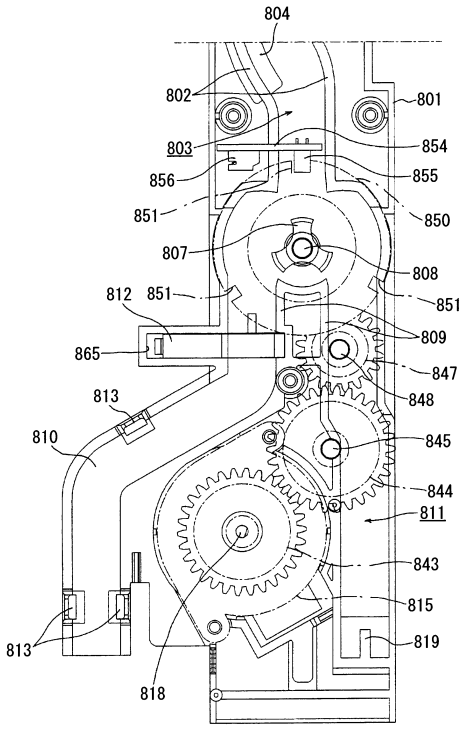
【図５１】



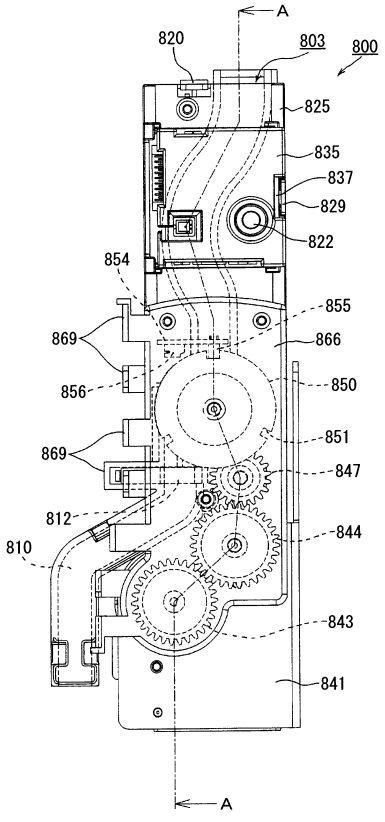
【図５２】



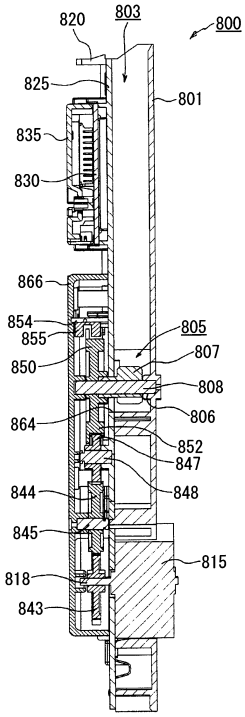
【図５３】



【図５４】

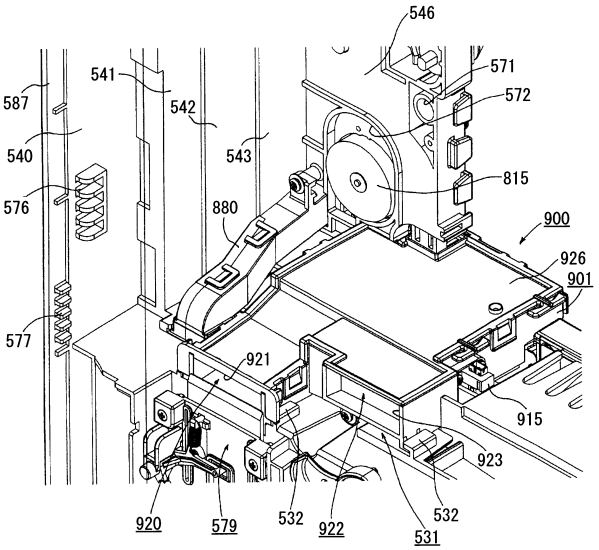


【図５５】

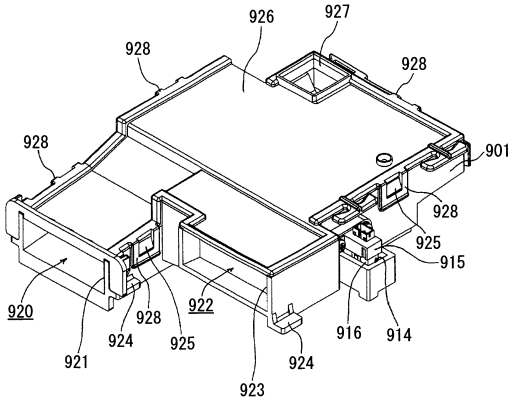


Ａ－Ａ断面図

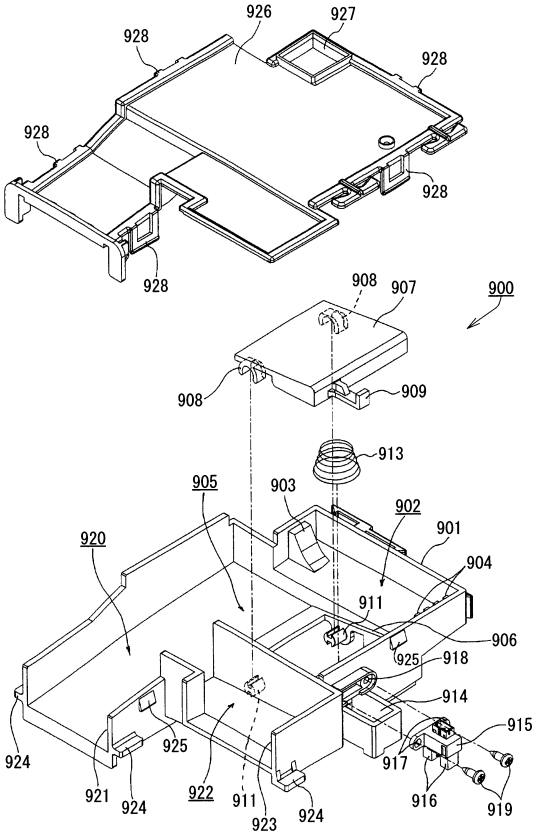
【図５６】



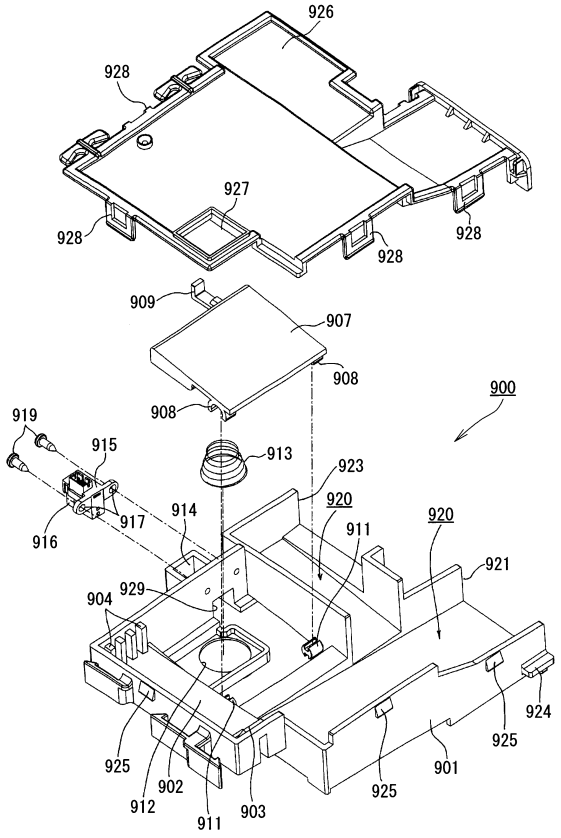
【図５７】



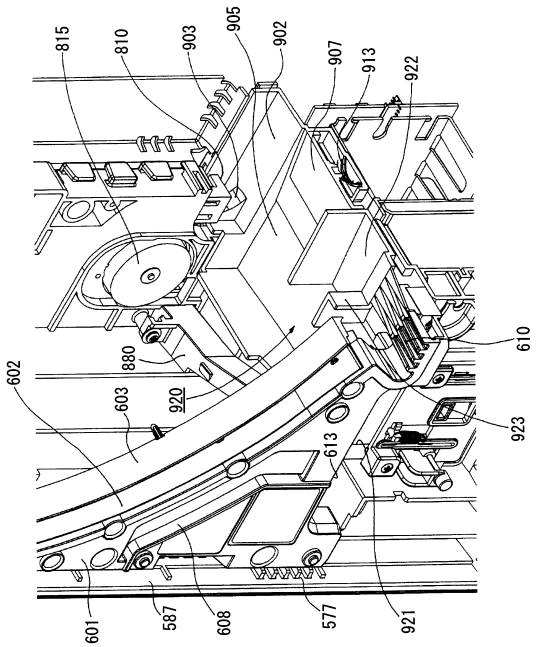
【図５８】



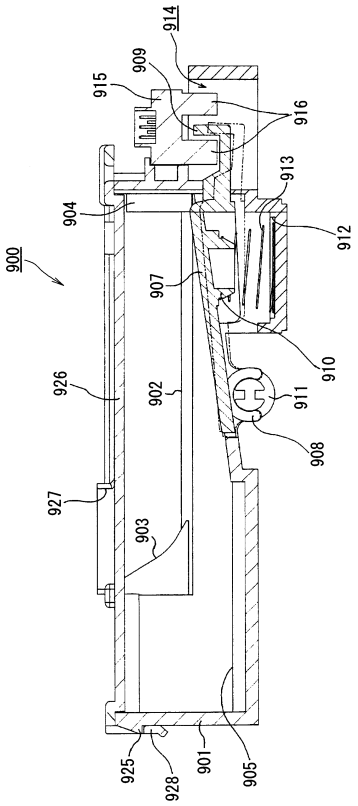
【図５９】



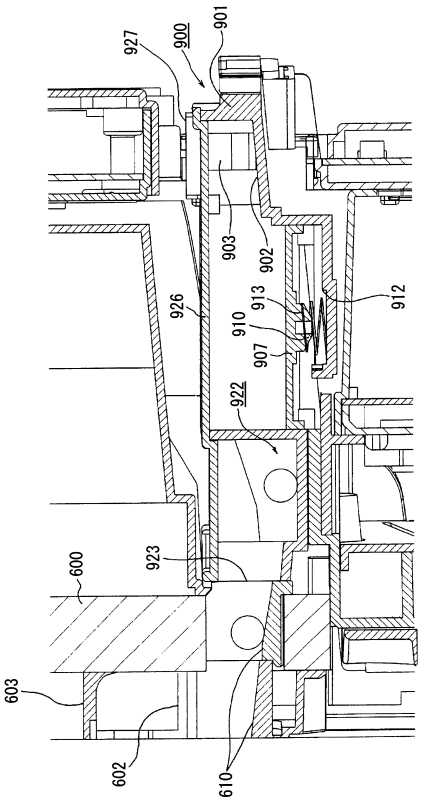
【図６０】



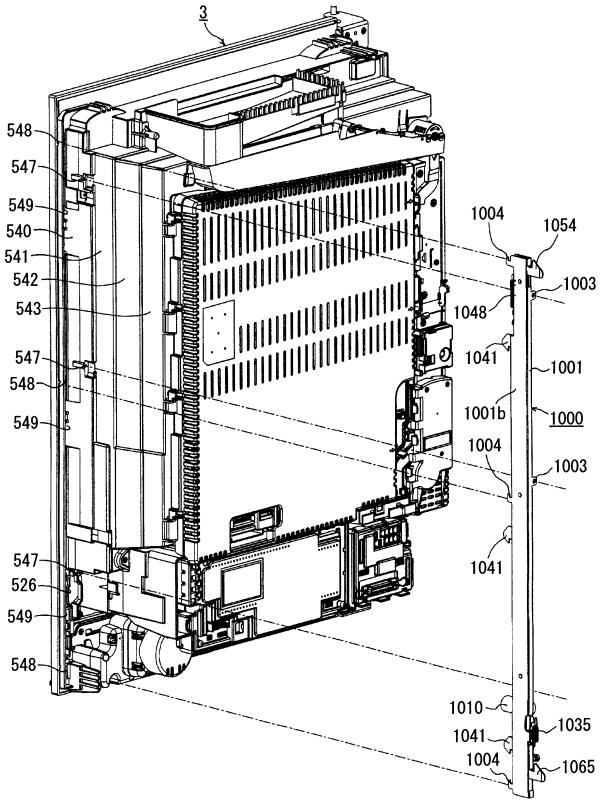
【図６１】



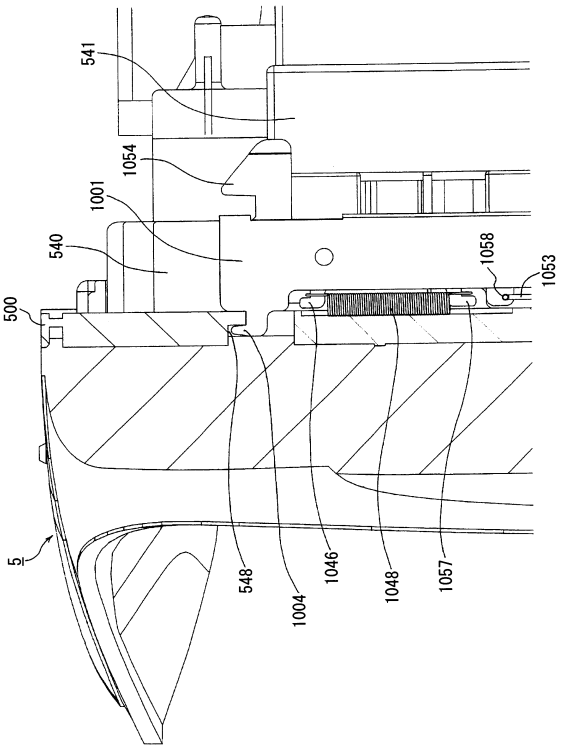
【図６２】



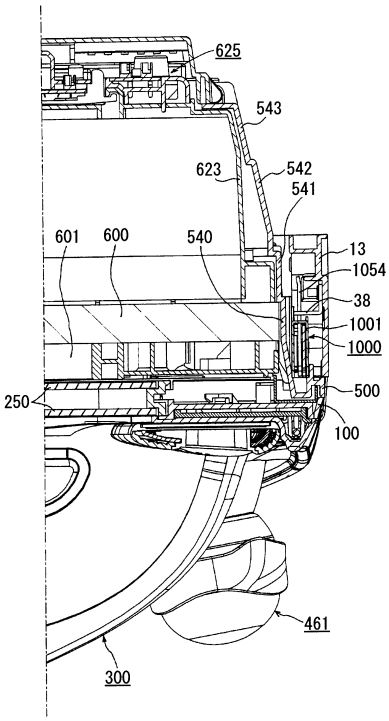
【図６３】



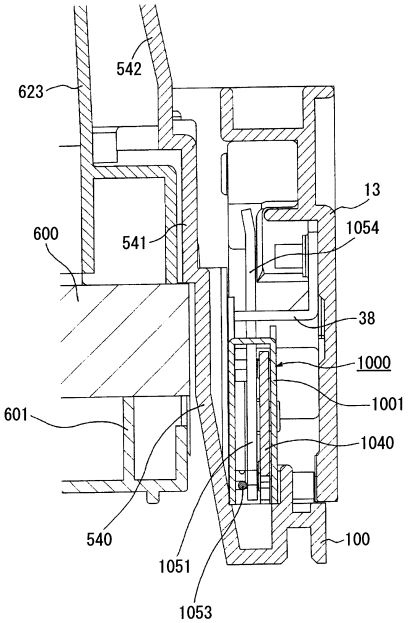
【図６４】



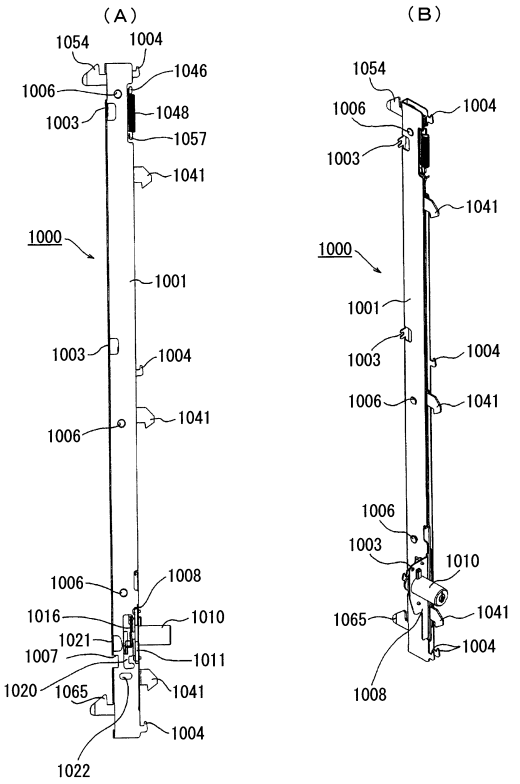
【図６５】



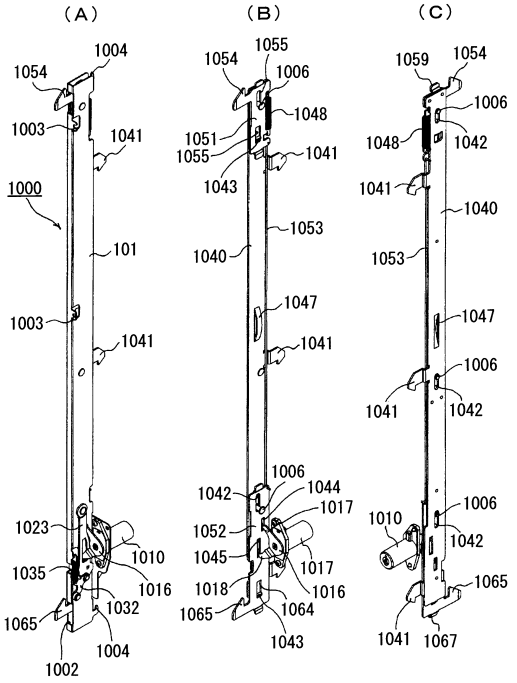
【図６６】



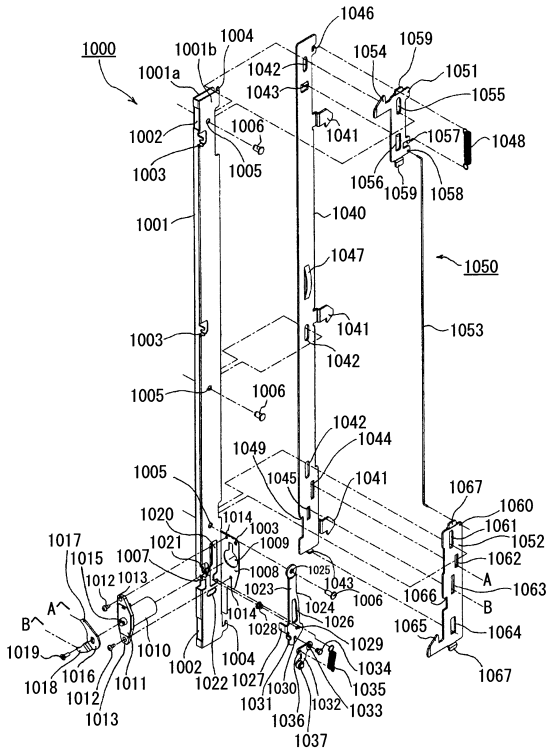
【図６７】



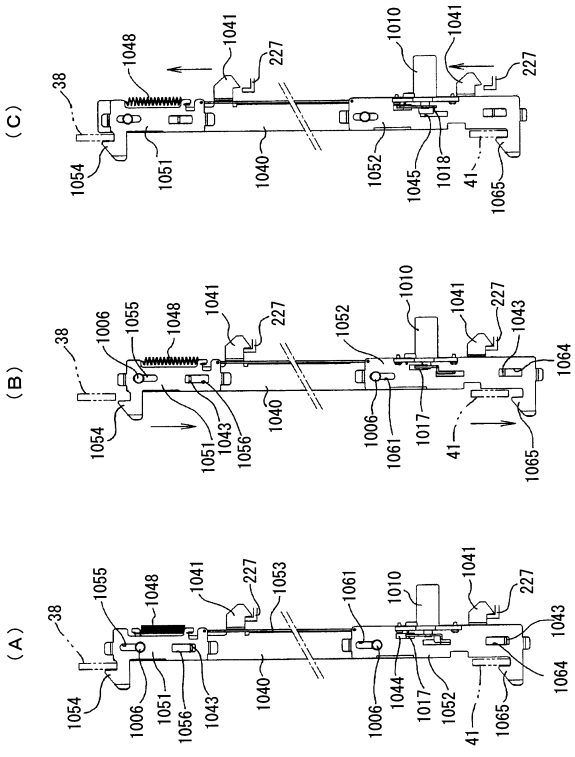
【図６８】



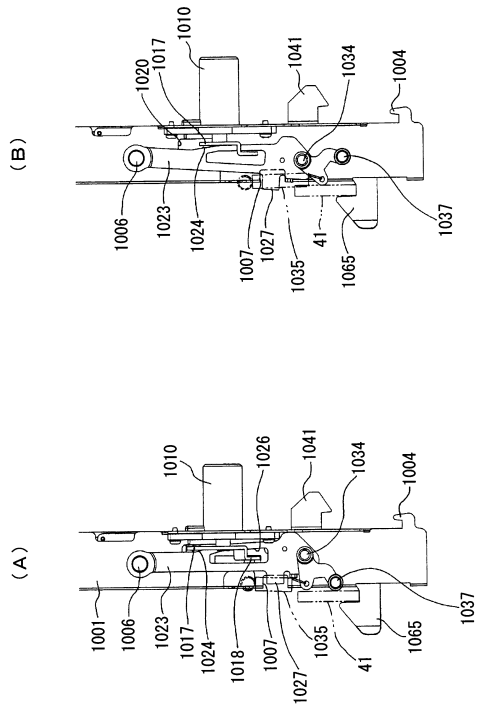
【図６９】



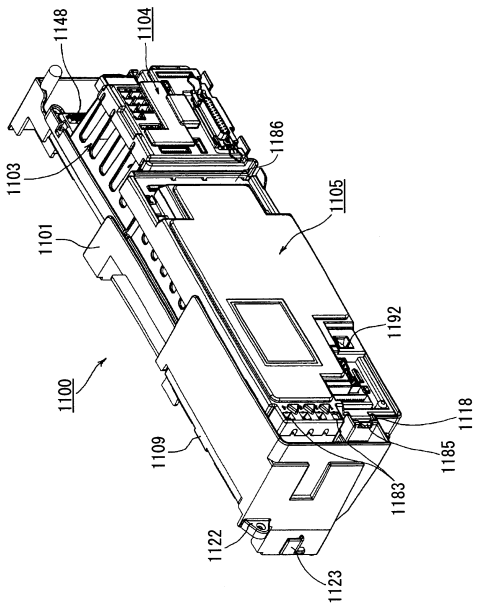
【図７０】



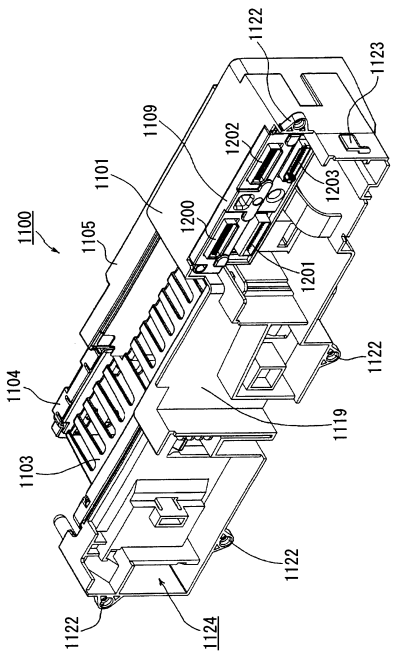
【図７１】



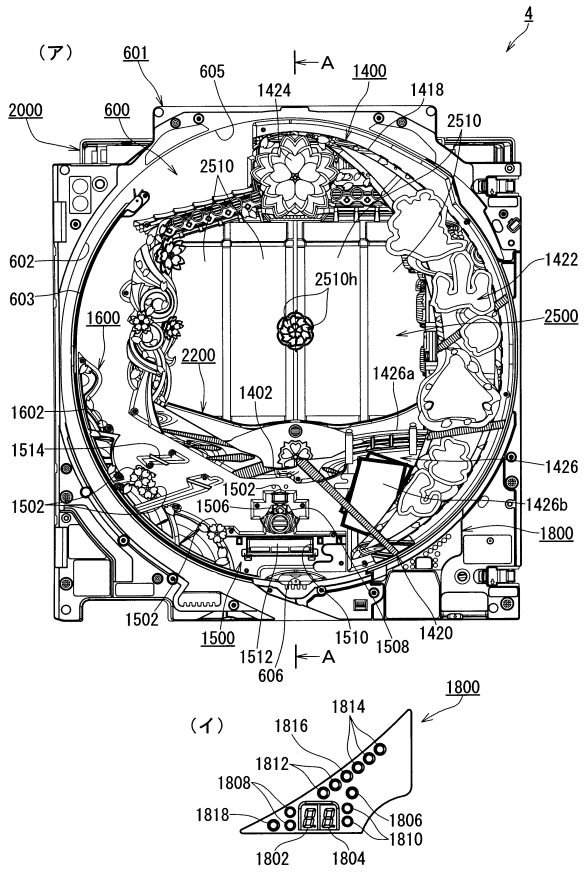
【図７２】



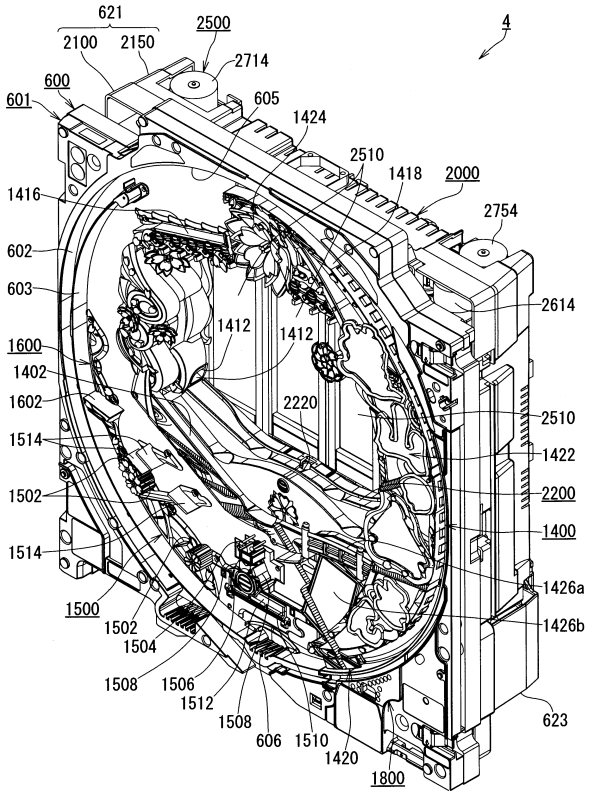
【図７３】



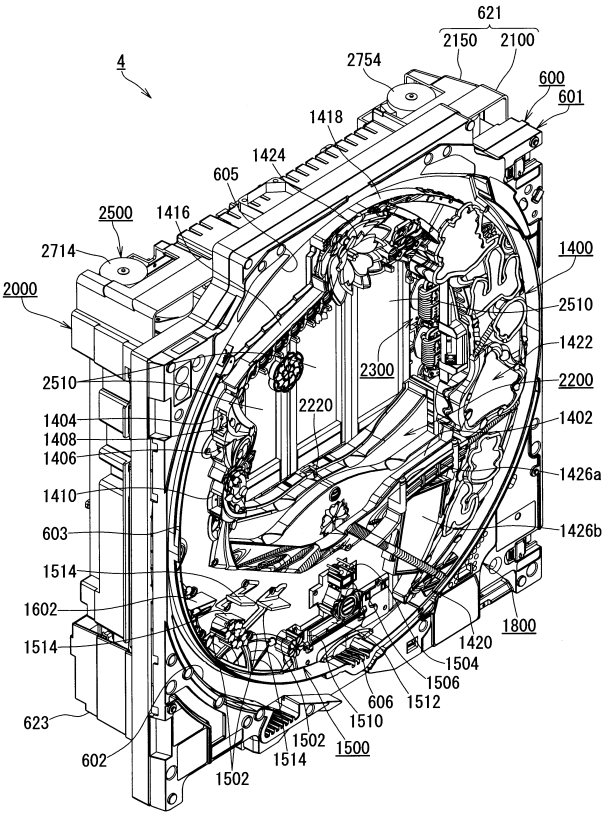
【図７４】



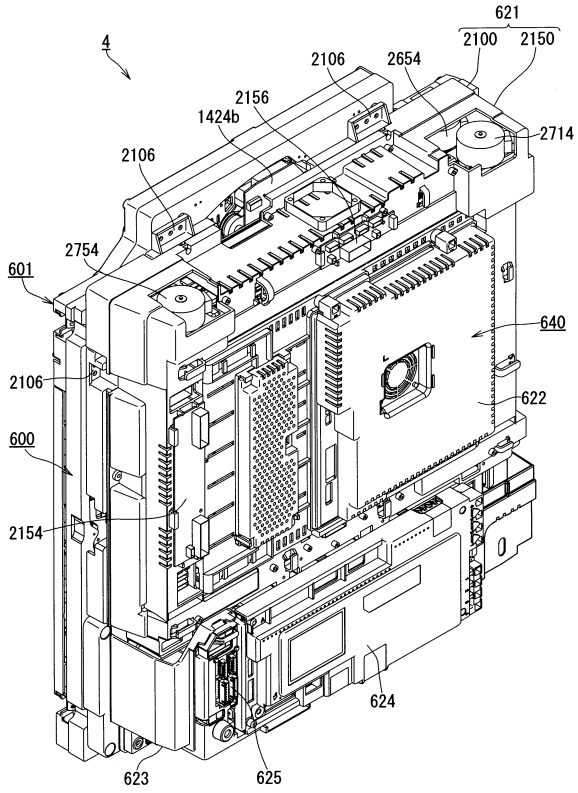
【図７５】



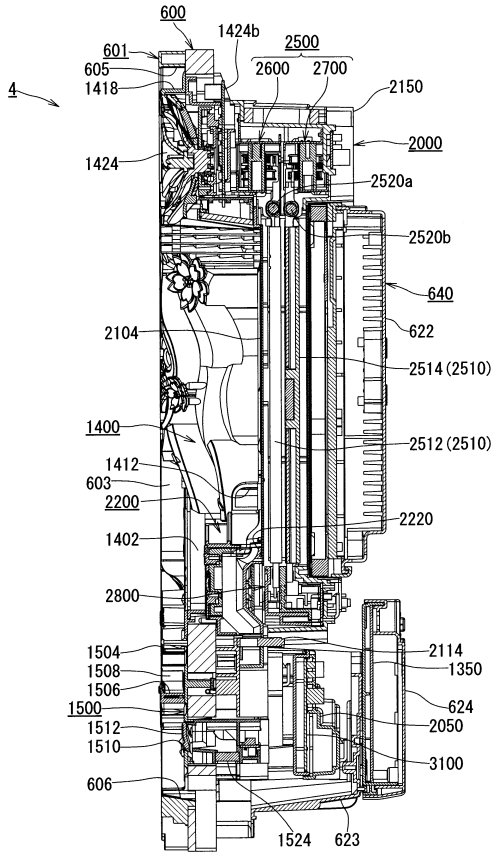
【図７６】



【図７７】

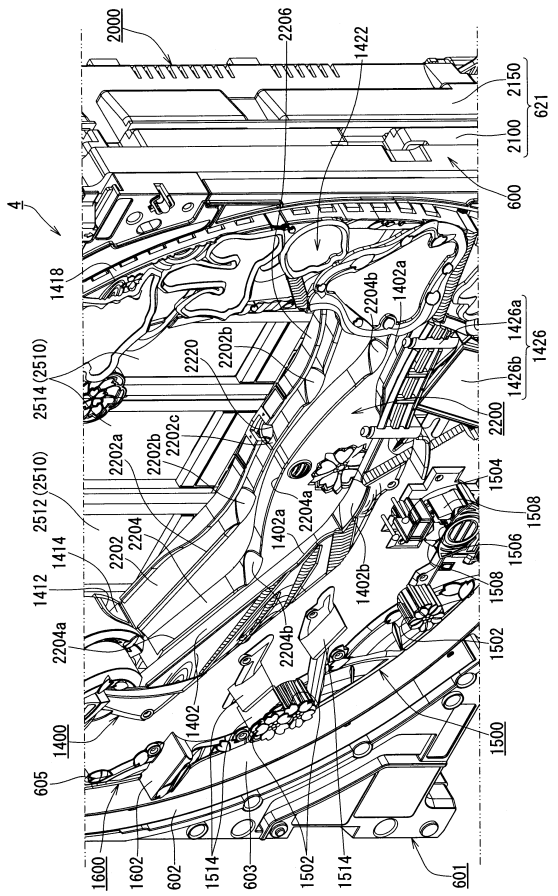


【図７８】

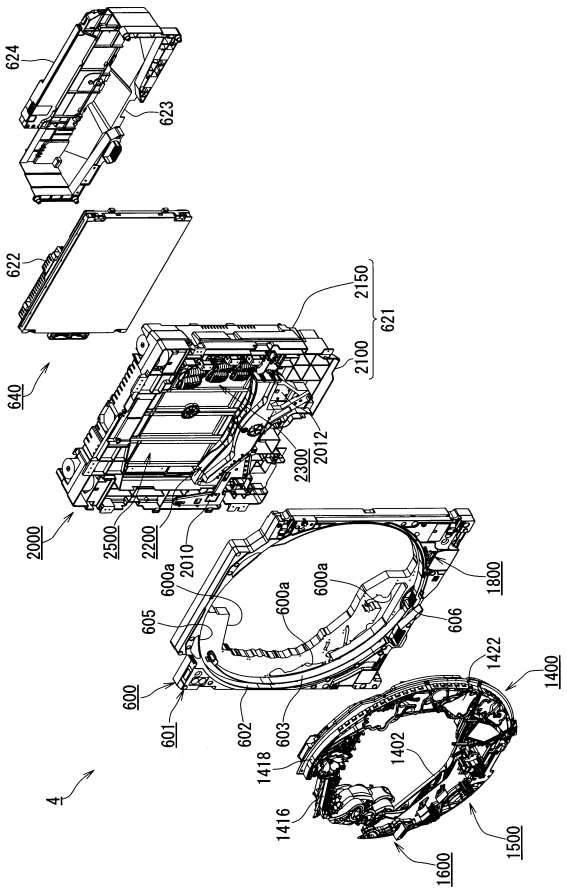


Ａ－Ａ断面

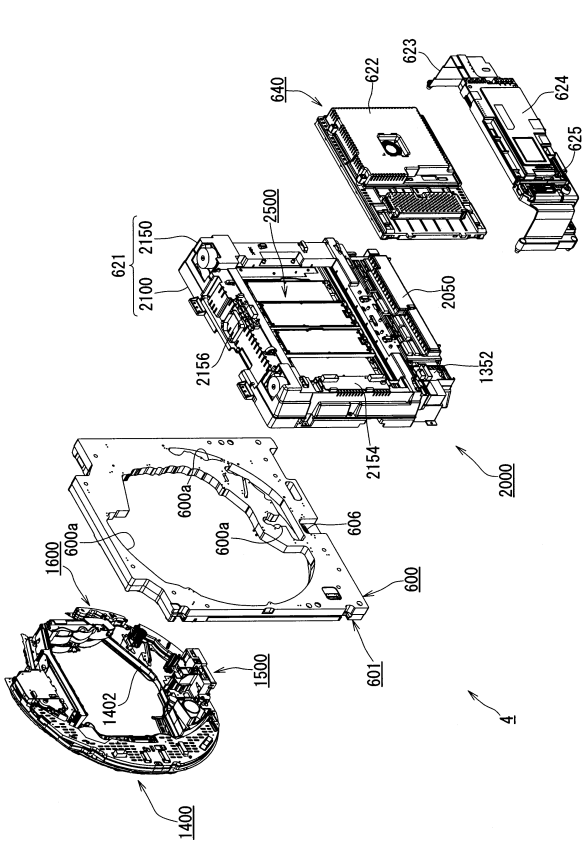
【図７９】



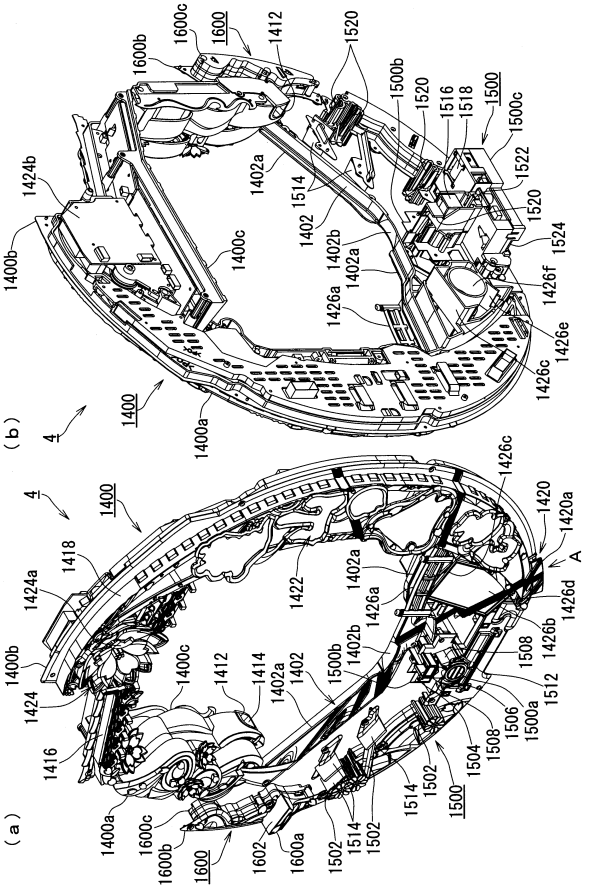
【図８０】



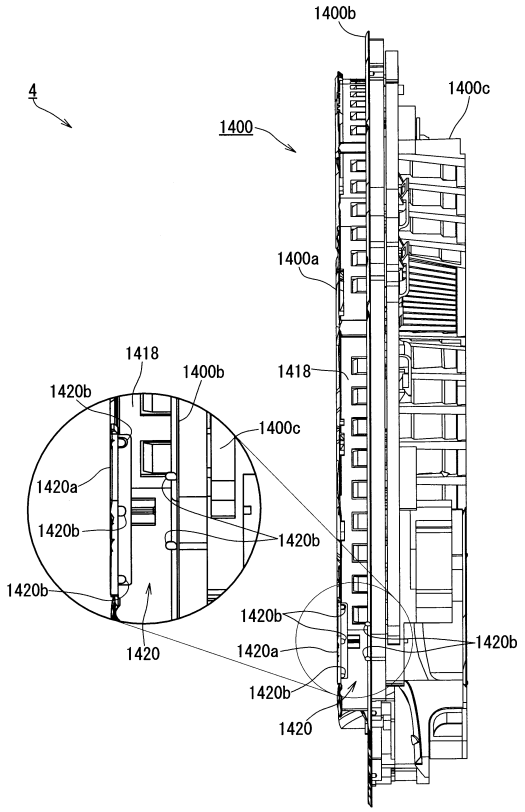
【図８１】



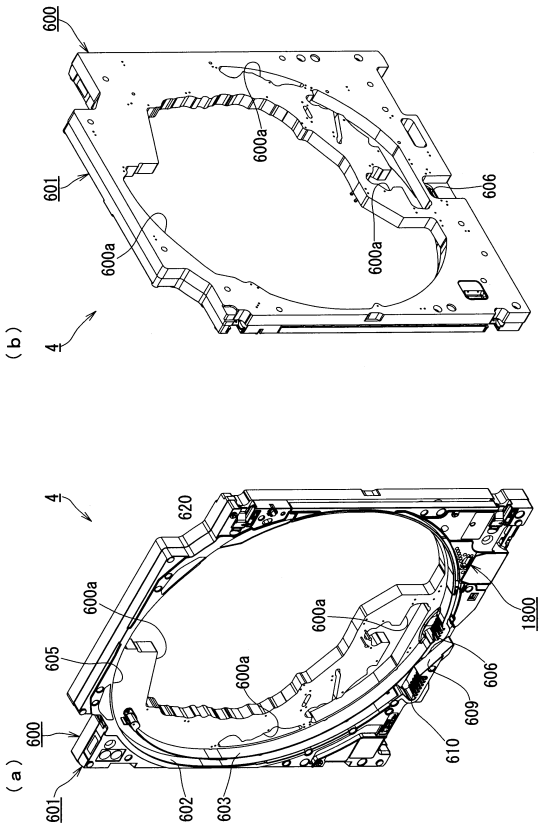
【図８２】



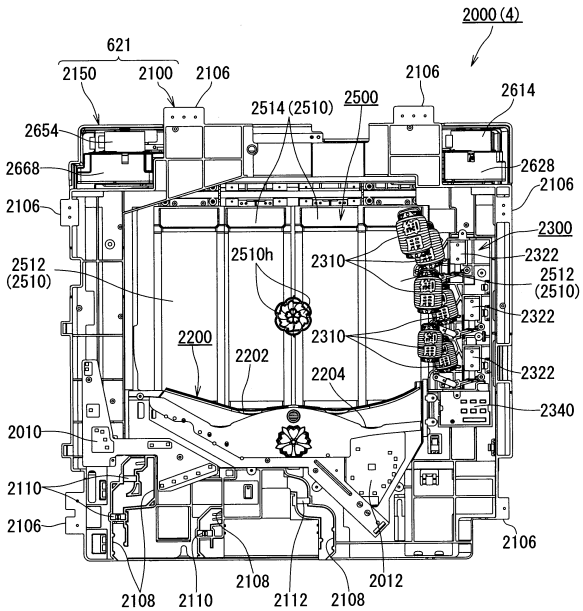
【図８３】



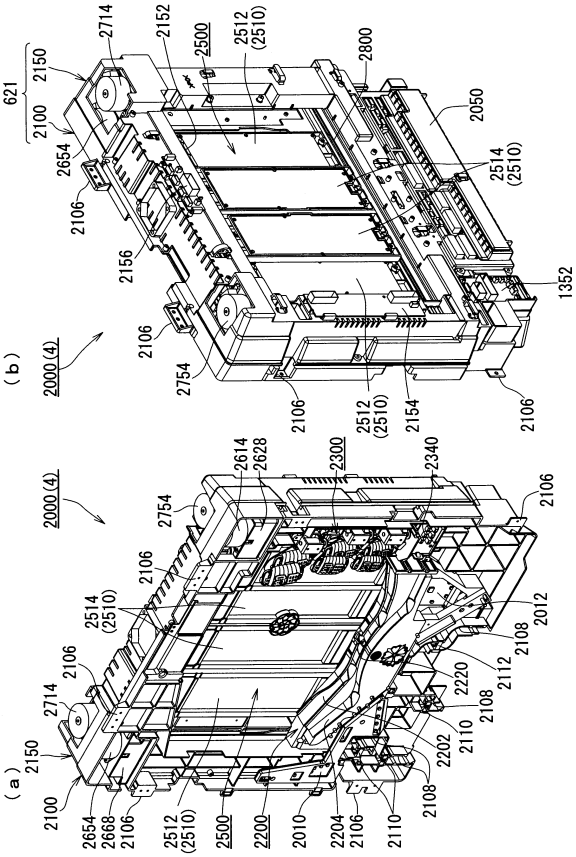
【図８４】



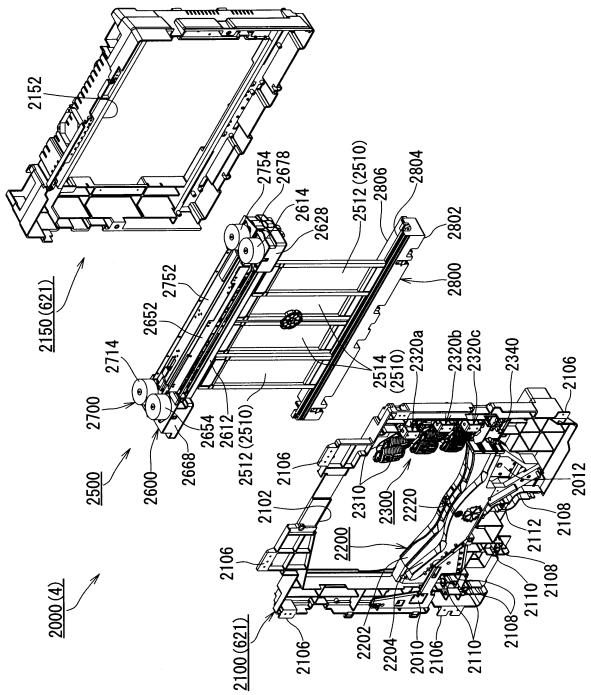
【図８５】



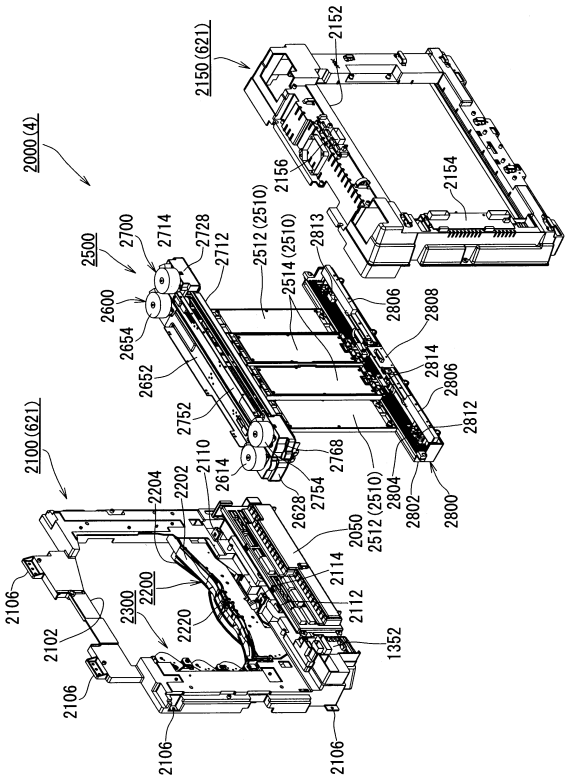
【図８６】



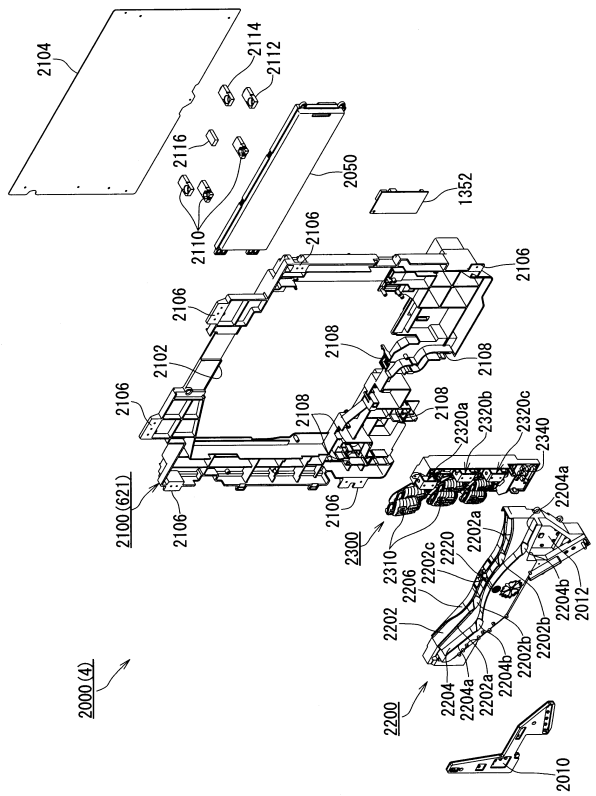
【図８７】



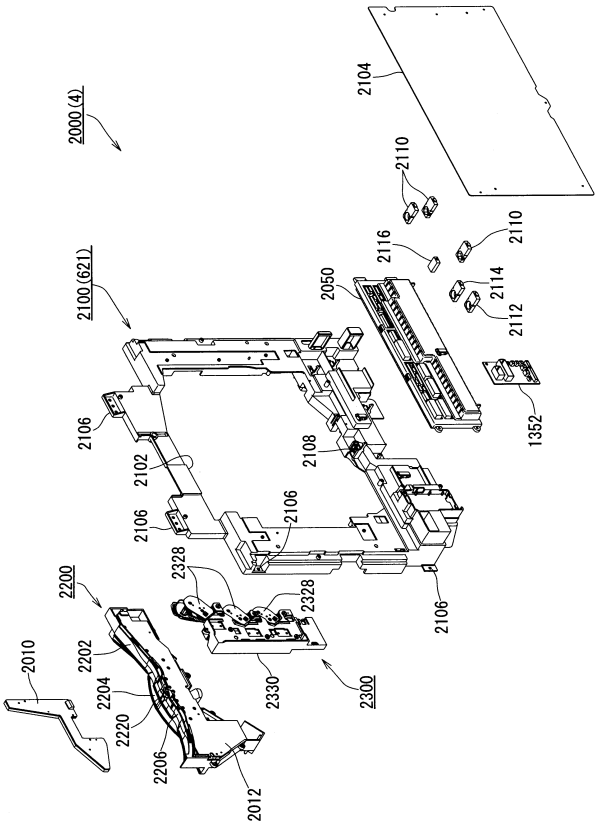
【図８８】



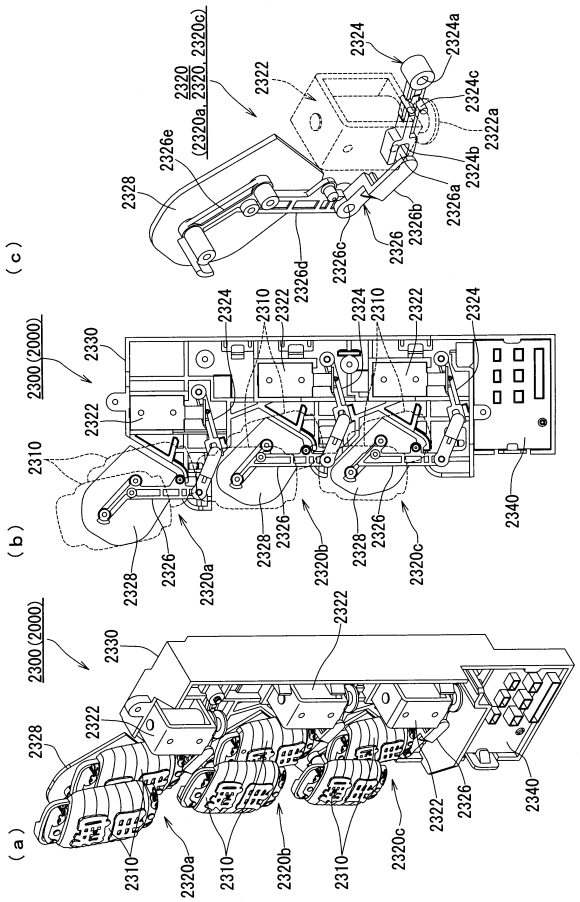
【図８９】



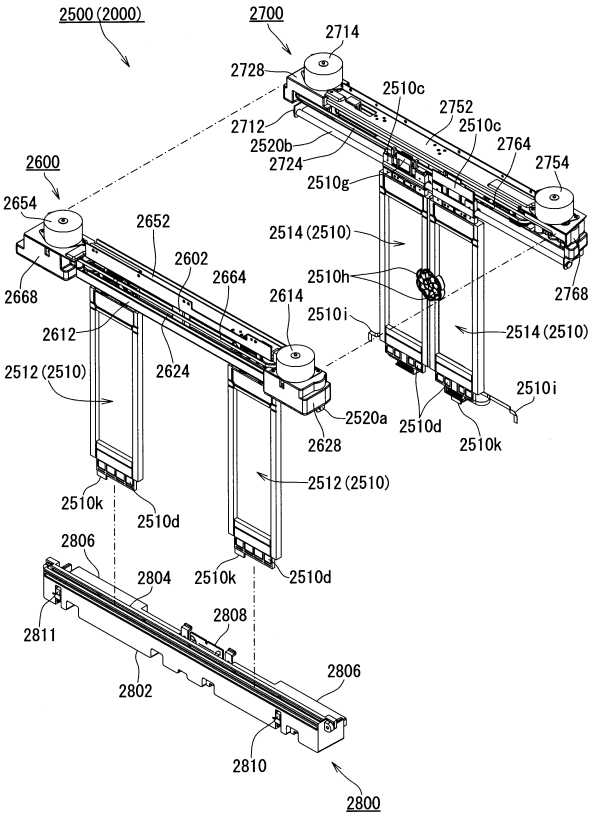
【図９０】



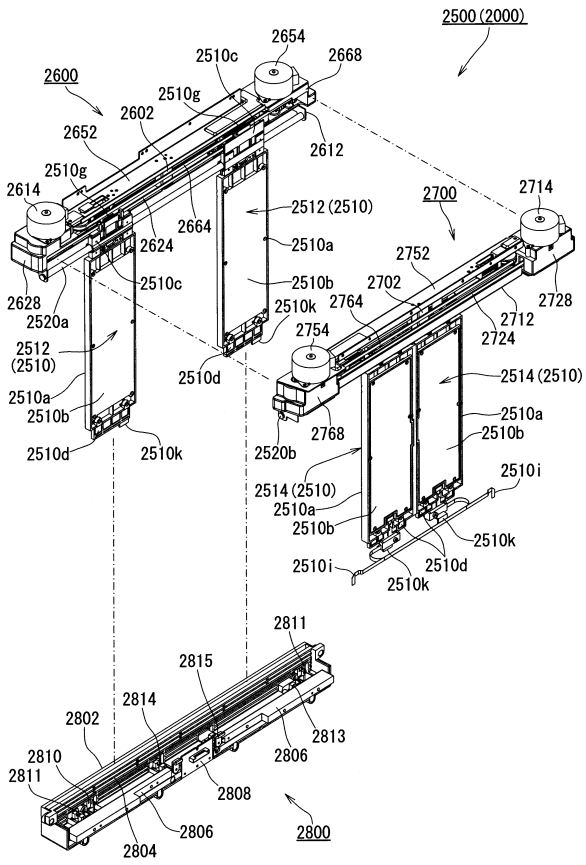
【図９１】



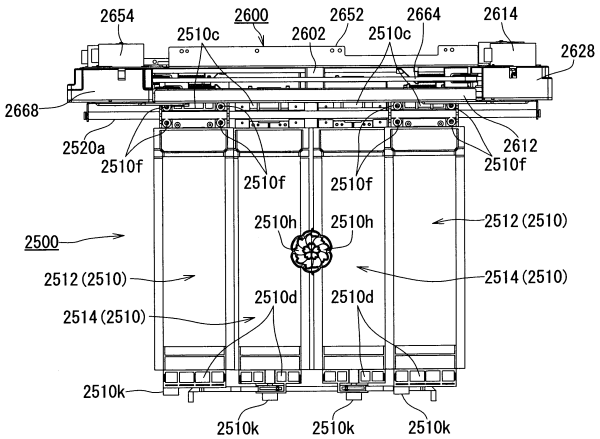
【図９２】



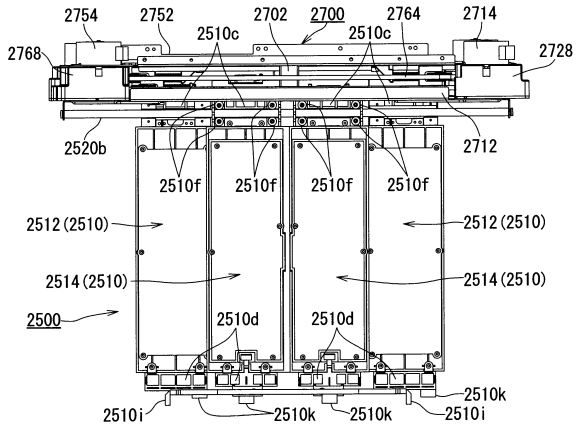
【図９３】



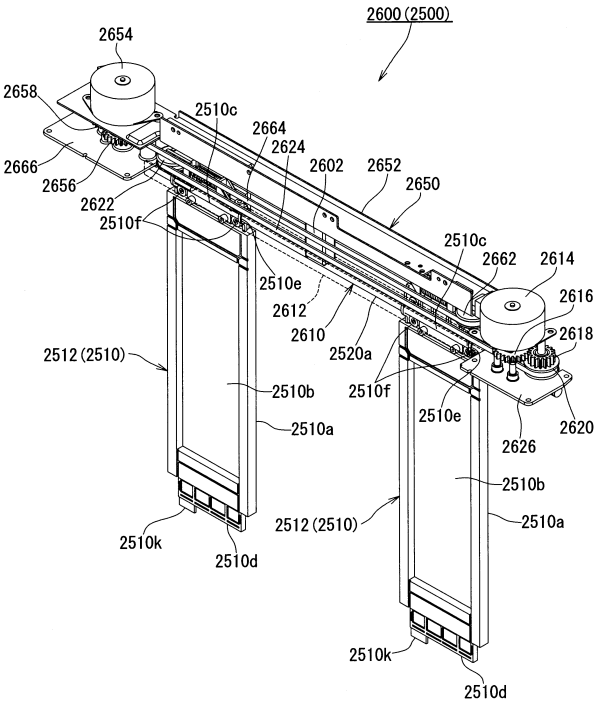
【図９４】



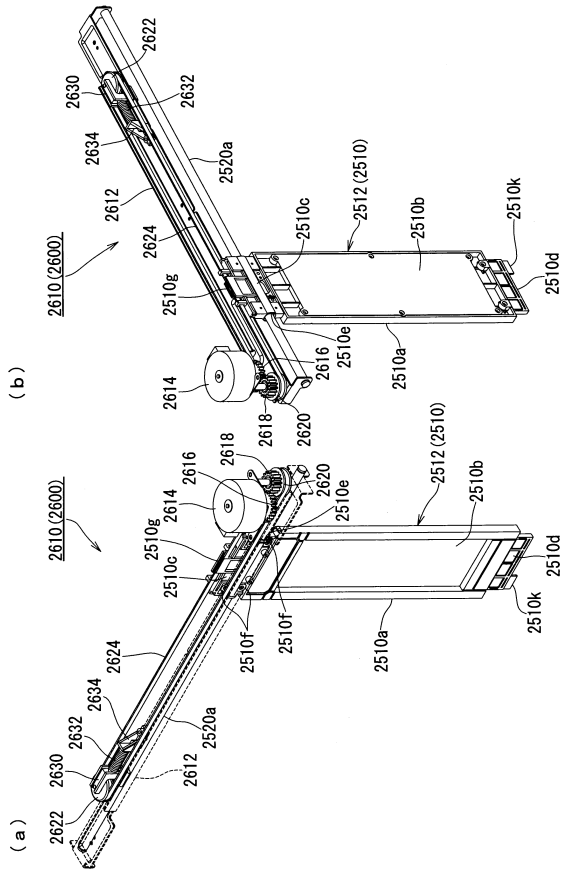
【図９５】



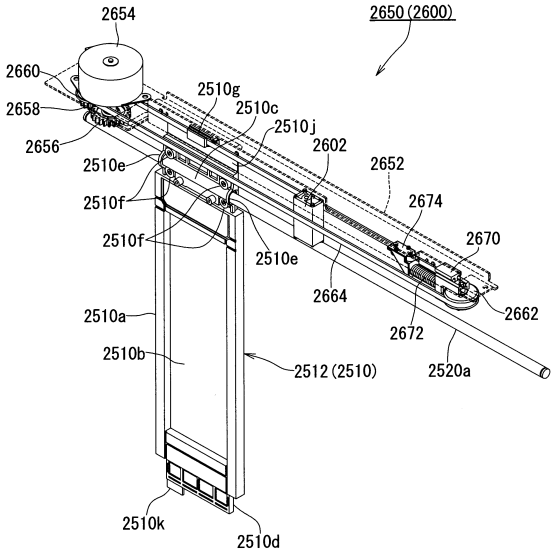
【図９６】



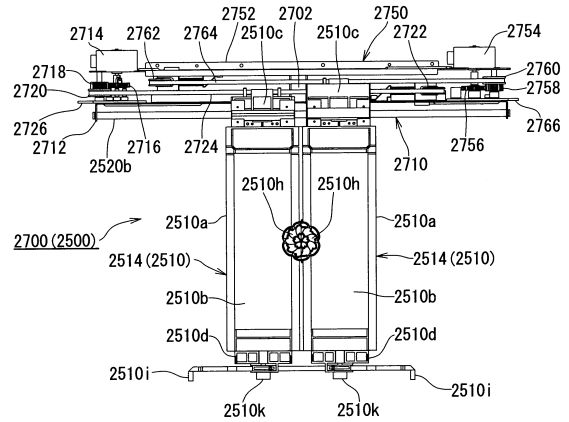
【図９７】



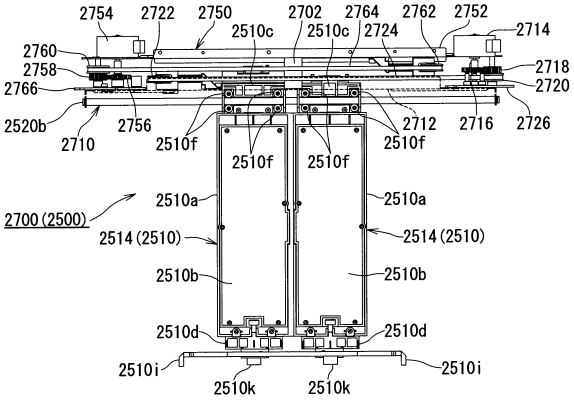
【図９８】



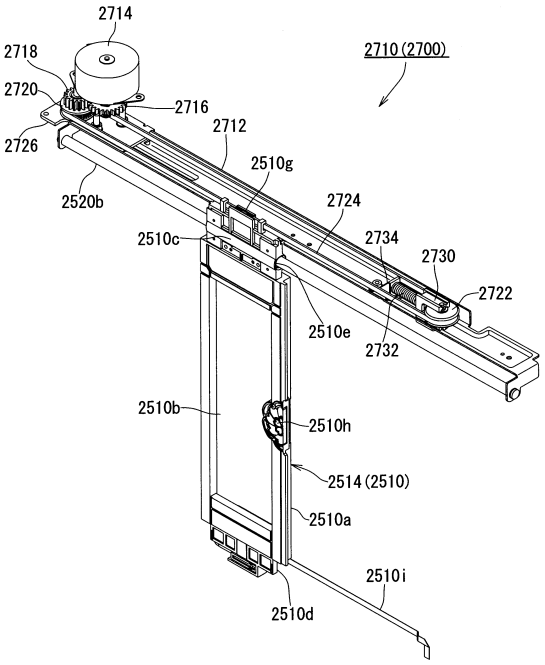
【図９９】



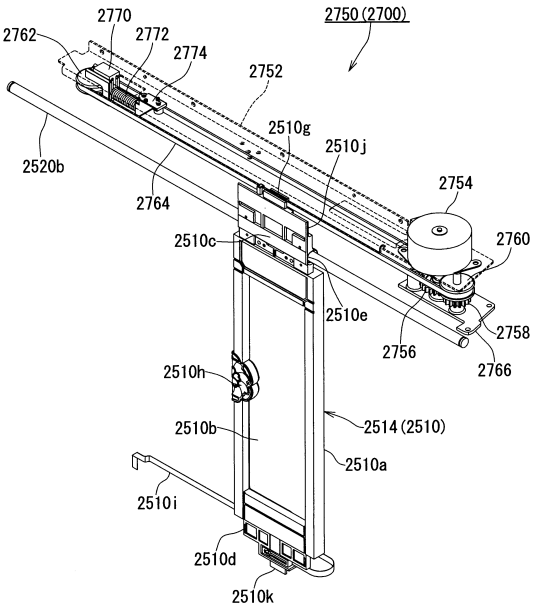
【図１００】



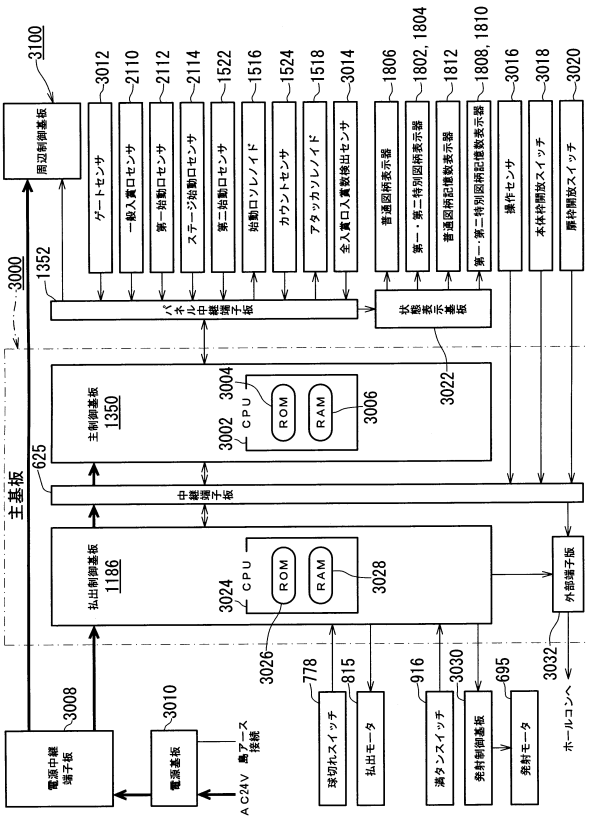
【図１０１】



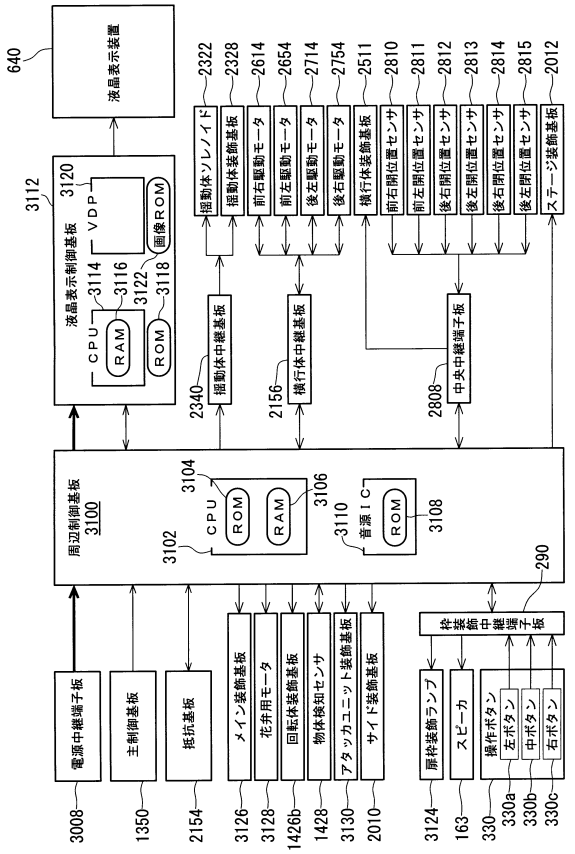
【図１０２】



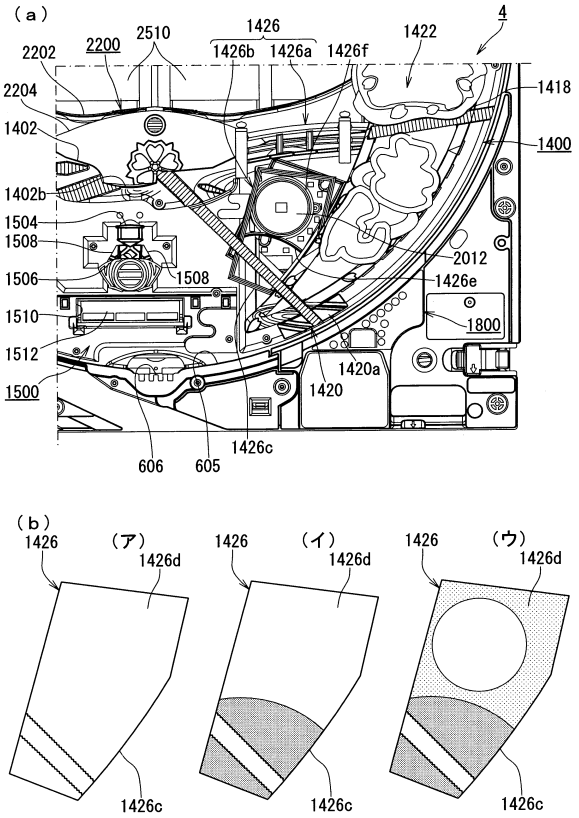
【図１０３】



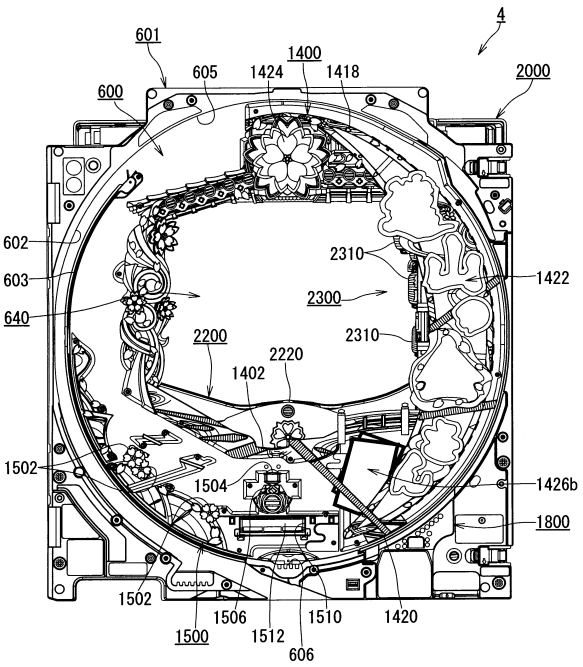
【図１０４】



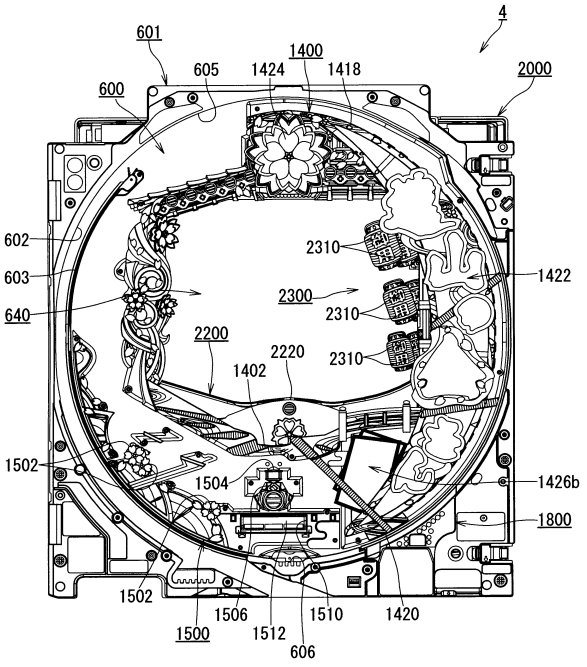
【図１０５】



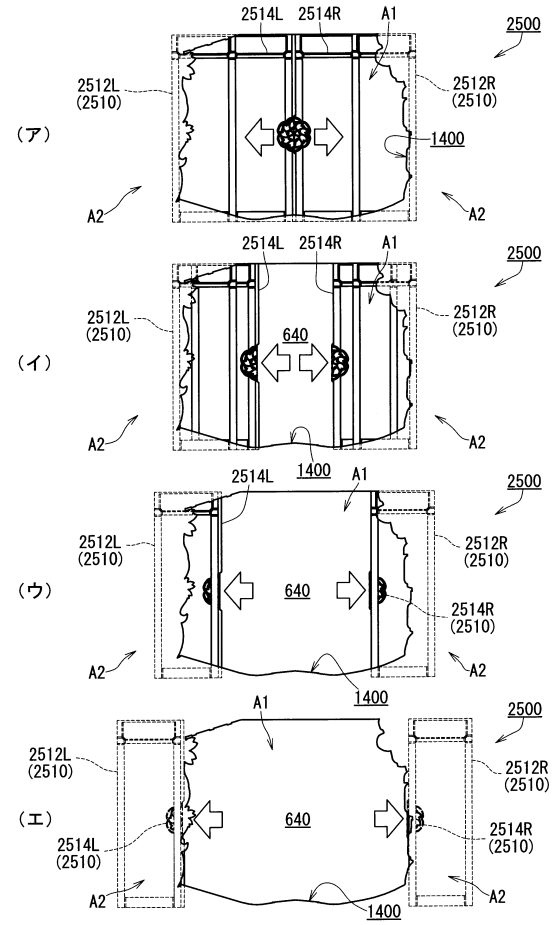
【図１０６】



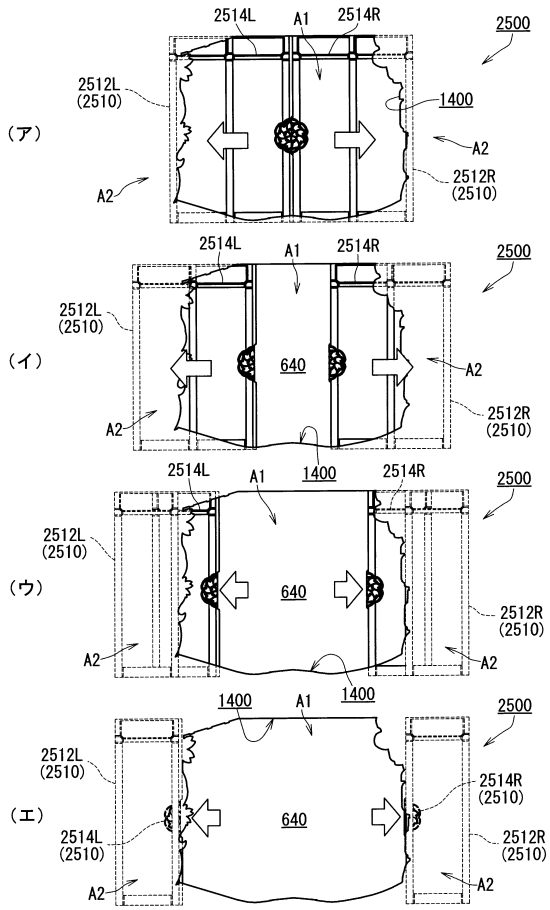
【図１０７】



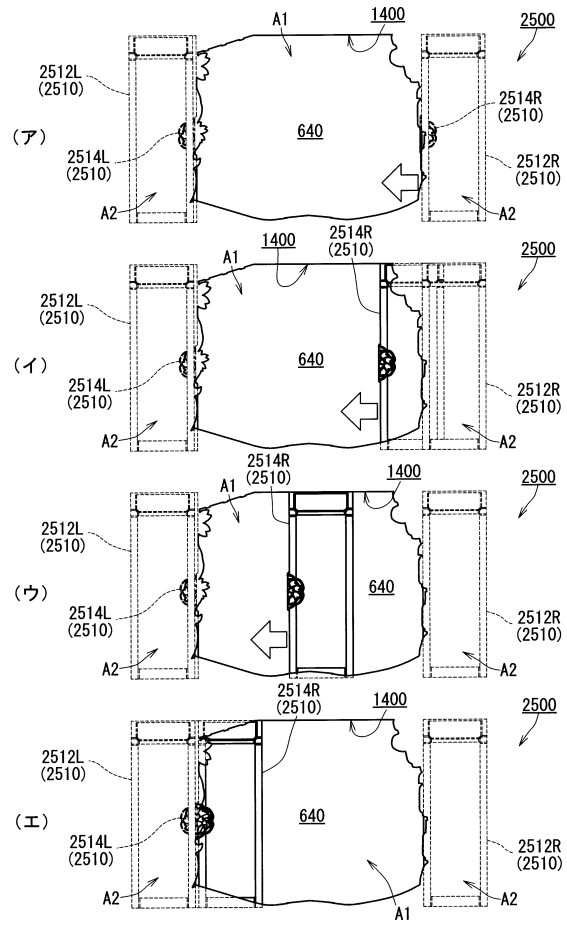
【図１０８】



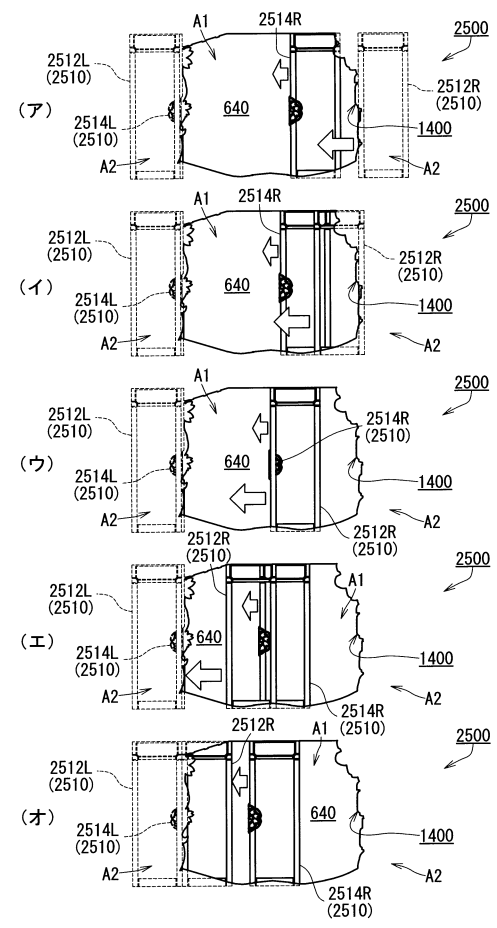
【図１０９】



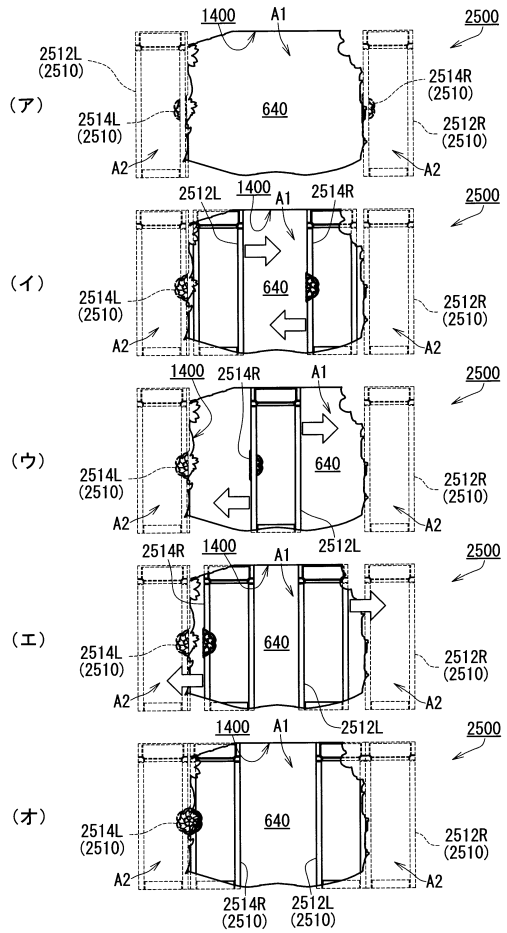
【図１１０】



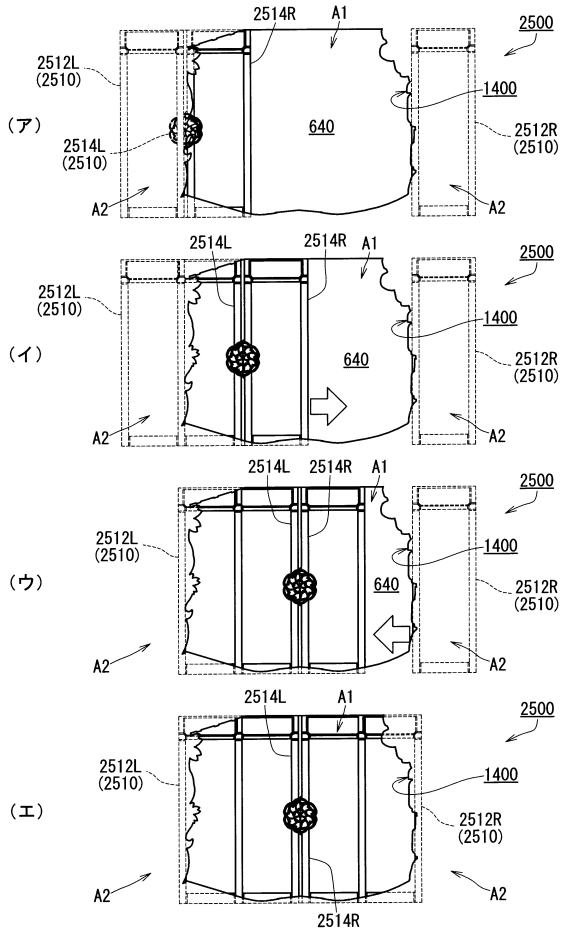
【図１１１】



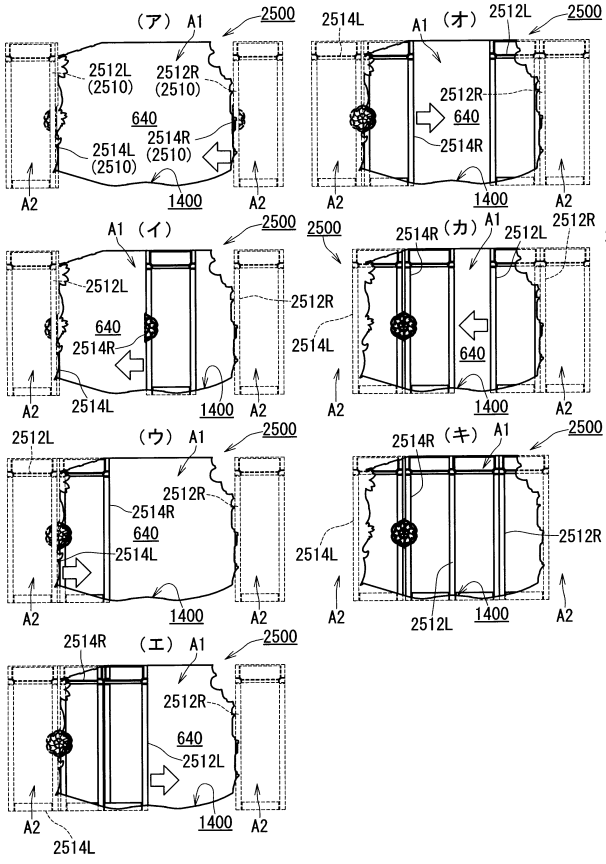
【図１１２】



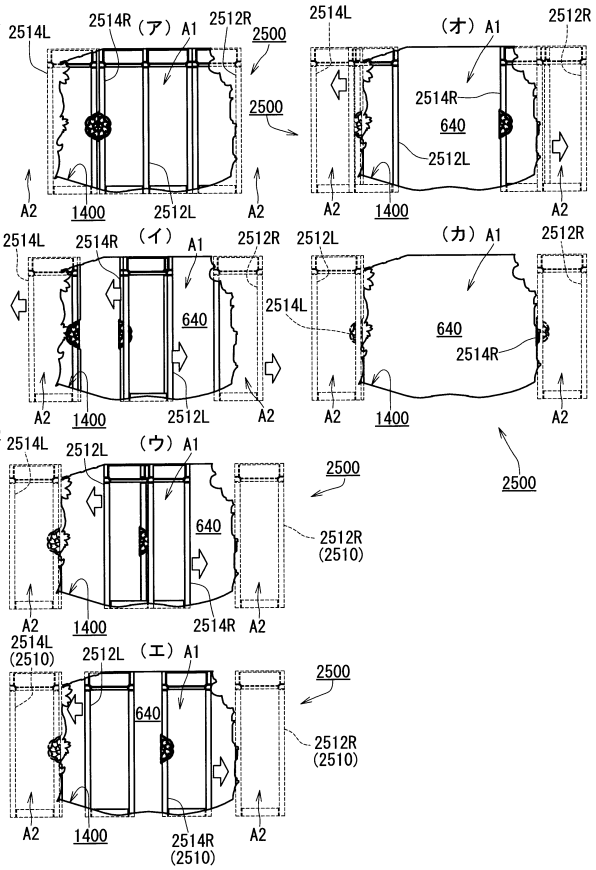
【図１１３】



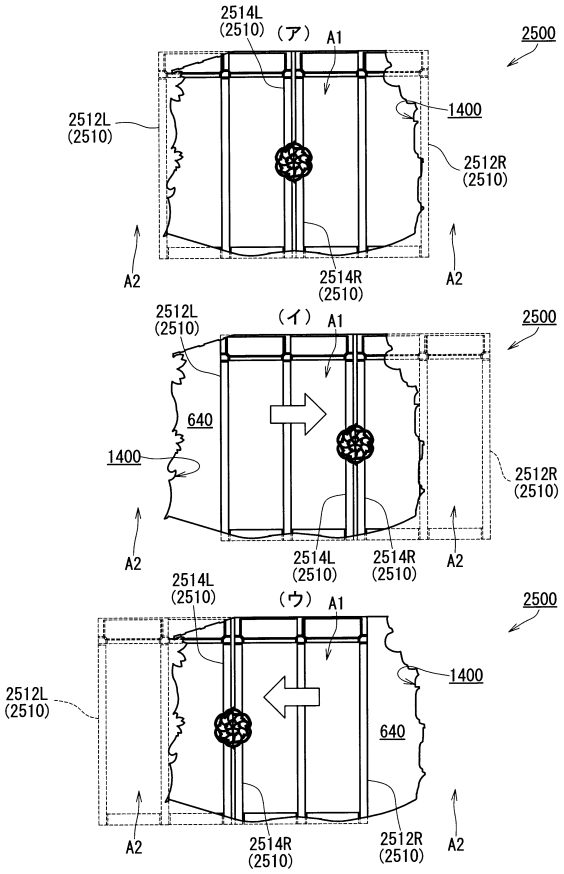
【図１１４】



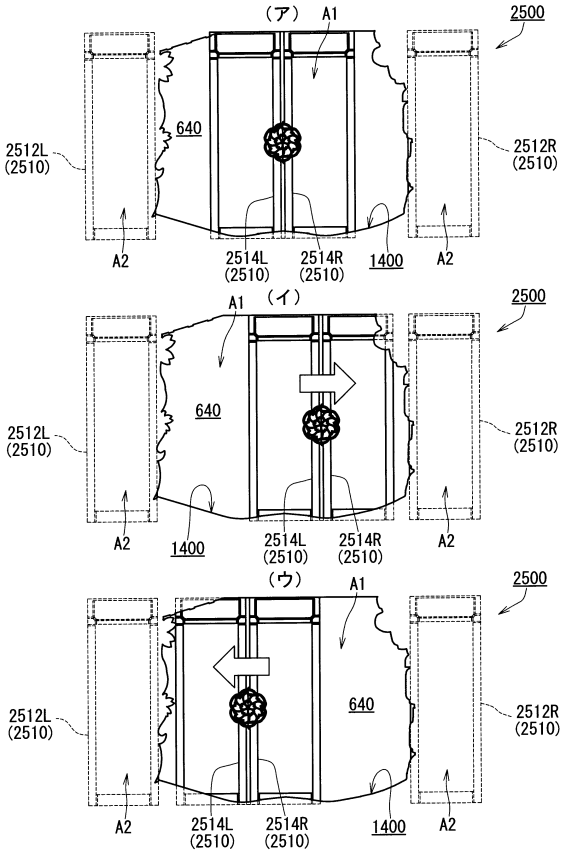
【図１１５】



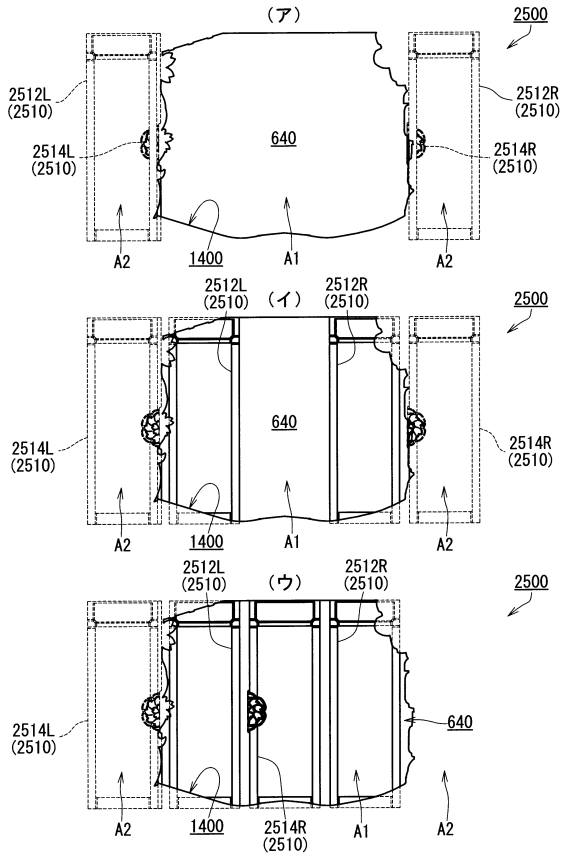
【図１１６】



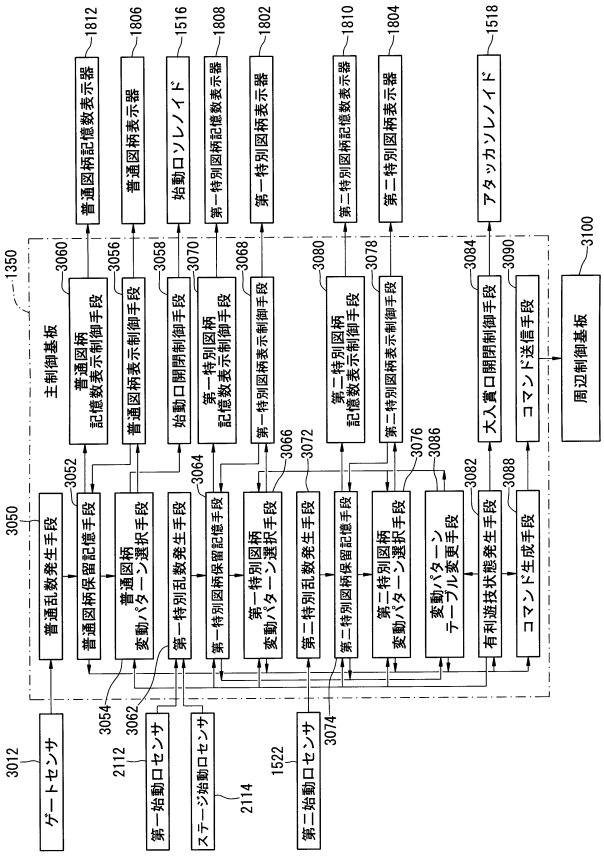
【図１１７】



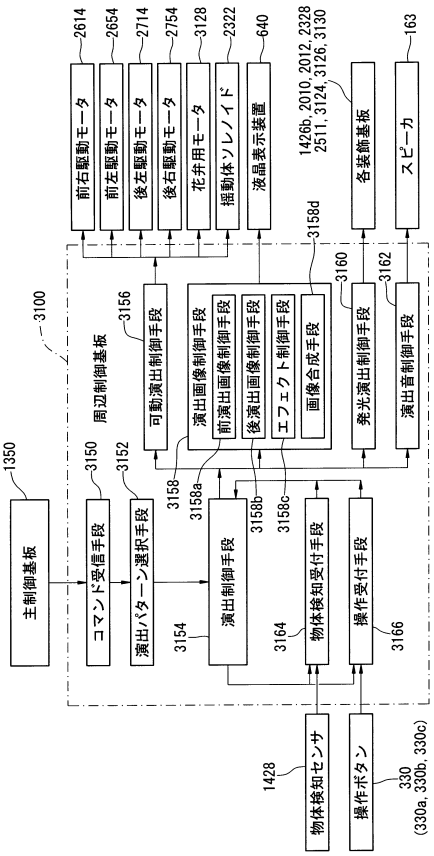
【図１１８】



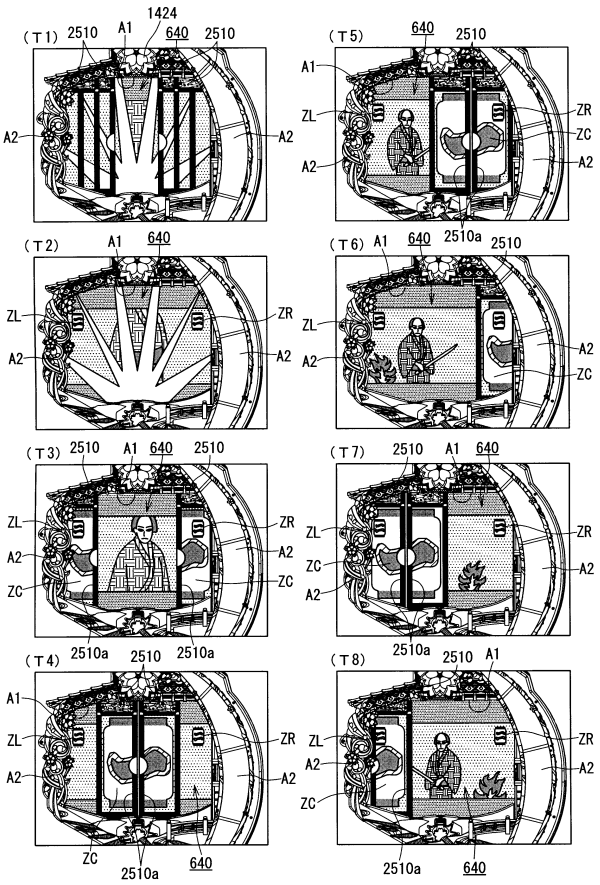
【図１１９】



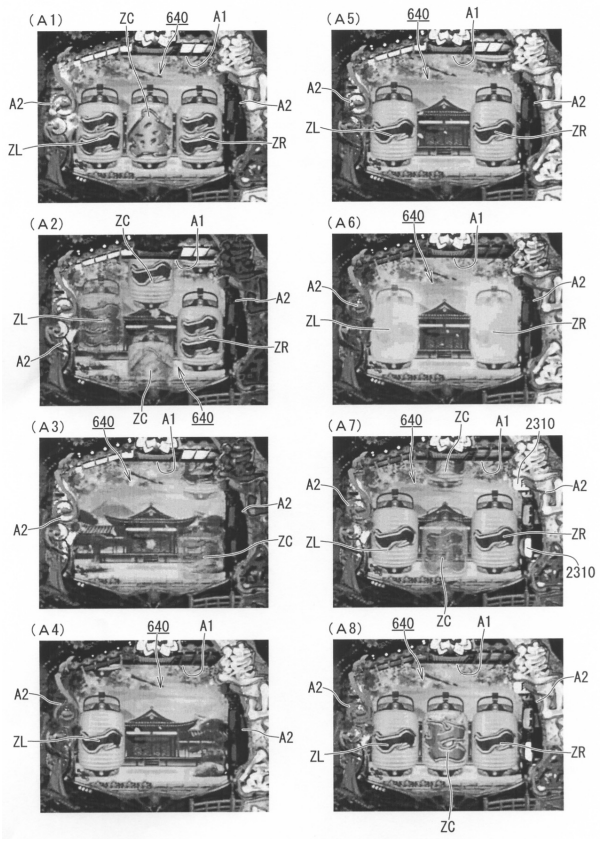
【図１２０】



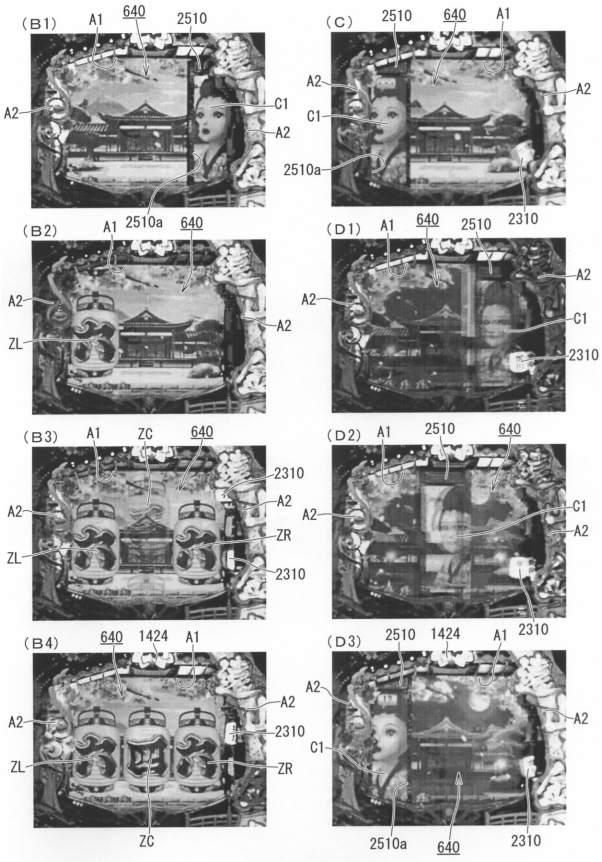
【図１３４】



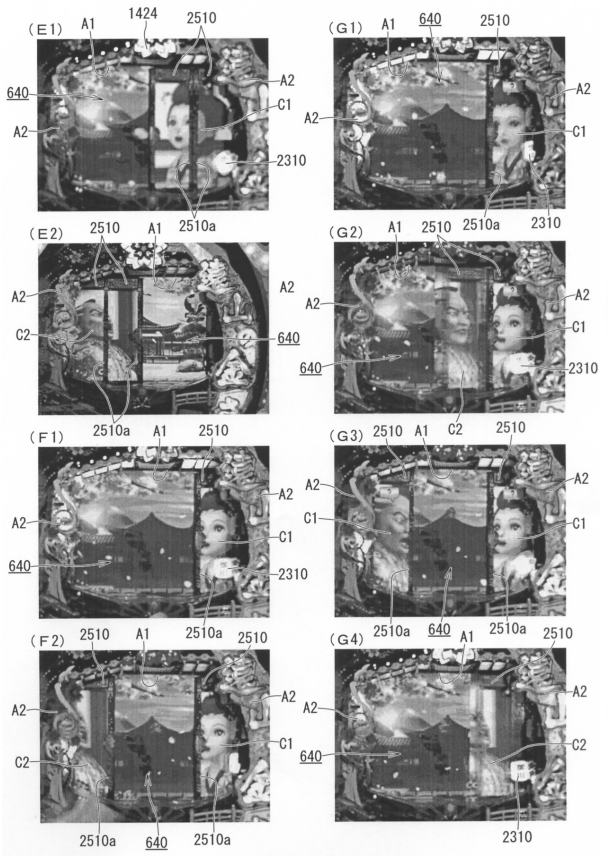
【図１２１】



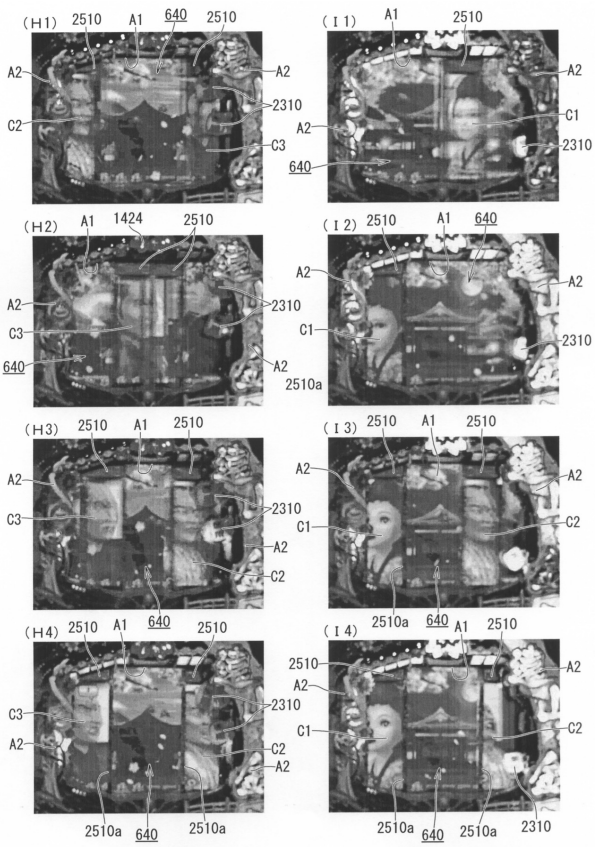
【図１２２】



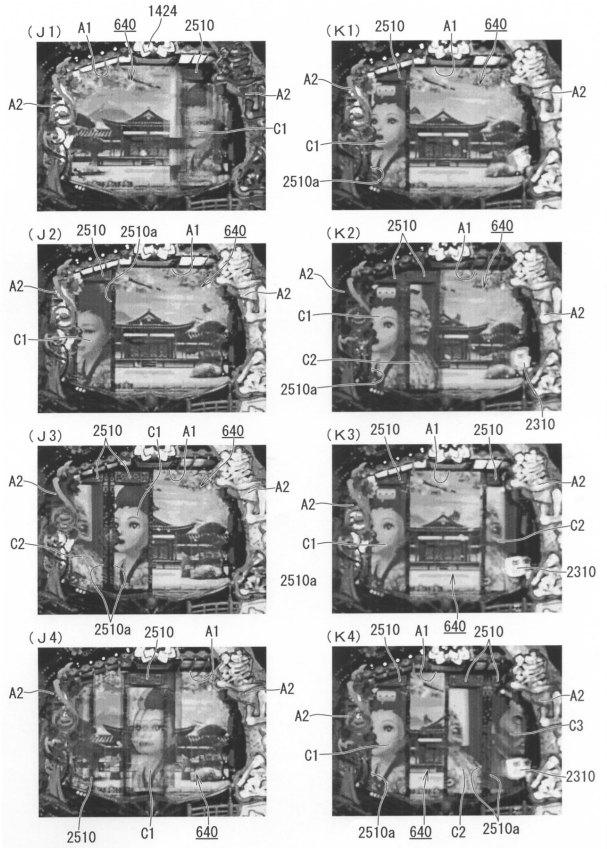
【図１２３】



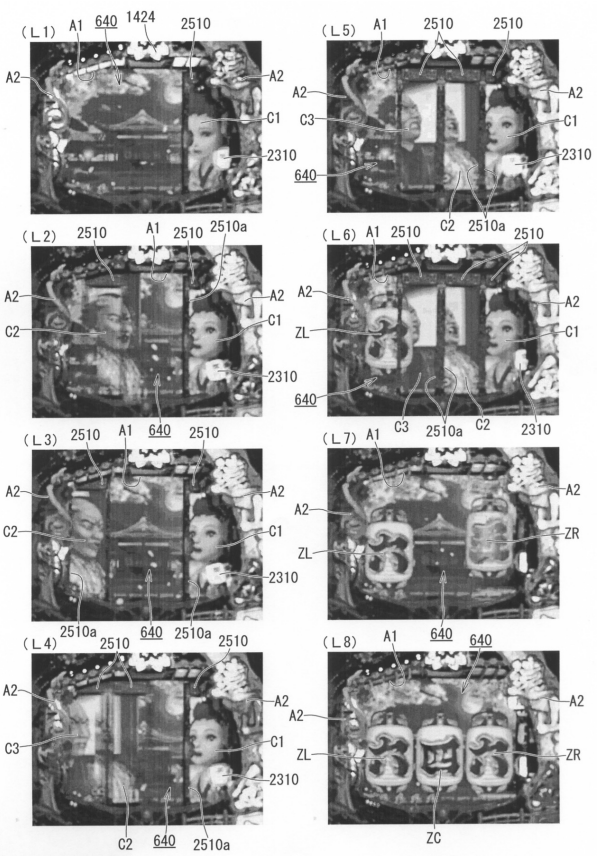
【図１２４】



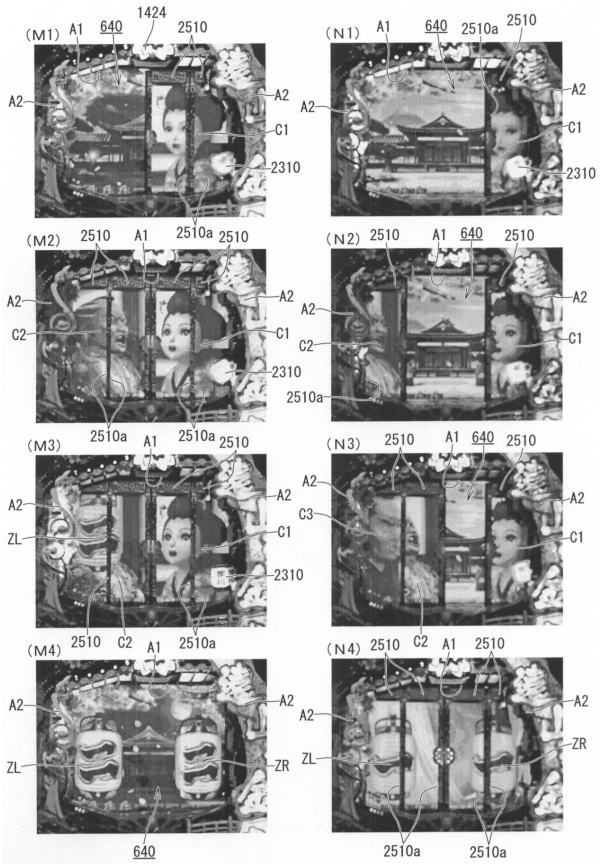
【図１２５】



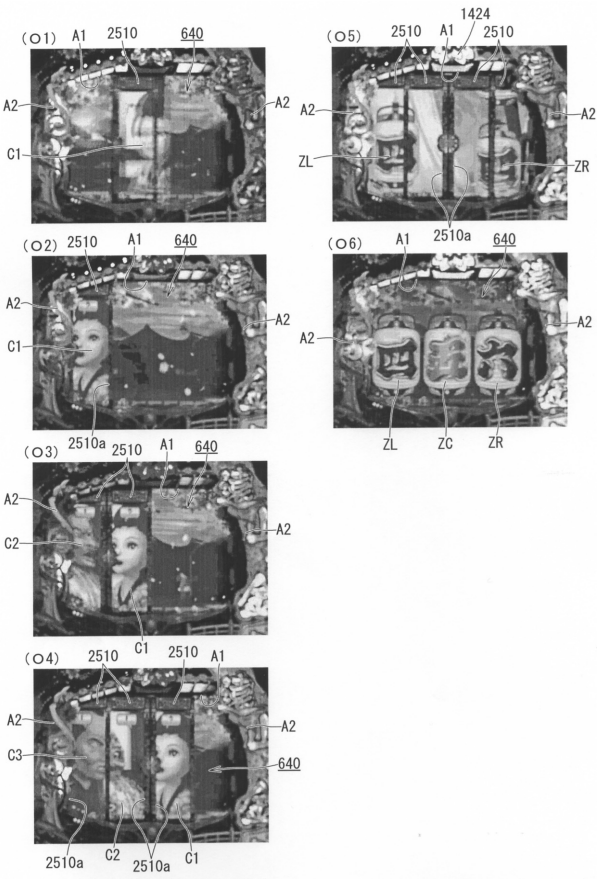
【図１２６】



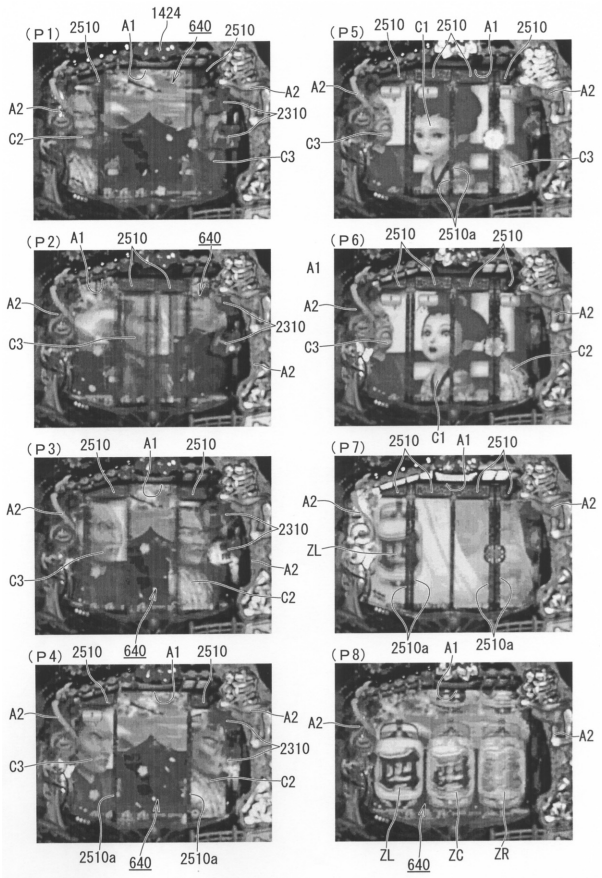
【図１２７】



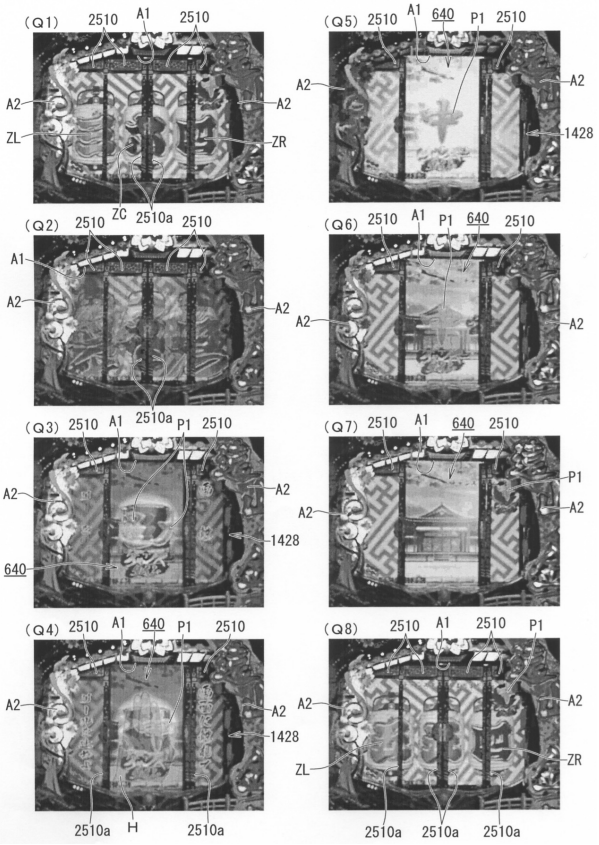
【図１２８】



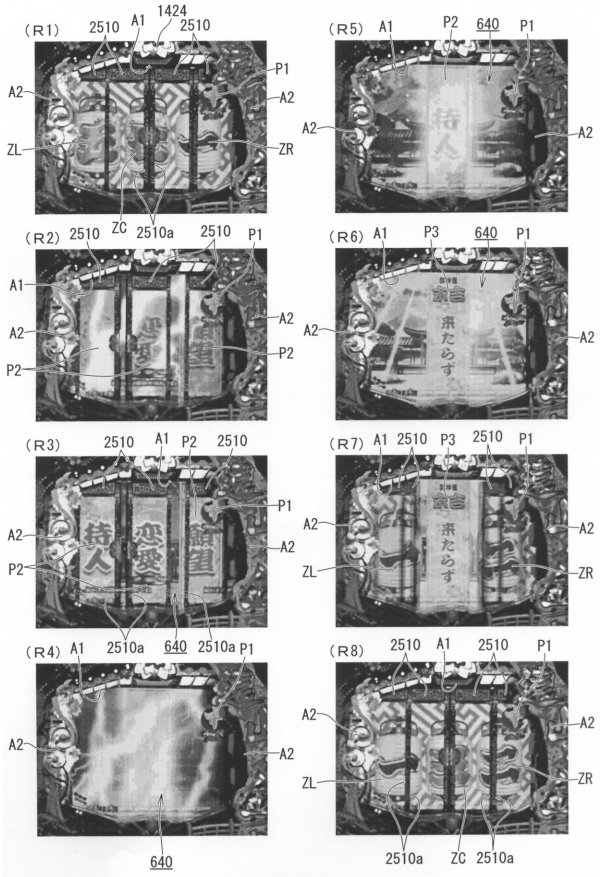
【図１２９】



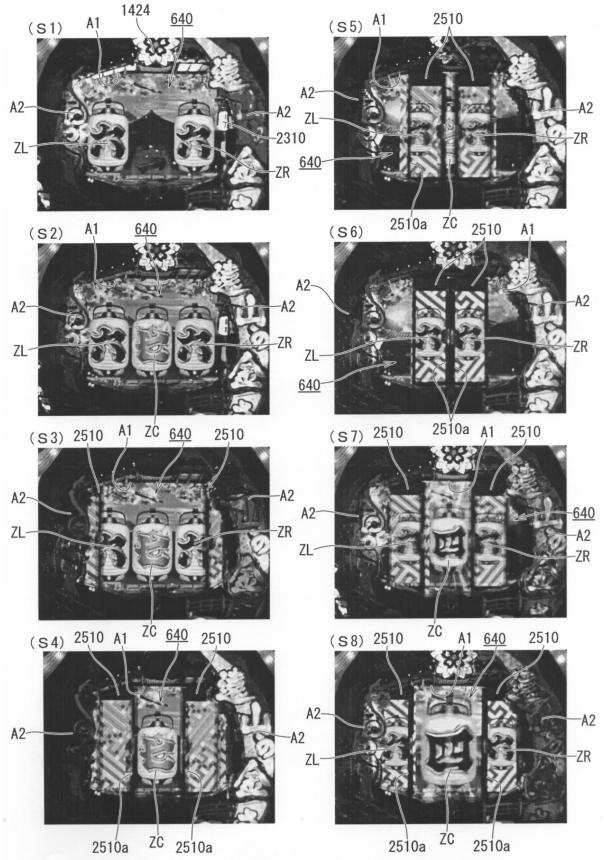
【図１３０】



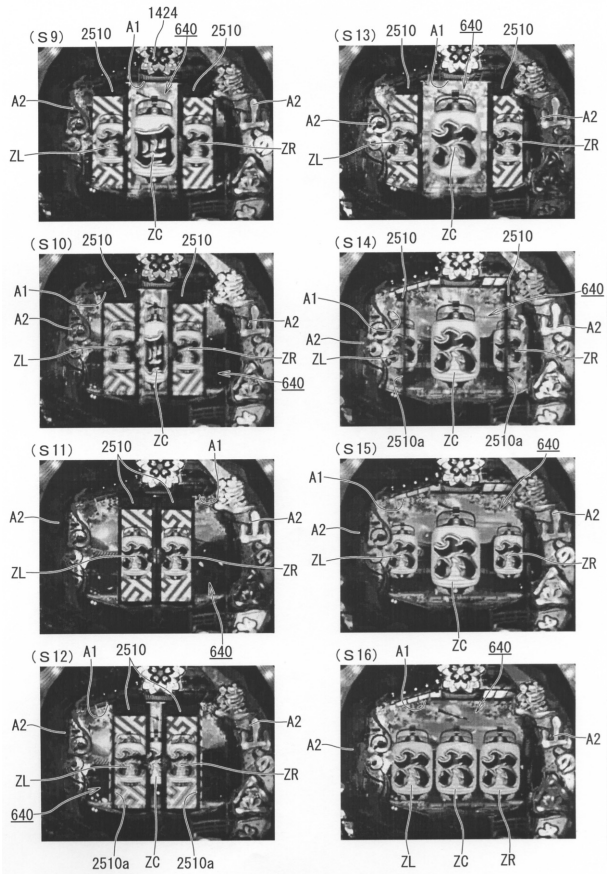
【図１３１】



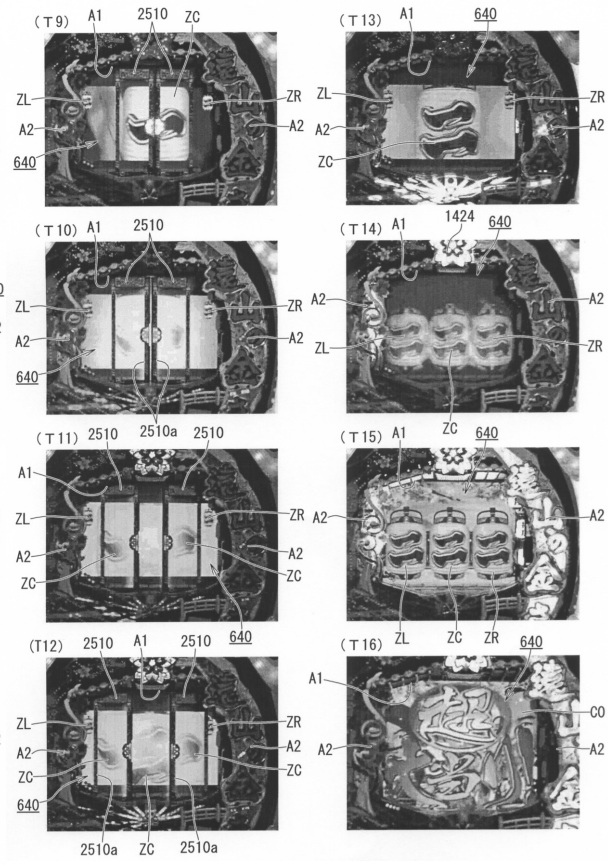
【図１３２】



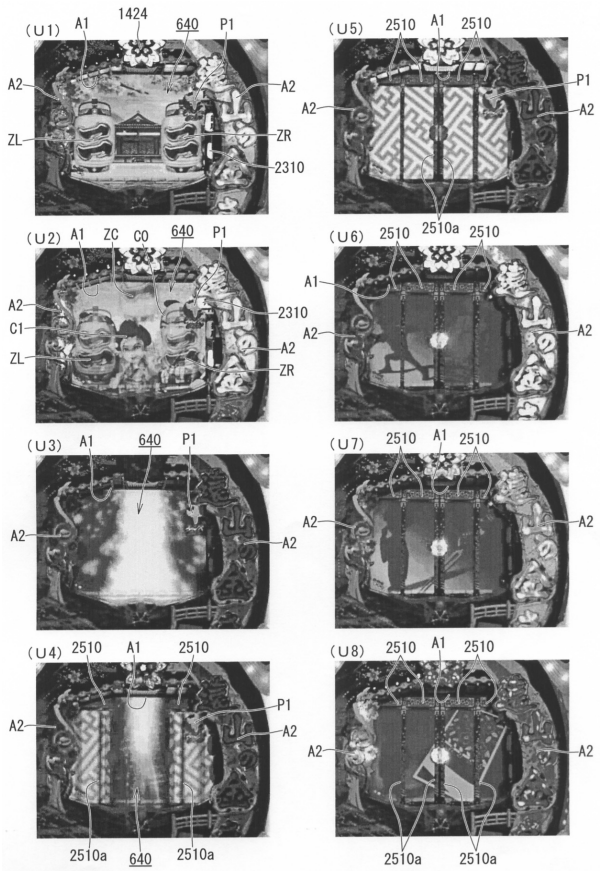
【図１３３】



【図１３５】



【図１３６】


(U1)
A1
1424
640
P1
A2
A2
ZL
ZR
2310
(U2)
A1
ZC
CO
640
P1
A2
C1
ZL
2310
A2
ZR
(U3)
A1
640
P1
A2
A2
(U4)
2510
A1
2510
P1
A2
A2
2510a
640
2510a
(U5)
2510
A1
2510
P1
A2
A2
(U6)
2510
2510a
2510
A1
A2
A2
(U7)
2510
A1
2510
A2
A2
(U8)
2510
A1
2510
A2
A2
2510a
2510a

フロントページの続き

審査官　小河　俊弥

(56)参考文献　特開２００８－１６１４６９（ＪＰ，Ａ）
特開２００７－２６８２０８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ　　７／０２
Ａ６３Ｆ　　５／０４